

雌 濠 遺 跡

2 0 0 8

本 庄 市 教 育 委 員 会

序

本庄市はかつて中山道一の繁栄を誇った宿場町として、また、国学者塙保己一誕生の地として広く知られているところです。そうした豊かな歴史的背景と文化的風土をもつ本庄市は、また多くの埋蔵文化財にも恵まれ、市内には旧石器時代から近代に至るまでのさまざまな遺跡が分布しています。

本書に報告する雌濠遺跡は古墳時代の住居跡と中近世の溝跡からなる遺跡で、とくに住居跡はほとんどが古墳時代中期に該当するものです。周囲には古墳時代前期に遡る住居跡はみつかりませんから、このころに急速にムラが形成されたことがわかります。雌濠遺跡に住んだ人々が、どこからやって来たのかはわかりませんが、彼らは苦勞して無人の土地に水を引き、田を開き、今まで続く田園景観の基礎を形づくった開拓者であったのでしょうか。雌濠遺跡の調査成果は、遠い過去と現在のつながりをわたくしたちに語りかけています。

貴重な文化財産を長く後世に伝えていくことは、現代に生きるわたくしたちに与えられた責務であり、埋もれていた歴史を明らかにすることは、よりよい未来を築くための手掛かりとなるものです。

今後は本書が学術研究の基礎資料として、また埋蔵文化財保護の普及・啓発として広く活用していただければ幸いです。

本書の刊行にあたり、ご指導、ご教示を賜りました方々、現地調査にご協力いただいた地元の皆様、女堀区画整理事業ならびに市立南中学校建設事業関係の各位、さらには直接発掘調査の労にあたられた皆様に心よりの御礼を申し上げます。

平成 20 年 3 月

本庄市教育委員会

教育長 茂 木 孝 彦

例 言

1. 本書は埼玉県本庄市緑2丁目、同3丁目に所在する雌濠遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、本庄都市計画事業女堀土地区画整理事業ならびに本庄市立南中学校建設事業に伴い、記録保存を目的として、本庄市教育委員会が実施したものである。
3. 発掘調査地点ごとの調査期間、調査面積、調査原因および調査担当者は以下のとおりである。

・雌濠遺跡A～E区

調査期間

自 昭和55年6月30日

至 昭和56年3月31日

調査面積 12,100㎡

調査原因 本庄都市計画事業女堀土地区画整理事業

調査担当者 長谷川勇・岸 隆雄（本庄市教育委員会）

・雌濠遺跡F・G区

調査期間

自 昭和56年9月1日

至 昭和56年10月31日

調査面積 3,580㎡

調査原因 本庄市立南中学校建設事業

調査担当者 長谷川勇（本庄市教育委員会）

4. 整理調査期間は以下のとおりである。

自 平成18年4月1日

至 平成20年2月15日

5. 整理調査および本書の編集担当者は以下のとおりである。

本庄市教育委員会文化財保護課 太田博之

6. 本書の執筆担当者は以下のとおりである。

本庄市教育委員会文化財保護課 太田博之

7. 本書に掲載した遺構実測図、遺構写真撮影、土層注記は各発掘調査担当者が行なった。
8. 本書に掲載した出土遺物、遺構および遺物の実測図ならびに写真、その他本報告に関係する資料は本庄市教育委員会において保管している。
9. 発掘調査から整理、報告書の刊行に至るまで、以下の方々から貴重な御助言、御指導、御協力を賜った。ご芳名を記し感謝申し上げます。（順不同・敬称略）

秋山隆雄 新井 端 石塚三夫 江原昌俊 大谷 徹 岡本幸男 昆 彭生
坂本和俊 佐々木幹雄 杉山晋作 高崎直成 滝沢 誠 田中 信 鳥羽政之
日高 慎 外尾 常人 金子彰男 田村 誠 中沢良一 丸山 修 山崎 武

10. 本報告の発掘調査、整理調査および報告書編集・刊行に係る本庄市教育委員会の組織は以下のとおりである。

・発掘調査

教 育 長 飯島 彰 (平成55・56年度)

<社会教育課>

社会教育課長 島田徳三 (平成55・56年度)

指 導 主 事 塩原正美 (平成55年度)

矢崎昭夫 (平成56年度)

課 長 補 佐 金井善一 (平成55年度・文化財保護係長兼務)

長谷川道夫 (平成56年度・文化財保護係長兼務)

文化財保護係長 金井善一 (平成55年度)

長谷川道夫 (平成56年度)

文化財保護係 長谷川 勇 (平成55・56年度)

岸 隆雄 (平成55年度)

増田一裕 (平成56年度)

反町光弘 (平成55・56年度)

調 査 担 当 者 長谷川 勇 (平成55・56年度)

岸 隆雄 (平成55年度)

・整理調査および報告書編集・刊行

教 育 長 茂木孝彦 (平成18・19年度)

<本庄市教育委員会事務局>

事 務 局 長 丸山 茂 (平成18・19年度)

文化財保護課長 前川由雄 (平成18年度)

儘田英夫 (平成19年度)

同 課 長 補 佐 増田一裕 (平成18年度)

鈴木徳雄 (平成18・19年度、平成18年度埋蔵文化財係長兼務)

埋蔵文化財係

係 長 鈴木徳雄 (平成18年度)

太田博之 (平成19年度)

埋蔵文化財係 太田博之 (平成18年度)

恋河内昭彦 (平成18・19年度)

大熊季広 (平成19年度)

松澤浩一 (平成18・19年度)

松本 完 (平成18・19年度)

的野善行 (平成18・19年度)

調 査 担 当 者 太田博之 (平成18・19年度)

凡 例

1. 本書所収の遺跡全体図におけるX・Y座標値は世界測地系に基づく。各遺構における方位針は座標北を示す。
2. 離濠遺跡におけるグリッドの呼称は、北東隅杭が基準となり、東から西へ向かいA～W、北から南へ向かい1～27となる。
3. グリッドは、1辺10mの正方形に設定し、各グリッド北東隅杭の呼称を当該グリッドの呼称としている。
4. 本調査における各種遺構名称は下記の記号で示し、本書掲載の本文、挿図、写真図版中の遺構名称も同一の記号で記述した。

S I…住居

SW…井戸

S K…土坑

S X…性格不明遺構

S D…溝

5. 本書掲載の遺構図ならびに遺物実測図の縮尺は、原則的に以下のとおりである。

[遺構図]	[遺物実測図]
S I…1/60	土師器…1/4
S I カマド…1/30	土製品…1/4
S I 貯蔵穴…1/30	中世土器…1/4
SW…1/80	
S K…1/80	
S D…1/1,200	

その他のものについては、個別にスケールを示した。

6. 遺構断面図の水準数値は海拔を示す。単位はmである。
7. 住居断面図のスクリーントーンのうちストライプは地山のローム層を、網は貼床層を示す。
8. 炉断面図のスクリーントーンは、焼土層を示す。
9. 河道跡断面図のスクリーントーンは、溝の土層を示す。
10. 住居平面図のスクリーントーンは、炉など燃焼施設および焼土の範囲を示す。
11. 遺構全体図および溝断面位置図のスクリーントーンは、河道跡を示す。
12. 観察表中の単位は、法量はcm、重さはgである。()内の数値は推定値を示す。
13. 本書掲載の地形図は、国土交通省国土地理院発行1/25,000「本庄」、位置図は本庄市都市計画図1/2,500に加筆したものを用了。
14. 本書の引用・参考文献は巻末に一括して記載した。

目 次

序	
例言	
凡例	
目次	
I 遺跡の環境	
1 地理的環境	1
2 歴史的環境	3
II 調査の成果	
1 調査の方法	6
2 調査の概要	6
3 住居	6
4 井戸	125
5 土坑	125
6 性格不明遺構	130
7 溝	133
8 河道跡	139
9 遺構外出土遺物	140
(1)調査区出土遺物	140
(2)表土出土遺物	145
III 結 語	146
引用・参考文献	
写真	

挿図目次

図1	埼玉県の地形	1	図39	SI-14 出土土器 (2)	41
図2	周辺の遺跡	2	図40	SI-15 平面および断面	43
図3	遺跡の位置	4	図41	SI-15 貯蔵穴平面および断面	44
図4	遺構全体図	5	図42	SI-15 出土土器	45
図5	SI-4 平面および断面	7	図43	SI-16 平面および断面 (1)	47
図6	SI-4 出土土器	8	図44	SI-16 断面 (2)	48
図7	SI-5 平面および断面	9	図45	SI-16 貯蔵穴平面および断面	48
図8	SI-5 貯蔵穴平面および断面	9	図46	SI-16 出土土器	49
図9	SI-6 平面および断面	10	図47	SI-17 平面および断面 (1)	51
図10	SI-6 出土土器	10	図48	SI-17 断面 (2)	52
図11	SI-7 平面および断面	11	図49	SI-17 カマド平面および断面	53
図12	SI-7 貯蔵穴平面および断面	12	図50	SI-17 貯蔵穴平面および断面	53
図13	SI-7 出土土器	13	図51	SI-17 出土土器	53
図14	SI-8 平面および断面	15	図52	SI-18 平面および断面 (1)	54
図15	SI-8 貯蔵穴平面および断面	16	図53	SI-18 断面 (2)	55
図16	SI-8 出土土器 (1)	17	図54	SI-18 カマド平面および断面	55
図17	SI-8 出土土器 (2)	18	図55	SI-18 貯蔵穴平面および断面	56
図18	SI-9 平面および断面	20	図56	SI-18 出土土器	57
図19	SI-9 貯蔵穴平面および断面	20	図57	SI-19 平面および断面 (1)	59
図20	SI-9 出土土器	21	図58	SI-19 断面 (2)	60
図21	SI-10 掘り方平面および断面	23	図59	SI-19 貯蔵穴平面および断面	60
図22	SI-10 貯蔵穴平面および断面	24	図60	SI-19 出土土器	61
図23	SI-10 出土土器	24	図61	SI-20 平面および断面	63
図24	SI-11 平面および断面	26	図62	SI-20 カマド平面および断面	64
図25	SI-11 出土土器	27	図63	SI-20 貯蔵穴平面および断面	64
図26	SI-12 平面および断面	29	図64	SI-20 出土土器	65
図27	SI-12 貯蔵穴平面および断面	29	図65	SI-21 平面	67
図28	SI-12 出土土器 (1)	30	図66	SI-21 断面	68
図29	SI-12 出土土器 (2)	31	図67	SI-21 炉平面および断面	69
図30	SI-13 平面	32	図68	SI-21 貯蔵穴平面および断面	69
図31	SI-13 断面	33	図69	SI-21 出土土器 (1)	70
図32	SI-13 貯蔵穴平面および断面	34	図70	SI-21 出土土器 (2)	72
図33	SI-13 出土土器 (1)	35	図71	SI-21 出土土器 (3)	73
図34	SI-13 出土土器 (2)	36	図72	SI-22 平面および断面 (1)	75
図35	SI-14 平面および断面 (1)	38	図73	SI-22 断面 (2)	76
図36	SI-14 断面 (2)	39	図74	SI-22 貯蔵穴平面および断面	76
図37	SI-14 貯蔵穴平面および断面	39	図75	SI-22 出土土器	77
図38	SI-14 出土土器 (1)	40	図76	SI-23・24平面および断面	79

図77	SI-23 出土土器	80	図110	SI-33 カマド平面および断面	110
図78	SI-24 炉平面および断面	82	図111	SI-33 貯蔵穴平面および断面	110
図79	SI-24 貯蔵穴平面および断面	82	図112	SI-33 出土土器 (1)	111
図80	SI-24 出土土器	82	図113	SI-33 出土土器 (2)	113
図81	SI-25 平面および断面	83	図114	SI-34 平面および断面	114
図82	SI-25 出土土器	83	図115	SI-34 貯蔵穴平面および断面	115
図83	SI-26 平面および断面	84	図116	SI-34 出土土器	115
図84	SI-26 炉平面および断面	84	図117	SI-35 平面および断面 (1)	116
図85	SI-27 平面および断面 (1)	85	図118	SI-35 断面 (2)	117
図86	SI-27 断面 (2)	86	図119	SI-35 出土土器	117
図87	SI-27 貯蔵穴平面および断面	86	図120	SI-36 平面および断面	118
図88	SI-27 出土土器 (1)	87	図121	SI-36 貯蔵穴平面および断面	119
図89	SI-27 出土土器 (2)	89	図122	SI-36 出土土器	119
図90	SI-27 出土土器 (3)	91	図123	SI-37 平面および断面	120
図91	SI-27 出土土器 (4)	92	図124	SI-37 出土土器	122
図92	SI-28 平面および断面 (1)	94	図125	SI-38 平面および断面	124
図93	SI-28 断面 (2)	95	図126	SI-38 貯蔵穴平面および断面	124
図94	SI-28 貯蔵穴平面および断面	95	図127	SI-38 出土土器	125
図95	SI-28 出土土器	96	図128	SW-1平面および断面	125
図96	SI-29 平面および断面	97	図129	SK平面および断面 (1)	126
図97	SI-29 貯蔵穴平面および断面	98	図130	SK平面および断面 (2)	127
図98	SI-29 出土土器	99	図131	SK出土土器	129
図99	SI-30 平面および断面	100	図132	SX-1平面および断面	131
図100	SI-30 カマド平面および断面	101	図133	SX-1出土土器	132
図101	SI-30 貯蔵穴平面および断面	101	図134	溝断面位置図	134
図102	SI-30 出土土器断面	101	図135	SD断面	135
図103	SI-31 平面および断面	103	図136	SD-7・8, 河道跡断面	136
図104	SI-31 出土土器	104	図137	SD出土土器	138
図105	SI-32 平面および断面	105	図138	河道跡出土土器	139
図106	SI-32 貯蔵穴平面および断面	106	図139	A区～E区出土土器 (1)	142
図107	SI-32 出土土器	107	図140	A区～E区出土土器 (2)	143
図108	SI-33 平面および断面 (1)	109	図141	F・G区出土土器	144
図109	SI-33 断面 (2)	110	図142	表土出土土器	145

写真目次

- 写真 1 SI-4・5 検出状況 [南から]
SI-6・7 検出状況 [南から]
SI-8・9 検出状況 [南東から]
SI-10 検出状況 [西から]
SI-11 検出状況 [南から]
SI-12 検出状況 [南から]
SI-13 検出状況 [南から]
SI-14 検出状況 [南から]
- 写真 2 SI-15 検出状況 [南から]
SI-16 検出状況 [北東から]
SI-17 検出状況 [南西から]
SI-18 検出状況 [南西から]
SI-19 検出状況 [西から]
SI-20 検出状況 [南西から]
SI-21 検出状況 [東から]
SI-22 検出状況 [北西から]
- 写真 3 SI-23・24 検出状況 [西から]
SI-25 検出状況 [南から]
SI-26 検出状況 [南から]
SI-27 検出状況 [南西から]
SI-28 検出状況 [西から]
SI-29・30,SD-11・12 検出状況 [北西から]
SI-31,SK-26,SD-12 検出状況 [北西から]
SI-32,SK-27 検出状況 [北西から]
- 写真 4 SI-33・34・35・36 検出状況 [西から]
SI-37・38,SK-24 検出状況 [南東から]
SW-1 検出状況 [南東から]
SK-1 検出状況 [南から]
SK-3 遺物検出状況 [西から]
SK-4 遺物検出状況 [西から]
SK-7 検出状況 [南から]
SK-8 検出状況 [南から]
- 写真 5 SK-2 検出状況 [西から]
SK-6 検出状況 [南から]
SK-12 遺物検出状況 [南東から]
SK-15 検出状況 [南西から]
SK-19 遺物検出状況 [南西から]
SK-23 遺物検出状況 [南西から]
- 写真 6 SK-10 検出状況 [南から]
SK-11 検出状況 [南東から]
SK-13 検出状況 [東から]
SK-14 検出状況 [南から]
SK-20 遺物検出状況 [南西から]
SK-22 検出状況 [南から]
SK-25,SD-11 検出状況 [西から]
SX-1 検出状況 [東から]
- 写真 7 SD-1 検出状況 [B区西から]
SD-2・3 検出状況 [A区西から]
SD-2・3 検出状況 [B区西から]
SD-3 検出状況 [南から]
SD-3・4 検出状況 [北から]
SD-5 検出状況 [東から]
- 写真 8 SD-6 検出状況 [B区西から]
SD-6 検出状況 [C区南西から]
河道跡検出状況 [C区東から]
SD-8,河道跡検出状況 [D区北から]
SD-9 検出状況 [南から]
SD-10 検出状況 [西から]
- 写真 9 SI-4 出土土器
SI-6 出土土器
SI-7 出土土器 (1)
- 写真 10 SI-7 出土土器 (2)
SI-8 出土土器 (1)
- 写真 11 SI-8 出土土器 (2)
- 写真 12 SI-8 出土土器 (3)
SI-9 出土土器 (1)
- 写真 13 SI-9 出土土器 (2)
SI-10 出土土器
- 写真 14 SI-11 出土土器
- 写真 15 SI-12 出土土器
- 写真 16 SI-13 出土土器
- 写真 17 SI-14 出土土器 (1)
- 写真 18 SI-14 出土土器 (2)
SI-15 出土土器
- 写真 19 SI-16 出土土器
SI-17 出土土器

- 写真 20 SI-18 出土土器
写真 21 SI-19 出土土器
写真 22 SI-20 出土土器
SI-21 出土土器 (1)
写真 23 SI-21 出土土器 (2)
写真 24 SI-21 出土土器 (3)
写真 25 SI-22 出土土器
写真 26 SI-23 出土土器
SI-24 出土土器
SI-25 出土土器
写真 27 SI-27 出土土器 (1)
写真 28 SI-27 出土土器 (2)
写真 29 SI-27 出土土器 (3)
写真 30 SI-28 出土土器
SI-29 出土土器
SI-30 出土土器
SI-31 出土土器 (1)
写真 31 SI-31 出土土器 (2)
SI-32 出土土器 (1)
写真 32 SI-32 出土土器 (2)
SI-33 出土土器 (1)
写真 33 SI-33 出土土器 (2)
SI-34 出土土器
SI-35 出土土器
SI-36 出土土器
写真 34 SI-37 出土土器
SI-38 出土土器
写真 35 SK-2 出土土器
SK-19 出土土器
SK-20 出土土器
SK-23 出土土器
写真 36 SX-1 出土土器
河道跡 出土土器
写真 37 SD-1 出土土器
SD-2・3 出土土器
SD-3 出土土器
SD-6 出土土器
SD-8 出土土器
写真 38 A 区~E 区出土土器 (1)
写真 39 A 区~E 区出土土器 (2)
F・G 区出土土器
表土出土土器

I 遺跡の環境

1. 地理的環境

離濠遺跡は本庄台地上を東流する女堀川左岸の微高地上に立地している。遺跡の南側は女堀川の開析によって沖積化した低地帯が東西に長く広がり、低地帯を隔てた対面は同じく東西に長く連なる微高地が展開している。周辺の地形は北から南へ緩やかに傾斜し、現地調査の時点では広大な畑地帯となっていた。地表面の標高は63~64mを測る。

本市の地形は利根川右岸に広がる低地と、市街地を乗せる台地、その南方へ連なる山地に大別される。低地部には利根川の氾濫による自然堤防が発達し、同川沿いに妻沼低地、加須低地へと連続している。これに対し、台地部は身馴川扇状地と神流川扇状地との複合地形から成り、本庄台地と呼称され、立川期に対応するものとされる。

小山川扇状地は西側を第三系の残丘である生野山、大久保山などの見玉丘陵に、東側を松久丘陵と櫛引台地によって画され、身馴川、志戸川などが北東方向へ流れている。河川の周辺は沖積化が進行し、自然堤防状の微高地が発達しており、遺跡の多くはこの上に立地している。

いっぽう、神流川扇状地は群馬県鬼石町浄方寺付近を扇頂部とし、扇端部は上里町金久保から本市万年寺、同市鶴森にかけて比高差6~10mの段丘崖を形成して、一部にはなお伏流水の湧出が観察される。この扇状地を開析して流れる中小河川には女堀川、男堀川などがあり、これら河川の周辺もまた沖積化が顕著である。また、段丘崖下の低地には元小山川が東流している。さらに、近年の微地形の観察や発掘調査により、現状では平坦に映る台地下にも、幾筋かの埋没谷の存在が明らかになって来ており、過去の地理的環境は、現在に比べてより複雑な様相を示している。

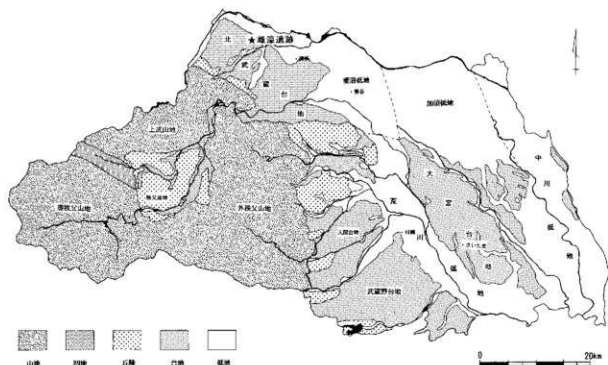
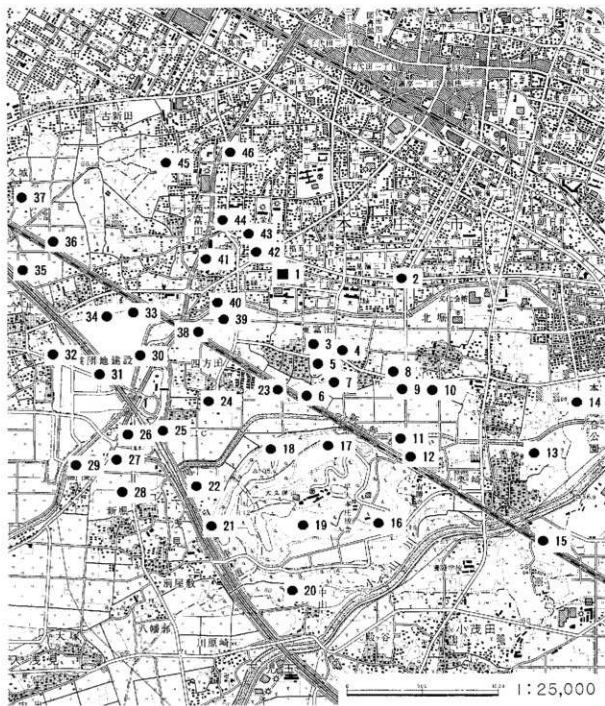


図1 埼玉県の地形



1. 雄澤遺跡 2. 笠ヶ谷戸遺跡 3. 東富田古墳群 4. 公卿塚古墳 5. 元富遺跡 6. 下田遺跡 7. 七色塚遺跡
8. 久下東遺跡 9. 久下前遺跡 10. 北壘新田前遺跡 11. 宥勝寺北裏遺跡 12. 東谷遺跡 13. 東本庄遺跡
14. 西五十子古墳群 15. 古川端遺跡 16. 大久保山寺院跡 17. 大久保山遺跡浅見山I地区 18. 山根遺跡
19. 大久保山遺跡 20. 塚本山古墳群 21. 雷電下遺跡 22. 飯玉東遺跡 23. 観音塚遺跡 24. 四方田遺跡 25. 後張遺跡
26. 川越田遺跡 27. 梅沢遺跡 28. 東牧西分遺跡 29. 今井川越田遺跡 30. 今井糸里遺跡 31. 一丁田遺跡
32. 今井北郷遺跡 33. 地神遺跡 34. 塔頭遺跡 35. 久城前遺跡 36. 諏訪遺跡 37. 下郷遺跡 38. 九反田遺跡
39. 西富田前田遺跡 40. 西富田・四方田糸里遺跡 41. 社具路遺跡 42. 南大通り線内遺跡 43. 薬師元辰敷遺跡
44. 夏目遺跡 45. 西富田新田遺跡 46. 二本松遺跡

図2 周辺の遺跡

2. 歴史的環境

雌濠遺跡は古墳時代中期を中心とする集落遺跡であるが、周辺にはすでに弥生時代から明確な遺構を伴う集落遺跡の形成が認められる。また、古墳時代にはその数・規模ともに急激な増加を見せると同時に、集落の広範な展開と呼応するように墳墓も数多く築造されている。

弥生時代の集落としては、山根遺跡(18)、雷電下遺跡(21)など丘陵裾部に占地する比較的小規模な遺跡が認められる。いずれも弥生時代後期に属し、中期段階まで遡る事例は認められないが、大久保山丘陵には弥生時代中期の土坑等も散見する。

古墳時代前期の集落遺跡には後張遺跡(25)川越田遺跡(26)、飯玉東遺跡(22)、西富田・四方田条里遺跡(40)下田遺跡(6)、七色塚遺跡(7)、久下東遺跡(8)、久下前遺跡(9)北堀新田前遺跡(10)、古川端遺跡(15)、西五十子古墳群(14)などがあり、女堀川右岸の低地帯や小山側左岸の低地帯および台地縁辺部を中心として、弥生時代後期段階に比較して格段に広範的な進出を果たしている。ただし、古墳時代前期段階の集落は、後張遺跡など一部の中心的集落を除くと、のちの古墳時代中期に比べて、集落を構成する住居の数は少ない。

古墳時代中期には、前期に形成を開始した上記の諸集落が継続するとともに、一集落を構成する住居の数が著しく増大する。また、九反田遺跡(38)などのようにこの段階にいたって新たに出現する集落も存在する。さらに、古墳時代前期段階まで大規模な集落の展開が見られなかった女堀川左岸の微高地上や台地の内奥部にも集落の形成が認められるようになり、本書に報告の雌濠遺跡(1)のほか笠ヶ谷戸遺跡(2)、夏目遺跡(44)、二本松遺跡(46)、西富田新田遺跡(45)などが新たに出現する。なかでも、夏目遺跡では高環脚転用のフイゴ羽口や多量の鉄滓を出土する遺構がみられることから、鍛冶技術を備え、集落の内部で鉄器製作をおこなっていたことが窺える。また、畿内系や朝鮮半島系の模倣土器など、遠方との交渉関係の存在を推測させる遺物を出土しており、特異な集落遺跡として注目される。

古墳時代後期の集落は基本的に中期段階から継続する事例が多い。しかし、葉師元屋圃遺跡(43)、社具路遺跡(41)など新規に形成をみる遺跡がある一方で、九反田遺跡・笠ヶ谷戸遺跡など後期まで継続しないと考えられる遺跡も含まれることから、この間の集落の廃絶・出現の変化には、人口増による分村以外にも、居住地の移動によるものもあつたことが推測される。

なお、これら集落遺跡の形成に並行して、墳墓の展開も確認される。弥生時代後期の段階は未だ明らかではないが、古墳時代前期には周辺の微高地や丘陵上に方形周溝墓の築造が始まっている。女堀川右岸の微耕地上にある北堀新田前遺跡では、前方後方形周溝墓1基を含む3基の方形周溝墓が検出されている。雌濠遺跡南方の大久保山丘陵でも塚本山古墳群(20)、有勝寺北裏遺跡(11)、大久保山遺跡浅見山I地区(17)に方形周溝墓が出現し、ことに大久保山遺跡浅見山I地区では丘陵の南向き斜面に、古墳時代前期中葉を中心とする1基の方形周溝墓が群在している。大久保山丘陵にはこのちも断続的な墳墓の造営が認められ、古墳時代前期末葉には埼玉県北部で最古の前方後円墳である前山1号墳、中期前葉には方墳の前山2号墳が築造されている。また、中期中葉には雌濠遺跡と女堀川を隔てて対面する微高地上の東富田古墳群(3)に直径65mの大型円墳であった公野塚古墳(4)が出現し、さらに中期末葉には塚本山古墳群、大久保山古墳群、東富田古墳群などで群集墳の形成が開始され、終末期まで群形成が継続する。

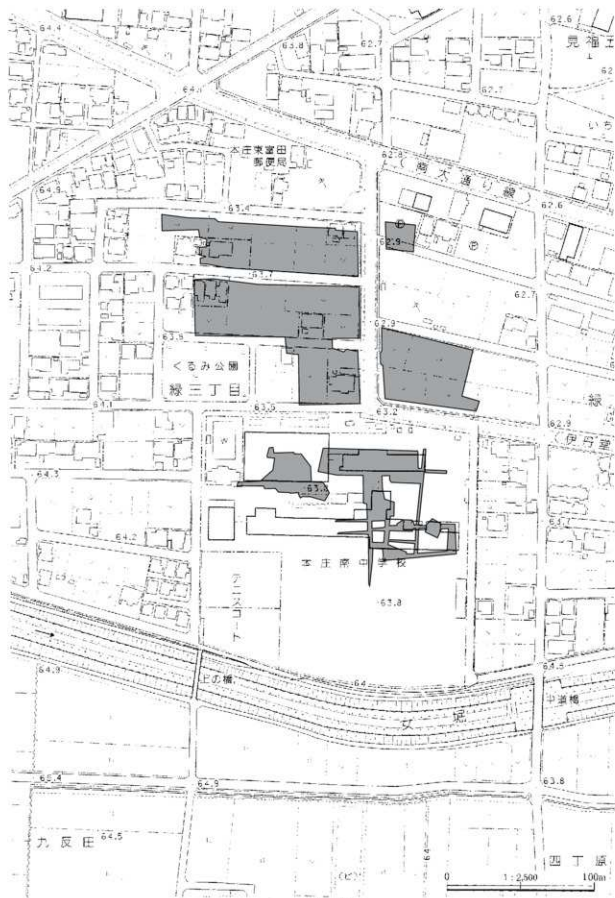


図3 遺跡の位置

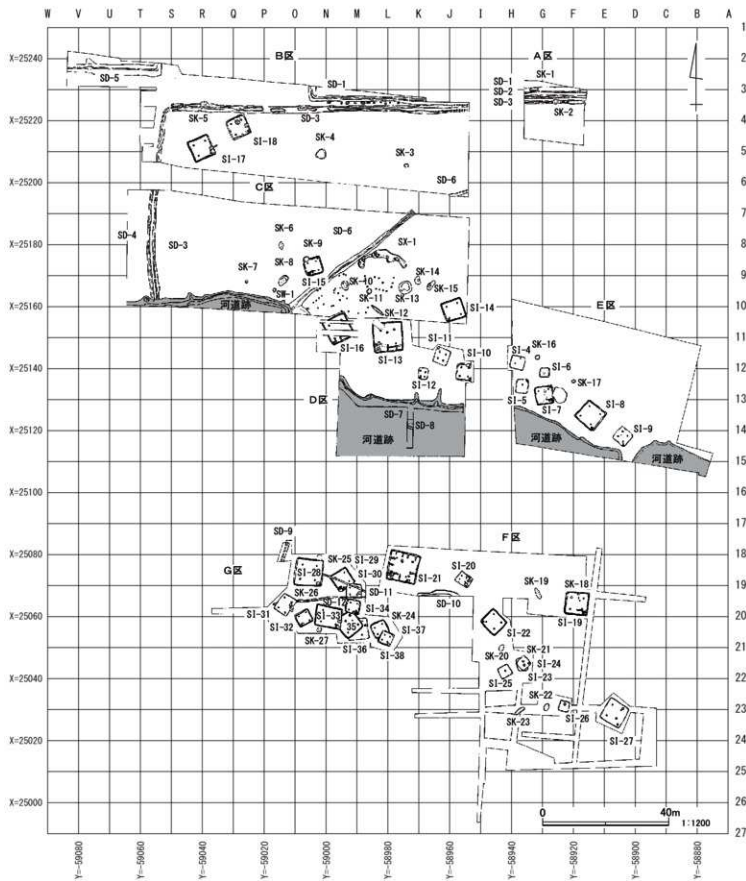


图4 遺構全体図

II 調査の成果

1 調査の方法

本書に報告する雄湊遺跡の調査区はA区～G区までの6区画に別れている。このうち、A区～E区までが区画整理事業に伴う調査、F区・G区が本庄市立南中学校建設事業に伴う調査である。

先行の試掘調査の結果から、遺構は1面のみで、確認面はローム層上面であることが判明していた。このため、表土は遺構確認面の直上までを重機を用いて掘削し、そののちに人力で遺構を確認した。現地実測の基準としては、調査区全面に方眼基準杭を設定したのち、要所にベンチマークを配して基準点ならびに水準点の原点を取り付け、これを基準とした各種実測作業を行った。

遺構調査は要所に土層観察用のベルトを残し、覆土の堆積状況を確認しながら人力で進め、住居跡のカマドその他プラン確認の困難な遺構については、適宜断ち割りをおこなって記録をとった。遺構平面図は1/50を基本として作成した。竪穴住居カマド、貯蔵穴などの微細図については、1/10ないし1/20で、土層断面図はすべて1/20で作成した。写真撮影は35mmモノクローム・リバーサル、6×7版モノクロームの各フィルムで使用した。

2 調査の概要

検出した遺構は住居35基・井戸1基・土坑27基、性格不明遺構1基、溝12条で、このほか河道跡1条を確認している。C区・D区の南縁に沿って東西の河道跡が走行し、住居・井戸・土坑など主な遺構はこの河道跡の南北に広がる微高地上に分布しているが、河道跡の内部にも2条の人工的な溝を検出している。微高地における基本土層は、現代の耕作土下に暗褐色土層、ローム層の順で堆積がみられ、遺構確認面はローム層上面である。遺構の所属時期は、住居が古墳時代和泉式期から鬼高式期初頭に限定され、土坑の出土遺物も多くが和泉式期の土師器で占められることから、多くの遺構が当該期に集中すると推測されるが、一部の土坑・溝からは中近世のかわらけ、内耳土器を検出していることから、遺物を伴わず、所属時期不詳の溝・土坑などのうちには、中近世まで下る遺構も含まれるだろう。

なお、本書報告の調査に先行して、周辺の区画道路建設に伴う調査を実施した際に、竪穴住居3基を検出している。本書報告の調査はこの区画道路建設に伴う調査に続くもので、遺構番号も先行調査時に連続した番号を付与している。

3 住居

住居は35基を検出した。いずれも竪穴住居である。C区～D区では河道跡の北側に沿ってSI-4からSI-16が散在し、これからやや離れてB区に西寄りにSI-17・18が分布している。これに対し、河道跡南側では、特定箇所集中する傾向がみられ、とくにG区においてSI-28からSI-38までの大型住居を含む11基が密集している。

SI-4

遺構 (図5、写真1)

G-11、G-12グリッドに位置する。平面形は不整な隅丸方形で、北・東・南の各辺は緩やかに曲がっている。主軸方位はN-15°-Eを示す。

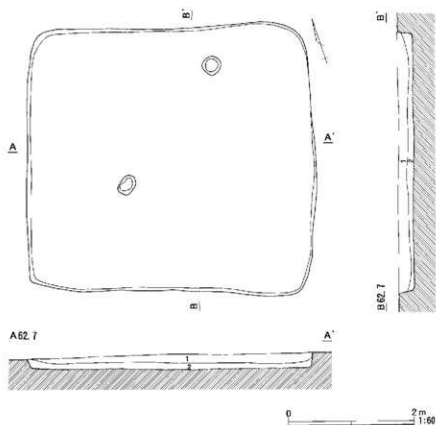
覆土は2層に分かれ、下層にロームブロックを含む黄黒褐色土、上層に焼土ブロックを含む黒色土が堆積している。

床には貼床を施さず、平坦に削り出した地山面を、そのまま床面としている。壁溝は存在せず、貯蔵穴も設置されていない。炉・竈などの燃焼施設も確認できない。床面には2箇所のピットを確認できるが、主柱穴を判定されるピットは見当たらない。

規模は長軸4.6 m、短軸4.1 m、確認面からの深さ25cmを測る。

遺物 (図6、写真9)

遺物は床面中央部を中心に、いずれも床面からやや浮いた状態で、甕・台付甕・壺を出土している。2は台付甕と考えられ、外面はナデ調整によるが、形骸化したS字状口縁をもつ。



SI-4土層説明

- 1 黒色土 焼土ブロックを少量含む。
- 2 黄褐色土 ロームブロックを少量含む。

図5 SI-4 平面および断面

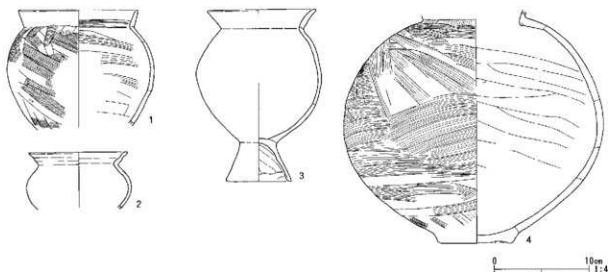


図6 SI-4 出土土器

SI-4 出土土器観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 小型壺	口径 12.6 底径 - 器高 -	胴部は膨らみを持ち、口縁部は直線的に開く。	外面-口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目で下位を一部ナデ。内面-口縁部～胴部ハケ目・ナデ。	白色粒・黒色粒 内外-赤褐色	1 / 3。
2	土師器 小型壺	口径(14.0) 底径 - 器高 -	S字状口縁。胴部は膨らみを持つ。	外面-口縁部～胴部厚減のため調整不明瞭。内面-口縁部～胴部厚減のため調整不明瞭。	石英・白色粒 内-明赤褐色 外-赤褐色	1 / 5。
3	土師器 小型壺	口径 11.6 底径 6.8 器高 18.2	胴部は膨らみを持ち、口縁部は外反気味に開く。台部は「ハ」の字状に開き、地部を内側に折り返す。	外面-口縁部～台部ナデ。内面-口縁部～底部ナデ、台部指ナデ。	石英・白色粒 内外-明赤褐色	ほぼ完形。
4	土師器 壺	口径 - 底径 7.4	大きく膨らむ胴部。底部は周縁部が環状に窪む。	外面-胴部ハケ目で一部ナデ。底部ナデ。内面-胴部～底部ヘラナデ。	石英・チャート 内外-赤褐色	胴部 3 / 4 残存。

SI-5

遺構 (図7-8、写真1)

G-12グリッドに位置する。平面形は不整な隅丸方形で、北・東・南の各辺は緩やかに曲がっている。主軸方位はN-5°-Eを示す。

覆土は3層に分かれ、下層にロームブロックを多量に含む黄褐色土、中層に黒色土ブロックと焼土ブロック多量に含む褐色土、上層に焼土ブロックを多量に含む黒色土が堆積している。

床にはロームブロックを多量に含む黒褐色土を敷いて全面に貼床を形成している。床面は平坦で、硬くしまっている。壁溝は存在しない。北東隅に不整形の貯蔵穴を設置している。炉・竈などの焼焼施設は確認できない。床面中央の1箇所にピットを確認できるが、主柱穴と判定されるピットは見当たらない。

規模は長軸4.5 m、短軸3.8 m、確認面からの深さ25cmを測る。貯蔵穴は長径60cm、底径35cm、床面からの深さ10cmを測る。

遺物

遺物は出土していない。

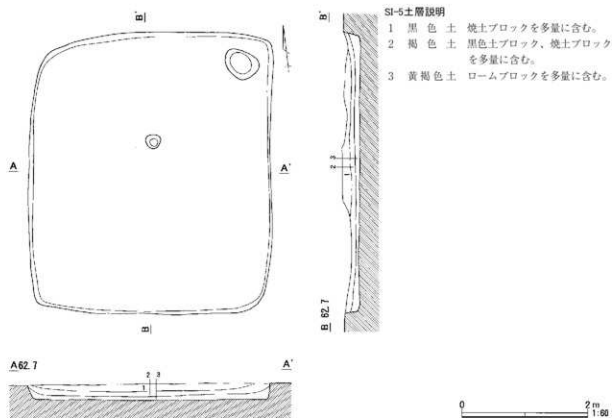


図7 SI-5 平面および断面

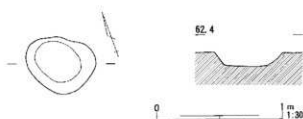


図8 SI-5 貯蔵穴平面および断面

SI-6

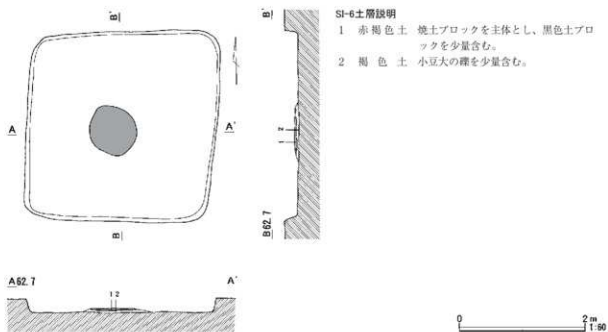
遺構 (図9、写真1)

F-12、G-12グリッドに位置する。平面形はやや歪みを生じているもののおおよそ正方形を呈し、主軸方位はほぼ南北に沿っている。

覆土にはロームブロックを含む黒褐色土が堆積している。床には貼床を施さず、平坦に削り出した地山面を、そのまま床面としている。壁溝は存在せず、貯蔵穴も設置されていない。床の中央に炉を設置している。長楕円形を呈し、65×80cmを測る。炉としてはやや大型である。床面に小豆大の礫を含む褐色土を敷いて形成し、被熱面は床からやや浮いている。主柱穴を含めピットはまったく見当たらない。規模は一辺3.0 m、確認面からの深さ25cmを測る。

遺物 (図10、写真9)

遺物はいずれも床面からやや浮いた状態で出土している。全体の出土量は少なく、甕・台付甕・壺などの破片を検出したにとどまる。



SI-6土層説明

- 1 赤褐色土 焼土ブロックを主体とし、黒色土ブロックを少量含む。
- 2 褐色土 小豆大の礫を少量含む。

図9 SI-6 平面および断面

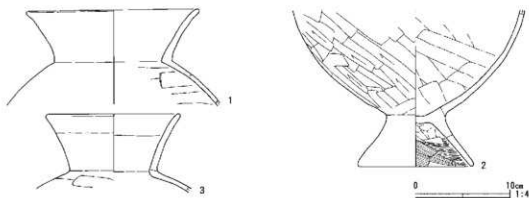


図10 SI-6 出土土器

SI-6 出土土器観察表

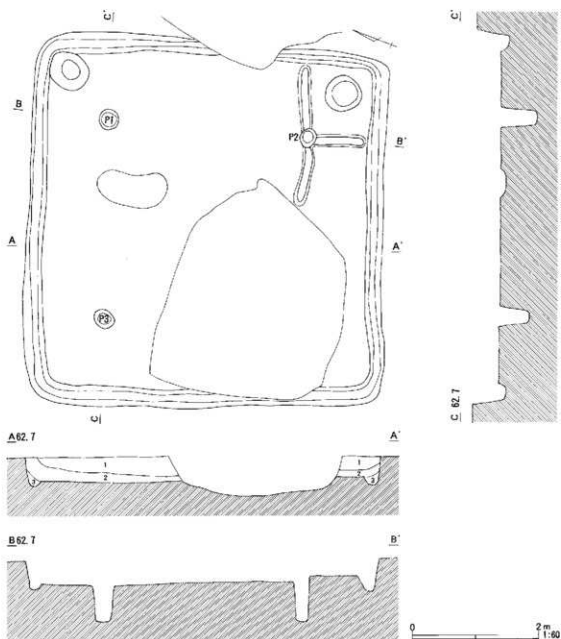
No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 甕	口径 18.4 底径 - 器高 -	口縁部は外反して開く。	外面-口縁部ヨコナテ、胴部ナテ。 内面-口縁部ヨコナテ、胴部ヘラナテ。	白色粒・黒色粒 内外-にぶい黄褐色	口縁部～胴部 1/3 残存。
2	土師器 台付甕	口径 - 底径 12.2 器高 -	膨らみを持つ胴部。台部は「ハ」の字状に開く。	外面-胴部ヘラケズリ後に一部ナテ、台部ナテ。内面-ヘラナテ、台部は上位ナテ。下位ハケ目。	片岩・チャート 内-にぶい黄褐色 外-明赤褐色	胴部中位～台部。
3	土師器 甕	口径 14.3 底径 - 器高 -	口縁部はやや外反して開く。	外面-口縁部ヨコナテ、胴部ナテ。 内面-口縁部ヨコナテ、胴部ナテ。	チャート・黒色粒 内-にぶい黄褐色 外-にぶい赤褐色	口縁部 4/5 残存。

SI-7

遺構 (図11・12、写真1)

F-12・13、G-12・13 グリッドに位置する。中央から南西寄の床面を攪乱によって失っている。

平面形は東西方向に長い長方形で、主軸方位はN-20°-Wを示す。覆土は2層に分かれ、下層に黒色土を多量に含む褐色土、上層に黒色土が堆積している。床には貼床を施さず、平坦に削り出した地山面をそのまま床面としている。全周する明瞭な壁溝を備え、南東隅に貯蔵穴を設けている。上端・下



SI-7土層説明

- 1 黒色土
- 2 褐色土 黒色土ブロックを多量に含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロックを少量含む。

図11 SI-7 平面および断面

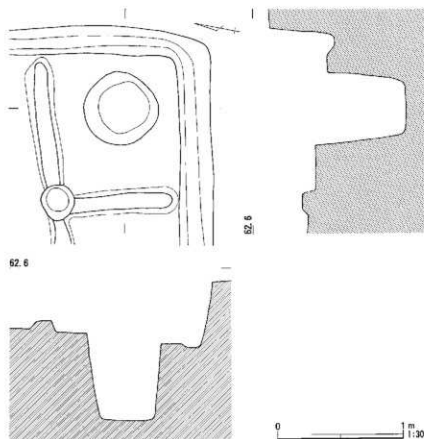


図12 SI-7 貯蔵穴平面および断面

端ともに比較的整った円形を呈し、底面は平坦に成形されている。また、この貯蔵穴とは別に北東隅にも浅い土坑状の落ち込みが見られる。床面中央まで攪乱が及んでいるためか、炉の存在は確認できない。ピットはP1～P3の3基で、いずれも支柱穴と判断される。

なお、南東隅には、P2から「T」字形に派生する土手状の遺構が見られる。この土手状遺構は地山層を削り出して形成されているもので、貯蔵穴を区画するようにして、壁溝にまで達している。

規模は長軸5.9 m、短軸5.6 m、確認面からの深さ40cmを測る。貯蔵穴は長径60cm、底径40cm、床面からの深さ70cm、ピットの床面からの深さはP1が55cm、P2が65cm、P3が45cmを測る。

遺物 (図13、写真9・10)

遺物は床面中央部を中心に高環・大小の埴・鉢・甕を出土している。高環は脚部の器壁を薄く成形する特徴がみられる。破片を含め5点を確認できるが、埴は伴わないようである。

SI-7 出土土器観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 高環	口径 19.7 底径 15.0 器高 16.8	坏部下位に横を持ち、口縁部は外反して開く。脚部は下方に向かって広がりがり、裾部は大きく開く。	外面一口縁部ヨコナテ、坏底部ナテ、脚部縦方向のナテ、裾部ヨコナテ、内面一坏部は摩滅のため調整不明瞭、脚部ヘラケズリで上位に絞り目、裾部ヨコナテ。	石英・チャート 内外一明赤褐色	裾部 1 / 4 を欠損。
2	土師器 高環	口径 20.4 底径 15.9 器高 18.4	坏部下位は鱗状に突出し、口縁部は外反して開く。脚部は下方に向かって広がりがり、裾部は大きく開く。	外面一坏部～裾部ナテ、内面一坏部ナテ、脚部ヘラケズリで上位に絞り目、裾部ナテ。	石英・チャート 内外一明赤褐色	4 / 5。

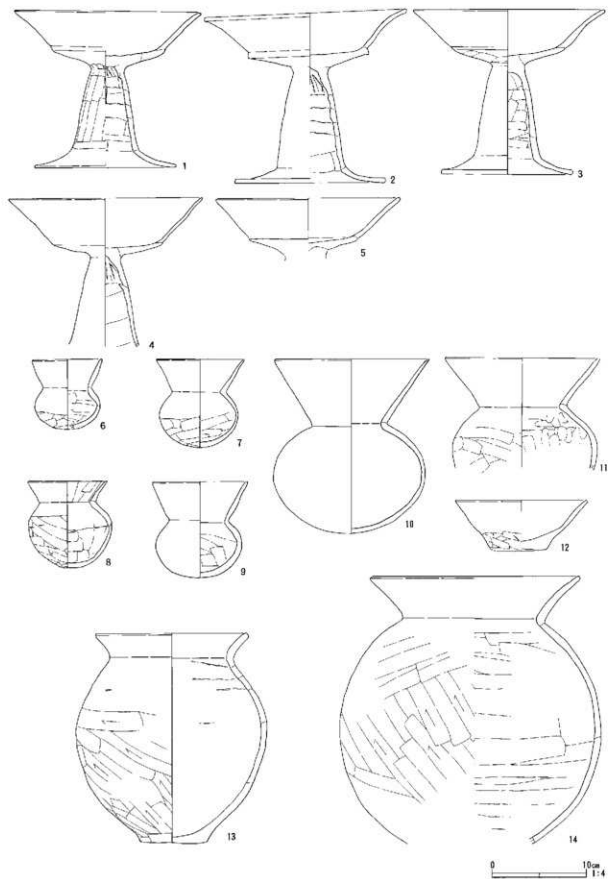


图13 SI-7 出土土器

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備 考
3	土 部 器 高 杯	口径 20.2 底径 13.9 器高 17.5	杯部下位に弱い稜を持ち、口縁部は外反して開く。脚部は下方に向かって広がる。裾部は大きく開く。	外面一口縁部ヨコナテ、杯部下位ナテ、脚部は摩滅のため調整不明瞭。内面一口縁部ヨコナテ、杯底部ナテ、脚部ナテで上位筋ナテ、裾部ナテ。	石英・チャート 内外一明赤褐色	一部欠損。
4	土 部 器 高 杯	口径 20.4 底径 - 器高 -	杯部下位に弱い稜を持ち、口縁部はやや外反して開く。脚部は下方に向かって広がる。	外面一口縁部ヨコナテ、杯底部～脚部ナテ。内面一坪部ナテ、脚部ヘラケズリで上位に絞リ目。	白色粒・角閃石 内外一明赤褐色	裾部欠損。
5	土 部 器 高 杯	口径(19.6) 底径 - 器高 -	杯部下位に稜を持ち、口縁部はやや外反して開く。	外面一坪部ナテ。内面一坪部にミガキあるが摩滅のため不明瞭。	石英・チャート 内外一明赤褐色	杯部 2 / 3 残存。
6	土 部 器 埴	口径 (7.4) 底径 - 器高 (7.4)	体部は膨らみを持ち、口縁部はわずかに湾曲して開く。	外面一口縁部ヨコナテ。体部上半部ナテ、下半部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナテ、体部～底部ナテ。	白色粒・黒色粒 内外一明赤褐色	1 / 2 残存。
7	土 部 器 埴	口径 9.4 底径 - 器高 9.3	丸底。体部は膨らみを持つ。口縁部は直線的に開き端部わずかに外反する。	外面一口縁部ナテ。体部上半部ナテ、下半部～底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナテ。体部～底部ナテ。	石英・白色粒 内外一明赤褐色	完形。
8	土 部 器 埴	口径 8.4 底径 - 器高 9.2	丸底。体部は膨らみを持つ。口縁部は外反気味に開く。	外面一口縁部ヨコナテ。体部上位ナテ、中位以下ヘラケズリ後ナテ。内面一口縁部ヘラナテ。体部上位ナテ、中位以下ヘラナテ。	石英・白色粒 内外一褐色	完形。
9	土 部 器 埴	口径 10.1 底径 - 器高 10.2	丸底。体部は膨らみを持つ。口縁部はわずかに湾曲して開く。	外面一口縁部ヨコナテ。体部上半部ナテ。下半部ヘラケズリあるが摩滅のため不明瞭。内面一口縁部ヨコナテ。体部～底部ヘラナテ。	石英・白色粒 内外一褐色	ほぼ完形。
10	土 部 器 埴	口径 16.4 底径 - 器高 18.4	丸底。胴部は膨らみを持つ。口縁部は直線的に開く。	外面一口縁部～底部は摩滅のため調整不明瞭。内面一口縁部ヨコナテ。胴部～底部ナテ。	チャート・白色粒 内外一褐色	ほぼ完形。
11	土 部 器 埴	口径 16.3 底径 - 器高 -	胴部は膨らみを持つ。口縁部はわずかに湾曲して開く。	外面一口縁部ヨコナテ。肩部ナテ、胴部上位ヘラケズリ後ナテ。内面一口縁部ヨコナテ。肩部・胴部上位ヘラナテ・指頭圧痕。	チャート・白色粒 内外一にぶい褐色	胴部下半欠損。
12	土 部 器 鉢	口径 14.0 底径 5.8 器高 5.4	わずかな上げ底。体部～口縁部はやや湾曲して開く。	外面一口縁部～体部ヨコナテ。体部下位ナテ。内面一口縁部～体部ヨコナテ。底部ナテ。	チャート・白色粒 内外一明赤褐色	ほぼ完形。
13	土 部 器 甕	口径 16.2 底径 7.0 器高 23.3	胴部は中位に膨らみを持ち、口縁部はやや外反して開く。	外面一口縁部は摩滅のため調整不明瞭。胴部ヘラケズリで上位ナテ。内面一口縁部ヨコナテ。胴部～底部ナテ。	石英・チャート 内外一にぶい黄褐色 外一明赤褐色	4 / 5。
14	土 部 器 甕	口径 22.2 底径 - 器高 -	胴部は中位に膨らみを持ち、口縁部はやや外反して開く。	外面一口縁部ヨコナテ。胴部ヘラケズリ後ナテ。内面一口縁部ヨコナテ。胴部ヘラナテ。	チャート・白色粒 内外一にぶい黄褐色	2 / 3。

SI-8

遺構 (図14・15、写真1)

D-13、E-13グリッドに位置する。平面形は東西方向にやや長い長方形で、主軸の方位はN-15°-Eを示す。床面に北東から南西方向に桑の根の抜跡が見られる以外は良好な遺存状態を保っている。

覆土にはロームブロックを含む黒褐色土が堆積している。床には貼床を施さず、平坦に削り出した地山面を、そのまま床面としている。全周する明瞭な壁溝を備え、南東隅に貯蔵穴を設けている。やや楕円形を呈し、底面は不整形の窪みが見られる。炉・竈などの燃焼施設は確認できない。ピットはP1～P4の4基で、いずれも主柱穴と判断される。

規模は長軸7.8 m、短軸7.5 m、確認面からの深さ30cmを測る。貯蔵穴は長径70cm、底径30cm、床

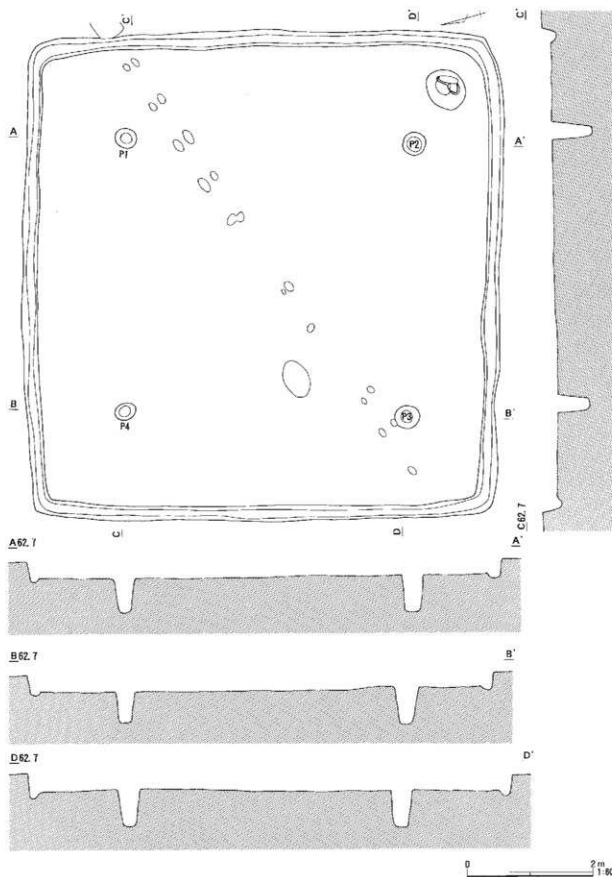


図14 SI-8 平面および断面

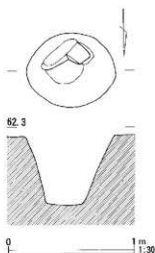


図15 SI-8 貯蔵穴平面および断面

面からの深さ55、ピットの床面からの深さはP1が50cm、P2が60cm、P3が50cm、P4が60cmを測る。

遺物 (図16・17、写真10・11・12)

遺物は床面の中央部から東壁寄りを中心に出土しているが、覆土の中位に多くの破片が含まれる。高坏・大小の埴・小型甕・甕・甗・甗・壺など多器種に及ぶ。13の甕は長く直線的に外反する口縁部と張りの強い肩部をもつやや特異な器形を示す。16の壺は貼付口縁をもち、胴部調整にはハケが残る。

SI-8 出土土器観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土器 高坏	口径 21.0 底径 (14.4) 器高 (16.5)	脚部は粘土紐巻き上げ成形。口縁部はわずかに湾曲して開く。脚部は下方に向かって広がり、裾部は大きく開く。	外面一坏部は厚減のため調整不明瞭、脚部ナダ。内面一坏部は厚減のため調整不明瞭。脚部絞り目、巻き上げ痕が顕著に残る。	石英・白色粒 内一ふい赤褐色 外一明赤褐色	3/4。
2	土器 高坏	口径 18.6 底径 - 器高 -	坏部下位に稜を持ち、口縁部はやや外反して開く。	外面一口縁部～坏底部ナダ。内面一口縁部～坏底部ナダ。	粗粒チャート 内外一褐色～明赤褐色	脚部欠損。
3	土器 埴	口径 8.9 底径 3.2 器高 8.5	上げ底。体部は膨らみを持ち、口縁部はやや外反して開く。	外面一口縁部ヨコナダ。体部上～中位ナダ、下位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナダ。体部～底部指ナダ。	石英・チャート 内外一明赤褐色	ほぼ完形。
4	土器 埴	口径 - 底径 2.8 器高 -	上げ底。体部は膨らみを持つ。	外面一口縁部ヨコナダ。体部上～中位ナダ、下位ヘラケズリ。内面一ハケ目・ナダ。体部～底部指ナダ。	チャート・黒色粒 内一ふい黄褐色 外一ふい黄褐色	2/3。
5	土器 埴	口径 - 底径 3.2 器高 -	上げ底。体部は膨らみを持ち、口縁部はわずかに湾曲して開く。	外面一口縁部ヨコナダ。体部ヘラケズリ後に下位を除きナダ。内面一口縁部ヨコナダ。体部～底部指ナダ。	石英・チャート 内外一褐色	3/4。
6	土器 埴	口径 - 底径 - 器高 -	丸底。体部は膨らみを持つ。	外面一体部上半部ナダ。下半部～底部ヘラケズリ。内面一体部～底部ヘラナダ。	石英・白色粒 内外一褐色	口縁部欠損。
7	土器 埴	口径 - 底径 - 器高 -	丸底。胴部は膨らみを持つ。	外面一胴部～底部ナダ。内面一胴部指ナダ、底部ナダ。	石英・白色粒 内一ふい赤褐色 外一赤色	胴部 3/4 残存。
8	土器 小型甕	口径 9.7 底径 3.5 器高 10.1	胴部は中位に膨らみを持つ。口縁部は短く外反気味に開く。	外面一口縁部～胴部ナダ、胴部下位・底部ヘラケズリ。内面一口縁部～底部ナダ。	チャート・白色粒 内外一明赤褐色	3/4。
9	土器 甕	口径 (19.8) 底径 - 器高 -	胴部は膨らみを持ち、口縁部は外反して開く。	外面一口縁部ナダ、頸部木口状具ナダ。胴部ヘラケズリ後ナダ。内面一口縁部ヨコナダ、胴部ヘラナダ。	粗粒チャート 内一明褐色 外一赤褐色	上半部 1/3 残存。
10	土器 甕	口径 (17.4) 底径 7.0 器高 26.6	胴部は中位に膨らみを持つ。口縁部は短く外反気味に開き端部わずかに内湾する。	外面一口縁部ナダ、胴部ヘラケズリ後ナダ。内面一口縁部ヨコナダ、胴部～底部ヘラナダ。	チャート・白色粒 内一ふい黄褐色 外一褐色	3/5。
11	土器 甕	口径 (18.7) 底径 - 器高 -	粘土紐巻き上げ成形。胴部は膨らみを持ち、口縁部は外反して開く。	外面一口縁部ヨコナダ。胴部ナダ。内面一口縁部ヨコナダ、胴部ヘラナダ。	チャート・白色粒 内外一褐色	上半部 1/2 残存。
12	土器 甕	口径 23.2 底径 - 器高 -	胴部は膨らみを持つ。口縁部は外反して開き、口部は外方に突出する。	外面一口縁部上位ヨコナダ、下位ヘラケズリ、胴部ヘラケズリ。内面一口縁部上位ヨコナダ、下位ヘラナダ、胴部ヘラナダ。	片岩・チャート 内一赤褐色 外一明赤褐色	上半部 3/4 残存。

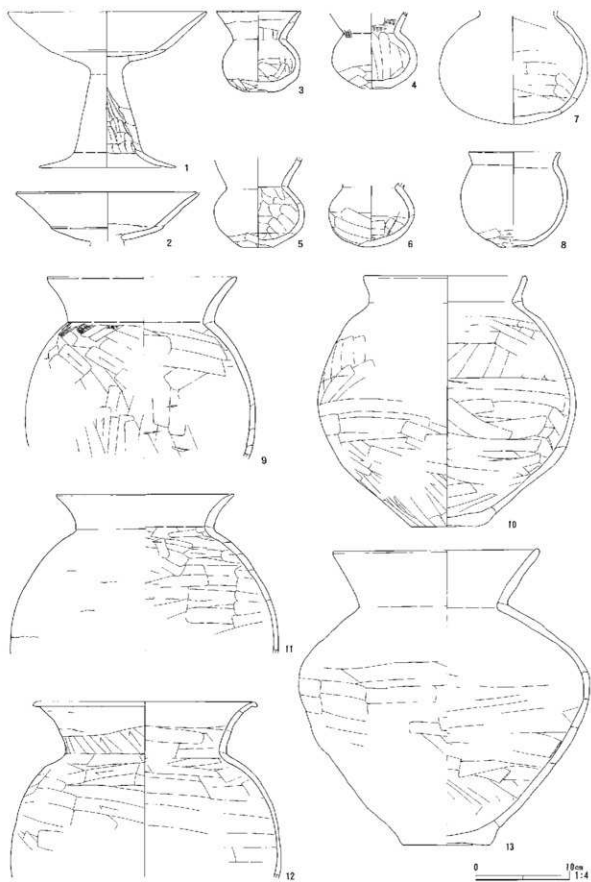


图16 SI-8 出土土器 (1)

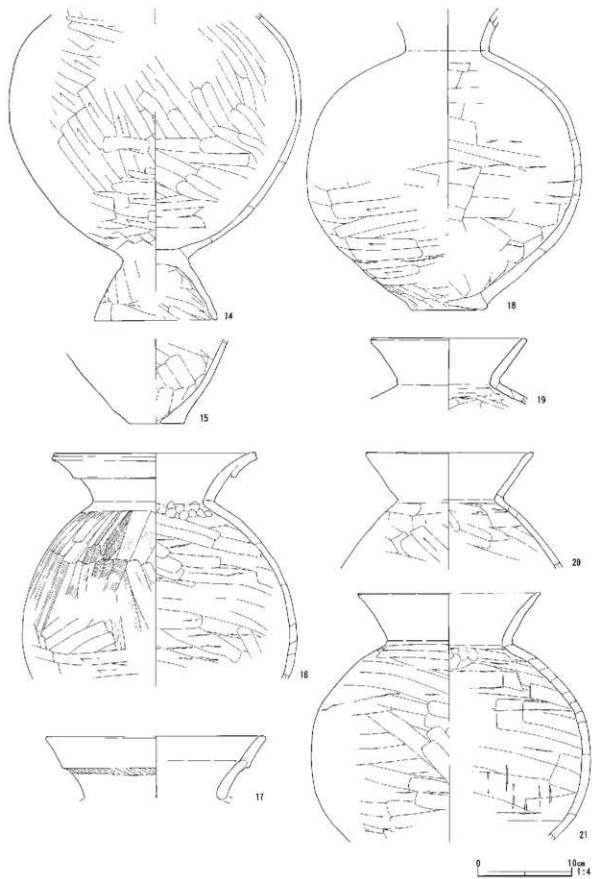


图17 SI-8 出土土器(2)

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
13	土 師 器 甕	口径 21.9 底径 31.4 器高 9.2	上位が大きく袋る胴部。口縁部は外反気味に開く。	外面→厚減のため調整不明瞭だが、胴部はヘラケズリ後ナデ。内面→口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	チャート・白色粒 内→明赤褐色 外→褐色	3/4。
14	土 師 器 台付甕	口径 - 底径 (13.0) 器高 -	胴部は膨らみを持ち、台部は「ハ」の字状に開く。	外面→胴部ヘラケズリ、台部ヘラケズリ後ナデ。内面→胴部指ナデ、台部指ナデ。	チャート・白色粒 内→にぶい黄褐色 外→褐色	胴部→台部 1/3 残存。
15	土 師 器 甕	口径 - 底径 5.5 器高 -	底部に単孔。胴部はやや湾曲して立ち上がる。	外面→胴部は厚減のため調整不明瞭、底部ナデ。内面→胴部→底部ヘラナデ。	石英・チャート 内外→にぶい黄褐色	胴部下位→底部 残存。 孔径 1.0cm。
16	土 師 器 甕	口径 21.5 底径 - 器高 -	粘土組織み上げ成形。胴部は膨らみを持つ。口縁部は複合口縁で外反して開く。	外面→口縁部ヨコナデ、胴部上位は木口状工具ナデ、下位ヘラケズリ後ナデ。内面→口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、頸部に指痕圧痕。	チャート・白色粒 内→にぶい赤褐色 外→明赤褐色	上半部 2/3 残存。
17	土 師 器 甕	口径 (23.3) 底径 - 器高 -	口縁部は中位に段を持つ複合口縁で、やや外反して開く。	内外面とも厚減のため調整不明瞭。外面口縁部中位に棒状工具の押圧痕。	チャート・白色粒 内外→明赤褐色	口縁部 1/2 残存。
18	土 師 器 甕	口径 - 底径 7.6 器高 -	粘土組織み上げ成形。胴部は中位に膨らみを持ち、口縁部は外反して開く。	外面→口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後ナデ。内面→口縁部ヨコナデ、胴部→底部ヘラナデ。	チャート・白色粒 内→黒褐色 外→明赤褐色	1/4。
19	土 師 器 甕	口径 16.1 底径 - 器高 -	粘土組織み上げ成形。口縁部は直線的に開き、端部がわずかに外反する。	外面→口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。内面→口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	チャート・角閃石 内外→褐色	口縁部→肩部。
20	土 師 器 甕	口径 17.7 底径 - 器高 -	胴部は膨らみを持ち、口縁部は直線的に開く。	外面→口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ後ナデ。内面→口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	チャート・白色粒 内→明赤褐色 外→褐色	口縁部→胴部上 位 1/2 残存。
21	土 師 器 甕	口径 19.3 底径 - 器高 -	粘土組織み上げ成形。胴部は膨らみを持ち、口縁部は外反気味に開く。	外面→口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後ナデ。内面→口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、頸部に指痕圧痕。	チャート・白色粒 内→明褐色 外→赤褐色	2/5。

SI-9

遺構 (図18・19、写真1)

D-13・14 グリッドに位置する。平面形はほぼ正方形を呈し、主軸の方位はN-35°-W を示す。

覆土にはロームブロックを含む黒褐色土が堆積している。床には貼土を施さず、平坦に削り出した地山面を、そのまま床面としている。壁溝は存在しない。南隅に貯蔵穴を設けている。平面形は小判形を呈し、底面は平坦に成形されている。炉・竈などの燃焼施設は確認できない。ピットはP1～P4の4基で、いずれも主柱穴と判断される。

規模は長辺4.9m、短辺4.8 m 確認面からの深さ80cmを測る。貯蔵穴は長径70cm、底径45cm、床面からの深さ15cm、ピットの床面からの深さはP1が55cm、P2が40cm、P3が65cm、P4が45cmを測る。

SI-9 出土土器観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土 師 器 高 坏	口径 20.6 底径 - 器高 -	坏部下位に削い境を持ち、口縁部は直線的に開く。	外面→口縁部→坏底部ナデ。内面→口縁部→坏底部ナデ。	石英・白色粒 内外→明赤褐色	坏部 3/4 残存。
2	土 師 器 埴	口径 9.1 底径 - 器高 8.0	丸底。体部は膨らみを持ち、口縁部は直線的に開く。	外面→口縁部ヨコナデ、体部上→中位ナデ、下位→底部ヘラケズリ。内面→口縁部ヨコナデ、体部→底部ナデ。	石英・白色粒 内外→明赤褐色	ほぼ完形。

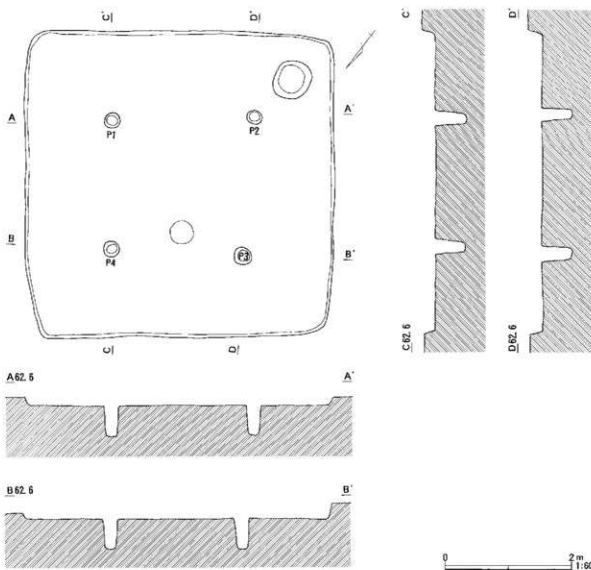


図18 S1-9 平面および断面

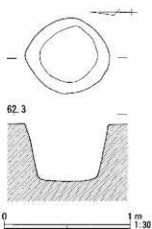


図19 S1-9 貯蔵穴平面および断面

遺物 (図20、写真12・13)

遺物は床面中央部を中心に高坏・大小の埴・鉢・甕・台付甕を出土している。5の埴には内外面の一部にナデ残しのハケ調整が観察される。7の埴は大型品で、外面には全面に丁寧なナデを施している。

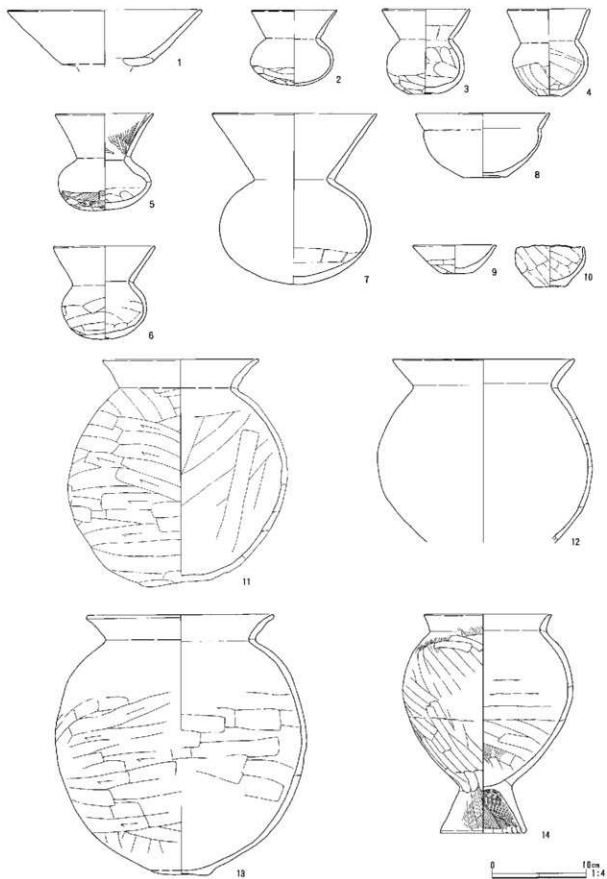


图20 SI-9 出土土器

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備 考
3	土 師 器 埴	口径 9.3 底径 2.7 器高 9.0	わずかなさげ底。体部は膨らみを持ち、口縁部はわずかに湾曲して開く。	外面－口縁部ヨコナテ。体部上位～中位ナテ。下位ヘラケズリ。内面－口縁部ヘラナテ。体部～底部指ナテ。	白色粒・黒色粒 内外－明赤褐色	一部欠損。
4	土 師 器 埴	口径 (8.8) 底径 2.8 器高 9.3	平底。体部は上位に膨らみを持ち、口縁部は直線的に開く。	外面－口縁部ヨコナテ。体部ヘラケズリ後に上半部ナテ。底部ナテ。内面－口縁部ヨコナテ。体部～底部指ナテ。	石英・黒色粒 内外－明赤褐色	4/5。
5	土 師 器 埴	口径 10.4 底径 — 器高 10.2	丸底。体部はやや扁平に膨らみ、口縁部はやや外反して開く。	外面－口縁部ヨコナテ。体部上～中位ナテ。下位ヘラケズリ・ハケ目。底部ナテ。内面－口縁部に弱いミガキ。体部～底部指ナテ。	微砂粒 内外－褐色	3/4。
6	土 師 器 埴	口径 10.7 底径 1.5 器高 9.8	底部は小さな丸底。体部は膨らみを持ち、口縁部は直線的に開く。	外面－口縁部～体部上位ナテ。中位以下ヘラケズリ。内面－口縁部ナテ。体部～底部指ナテ。	チャート・白色粒 内－ぶい黄褐色 外－褐色	4/5。
7	土 師 器 埴	口径 (17.4) 底径 — 器高 18.1	丸底。体部は中位に膨らみを持ち、口縁部は直線的に開く。	外面－厚減のため調整不明瞭。 内面－体部下位ヘラナテ。他は厚減のため調整不明瞭。	石英・チャート 内外－褐色	4/5。
8	土 師 器 鉢	口径 (14.2) 底径 4.4 器高 6.8	やや上げ底。体部は上位に膨らみを持ち、口縁部は短く直線的に開く。	外面－厚減のため調整不明瞭。 内面－厚減のため調整不明瞭。	石英・チャート 内外－明赤褐色 外－褐色	2/3。
9	土 師 器 ミニチュア	口径 8.9 底径 3.5 器高 3.0	体部はやや湾曲して立ち上がる。	外面－口縁部ナテ。体部下位～底部ヘラケズリ。内面－口縁部～底部ナテ。	チャート・白色粒 内外－浅黄色	一部欠損。
10	土 師 器 ミニチュア	口径 7.2 底径 3.4 器高 4.4	体部は湾曲して立ち上がり、口縁部は内湾する。	外面－口縁部～体部指ナテ。底部ナテ。内面－口縁部～底部指ナテ。	石英・白色粒 内外－褐色	4/5。
11	土 師 器 甕	口径 16.4 底径 7.5 器高 24.1	胴部は中位に膨らみを持ち、口縁部は外反して開く。	外面－口縁部ヨコナテ。胴部ヘラケズリ後に弱いナテ。内面－口縁部ヨコナテ。胴部ヘラナテ。	石英・チャート 内外－ぶい褐色	一部欠損。
12	土 師 器 甕	口径 19.3 底径 — 器高 —	中位に膨らみを持つ胴部。口縁部はやや内湾気味に開く。	外面－厚減のため調整不明瞭。 内面－胴部はヘラナテと思われるが、全体的に厚減のため調整不明瞭。	白色粒・黒色粒 内外－明赤褐色 外－褐色	口縁部～胴部下位 4/5 残存。
13	土 師 器 甕	口径 (19.8) 底径 6.0 器高 (27.5)	胴部は中位に膨らみを持ち、口縁部は外反気味に開く。	外面－口縁部ナテ。胴部ヘラケズリ。内面－口縁部ナテ。体部～底部ヘラナテ。	チャート・白色粒 内外－ぶい黄褐色 外－褐色	2/3。
14	土 師 器 台付甕	口径 13.5 底径 9.0 器高 22.3	胴部は上位に膨らみを持ち、口縁部は短く外反して開く。台部は「ハ」の字状に開き、端部を内側に折り返す。	外面－口縁部ヨコナテ。胴部ハケ目あるが大半が厚減。台部ハケ目。内面－口縁部ナテ。胴部ヘラナテ。下位は部分的にハケ目。台部ハケ目で端部に指頭圧痕。	チャート・黒色粒 内外－褐色	2/3。

SI-10

遺構 (図21・22、写真1)

I-11・12グリッドに位置し、東壁は調査区外にある。平面形は東西方向にやや長い隅丸の長方形で、主軸方位はN-5°-Eを示す。

覆土は6層に別れる。下層にはロームブロックを多量に含む黄褐色土と褐色土、中層には壁際にロームブロックを含む褐色土、中央に焼土ブロック・炭化物ブロックを含む褐色土と黒色土、上層に焼土ブロックを含む褐色土が堆積している。床には全面的にロームブロックを多量に含む黄褐色土を敷いて貼床を施し、床面は硬くしまっている。壁溝は存在しない。南東隅に貯蔵穴を設けている。平面形は小判形を呈し、底面は平坦に成形されている。炉・竈などの燃焼施設は確認できない。ピットはP1～P4の4基で、いずれも主柱穴と判断される。

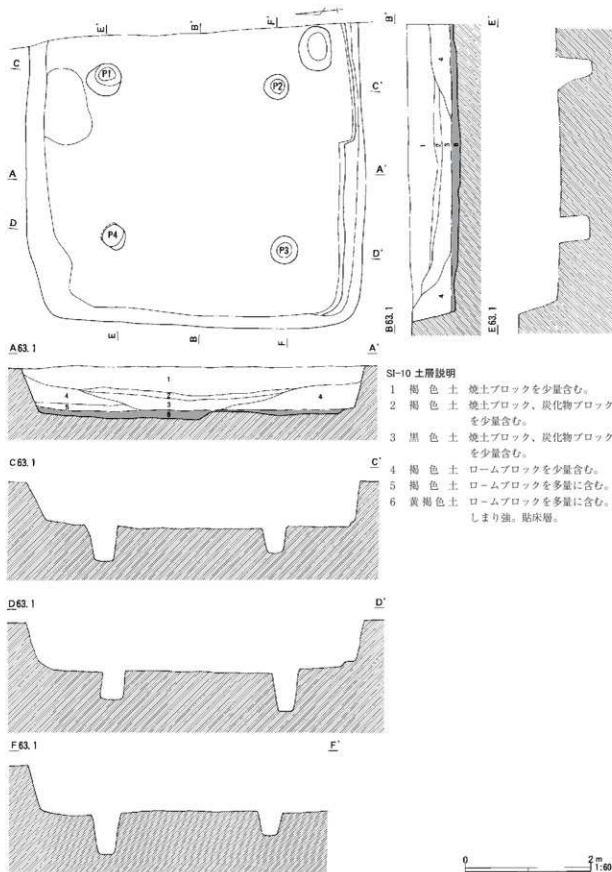


図21 SI-10 掘り方平面および断面

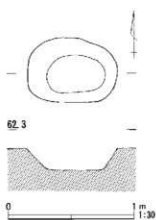


図22 SI-10 貯蔵穴平面および断面

規模は南北で4.9m、確認面からの深さ80cmを測る。
貯蔵穴は長径70cm、底径45cm、床面からの深さ15cm、ピットの床面からの深さはP1が55cm、P2が40cm、P3が65cm、P4が45cmを測る。

遺物 (図23、写真13)

遺物はいずれも床面からやや浮いた状態で出土している。全体の出土量は少なく、高坏・埴・甕・壺が見られる。9の壺は中位で外湾する口縁部と強く横方に張り出す肩部をもち、在地の伝統的な壺とは系統的に異質な形態をとる。

SI-10 出土土器観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土部器 高坏	口径 18.3 底径 14.5 器高 10.8	坏部下位に弱い稜を持ち、口縁部はわずかに湾曲して開く。脚部は下方に向かって広がり、裾部は大きく開く。	外面-口縁部ヨコナデ、坏底部ナデ、脚部ヘラケズリ後ナデ、裾部ヨコナデ。内面-口縁部ヨコナデ、坏底部ナデ、脚部指ナデ、裾部ヨコナデ。	チャート・白色粒 内外-橙色	3/4。
2	土部器 高坏	口径 18.5 底径 - 器高 -	坏部下位に稜を持ち、口縁部は外反して開く。	内外面とも厚流のため調整不明瞭。内面脚部はナデ。	石英・白色粒 内-明赤褐色 外-橙色	坏部~脚部上位 3/4 残存。
3	土部器 高坏	口径 18.2 底径 - 器高 -	坏部下位に稜を持ち、口縁部はわずかに湾曲して開く。	外面-坏部ナデ。内面-坏部ナデ。	粗粒チャート 内-ぶい褐色 外-橙色	坏部 2/3 残存。

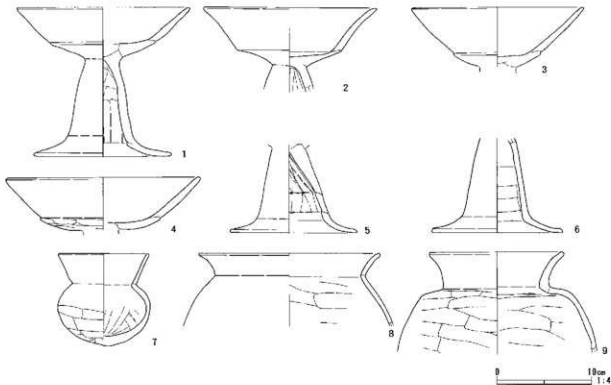


図23 SI-10 出土土器

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
4	土師器 高環	口径 20.5 底径 - 器高 -	坏部下に稜を持ち、口縁部はわずかに湾曲して開く。	外面一口縁部ナデ、坏底部ヘラケズリ後ナデ。内面一口縁部ヨコナデ、坏底部ナデ。	石英・白色粒 内一橙色 外一明赤褐色	坏部 3/4 残存。
5	土師器 高環	口径 - 底径 (13.3) 器高 -	脚部は下方に向かって広がり、裾部は大きく開く。	外面一脚部厚減のため調整不明瞭。裾部ヨコナデ。内面一脚部上位に絞り目。下位ナデ、裾部ナデ。	微砂粒 内外一明赤褐色	脚部 3/4 残存。
6	土師器 高環	口径 - 底径 13.8 器高 -	脚部は下方に向かって広がり、裾部は大きく開く。	外面一脚部ナデ、裾部ヨコナデ。内面一脚部ヘラケズリ、裾部ヨコナデ。	石英・白色粒 内一褐色 外一明赤褐色	脚部完存。
7	土師器 埴	口径 9.6 底径 - 器高 9.8	丸底。体部は膨らみを持ち、口縁部は直線的に開く。	外面一口縁部ヨコナデ。体部上位ナデ。中位へ底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ。体部へ底部指ナデ。	石英・チャート 内一褐色 外一にふい橙色	一部欠損。
8	土師器 甕	口径 19.2 底径 - 器高 -	口縁部は外反して開く。	外面一脚部厚減のため調整不明瞭。内面一口縁部は厚減。胴部ヘラナデ。	石英・チャート 内一明黄褐色 外一褐色	口縁部へ肩部 3/4 残存。
9	土師器 壺	口径 14.3 底径 - 器高 -	肩部が張る。口縁部は外反気味に開き、上端部はわずかに内湾する。	外面一口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ後ナデ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	チャート・白色粒 内外一明赤褐色	口縁部へ肩部 1/2 残存。

SI-11

遺構 (図24、写真1)

I-11、J-11グリッドに位置する。平面形はほぼ正方形を呈し、主軸方位はN-20°-Eを示す。

覆土は2層に大別され、下層にロームブロックを含む黄褐色土、上層に焼土ブロックを含む暗褐色土が堆積している。床には貼床を施さず、平坦に削り出した地山面を、そのまま床面としている。壁溝は存在せず、貯蔵穴も設置されていない。平面形は上端が隅丸の方形、下端が円形を呈し、底面は平坦に成形されている。床面の中央北寄りには炉を設置している。不整形を呈し、55×70cmを測る。床面に小豆大の礫を含む褐色土を敷いて形成し、被熱面は床からやや浮いている。ピットはP1～P4の4基で、いずれも支柱穴と判断される。

規模は長辺4.9m、短辺4.7m、確認面からの深さ25cmを測る。ピットの床面からの深さはP1が60cm、P2が80cm、P3が60cm、P4が65cmを測る。

遺物 (図25、写真14)

遺物は床面中央部を中心に出土している。器種は高環・埴・鉢・小型甕・甕・甗・壺など多種に及ぶ。

SI-11 出土土器観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 高環	口径 20.4 底径 - 器高 -	坏部下に稜を持ち、口縁部はやや湾曲して開く。	外面一口縁部ヨコナデ、坏底部ヘラケズリ後ナデ。内面一口縁部ヨコナデ。坏底部厚減のため調整不明瞭。	石英・白色粒 内外一明赤褐色	坏部ほぼ完存。
2	土師器 高環	口径 19.2 底径 - 器高 -	坏部下に稜を持ち、口縁部はやや外反して開く。	内外面とも厚減のため調整不明瞭。	微砂粒 内外一明赤褐色	坏部 4/5 残存。
3	土師器 高環	口径 (19.2) 底径 - 器高 -	坏部下に稜を持ち、口縁部は直線的に開く。	外面一口縁部ナデ、坏底部ヘラケズリ後ナデ。内面一口縁部へ坏底部ナデ。	石英・白色粒 内一褐色 外一にふい黄褐色	坏部 1/2 残存。
4	土師器 高環	口径 - 底径 (15.9) 器高 -	脚部は下方に向かって広がり、裾部は外折して大きく開く。	外面一脚部ヘラナデ、裾部ナデ。内面一脚部絞り目、下位ナデ、裾部ナデ。	チャート・白色粒 内一褐色 外一にふい赤褐色	脚部 2/3 残存。

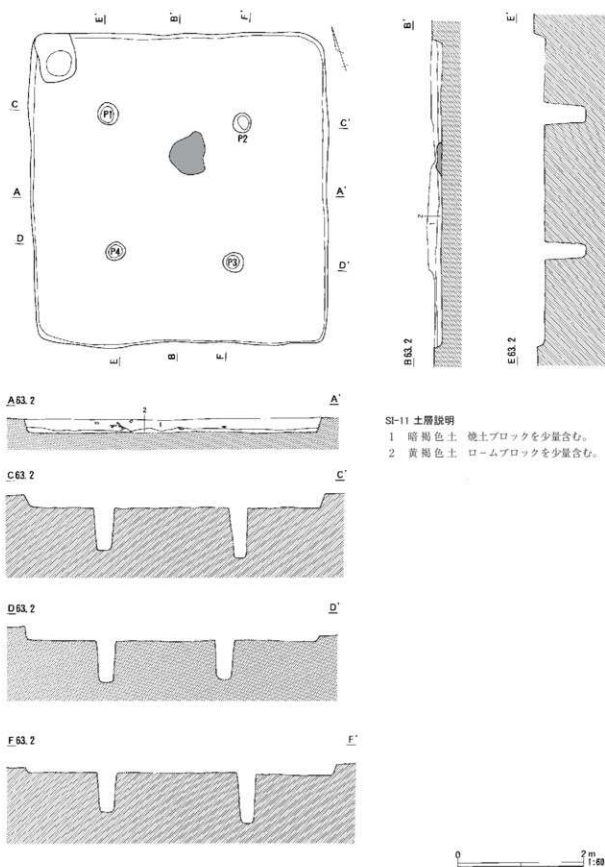


図24 SI-11 平面および断面

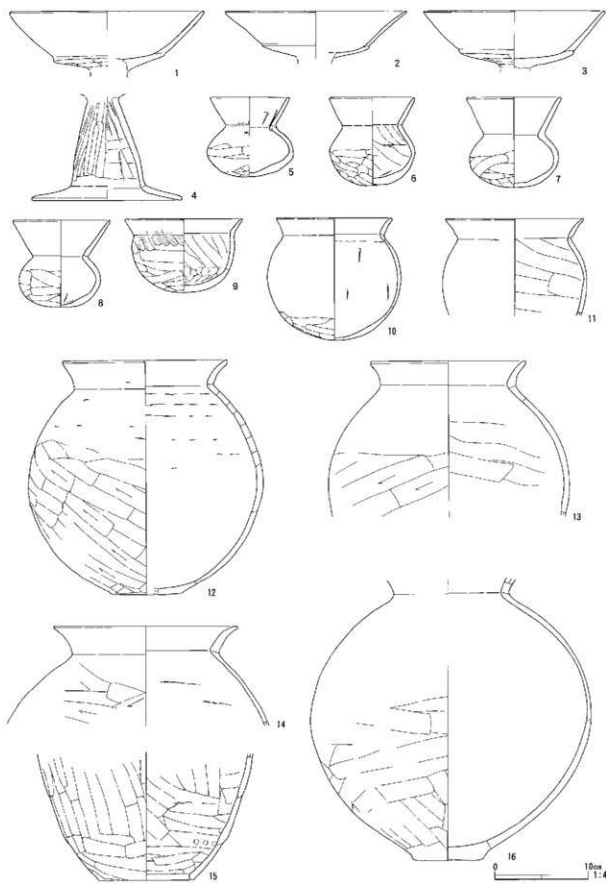


图25 SI-11 出土土器

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
5	土 師 器 埴	口径 8.4 底径 - 器高 8.5	丸底。体部は横方向に張りを持ち、 口縁部はわずかに湾曲して開く。	外面→口縁部ヨコナテ。頸部にハケ 目。体部上半部ナテ。下半部→底 部ヘラケズリ後ナテ。内面→口縁部 ヘラナテ。体部→底部ナテ。	石英・白色粒 内→黄灰色 外→にぶい黄褐色	口縁部の一部欠損。
6	土 師 器 埴	口径 (9.0) 底径 1.5 器高 9.3	小さな上げ底。体部は膨らみを持ち、 口縁部はわずかに湾曲して開く。	外面→口縁部ナテ。体部上半部ナテ。 下半部ヘラケズリ後ナテ。内面→口 縁部ナテ。体部→底部ヘラナテ。	石英・白色粒 内外→灰褐色	1/2。
7	土 師 器 埴	口径 10.0 底径 - 器高 9.6	丸底。体部は膨らみを持ち。口縁部 は直線的に開く。	外面→口縁部厚紙のため調整不明瞭。 体部上位ナテ。中位→底部ヘラケズ リ後ナテ。内面→口縁部ヨコナテ。 体部→底部ナテ。	微砂粒 内→にぶい赤褐色 外→橙色	3/4。
8	土 師 器 埴	口径 10.2 底径 - 器高 9.2	丸底。体部は膨らみを持ち。口縁部 は直線的に開く。	外面→口縁部ヨコナテ。体部上位ナ テ。中位→底部ヘラケズリ後ナテ。 内面→口縁部ナテ。体部→底部ヘラ ナテ。	石英・白色粒 内外→明赤褐色	口縁部の一部欠損。
9	土 師 器 鉢	口径 (12.4) 底径 - 器高 7.8	丸底。体部は湾曲して立ち上がり、 口縁部は短く外傾する。	外面→口縁部ヨコナテ。頸部にハケ 目。体部→底部ヘラケズリ後ナテ。 内面→口縁部ヨコナテ。体部→底部 指ナテ・指廻り窪。	石英・白色粒 内外→赤褐色	1/2。
10	土 師 器 小型 甕	口径 12.4 底径 - 器高 13.0	丸底。胴部は丸く膨らみ。口縁部は やや外反して開く。	外面→口縁部→胴部中位ナテ。下位 →底部ヘラケズリ後ナテ。内面→口 縁部ナテ。胴部→底部ヘラナテ。	石英・チャート 内→黒褐色 外→にぶい黄褐色	6/7。 外面に煤付着。
11	土 師 器 小型 甕	口径 (14.5) 底径 - 器高 -	胴部は膨らみを持ち。口縁部はやや 外反して開く。	外面→口縁部→胴部厚紙のため調整 不明瞭。内面→口縁部ヨコナテ。胴 部ヘラナテ。	石英・チャート 内→にぶい黄褐色 外→灰黄褐色	上半部 1/2 残存。
12	土 師 器 甕	口径 17.3 底径 (7.3) 器高 25.6	粘土結核み上げ成形。胴部は中位に 膨らみを持ち。口縁部はやや外反し て開く。	外面→口縁部ヨコナテ。胴部ヘラケ ズリ後に上位をナテ。内面→口縁部 ヨコナテ。胴部ナテ。	粗粒チャート 内外→にぶい黄橙 色	2/3。
13	土 師 器 甕	口径 16.4 底径 - 器高 -	胴部は膨らみを持ち。口縁部は外反 して開く。	外面→口縁部ヨコナテ。胴部ヘラケ ズリ後に上位をナテ。内面→口縁部 ヨコナテ。胴部ヘラナテ。	チャート・黒色粒 内外→にぶい黄褐 色	上半部 1/2 残存。 外面に煤付着。
14	土 師 器 甕	口径 19.5 底径 - 器高 -	胴部は膨らみを持ち。口縁部は外反 して開く。	外面→口縁部ヨコナテ。胴部ヘラケ ズリ。内面→口縁部ヨコナテ。胴部 ヘラナテ。	粗粒チャート 内→橙色 外→にぶい褐色	口縁部→胴部 1/2 残存。
15	土 師 器 甕	口径 - 底径 9.9 器高 -	胴部は湾曲して立ち上がる。	外面→胴部ヘラケズリ後ナテ。内面 →胴部ヘラナテ。	石英・チャート 内外→明赤褐色	下半部 1/3 残存。
16	土 師 器 壺	口径 - 底径 7.5 器高 -	中位に大きな膨らみを持つ胴部。	外面→胴部ヘラケズリ後ナテ。内面 →胴部ヘラナテ。	石英・チャート 内外→にぶい黄褐 色	口縁部欠損。

SI-12

遺構 (図26・27、写真1)

J-11・12 グリッドに位置する。平面形は南北に長い隅丸の長方形を呈し、主軸方位はN-5°-Eを示す。

覆土にはロームブロックを含む黒褐色土が堆積している。床には貼土を施さず、平坦に削り出した地山面を、そのまま床面としている。壁溝は存在しない。南西隅に貯蔵穴を設けている。平面形は歪んだ隅丸の方角を呈し、底面は平坦に成形されている。炉・竈などの燃焼施設は確認できない。ピットはP1～P6の6基で、このうちP1～P3は主柱穴である。近接するP4・5も主柱穴の可能性があるが、ともにP1寄りにずれた位置にある。貯蔵穴の底面にもP6が存在する。

規模は長辺3.4 m、短辺3.0 m、確認面からの深さ20cmを測る。貯蔵穴は長径65cm、底径15cm、床面からの深さ35cm、ピットの床面からの深さはP1からP3が70cm、P4が55cmを測る。

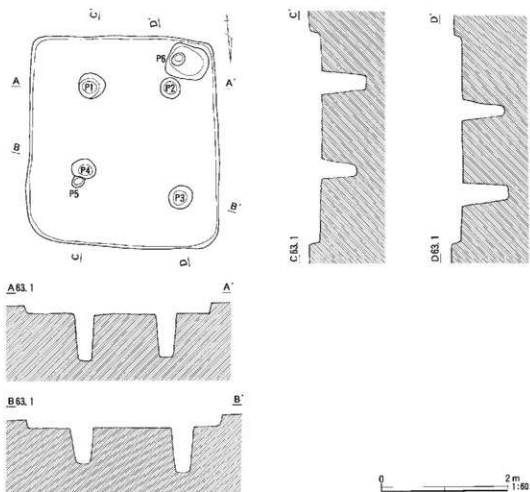


図26 SI-12 平面および断面

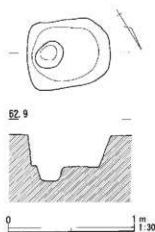


図27 SI-12 貯蔵穴平面および断面

遺物 (図28・29、写真15)

遺物は床面中央部を中心に出土している。高環・埴・甕・甌・壺があり、環を含まない。高環は脚部の器壁を薄く成形する特徴がみられる。10は底部周辺を欠失しているが、全体の器形から甌の可能性が考えられる。

SI-12 出土土器観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土器 高環	口径 19.5 底径 15.0 器高 17.6	外部下位に横を持ち、口縁部はやや外反して開く。脚部は下方に向かって広がり、裾部は大きく開く。	外面-口縁部ヨコナテ、坏底部ヘラナテ、脚部ナテ、裾部ヨコナテ。内面-口縁部ヨコナテ、坏底部ナテ、ミガキ、脚部上位に絞り目、下位ナテ、裾部ヨコナテ。	石英・白色粒 内-にぶい赤褐色 外-明赤褐色	3/4。

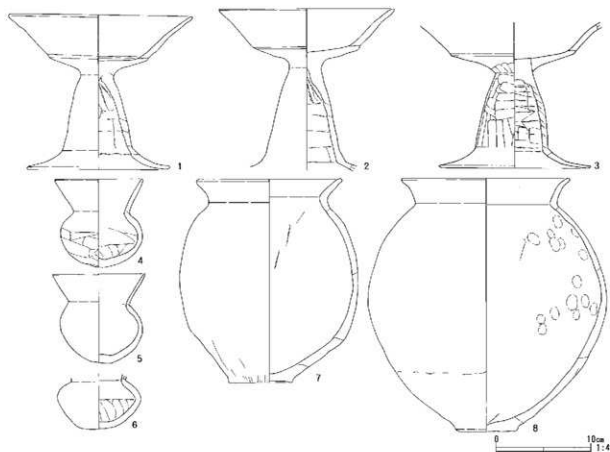


図28 S1-12 出土土器（1）

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
2	土器 高杯	口径 18.5 底径 — 器高 —	杯部下位に稜を持ち、口縁部はやや外反して開く。脚部は下方に向かって広がる。	外面—口縁部ヨコナテ、杯底部ナテ、脚部ナテ。内面—杯部は厚減のため調整不明瞭。脚部上位に絞目、下位ヘラケズリ。	石英・チャート 内外—明赤褐色	1/3。
3	土器 高杯	口径 — 底径 16.0 器高 —	脚部は粘土紅色き上げ成形。杯部下位に稜を持ち、口縁部は外反して開く。脚部は下方に向かって広がり、裾部は大きく開く。	外面—口縁部ヨコナテ、杯底部ナテ、脚部ヘラケズリ後ナテ、裾部ヨコナテ。内面—口縁部ヨコナテ、杯底部ナテ、粗雑なヘラケズリできき上げ痕残る、裾部ナテ。	チャート・白色粒 内—明赤褐色 外—明褐色	3/4。
4	土器 埴	口径 9.3 底径 — 器高 9.3	丸底。体部は膨らみを持ち、口縁部は直線的に開く。	外面—口縁部ヨコナテ、体部上位ナテ。中位～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナテ、体部～底部指ナテ。	石英・白色粒 内—ぶい赤褐色 外—明赤褐色	4/5。
5	土器 埴	口径 9.7 底径 — 器高 9.5	丸底。体部は膨らみを持ち、口縁部はわずかに湾曲して開く。	外面—口縁部ヨコナテ、体部上位ナテ。中位～底部ヘラケズリ後ナテ。内面—口縁部ヨコナテ、体部～底部指ナテ。	石英・白色粒 内外—褐色	1/2。
6	土器 埴	口径 — 底径 — 器高 —	底部は丸底気味。体部は横方向に張る。	外面—体部～底部厚減のため調整不明瞭。内面—体部～底部指ナテ。	石英・白色粒 内—灰褐色 外—明赤褐色	口縁部欠損。
7	土器 甕	口径 15.4 底径 6.7 器高 21.6	胴部は膨らみを持ち、下位がやや張る。口縁部は外反気味に開く。	外面—口縁部ヨコナテ、胴部は厚減のため調整不明瞭。内面—口縁部ヨコナテ、胴部～底部ヘラナテ。	石英・チャート 内—ぶい褐色 外—明赤褐色	5/6。
8	土器 甕	口径 17.8 底径 6.5 器高 26.8	胴部は膨らみを持ち、口縁部は外反して開く。	外面—口縁部ヨコナテ、胴部ナテ。内面—口縁部ヨコナテ、胴部ヘラナテ・指頭圧痕。	石英・白色粒 内—ぶい褐色 外—褐色	3/5。

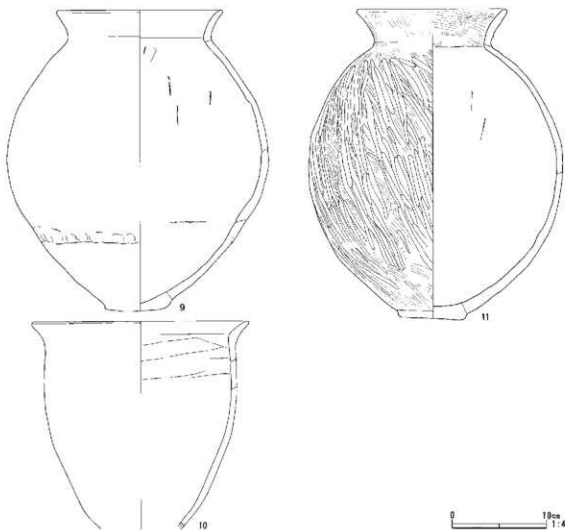


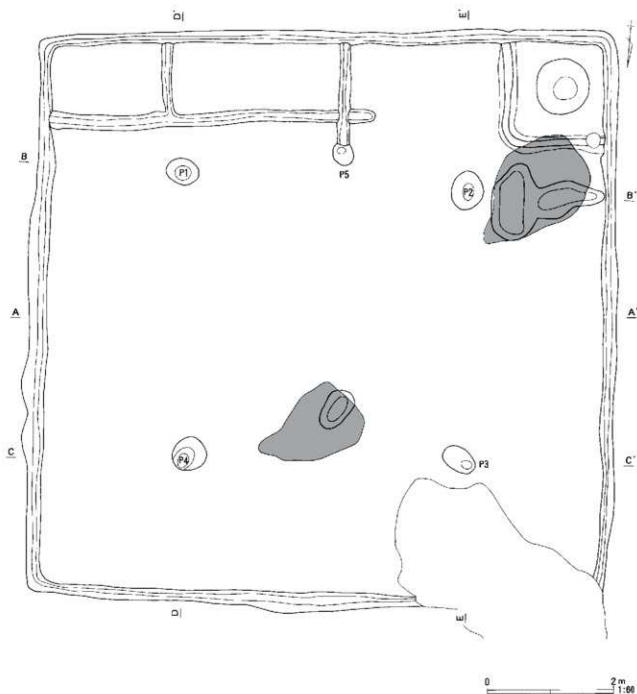
図29 SI-12 出土土器（2）

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
9	土師器 甕	口径 17.6 底径 6.8 器高 32.0	底部は丸みを持つ。胴部は中に膨らみを持ち、口縁部は外反気味に開く。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部ナデ、内面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	石英・チャート 内－ぶい褐色 外－灰褐色	1/2。
10	土師器 瓶	口径(23.0) 底径 - 器高 -	胴部は膨らみを持ち、口縁部は外反気味に開く。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部ナデ、内面－口縁部ヨコナデ、胴部は厚減するもヘラナデ。	石英・白色粒 内－明赤褐色 外－橙色	1/4。
11	土師器 壺	口径 16.0 底径 7.0 器高 33.0	胴部は膨らみを持ち、口縁部は外反気味に開く。	外面－口縁部ハケ目後ナデ、胴部ハケ目後に粗いミガキ。内面－口縁部ハケ目、胴部～底部ヘラナデ。	石英・チャート 内－橙色 外－ぶい黄褐色	一部欠損。

SI-13

遺構 (図30～32、写真1)

K-10・11、L-10・11 グリッドに位置する。一辺9mを超える大型の住居である。平面形は正方形を呈し、主軸方位はN-5°-Wを示す。北西隅を攪乱により失っている。



SI-13 土層説明

- | | | | |
|--------|----------------------|---------|------------------------|
| 1 褐色土 | ロームブロック、白色バミスを少量含む。 | 8 暗褐色土 | ロームブロックを多量に含む。 |
| 2 灰褐色土 | ロームブロック、白色バミスを少量含む。 | 9 暗褐色土 | ロームブロックを少量含む。 |
| 3 褐色土 | ロームブロックを少量含む。 | 10 黄褐色土 | 風化ロームを主体とする。しまり弱。 |
| 4 暗褐色土 | 焼土ブロック、炭化物ブロックを少量含む。 | 11 黒褐色土 | ロームブロックを少量含む。 |
| 5 暗褐色土 | | 12 黒褐色土 | |
| 6 褐色土 | ロームブロックを多量に含む。 | 13 灰褐色土 | ロームブロック、暗褐色土ブロックを少量含む。 |
| 7 褐色土 | 暗褐色土ブロックを少量含む。 | | |

図30 SI-13 平面

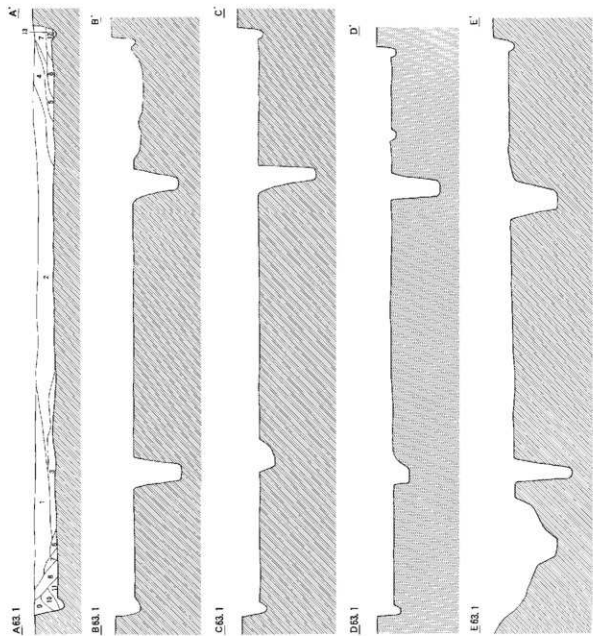


图31 SI-13 断面



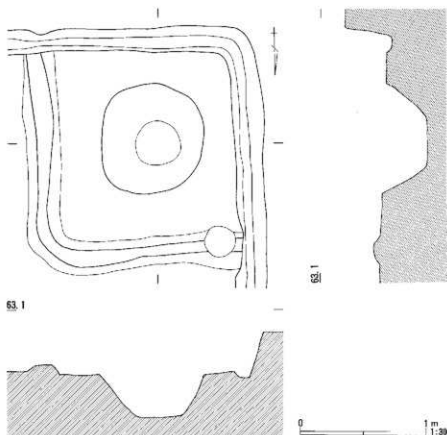


図32 S1-13 貯蔵穴平面および断面

覆土は壁よりの部分で褐色土や暗褐色土などの複雑な堆積が見られる。4層には焼土ブロック・炭化物の混入がみられる。中央部分は白色バミス、ロームブロックなどを含む褐色土と灰褐色土が堆積している。床には貼床を施さず、平坦に削り出した地山面を、そのまま床面としている。全周する明瞭な壁溝を備え、覆土にはロームブロックと暗褐色土ブロックを含む灰褐色土やロームブロックを含む黒褐色土が堆積している。南西隅に貯蔵穴を設けている。平面形はほぼ円形を呈し、底面は平坦に成形されている。炉・竈などの燃焼施設は確認できないが、P2と西壁の間と床中央北寄りに不整形の土坑があり、土坑の上には焼土の集中する範囲が存在する。

なお、南西隅には、「L」字形をなす土手状の遺構が見られる。この土手状遺構は地山層を削り出して形成されているもので、貯蔵穴を区画するようにして、壁溝にまで達している。また、南壁沿いには、壁溝から派生する縦横の小溝があって、床面に方形の区画を形成している。ピットはP1～P5の5基で、このうちP1～P4は支柱穴である。P5は床面の方形区画溝と関係しており、何らかの屋内構造物を支えるための柱穴と考えられる。

規模は一辺9.3m、確認面からの深さ40cmを測る。貯蔵穴は長径80cm、底径35cm、床面からの深さ35cm、ピットの床面からの深さはP1が80cm、P2が70cm、P3が90cm、P4が25cmを測る。

遺物 (図33・34、写真16)

遺物は床面中央部に少なく、南西隅の貯蔵穴から不整形土坑の上にかけて集中し、東壁とP1・P4の中間にも散在している。器種は高坏・埴・鉢・甕があり、坏を含まない。11は大型の埴で、口縁部に稜をもつ。

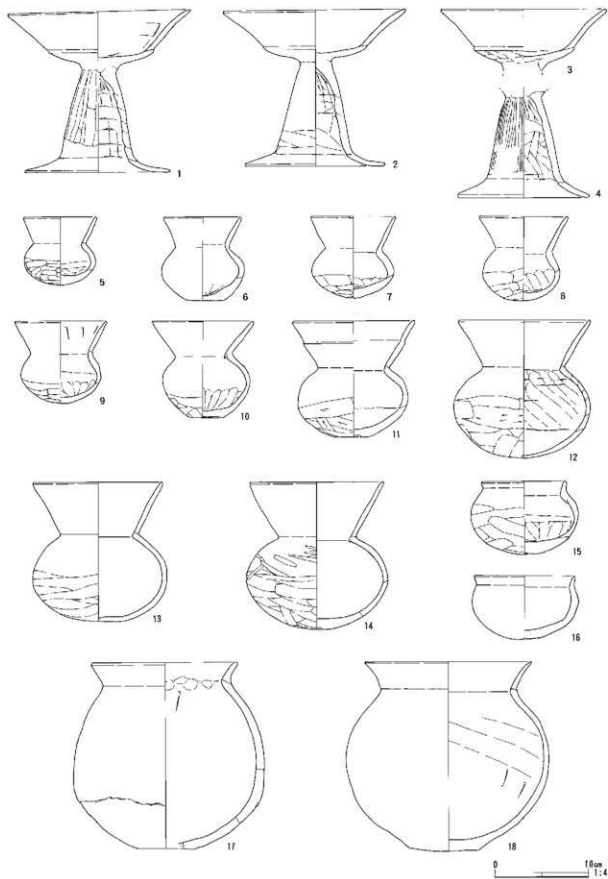


图33 SI-13 出土土器 (1)

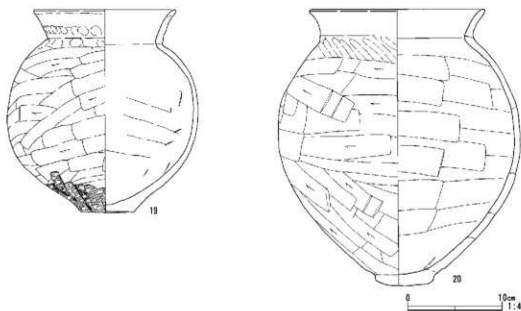


図34 SI-13 出土土器（2）

SI-13 出土土器観察表

No	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土 脚 器 高 杯	口径 19.3 底径 15.3 器高 17.3	脚部は粘土積巻き上げ成形。杯部下位に稜を持ち、口縁部はやや外反して開く。脚部は下方に向かって広がり、裾部は大きく開く。	外面一口縁部ヨコナテ、杯底部ナテ、脚部ヘラケズリ後ナテ。裾部ヨコナテ。内面一坯部ヘラナテ、脚部上位に絞り目、下位ナテ。裾部ヨコナテ。	石英・チャート 内外一明赤褐色	4/5。
2	土 脚 器 高 杯	口径 19.4 底径 14.8 器高 16.7	杯部下位に稜を持ち、口縁部は外反して開く。脚部は下方に向かって広がり、裾部は大きく開く。	外面一口縁部ヨコナテ、杯底部ナテ、脚部ナテ。裾部ヨコナテ。内面一口縁部ヨコナテ、杯底部ナテ、脚部上位に絞り目、中位以下ナテ。裾部ヨコナテ。	石英・白色粒 内外一明赤褐色	一部欠損。
3	土 脚 器 高 杯	口径 17.6 底径 — 器高 —	杯部下位に稜を持ち、口縁部は外反して開く。	外面一口縁部ヨコナテ、杯底部ナテ。内面一口縁部ヨコナテ、杯底部ナテ。	微砂粒・白色粒 内外一褐色	杯部完存。 4と同一個体か。
4	土 脚 器 高 杯	口径 — 底径 14.0 器高 —	脚部は下方に向かって広がり、裾部は大きく開く。	外面一脚部粗いミガキ、裾部ヨコナテ。内面一脚部粗雑なナテで上位に絞り目、裾部ヨコナテ。	微砂粒・白色粒 内外一褐色	脚部は完存。 3と同一個体か。
5	土 脚 器 埴	口径 7.7 底径 — 器高 7.3	丸底。体部はならみを持ち、口縁部はわずかに湾曲して開く。	外面一口縁部ヨコナテ。体部上半部ナテ。下半部～底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナテ。体部～底部指ナテ。	白色粒・赤褐色粒 内外一褐色 外一に白い褐色	ほぼ完形。
6	土 脚 器 埴	口径 8.2 底径 4.0 器高 8.8	体部はならみを持ち、口縁部は直線的に開く。	外面一摩滅のため調整不明瞭。内面一口縁部は摩滅のため調整不明瞭。体部上位ナテ。下位～底部ヘラナテ。	石英・白色粒 内外一褐色	一部欠損。
7	土 脚 器 埴	口径 8.9 底径 — 器高 8.7	丸底。体部はならみを持ち、口縁部はわずかに湾曲して開く。	外面一口縁部ヨコナテ。体部上半部ナテ。下半部～底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナテ。体部～底部指ナテ。	石英・チャート 内外一明赤褐色	ほぼ完形。
8	土 脚 器 埴	口径 9.4 底径 — 器高 9.0	丸底。体部はならみを持ち、口縁部は外反気味に開く。	外面一口縁部ヨコナテ。体部上半部ナテ。下半部～底部ヘラケズリ後ナテ。内面一口縁部ヨコナテ。体部～底部指ナテ。	石英・チャート 内外一褐色	一部欠損。
9	土 脚 器 埴	口径 9.7 底径 — 器高 9.7	丸底。体部はならみを持ち、口縁部は直線的に開く。	外面一口縁部ヨコナテ。体部上位ナテ。下位～底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヘラナテ。体部～底部指ナテ。	石英・白色粒 内外一明赤褐色	完形。

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
10	土器 壺	口径 10.7 底径 3.7 器高 10.3	体部は膨らみを持ち、口縁部はわずかに湾曲して開く。	外面一口縁部ヨコナテ、体部上位へ中位ナテ。下位・底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナテ、体部へ底部指ナテ。	石英・白色粒 内外一明赤褐色	完形。
11	土器 壺	口径 13.0 底径 3.5 器高 12.3	平底で中央部が窪む。体部は膨らみを持つ。口縁部は中央部に段を持ち、上位は外反して開く。	外面一口縁部ヨコナテ、体部上半部ナテ。下半部へ底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナテ、体部へ底部ナテ。	石英・白色粒 内外一褐色	完形。
12	土器 壺	口径 13.9 底径 - 器高 14.6	粘土紐積み上げ成形。丸底。体部は膨らみを持つ。口縁部は外反気味に開き、上部部はわずかに内湾する。	外面一口縁部ヨコナテ、体部上位ナテ。中位へ底部ヘラケズリ後ナテ。内面一口縁部ヨコナテ、体部へ底部ナテ・指ナテ。	石英・白色粒 内外一褐色	3/4。
13	土器 壺	口径 13.7 底径 - 器高 14.7	丸底。体部は膨らみを持ち、口縁部は外反気味に開く。	外面一口縁部ヨコナテ、体部上半部ナテ。下半部へ底部ヘラケズリ後ナテ。内面一口縁部ヨコナテ、体部へ底部ナテ。	白色粒・黒色粒 内外一明赤褐色	ほぼ完形。
14	土器 壺	口径 14.3 底径 1.7 器高 15.6	小さな上げ底。体部は膨らみを持ち、口縁部はわずかに湾曲して開く。	外面一口縁部ヨコナテ、体部上半部ナテ・粗いミガキ、下半部ヘラケズリ後ナテ。内面一口縁部ヨコナテ、体部へ底部ナテ。	石英・白色粒 内外一明赤褐色	ほぼ完形。
15	土器 鉢	口径 9.0 底径 1.0 器高 7.7	底部に小さな平底をつくる。体部は湾曲して立ち上がり、口縁部は短く外傾する。	外面一口縁部ヨコナテ、体部上位ナテ。中位以下ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナテ、体部へ底部指ナテ。	石英・チャート 内一褐色 外一ぶい褐色	完形。
16	土器 鉢	口径 10.7 底径 - 器高 6.7	丸底。体部は湾曲して立ち上がり、口縁部は短く外反気味に開く。	外面一摩滅のため調整不明瞭。内面一摩滅するが体部へ底部はナテ。	石英・チャート 内一灰黄褐色 外一褐色	一部欠損。
17	土器 甕	口径 15.5 底径 (6.2) 器高 19.7	胴部は下位に膨らみを持ち、口縁部は外反気味に開く。	外面一口縁部ヨコナテ、胴部は摩滅のため調整不明瞭。内面一口縁部ヨコナテ、頸部に指頸圧痕、胴部ナテ。	石英・チャート 内一ぶい褐色 外一褐色	3/4。
18	土器 甕	口径 17.6 底径 7.6 器高 20.2	胴部は中位に膨らみを持ち、口縁部は外反して開く。	外面一摩滅のため調整不明瞭。内面一口縁部は摩滅、胴部へ底部ヘラナテ。	石英・チャート 内外一ぶい褐色	一部欠損。
19	土器 甕	口径 15.0 底径 5.5 器高 21.5	胴部は中位に膨らみを持ち、口縁部は外反気味に開く。	外面一口縁部上位ヨコナテ、下位指頸圧痕、胴部ヘラケズリ後ナテで下位は木口状工具ナテ。内面一口縁部ヨコナテ、胴部へ底部ヘラナテ。	石英・チャート 内外一明赤褐色	一部欠損。
20	土器 甕	口径 18.5 底径 6.1 器高 29.1	粘土紐積み上げ成形。胴部は中位に膨らみを持ち、口縁部は外反して開く。	外面一口縁部ヨコナテ、胴部はヘラケズリだがやや摩滅する。内面一口縁部ヨコナテ、胴部へ底部ヘラナテ。	石英・白色粒 内外一反褐色	ほぼ完形。 胴部上半部に煤付着。

SI-14

遺構 (図35～37、写真1)

I-9・10、J-9・10グリッドに位置する。平面形は正方形を呈し、主軸方位はN-25°-Wを示す。

覆土は2層に大別され、下層にロームブロックを多量に含む黄褐色土、上層に白色バミスを含む褐色土が堆積している。壁寄りにはロームブロックを含む暗褐色土がみられ、6層は焼土ブロックを多量に含んでいる。床には貼床を施さず、平坦に削り出した地山面を、そのまま床面としている。全周する明瞭な壁溝を備え、覆土にはロームブロックと暗褐色土ブロックを含む灰褐色土やロームブロックを含む黒褐色土が堆積している。南隅に貯蔵穴を設けている。平面形はほぼ円形を呈し、底面は平坦に成形されている。炉・竈などの燃焼施設は確認できない。ピットはP1～P4の4基で、いずれも主柱穴と判断される。

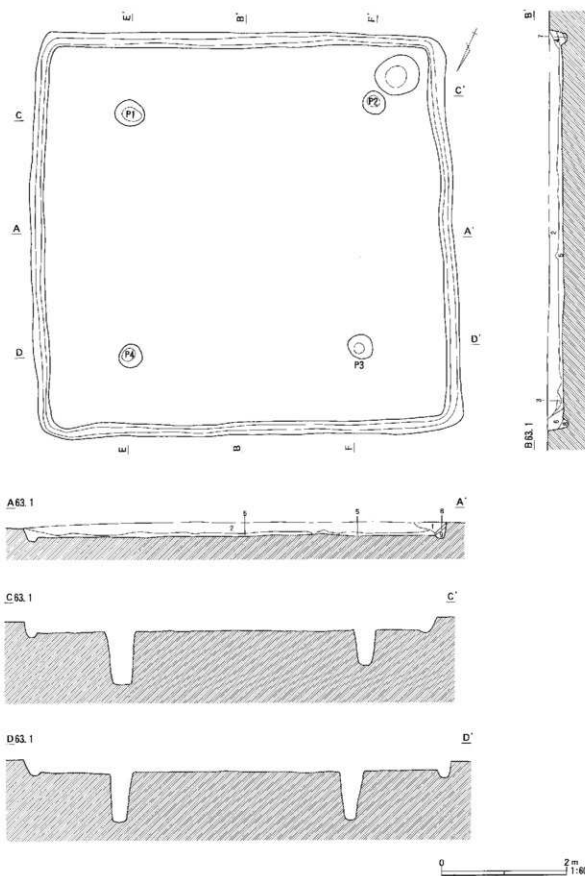
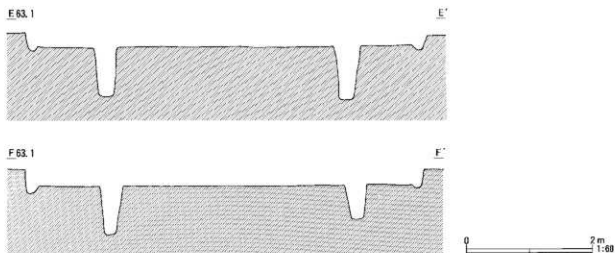


図35 SI-14 平面および断面 (1)



SI-14 土層説明

- | | | | |
|--------|----------------|--------|------------------------|
| 1 暗褐色土 | 焼土ブロックを多量に含む。 | 6 褐色土 | 焼土ブロックを多量に含む。 |
| 2 褐色土 | 白色パミスを少量含む。 | 7 暗褐色土 | ロームブロックを多量に含み、焼土を少量含む。 |
| 3 暗褐色土 | ロームブロックを少量含む。 | 8 褐色土 | ロームブロックを少量含む。 |
| 4 暗褐色土 | | 9 黄褐色土 | 風化ロームを主体とする。しまり弱。 |
| 5 黄褐色土 | ロームブロックを多量に含む。 | | |

図36 SI-14 断面（2）

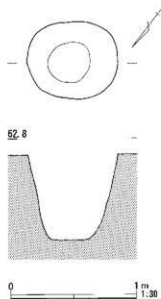


図37 SI-14 貯蔵穴平面および断面

規模は一辺6.7m、確認面からの深さ20cmを測る。貯蔵穴は長径70、底径35、床面からの深さ70cm、ビットの床面からの深さはP1が80cm、P2が55cm、P3が75cm、P4が80cmを測る。

遺物（図38・39、写真17・18）

遺物は床面中央部を中心に高坏・埴・鉢・甕などを出土している。9・10の甕には内面位ハケ調整が残る。12の甕には胴部中位に円形の焼成後穿孔がみられる。

SI-14 出土土器観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土器 高坏	口径 18.6 底径 (14.0) 器高 15.9	外部下位に弱い稜を持ち、口縁部は外反気味に開く。脚部は下方に向かって広がり、基部は大きく開く。	外面一口縁部ココナデ、下位ヘラナデ、环底部ナデ、脚部弱いミガキ、裾部ココナデ。内面一口縁部ココナデ、环底部ナデ、脚部ナデで上位に絞目、裾部ココナデ。	石英・白色粒 内～褐色 外～明赤褐色	3/4。

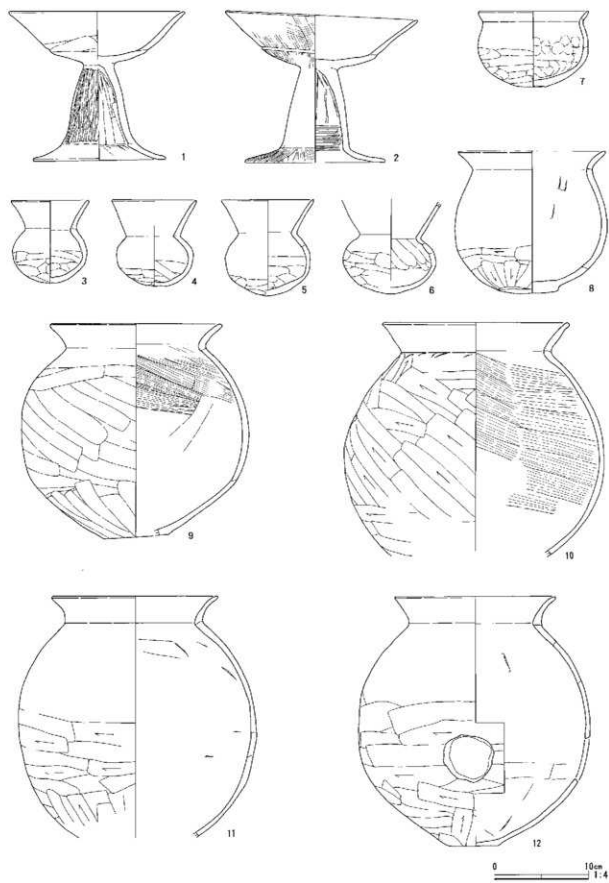


图38 SI-14 出土土器 (1)

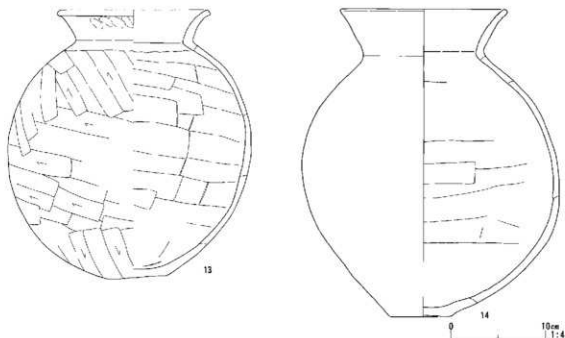


図39 S1-14 出土土器（2）

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
2	土器 高 罎	口径 20.5 底径 14.8 器高 16.1	胴部下位に弱い稜を持ち、口縁部は平や外反して開く。頸部は下方に向かって広がりが、裾部は大きく開く。	外面一胴部は厚減するがハケ目の痕跡、頸部ナデ、裾部ハケ目。内面一口縁部は厚減のため調整不明瞭、頸部絞り目で下位にハケ目、裾部ヨコナデ。	チャート・白色粒 内一橙色 外一明赤褐色	4/5。
3	土器 罎	口径 8.2 底径 - 器高 8.8	丸底。体部は膨らみを持ち、口縁部は平や外反して開く。	外面一口縁部ヨコナデ、体部上半部ナデ、下位～底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部～底部指ナデ。	石英・白色粒 内外一ぶい黄褐色	4/5。
4	土器 罎	口径 9.0 底径 2.5 器高 9.2	体部は膨らみを持ち、口縁部は外反気味に開く。	外面一口縁部～体部中位は厚減のため調整不明瞭、体部下位ヘラケズリ。内面一口縁部厚減、体部～底部指ナデ。	チャート・白色粒 内外一橙色	完形。
5	土器 罎	口径 9.8 底径 - 器高 10.2	丸底。体部は膨らみを持ち、口縁部は外反気味に開く。	外面一口縁部～体部中位ナデ、体部下位～底部ヘラケズリ後ナデ。内面一口縁部ナデ、体部～底部指ナデ。	チャート・角四石 内一明赤褐色 外一橙色	4/5。
6	土器 罎	口径 - 底径 - 器高 -	体部は膨らみを持ち、口縁部はわずかに湾曲して開く。	外面一口縁部ヨコナデ、体部上位ナデ、中位以下ヘラケズリ後ナデ。内面一口縁部ヨコナデ、体部上半部指ナデ、下半部ナデ。	石英・チャート 内一ぶい赤褐色 外一ぶい橙色	2/3。
7	土器 鉢	口径 11.6 底径 2.7 器高 8.0	体部は湾曲して立ち上がり、口縁部は短く湾曲気味に開く。	外面一口縁部ナデ、体部上位ナデ、中位以下ヘラケズリ後ナデ。内面一口縁部ナデ、体部～底部指ナデで中位に指頭圧痕。	石英・チャート 内一ぶい褐色 外一橙色	2/3。
8	土器 小型 甕	口径 15.5 底径 6.3 器高 15.0	胴部は中位に膨らみを持ち、口縁部は外反気味に開く。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上～中位ナデ、下位～底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部上半部ヘラナデ、下半部～底部ナデ。	チャート・白色粒 内一明赤褐色	5/6。
9	土器 甕	口径 18.2 底径 6.9 器高 22.8	胴部は中位が大きく膨らむ。口縁部は外反気味に開く。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後ナデ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部上～中位は木口状工具による強いナデ、下位～底部ナデ。	チャート・黒色粒 内一ぶい黄褐色 外一ぶい黄褐色	4/5。

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
10	土 師 器 甕	口径 19.8 底径 ー 器高 ー	胴部は中位が大きく膨らむ。口縁部は外反気味に開く。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ。胴部は木口状工具による強いナデ。	チャート・白色粒 内一にぶい黄褐色 外一明赤褐色	3/4。
11	土 師 器 甕	口径 17.5 底径 ー 器高 ー	胴部は中位に膨らみを持ち、口縁部は外反して開く。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上半部ナデ。下半部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	石英・白色粒 内一にぶい黄褐色 外一褐色	3/4。
12	土 師 器 甕	口径 17.0 底径 5.5 器高 26.5	胴部は中位に膨らみを持ち、口縁部は外反して開く。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位ナデ、中～下位ヘラケズリ、底部ナデ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部～底部ヘラナデ。	石英・チャート 内一にぶい黄褐色 外一褐色	一部欠損。 胴部に焼成後 穿孔(孔径 4.9×5.3cm)。
13	土 師 器 壺	口径 16.2 底径 5.9 器高 28.4	胴部は中位に膨らみを持ち、口縁部は外反して開く。	外面一口縁部ヨコナデ、一部に指頭圧痕、胴部～底部ヘラケズリ後に胴部上位ナデ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部～底部ヘラナデ。	石英・チャート 内外一にぶい黄褐色	2/3。
14	土 師 器 壺	口径 17.7 底径 6.5 器高 32.5	胴部は中位に膨らみを持ち、口縁部は外反気味に開く。	外面一摩滅のため調整不明瞭。内面一口縁部は摩滅、胴部～底部ヘラナデ。	チャート・白色粒 内一明赤褐色 外一褐色	3/5。

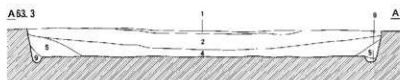
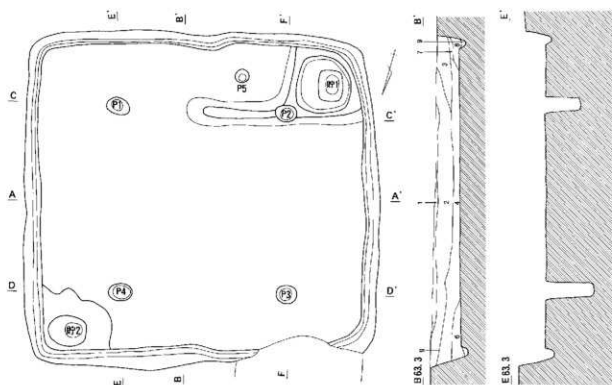
SI-15

遺構 (図40・41、写真2)

N-8 グリッドに位置する。平面形はやや歪んだ正方形を呈し、主軸方位はN-15°-W を示す。北西隅寄りの一部を攪乱により失っている。

覆土は9層に分かれ、中央部分では下層にロームブロックを含む褐色土、中層にロームブロックを含む暗褐色土、上層にロームブロックを多量を含む褐色土が堆積している。壁よりもほぼ同様の覆土がみられるが、6・7層は焼土ブロックを含んでいる。床には貼床を施さず、平坦に削り出した地山面を、そのまま床面としているが、南西隅のP2の外側は一段高く掘り残している。またP2からP1に向かって、南西隅の地山掘り残り部分から連続して、土手状の遺構が延びている。これに対し、北東隅の床面は柱穴付近から壁にかけて地山面を掘り込んで、緩やかな傾斜面を形成している。壁沿いには全周する明瞭な壁溝を備え、覆土に風化ロームを主体に、暗褐色土ブロックを含んだ黄褐色土が堆積している。南西隅と北東隅にはそれぞれ貯蔵穴を設けている。南西隅の貯蔵穴は、高く掘り残された面から掘削し、途中でいったん平坦面を形成したのち、ふたたび深く掘り込んでいる。平面形は上段が不整形円形、下段が隅丸方形を呈し、底面は平坦に成形されている。北東隅の貯蔵穴は地山面を掘り込んだ緩やかな傾斜面の内側にあって、平面形はほぼ円形を呈し、底面は南西隅の貯蔵穴と同じく平坦に成形されている。炉・竈などの燃焼施設は確認できない。ピットはP1～P5の5基で、このうちP1～P4は主柱穴である。P5は南壁と土手状遺構の中間の床面にあり、屋内構造物に関係する柱穴と考えられる。

規模は一辺5.3m、確認面からの深さ45cmを測る。貯蔵穴は1が長径90cm、底径30cm、床面からの深さ60cm、2が長径60cm、底径35cm、床面からの深さ30cm、ピットの床面からの深さはP1が55cm、P2が60cm、P3が65cm、P4が70cmを測る。



SI-15 土層説明

- 1 褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロックを少量含む。
- 3 褐色土 ロームブロックを少量含む。
- 4 褐色土 ロームブロックを多量に含む、白色バミスを少量含む。
- 5 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 6 褐色土 ロームブロックを多量に含む、焼土ブロックを少量含む。
- 7 褐色土 ロームブロック、焼土ブロックを多量に含む。
- 8 黒褐色土 ロームブロックを少量含む。
- 9 黄褐色土 風化ロームを主体とし、暗褐色土ブロックを少量含む。

0 2m
1:60

図40 SI-15 平面および断面

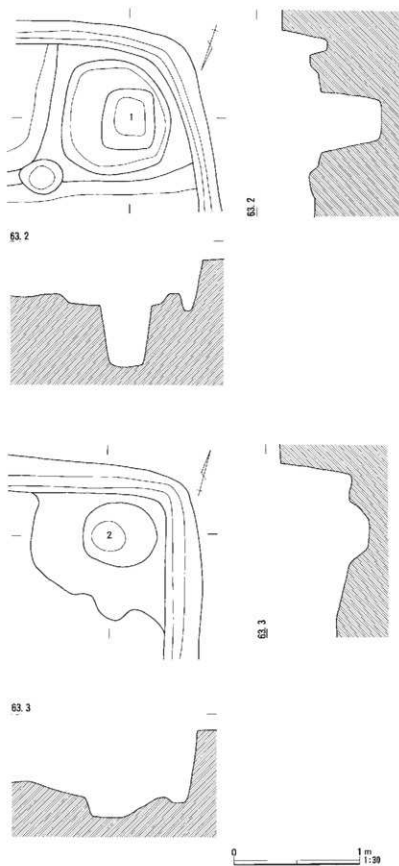


図41 SI-15 貯蔵穴平面および断面

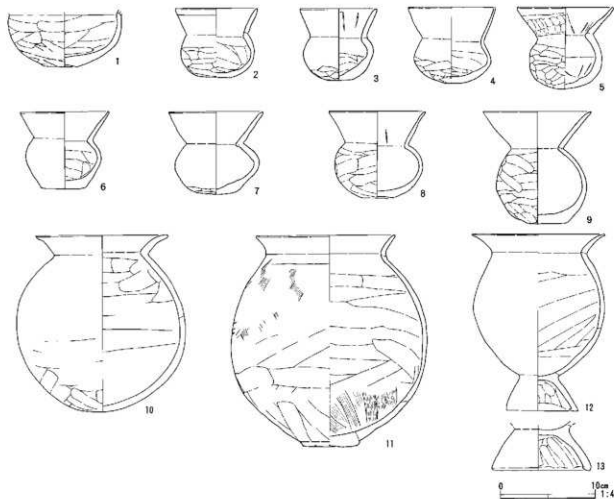


図42 SI-15 出土土器

遺物 (図42、写真18)

遺物は床面中央部を中心に坏・埴・甕・台付甕などを出土している。埴には平底で胴部が算盤玉状を呈するものや、長胴気味のものなどやや変形した個体が含まれる。台付甕は外面ナダ調整による小型品である。

SI-15 出土土器観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土器 坏	口径 — 底径 3.5 器高 —	上げ底。体部は湾曲して立ち上がる。	外面一体部ヘラケズリ後ナダ、底部ナダ。内面一体部ヘラナダ、底部ナダ。	微砂粒・白色粒 内—にふい橙色 外—にふい黄橙色	口縁部欠損。
2	土器 埴	口径 (8.6) 底径 2.6 器高 7.3	体部は膨らみを持ち、口縁部はわずかに湾曲して開く。	外面—口縁部ヨコナダで上位に横線、体部上位ナダ、中～下位ヘラケズリ、底部ナダ。内面—口縁部ヨコナダ、体部～底部指ナダ。	石英・チャート 内—明赤褐色 外—にふい赤褐色	3/4。
3	土器 埴	口径 8.2 底径 — 器高 7.6	体部は膨らみを持ち、口縁部は直線的に開く。	外面—口縁部ヨコナダ、体部上～中位ナダ、下位～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヘラナダ、体部～底部指ナダ。	石英・白色粒 内—明赤褐色 外—橙色	ほぼ完形。
4	土器 埴	口径 9.2 底径 1.4 器高 8.1	小さな平底。体部は膨らみを持ち、口縁部はやや湾曲して開く。	外面—口縁部上半部ヨコナダ、下半部ナダ、体部上半部ナダ、下半部ヘラケズリ、底部ナダ。内面—口縁部ナダ、体部～底部指ナダ。	微砂粒・白色粒 内外—明赤褐色	完形。

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備 考
5	土 師 器 埴	口径 10.2 底径 ー 器高 8.6	丸底。体部は膨らみを持ち、口縁部はやや湾曲して開く。	外面－口縁部ナナ・指頭圧痕。体部上位ナナ。中位以下ヘラケズリ。内面－口縁部ヘラナナ。体部上半部ナナ。下半部～底部ヘラナナ。	石英・白色粒 内外－明赤褐色	完形。
6	土 師 器 埴	口径 9.3 底径 4.7 器高 8.2	体部は膨らみを持ち、口縁部はわずかに湾曲して開く。	外面－口縁部ヨコナナ。体部ナナ。底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナナ。体部～底部指ナナ。	石英・白色粒 内外－褐色	ほぼ完形。
7	土 師 器 埴	口径(10.0) 底径 ー 器高 8.7	丸底。体部は横方向に張り、口縁部はやや湾曲して開く。	外面－口縁部ヨコナナ。体部ナナ。底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナナ。体部～底部ナナ。	チャート・白色粒 内外－明赤褐色	3/4。
8	土 師 器 埴	口径 10.2 底径 3.0 器高 9.2	底部はやや上げ底。体部は膨らみを持ち、口縁部は外反気味に開く。	外面－口縁部ヨコナナ。体部ヘラケズリ後ナナ。底部ナナ。内面－口縁部ヘラナナ。体部～底部ナナ。	微砂粒・チャート 内外－明赤褐色	一部欠損。
9	土 師 器 埴	口径(11.4) 底径 4.2 器高 11.9	体部は膨らみを持ち、口縁部はわずかに湾曲して開く。	外面－口縁部ヨコナナ。体部ヘラケズリ後ナナ。底部ナナ。内面－口縁部ヨコナナ。体部～底部指ナナ。	石英・チャート 内外－褐色	4/5。
10	土 師 器 甕	口径 14.0 底径 ー 器高 18.7	丸底。胴部は中位が丸く膨らみ、口縁部は外反して開く。	外面－口縁部ヨコナナ。胴部～底部ヘラケズリ後ナナ。内面－口縁部ヨコナナ。胴部～底部ヘラナナ。	石英・チャート 内～にふい黄褐色 外～にふい褐色	3/5。
11	土 師 器 甕	口径 14.9 底径 5.9 器高 22.4	胴部は中位に膨らみを持ち、口縁部は外反気味に開く。	外面－口縁部ヨコナナ。胴部はヘラケズリ後ナナで上半部は木工口具ナナ。内面－口縁部ヨコナナ。胴部上～中位ヘラナナ。下位～底部木工口具ナナ。	石英・チャート 内－褐灰色 外－灰黄褐色	2/3。
12	土 師 器 台付甕	口径 14.0 底径 7.5 器高 18.7	胴部は中位に膨らみを持ち、口縁部は外反して開く。台部は「ハ」の字状に開き、下端内側に粘土がはみ出るのが未調整。	外面－口縁部ナナ。胴部～台部は摩滅するがヘラケズリ後ナナ。内面－口縁部ヨコナナ。胴部ヘラナナ。台部包ナナ・指頭圧痕。	石英・チャート 内－黄褐色 外～にふい黄褐色	4/5。
13	土 師 器 台付甕	口径 ー 底径 10.5 器高 ー	湾曲して開く台部。下端内側に粘土がはみ出るのが未調整。	外面－台部ナナ。内面－台部指ナナ。	チャート・白色粒 内～にふい褐色 外～にふい黄褐色	台部完存。

SI-16

遺構 (図43～45、写真2)

M-10・11、N-10グリッドに位置する。平面形は正方形を呈し、主軸方位はN-25°-Wを示す。東西に斜行して走る2本の溝状の攪乱によって一部を失っている。

覆土は6層に分かれ、中央部分では下層にロームブロックを多量に含む暗褐色土と黒褐色土、中層にロームブロックを含む暗褐色土、上層に白色バミスを含む暗褐色土が堆積している。壁よりにはロームブロックを多量に含む褐色土がみられる。床には貼床を施さず、平坦に削り出した地山面を、そのまま床面としている。全周する明瞭な壁溝を備え、覆土には風化ロームを主体に、暗褐色土ブロックを含んだ黄褐色土が堆積している。南隅に貯蔵穴を設けている。平面形はほぼ小判形を呈し、底面は平坦に成形されている。炉・竈などの燃焼施設は確認できない。ピットはP1～P3の3基で、いずれも主柱穴と判断される。

なお、南東壁から中央に向かって直線的な土手状の遺構が2条延びている。この土手状遺構は地山層を削り出して形成されているもので、南西寄りの1条は貯蔵穴を区画するようにして、P1の手前まで延伸している。

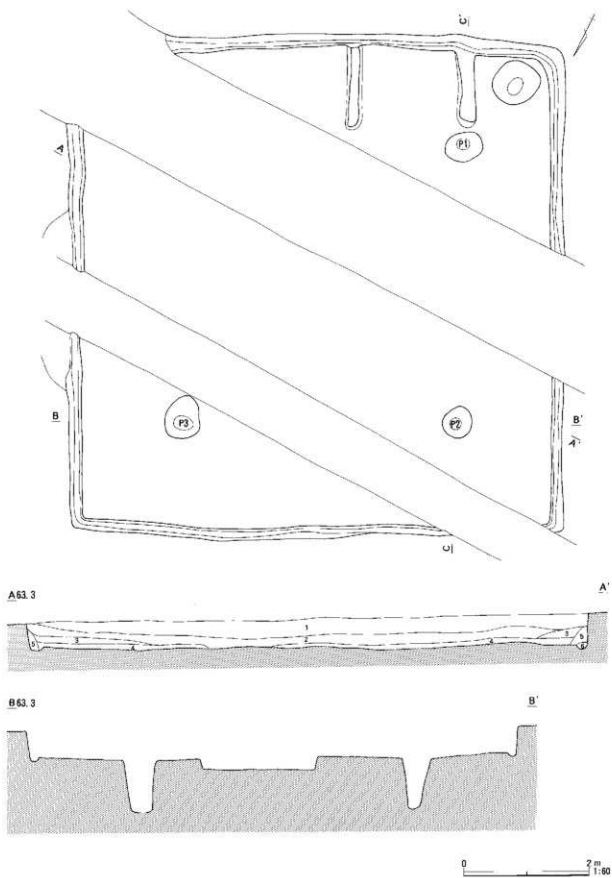
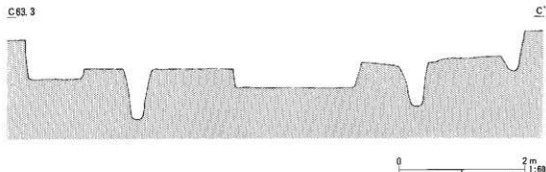


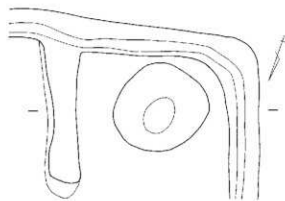
図43 SI-16 平面および断面 (1)



SI-16 土層説明

- | | | | |
|--------|----------------|--------|---------------------------|
| 1 黒褐色土 | 白色バミスを少量含む。 | 4 暗褐色土 | ロームブロックを多量に含む。 |
| 2 黒褐色土 | ロームブロックを少量含む。 | 5 褐色土 | ロームブロックを多量に含む。 |
| 3 黒褐色土 | ロームブロックを多量に含む。 | 6 黄褐色土 | 風化ロームを主体とし、暗褐色土ブロックを少量含む。 |

図44 SI-16 断面 (2)



規模は一辺8.0m、確認面からの深さ50cmを測る。貯蔵穴は長径75cm、底径25cm、床面からの深さ55cmを測り、ピットの床面からの深さはP1が70cm、P2が80cm、P3が80cmを測る。

遺物 (図46、写真19)

遺物は床面中央部を中心に坏・高坏・塔・鉢などを出土している。甕・甕などの煮沸形態は小片を検出したのみで、本住居跡に伴う個体は見当たらない。

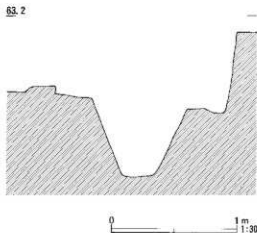


図45 SI-16 貯蔵穴平面および断面

SI-16 出土土器観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土 脚 器 坏	口径 13.2 底径 — 器高 5.0	丸底。口縁部は体部との境にわずかな稜を持ち、両曲して立ち上がる。	外面一口縁部ナデ、体部～底部ヘラケズリ後ナデ。内面一口縁部ナデ、体部～底部粗いミガキ。	石英・チャート 内—明赤褐色 外—褐色	3/4。
2	土 脚 器 坏	口径 12.0 底径 6.0 器高 6.2	底部は中央部が窪む。体部は両曲して立ち上がり、口縁部は短く外反気味に開く。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ。底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	粗粒チャート 内外—褐色	ほぼ完形。

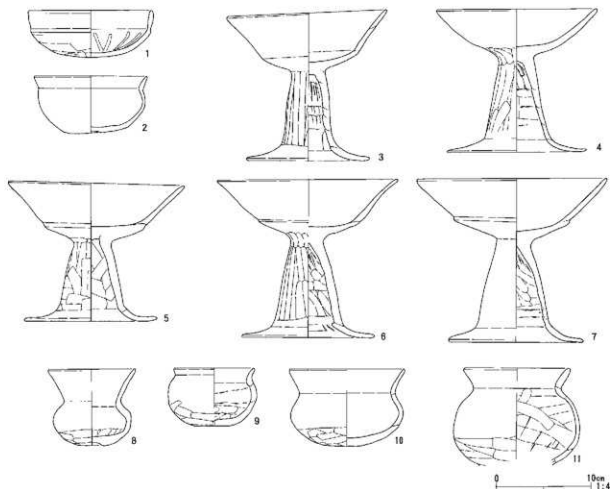


図46 SI-16 出土土器

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
3	土器 高 碗	口径 17.0 底径 13.0 器高 16.1	脚部は粘土縋巻き上げ成形。坏部下にわずかな稜を持ち、口縁部はやや外反して開く。脚部は下方に向かってわずかに広がり、裾部は大きく開く。	外面—口縁部ヨコナテ、坏底部ナテ、脚部ヘラケズリ後ナテ、裾部ヨコナテ。内面—口縁部ヨコナテ、坏底部ヘラナテ、脚部絞り目で下位はヘラケズリ、裾部ヨコナテ。	石英・白色粒 内—明赤褐色 外—褐色	一部欠損。
4	土器 高 碗	口径 17.0 底径 15.8 器高 15.1	坏部下位に明瞭な稜を持たず、口縁部は湾曲して開く。脚部は下方に向かって広がり、裾部は大きく開く。	外面—坏部は厚減のため調整不明瞭、脚部ヘラケズリ後ナテ、裾部厚減。内面—坏部厚減、脚部上位に絞り目、中位以下ヘラケズリ、裾部厚減。	石英・白色粒 内外—明赤褐色	一部欠損。
5	土器 高 碗	口径 18.6 底径 14.0 器高 14.9	坏部下位に稜を持ち、口縁部は外反気味に開く。脚部は下方に向かって広がり、裾部は大きく開く。	外面—坏部ナテ、脚部ヘラケズリ後ナテ、裾部ナテ。内面—坏部ナテ、脚部ヘラケズリ、裾部ヨコナテ。	チャート・白色粒 内外—明赤褐色	ほぼ完形。
6	土器 高 碗	口径 19.2 底径 14.0 器高 16.8	坏部下位に鋭い稜を持ち、湾曲気味に立ち上がった後、口縁部はやや外反して開く。脚部は下方に向かって広がり、裾部は大きく開く。	外面—口縁部ヨコナテ、坏底部ナテ、脚部ヘラケズリ後ナテ、裾部ナテ。内面—口縁部ヨコナテ、坏底部ナテ、脚部上位に絞り目、中位以下指ナテ、裾部ナテ。	石英・チャート 内外—明赤褐色	4/5。
7	土器 高 碗	口径 20.1 底径 14.2 器高 17.5	坏部下位に稜を持ち、口縁部は湾曲気味に開く。脚部は下方に向かって広がり、裾部は大きく開く。	外面—口縁部ヨコナテ、坏底部ナテ、脚部ナテ、裾部ヨコナテ。内面—口縁部ヨコナテ、坏底部ナテ、脚部上位に絞り目、中位以下指ナテ、裾部ヨコナテ。	チャート・白色粒 内—明赤褐色 外—褐色	一部欠損。

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
8	土師器 埴 器	口径 9.2 底径 2.3 器高 8.1	上げ底。体部は膨らみを持ち、口縁部は外反気味に開く。	外面一口縁部ヨコナデ、体部上～中位ナデ、下位ヘラケズリ。内面一口縁部ナデ、体部～底部指ナデ。	石英・白色粒 内～明赤褐色 外～明赤褐色	ほぼ完形。
9	土師器 鉢	口径 8.6 底径 3.3 器高 6.1	体部は湾曲して立ち上がり、口縁部は短く外反気味に開く。	外面一口縁部ヨコナデ、体部上～中位ナデ、下位ヘラケズリ。内面一口縁部ナデ、体部～底部指ナデ。	石英・チャート 内外～褐色	ほぼ完形。
10	土師器 鉢	口径 12.3 底径 — 器高 8.2	丸底。体部は横方向に張り、口縁部は外反気味に開く。	外面一口縁部ヨコナデ、体部上～中位ナデ、下位～底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	チャート・白色粒 内～明赤褐色 外～褐色	ほぼ完形。
11	土師器 鉢	口径 11.3 底径 — 器高 —	体部は膨らみを持ち、口縁部は直線的に開く。	外面一口縁部ヨコナデ。体部上半部ナデ、下半部ヘラケズリ。内面一口縁部ナデ、頸部指ナデ、体部～底部ヘラナデ。	チャート・白色粒 内～明赤褐色 外～褐色	2/3。

SI-17

遺構 (図47～50、写真2)

Q-4・5、R-4・5に位置する。平面形は正方形を呈し、主軸方位はN-50°-Eを示す。

覆土は9層に分かれ、中央部分では下層にロームブロックを含む暗褐色土、上層にロームブロックを多量に含む褐色土が堆積している。壁よりにはロームブロックを含む褐色土、灰褐色土、黄褐色土などがみられ、4層には焼土ブロックが混入している。床には貼土を施さず、平坦に削り出した地山面を、そのまま床面としている。東隅周辺を除き、各壁際に壁溝を備える。覆土にはロームブロックを含む褐色土、暗褐色土が堆積し、一部には礫を含んでいる。東隅に貯蔵穴を設けている。平面形はほぼ楕円形を呈し、底面は平坦に成形されている。北東壁にカマドを備えている。地山削り出しによる袖部を有し、燃焼部は壁内にあって、狭長な煙道部が壁外に延びている。煙道部の先端には小さなピットをもっている。屋内のピットはP1～P4の4基で、いずれも支柱穴と判断される。

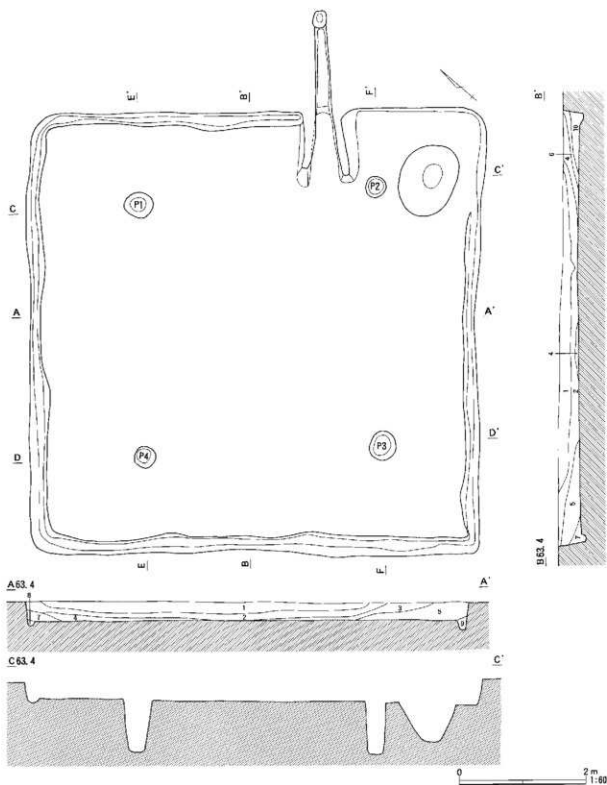
規模は一辺7.0m、確認面からの深さ30cmを測る。貯蔵穴は長径115cm、底径44cm、床面からの深さ60cmを測り、ピットの床面からの深さはP1からP4までいずれも80cmを測る。

遺物 (図51、写真19)

遺物は床面からやや浮いた状態で坏・甕・甔を出土しているが、全体の出土量はさほど多くない。3の甔には外面に粗いハケ調整が施されている。

SI-17 出土土器観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 坏	口径 (12.3) 底径 — 器高 (5.0)	丸底と推定される。口縁部は体部との境にわずかな稜を持ち、湾曲して立ち上がる。	外面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部ヨコナデ、底部ヘラナデ。	石英・チャート 内外～明赤褐色	1/2。
2	土師器 甕	口径 (21.6) 底径 6.3 器高 32.5	上げ底。胴部は中位に膨らみを持つ。口縁部は湾曲気味に立ち上がり、上端部が内屈する。	外面一口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ後に上～中位を中心にしたナデ。内面一口縁部～胴部上半部ナデ、胴部下半部ヘラケズリ、底部ナデ。	チャート・白色粒 内外～褐色	1/2。 外面胴部下位に煤付着。
3	土師器 甔	口径 22.1 底径 8.1 器高 30.9	胴部は中位に膨らみを持ち、口縁部は外反して開く。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目以下側はヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部強いヘラナデで下端にハケ目。	チャート・白色粒 内外～明赤褐色	一部欠損。



SI-17 土層説明

- | | | | |
|--------|----------------------|---------|------------------------|
| 1 褐色土 | ロームブロックを多量に含む。 | 6 黄褐色土 | 焼土ブロック、暗褐色土ブロックを多量に含む。 |
| 2 暗褐色土 | ロームブロックを少量含む。 | 7 褐色土 | ロームブロックを少量含む。 |
| 3 灰褐色土 | ロームブロックを少量含む。 | 8 褐色土 | ロームブロックを多量に含む。 |
| 4 褐色土 | ロームブロック、焼土ブロックを少量含む。 | 9 暗褐色土 | ロームブロック、大豆大の礫を少量含む。 |
| 5 黄褐色土 | ロームブロックを多量に含む。 | 10 暗褐色土 | ロームブロック、炭化物ブロックを少量含む。 |

図47 SI-17 平面および断面（1）

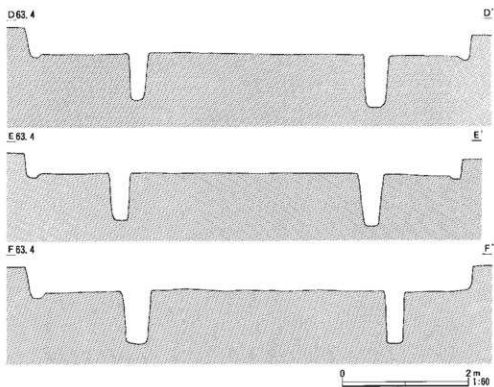
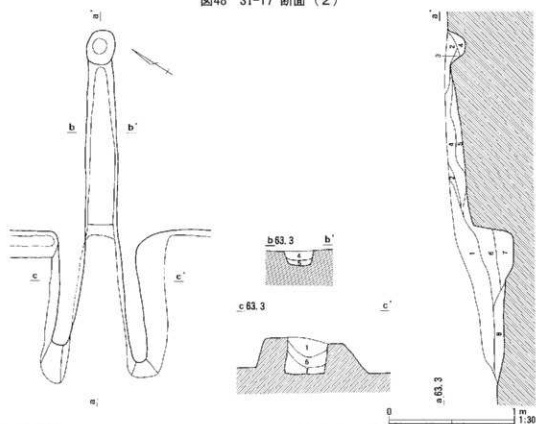


図48 SI-17 断面 (2)



SI-17 カマド土層説明

- 1 褐色土 焼土ブロックを少量含む。
- 2 褐色土 焼土ブロックを多量に含む。
- 3 暗褐色土 焼土ブロックを少量含む。
- 4 暗褐色土 焼土ブロックを少量含む。

- 5 暗赤褐色土 暗褐色土ブロックを多量に含む。
- 6 暗赤褐色土 褐色土ブロックを少量含む。
- 7 暗褐色土 ロームブロックを少量含む。
- 8 暗褐色土 ロームブロック、焼土ブロックを斑状に含む。

図49 SI-17 カマド平面および断面

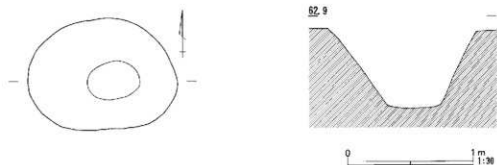


図50 SI-17 貯蔵穴平面および断面

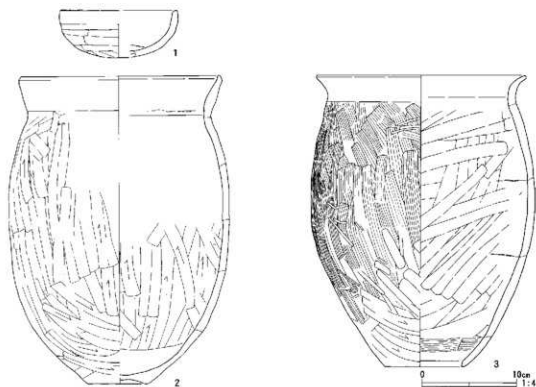


図51 SI-17 出土土器

SI-18

遺構 (図52～55、写真2)

P-3・4、Q-3・4グリッドに位置する。平面形は北東-南西方向に長方形を呈し、主軸方位はN-65°-Eを示す。北壁寄りの床面を攪乱により大きく失っているほか、小規模な攪乱が各所に存在する。

覆土は2層に分かれ、下層にロームブロック、焼土ブロックを含む暗褐色土、上層にロームブロックを多量に含む褐色土が堆積している。北壁寄りの床上には暗褐色土を竊状に含む褐色土の堆積を認める。床には多量のロームブロックを少量の焼土ブロックを含む黄褐色土を全面に敷いて貼床を形成し、床面は硬くしまっている。壁溝は存在しない。南東隅に貯蔵穴を設けている。一部を攪乱により欠失しているものの、平面形は楕円を呈し、底面は平坦に成形されている。北東壁には竈を備えてい

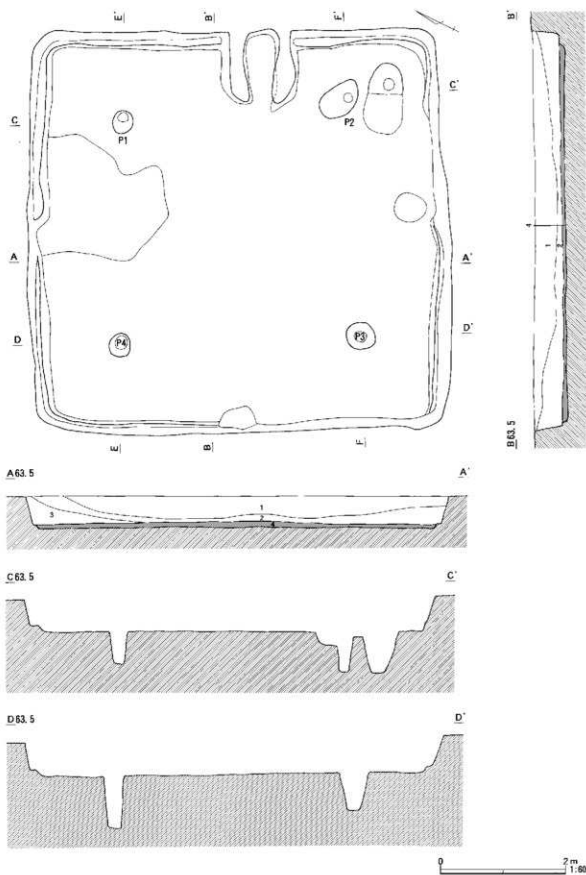
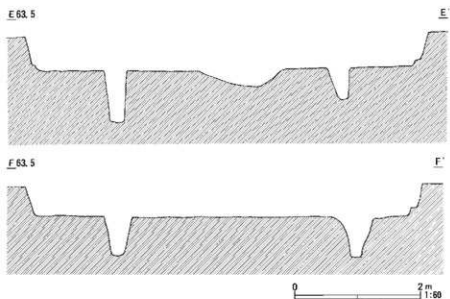


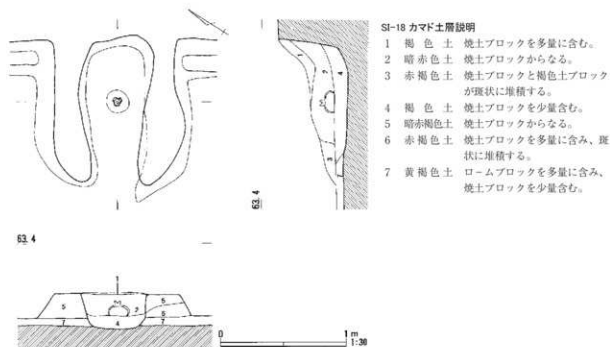
図52 SI-18 平面および断面 (1)



SI-18 土層説明

- 1 褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック、焼土ブロックを少量含む。
- 3 褐色土 暗褐色土を縞状に含む。
- 4 黄褐色土 ロームブロックを多量に含み、焼土ブロックを少量含む。貼床層。

図53 SI-18 断面 (2)



SI-18 カマド土層説明

- 1 褐色土 焼土ブロックを多量に含む。
- 2 暗赤色土 焼土ブロックからなる。
- 3 赤褐色土 焼土ブロックと褐色土ブロックが斑状に堆積する。
- 4 褐色土 焼土ブロックを少量含む。
- 5 暗赤褐色土 焼土ブロックからなる。
- 6 赤褐色土 焼土ブロックを多量に含み、斑状に堆積する。
- 7 黄褐色土 ロームブロックを多量に含み、焼土ブロックを少量含む。

図54 SI-18 カマド平面および断面

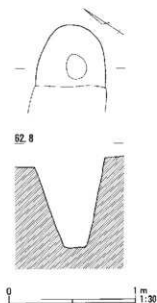


図55 SI-18 貯蔵穴平面および断面

る。袖部は貼床上にローム、焼土、白色粘質土等のブロックを多量に混入する土を積み上げて構築し、燃焼部は壁内にあって、内部に逆位の高坏を据えて支脚としている。煙道部は上方に取り付けられていたため確認できない。ピットはP1～P4の4基で、いずれも主柱穴と判断される。

規模は長辺6.7m、短辺6.40m、確認面からの深さ50cmを測る。貯蔵穴は長径55cm、底径15cm、床面からの深さ70cmを測り、ピットの床面からの深さはP1が50cm、P2が50cm、P3が50cm、P4が80cmを測る。

遺物 (図56、写真20)

遺物は竈とその周辺の床面を中心に出土している。4は竈の支脚として転用の高坏である。9の甕は内面にハケ調整を施している。

SI-18 出土土器観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法的特徴	調整手法的特徴	胎土・色調	備 考
1	土 部 器 坏	口径 12.6 底径 — 器高 5.0	丸底。体部は湾曲して立ち上がる。 口縁部は内斜口縁。	外面—口縁部～体部ナテ、底部ヘラケズリ後ナテ。内面—口縁部ヨコナテ、体部～底部ナテ。	石英・チャート 内外—明赤褐色	3/5。
2	土 部 器 坏	口径 9.4 底径 — 器高 4.8	丸底。口縁部は体部との境にわずかな稜を持ち、やや湾曲して立ち上がる。	外面—厚減のため調整不明瞭。内面—口縁部厚減、体部～底部ナテ。	チャート・白色粒 内—明赤褐色 外—橙色	完形。 外面底部に煤付着。
3	土 部 器 坏	口径 12.7 底径 — 器高 5.0	丸底。口縁部は体部との境にわずかな稜を持ち、湾曲気味に立ち上がる。	外面—厚減のため調整不明瞭。内面—口縁部～体部ヨコナテ、底部ナテ。	微砂粒・白色粒 内—橙色 外—明赤褐色	2/3。 外面体部～底部に煤付着。
4	土 部 器 高 坏	口径 12.3 底径 9.4 器高 8.9	湾曲して立ち上がる塊部。台部は外反して開く。	外面—口縁部ナテ、体部～台部ヘラケズリ、裾部ナテ。内面—腕部ヘラナテ、台部ケズリ・ナテ、底面に複数の短沈線。	石英・チャート 内外—明赤褐色	一部欠損。 内面塊部に暗赤灰色物付着。
5	土 部 器 甕	口径 14.6 底径 — 器高 —	粘土継積み上げ成形。胴部は上位に膨らみを持ち、口縁部はやや外反して開く。	外面—口縁部ナテ、胴部は厚減のため調整不明瞭。内面—口縁部ヨコナテ、胴部指ナテ。	石英・チャート 内—ぶい橙褐色 外—明赤褐色	3/4。
6	土 部 器 甕	口径 20.4 底径 6.1 器高 24.8	胴部は中位に膨らみを持ち、口縁部は外反して開く。	外面—口縁部ナテ、胴部ヘラケズリ、内面—口縁部ナテ、胴部～底部ヘラナテ。	チャート・黒色粒 内—橙褐色 外—ぶい橙褐色	1/2。
7	土 部 器 甕	口径 16.6 底径 — 器高 —	胴部は中位に膨らみを持ち、口縁部は外反気味に開く。	外面—口縁部ナテ、胴部は厚減のため調整不明瞭。内面—口縁部ヨコナテ、胴部ヘラナテ。	石英・チャート 内—ぶい赤褐色 外—橙褐色	3/5。
8	土 部 器 甕	口径 17.8 底径 — 器高 —	胴部は中位に膨らみを持ち、口縁部は外反して開く。	外面—胴部にヘラケズリがあるが、厚減のため不明瞭。内面—口縁部厚減、胴部ヘラナテ。	石英・チャート 内外—橙褐色	4/5。 外面胴部に粘土付着。
9	土 部 器 甕	口径 27.3 底径 8.8 器高 22.8	湾曲して上方に広がる胴部。口縁部はわずかに開く。	外面—口縁部ヨコナテ、胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナテ、胴部木口状工具ナテ。	石英・チャート 内—ぶい赤褐色 外—明赤褐色	一部欠損。
10	土 部 器 甕	口径 24.6 底径 8.5 器高 29.9	胴部は上位に膨らみを持ち、口縁部は外反気味に開く。	外面—口縁部ヨコナテ、胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナテ、胴部ヘラナテ。	石英・チャート 内外—明赤褐色	2/3。

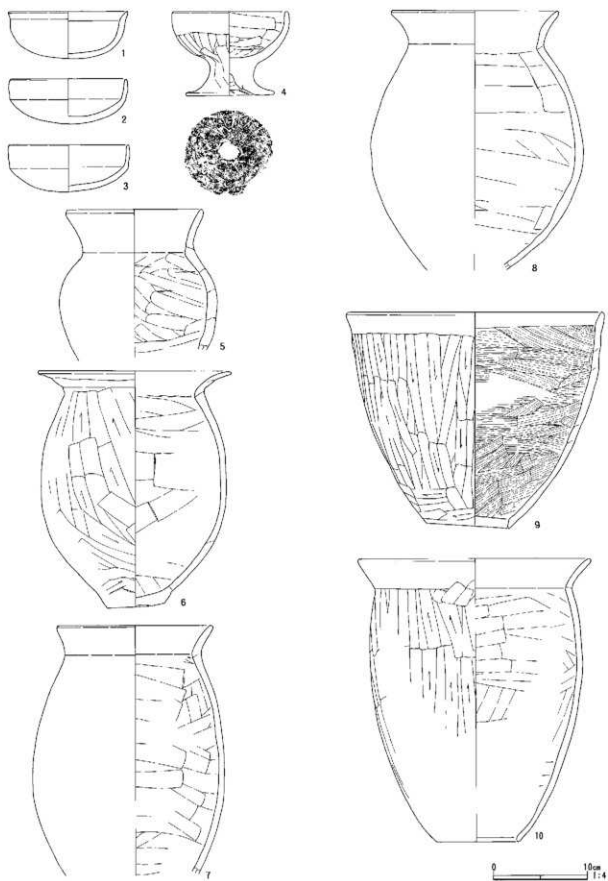


图56 SI-18 出土土器

SI-19

遺構 (図57～59、写真2)

E-19、F-19グリッドに位置する。平面形は正方形を呈し、主軸方位はN-10°-Eを示す。北壁中央から床面にかけての一部を攪乱により失っている。

覆土は3層に分かれ、下層に多量のロームブロックと少量の大豆大の礫を含む黄褐色土、中層に少量のロームブロックと大豆大の礫を含む暗褐色土、上層にロームブロックと白色パミスを含む褐色土が堆積している。床には貼床を施さず、平坦に削り出した地山面を、そのまま床面としている。南東隅の一部を除き、各壁際に壁溝を備える。南東隅に貯蔵穴を設けている。平面形はほぼ小判形を呈し、底面は平坦に成形されている。炉・竈などの燃焼施設は確認できない。ピットはP1～P6の6基で、このうちP1～P4は主柱穴である。また、P5はP1とP4の中間にあって、屋内構造に関係する柱穴と考えられる。

なお、南東隅には、P2に接して「T」字形に延びる土手状の遺構が見られる。この土手状遺構は地山層を削り出して形成されているもので、貯蔵穴を区画するようにして、壁溝にまで達している。規模は一辺7.3m、確認面からの深さ50cmを測る。貯蔵穴は長径80cm、底径40cm、床面からの深さ60cmを測り、ピットの床面からの深さはP1が20cm、P2が40cm、P3が45cm、P4が40cmを測る。

遺物 (図60、写真21)

遺物は床面中央部を中心に杯・高杯・埴・甕・壺を出土している。2の杯は緩やかに屈曲した口縁部にヨコナデを施し、須恵器杯蓋の模倣を指向している。15の壺は口縁部にも稜があり、須恵器甕の影響が認められる。

なお、西壁寄りの床面直上で東西方向に軸を置く棒状の炭化材を検出している。

SI-19 出土土器観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土 器 器 杯	口径 (9.8) 底径 3.0 器高 5.3	上げ底。体部は湾曲して立ち上がり、口縁部は短く外傾する。	外面一口縁部ヨコナデ、体部上半部ナデ、下半部ヘラケズリ、底部ナデ。内面一口縁部ヨコナデ、体部～底部指ナデ。	石英・チャート 内外一明赤褐色	2/3。
2	土 器 器 杯	口径 14.4 底径 4.8 器高 4.3	底部は丸みを持つ。体部は外反気味に立ち上がる。口縁部は体部との境にわずかな稜を持ち直線的に開く。	外面一摩滅のため調整不明瞭だが、体部下端にヘラケズリ。内面一摩滅するが、体部～底部はヘラナデ。	石英・チャート 内外一明赤褐色	3/4。
3	土 器 器 高 杯	口径 17.4 底径 13.5 器高 13.7	杯部下位にくこわずかな稜を持ち、口縁部は湾曲気味に開く。杯部は下方に向かってわずかに広がる。裾部は大きく開き、端部は上方に跳ねる。	外面一口縁部ナデ、杯底部～脚部ハケ目後ナデ、裾部ヨコナデ。内面一不明瞭だがハケ目後ナデか、脚部絞り目、裾部ナデ。	石英・チャート 内外一明赤褐色	4/5。
4	土 器 器 高 杯	口径(17.7) 底径(12.1) 器高 13.9	杯部下位に弱い稜を持つ。口縁部は上位がやや内湾する。脚部は下方に向かって広がり、裾部は大きく開く。	外面一口縁部ヨコナデ、杯底部ハケ目後ナデ、脚部ヘラケズリ後ナデ、裾部ヨコナデ。内面一杯部ナデ、脚部絞り目、裾部ヨコナデ。	石英・チャート 内一にふい赤褐色 内外一明赤褐色	1/3。
5	土 器 器 高 杯	口径 18.5 底径(13.6) 器高 15.6	脚部は粘土結晶巻き上げ成形。杯部下位に弱い稜を持つ。口縁部は上位がやや外反する。脚部は下方に向かって広がる。裾部は大きく開き、端部はわずかに跳ねる。	外面一口縁部粗雑なヨコナデ、杯底部はナデだが接合粘土の調整粗雑。脚部ハケ目後ナデ、裾部ヨコナデ。内面一杯部粗雑なナデ、脚部上半部絞り目、下半部指頭瓦瓶、裾部ナデ。	石英・チャート 内外一明赤褐色	2/3。
6	土 器 器 高 杯	口径(17.1) 底径(14.3) 器高 15.4	脚部は粘土結晶巻き上げ成形。杯部下位に弱い稜を持ち、口縁部はわずかに湾曲して開く。脚部は下方に向かって広がり、裾部は大きく開く。	外面一口縁部ヨコナデ、杯底部～脚部ハケ目後ナデ、裾部ヨコナデ。内面一口縁部ヨコナデ、杯底部ナデ、脚部絞り目で、下半部弱い指ナデ、裾部ヨコナデ。	石英・チャート 内外一明赤褐色	3/4。

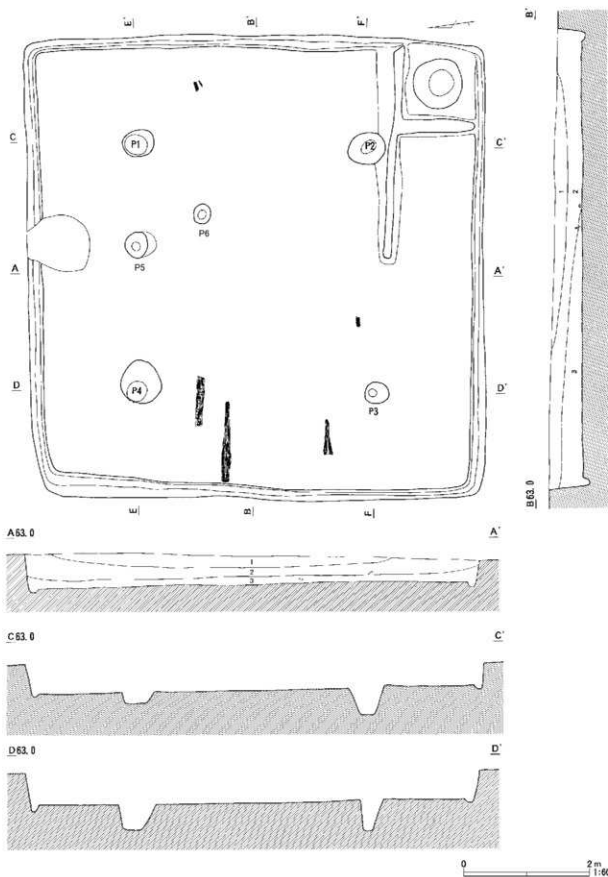
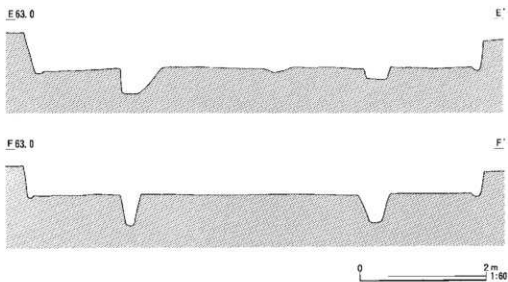


図57 SI-19 平面および断面（1）



SI-19 土層説明

- 1 褐色土 ロームブロック、白色バミスを少量含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック、大豆大の礫を少量含む。
- 3 黄褐色土 ロームブロックを多量に含み、大豆大の礫を少量含む。

図58 SI-19 断面 (2)

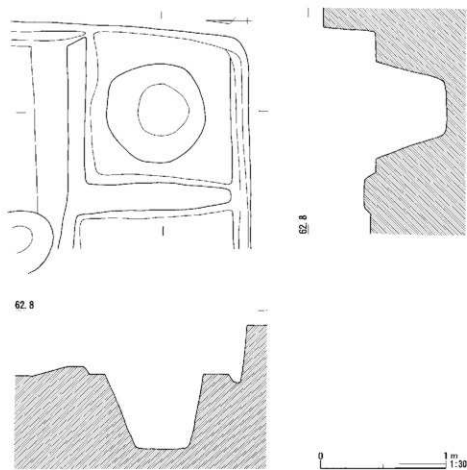


図59 SI-19 貯蔵穴平面および断面

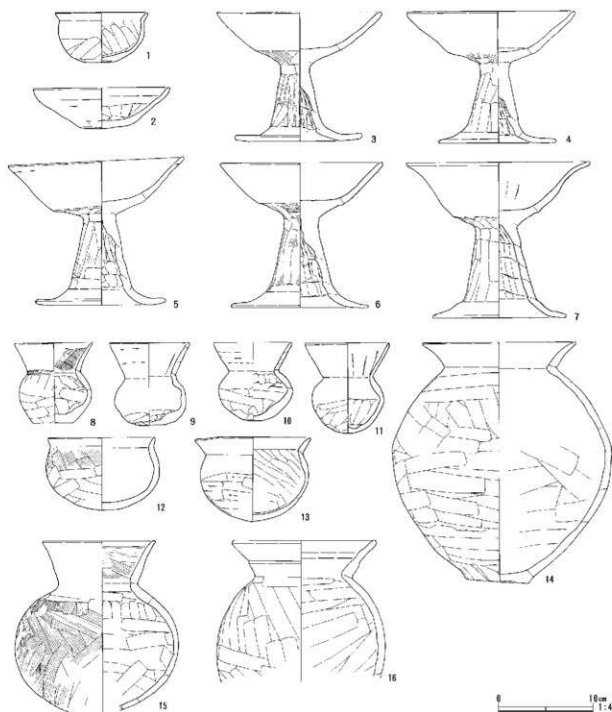


図60 SI-19 出土土器

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
7	土師器 高環	口径 (19.3) 底径 (16.0) 器高 16.5	脚部は粘土編巻き上げ成形。体部は両曲して立ち上がり、口縁部は外反して開く。脚部は下方に向かって広がりが、裾部は大きく開く。	外面-口縁部ヨコナデ、环底部はナデだが接合粘土は未調整、脚部ヘラケズリ後ナデ、裾部ヨコナデ。内面-口縁部ヨコナデ、坏体部~底部ヘラナデ、脚部強い指ナデで上位に絞り目、裾部ナデ。	片岩・チャート 内外-明赤褐色	2/3。
8	土師器 埴	口径 (8.2) 底径 4.0 器高 8.5	体部は膨らみを持ち、口縁部は外反気味に開く。	外面-口縁部ヨコナデ、体部上半部ハケ目後ナデ、下半部ヘラケズリ後ナデ。内面-口縁部ハケ目、体部~底部指ナデ。	石英・白色粒 内外-明赤褐色	3/4。

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
9	土器 埴	口径 8.5 底径 2.8 器高 8.8	体部は膨らみを持ち、口縁部は直線的に開く。	外面-口縁部ヨコナデ、体部上~中位ナデ、下位ヘラケズリ、底部ナデ。内面-口縁部ヘラナデ、体部上~中位ナデ、下位~底部ヘラナデ。	石英・白色粒 内外-明赤褐色	完形。
10	土器 埴	口径 8.3 底径 - 器高 8.3	丸底。体部は膨らみを持ち、口縁部はわずかに湾曲して開く。	外面-口縁部ヨコナデ、体部上半部ナデ、下半部~底部ヘラケズリ後ナデ。内面-口縁部ヨコナデ、体部~底部指ナデで上位に指頭圧痕。	石英・白色粒 内-褐色 外-明赤褐色	3/4。
11	土器 埴	口径 8.9 底径 - 器高 9.6	丸底。体部は膨らみを持ち、口縁部は直線的に開き、腹部わずかに内湾する。	外面-口縁部ヨコナデ、体部上半部ナデ、下半部~底部ヘラケズリ後ナデ。内面-口縁部ヘラナデ、体部~底部指ナデ。	石英・白色粒 内外-褐色	ほぼ完形。
12	土器 鉢	口径(11.2) 底径 - 器高 7.7	丸底。体部は膨らみを持ち、口縁部は短くやや湾曲して開く。	外面-摩滅するが、体部上位にハケ目、中位~底部ヘラケズリ。内面-摩滅のため調整不明瞭。	石英・チャート 内外-明赤褐色	3/5。
13	土器 鉢	口径 12.3 底径 - 器高 8.9	丸底。体部は膨らみを持ち、口縁部は短く外反気味に開く。	外面-口縁部ヨコナデ、体部上位ナデ、中位~底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ、体部から底部指ナデ。	石英・白色粒 内外-明赤褐色	4/5。
14	土器 甕	口径 16.2 底径 6.5 器高 25.5	胴部は中位に膨らみを持ち、口縁部は外反して開く。	外面-口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後ナデ、底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ、胴部~底部ヘラナデ。	石英・チャート 内-褐色 外-ふい赤褐色	3/4。
15	土器 小型壺	口径(11.8) 底径 - 器高 -	胴部は丸く膨らみ、口縁部はやや外反して開く。	外面-口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目で上端部ナデ。内面-口縁部ハケ目後ナデ、胴部ヘラナデで上位指ナデ。	石英・チャート 内-明赤褐色 外-褐色	3/4。
16	土器 壺	口径 15.2 底径 - 器高 -	胴部は膨らみを持つ。口縁部は中位に段を持つ。	外面-口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後ナデ。内面-口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	石英・チャート 内外-明赤褐色	上半部 5/6 残存。

SI-20

遺構 (図61~63、写真2)

I-18・19 グリッドに位置する。平面形は北東-南西方向に長い長方形を呈し、主軸方位はN-25°-Eを示す。

覆土は2層に分かれ、下層にロームブロックを多量に含む黄褐色土、上層にロームブロックを多量に含む暗褐色土が堆積している。床には貼床を施さず、平坦に削り出した地山面を、そのまま床面としている。壁溝は存在しない。南隅に貯蔵穴を設けている。平面形はほぼ方形を呈し、底面は平坦に成形されている。また、貯蔵穴とは別に、竈右袖の手前に不整形の土坑が存在する。北東壁には竈を備えている。遺存状態は不良ながら、地山削り出しによる袖部を有し、燃焼部は壁内にあって、内部に逆位の高坏を据えて支脚としている。煙道部は上方に取り付けられていたためか確認できない。ピットはP1~P3の3基で、いずれも主柱穴と判断される。主柱穴のうち竈よりの1基は確認できない。

規模は長辺4.4 m、短辺3.5 m、確認面からの深さ40cmを測る。貯蔵穴は1が長径125cm、底径95 cm、床面からの深さ20cm、2が長径100cm、底径40cm、床面からの深さ45cmを測り、ピットの床面からの深さはP1が40cm、P2が45cm、P3が40cmを測る。

遺物 (図64、写真22)

遺物は床面中央部を中心に出土している。高坏・埴・鉢・甕があり、坏を含まない。高坏は脚部の器壁を薄く成形する特徴がみられる。7の甕は内外面ともハケ調整を施している。

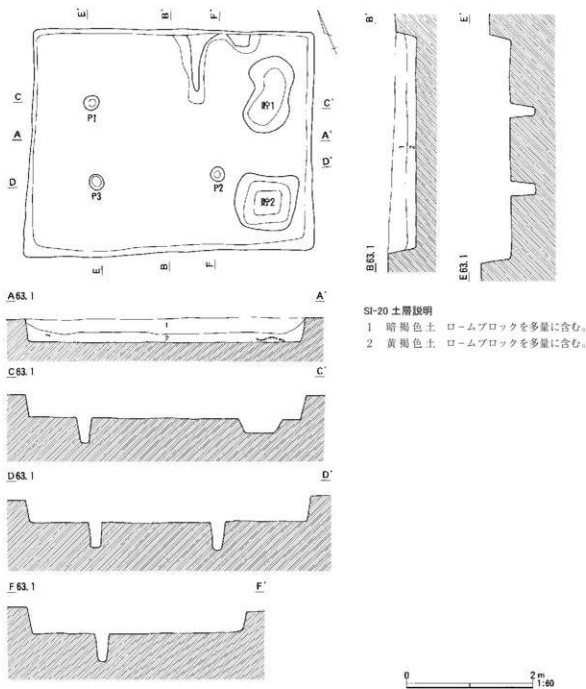
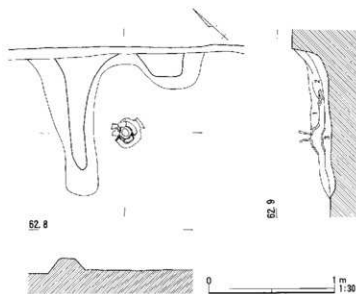


図61 SI-20 平面および断面

SI-20 出土土器観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土部器 高 坏	口径 20.5 底径 (15.9) 器高 17.0	坏部下位に倒い役を持ち、口縁部はやや外反して開く。脚部は下方に向かって広がり、裾部は大きく開く。	外面一口縁部ヨコナテ。坏底部～脚部は摩滅のため調整不明瞭。内面一口縁部ヨコナテ。坏底部ヘラナテ。脚部上半部ヘラケズリ、下半部ヘラナテ。裾部ナテ。	石英・白色粒 内～明赤褐色 外～明褐色	5/6。
2	土部器 埴	口径 (7.8) 底径 4.1 器高 7.7	体部は上位が張る。口縁部はわずかに湾曲して開く。	外面一口縁部ナテ、体部上半部ナテ、下半部ヘラケズリ後に下端部を除きナテ。内面一口縁部ハケ目後に上半部ナテ、体部～底部指ナテ。	石英・チャート 内～灰褐色 外～灰黄褐色	3/4。



SI-20 カマド土層説明

- 1 褐色土 ロームブロック、焼土ブロックを少量含む。
- 2 赤褐色土 焼土ブロックを多量に含む。
- 3 灰褐色土 焼土ブロックを多量に含む。

図62 SI-20 カマド平面および断面

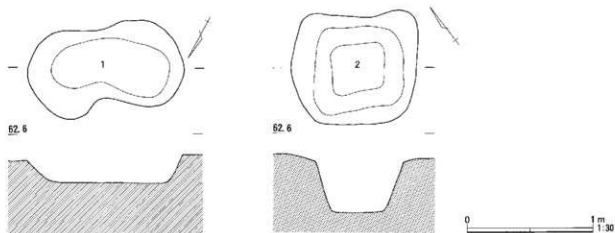


図63 SI-20 貯蔵穴平面および断面

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
3	土師器 埴	口径 (7.9) 底径 - 器高 7.5	丸底。体部は膨らみを持ち、口縁部は湾曲気味に開く。	外面-口縁部ナデ、体部上半部ナデ、下半部~底部ヘラケズリ後ナデ。内面-口縁部ナデ、体部~底部指ナデ。	石英・白色粒 内-褐色 外-明赤褐色	3/4。
4	土師器 埴	口径 (8.4) 底径 - 器高 8.6	丸底。体部は膨らみを持ち、口縁部はやや湾曲して開く。	外面-口縁部ナデ、体部上~中位ナデ。下位~底部ヘラケズリ後ナデ。内面-口縁部ナデ、体部ヘラナデ、底部指ナデ。	チャート・白色粒 内-明赤褐色 外-明褐色	3/4。
5	土師器 埴	口径 (8.4) 底径 4.3 器高 8.6	体部との境は明瞭ではないが、底部は平底。体部は膨らみを持ち、口縁部は湾曲して立ち上がる。	外面-口縁部は摩滅のため調整不明瞭、体部上半部ナデ、下半部~底部ヘラケズリ後ナデ。内面-口縁部ヨコナデ、体部~底部指ナデ。	石英・白色粒 内-明赤褐色 外-明褐色	5/6。
6	土師器 鉢	口径 (14.8) 底径 (6.4) 器高 (7.7)	体部は湾曲して立ち上がり、口縁部に至る。	外面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラケズリ後に一部ナデ。内面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラナデ。	石英・チャート 内外-明赤褐色	1/4。
7	土師器 甕	口径 18.9 底径 7.2 器高 23.6	胴部は膨らみを持ち、口縁部は直線的に開く。	外面-口縁部~胴部中位ハケ目、口縁部上端ナデ、胴部下位ヘラナデ。底部ナデ。内面-口縁部~胴部下位ハケ目、頸部に指頭圧痕、底部ヘラナデ。	粗粒チャート 内-浅黄色 外-にぶい黄褐色	4/5。

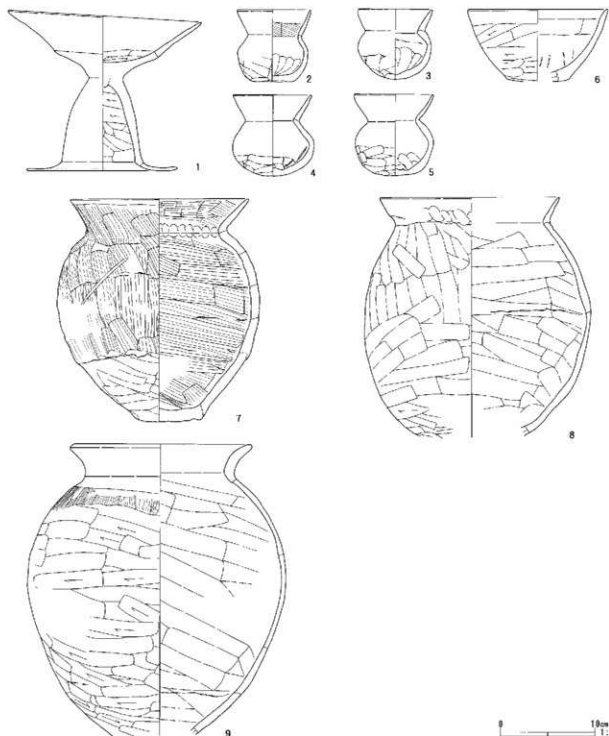


図64 SI-20 出土土器

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
8	土師器 甕	口径 19.0 底径 - 器高 -	胴部は中位に膨らみを持ち、口縁部は湾曲気味に開く。	外面-口縁部上半部ヨコナデ、下半部指頭旺盛、胴部ヘラケズリ後下位を除きナデ。内面-口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。	片岩・チャート 内外-にぶい黄褐色	3/4。
9	土師器 甕	口径 19.3 底径 - 器高 -	胴部は上位に膨らみを持ち、口縁部は外反して開く。	外面-口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリで上位にハケ目。内面-口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。	チャート・白色粒 内外-にぶい黄褐色	2/3。 胴部下半部に煤付着。

SI-21

遺構 (図65~68、写真2)

J-18、K-17・18、L-18グリッドに位置する。平面形は正方形を呈し、主軸方位はN-10°-Eを示す。

覆土は8層に分かれ、中央部分では下層にロームブロックと焼土ブロックを多量に含む褐色土、中層に多量のロームブロックと礫を含む暗褐色土、上層にロームブロックと礫を含む褐色土が堆積している。壁よりにはロームブロックと焼土ブロックを含む褐色土または暗褐色土、ロームブロックを多量に含む黄褐色土などがみられる。床には貼床を施さず、平坦に削り出した地山面を、そのまま床面としている。全周する明瞭な壁溝を備え、覆土には風化ロームを主体とする黄褐色土やロームブロックと焼土ブロックを含む黄褐色土が堆積している。南西隅に貯蔵穴を設けている。平面形は隅丸方形を呈し、底面は平坦に成形している。床面の中央北寄りには炉を設置している。床面を浅く掘り窪めて形成し、平面形は楕円形を呈し、約70×90cmを測る。明確な被熱面は認めないが、内部には焼土ブロックを含む暗褐色土などが堆積している。ピットはP1~P8の8基で、このうちP1~P4は主柱穴である。

なお、南西隅には、「T」字形に伸びる土手状の遺構が見られる。地山層を削り出して形成し、貯蔵穴を囲むようにして、南壁と西壁の壁溝にまで達し、一方はP2と重複して、先端は鉤の手状に屈曲している。また、四方の壁溝からは、直角に床中央へ向かって、枝状の溝が延びている。先端付近に小ピットをもつものがある。

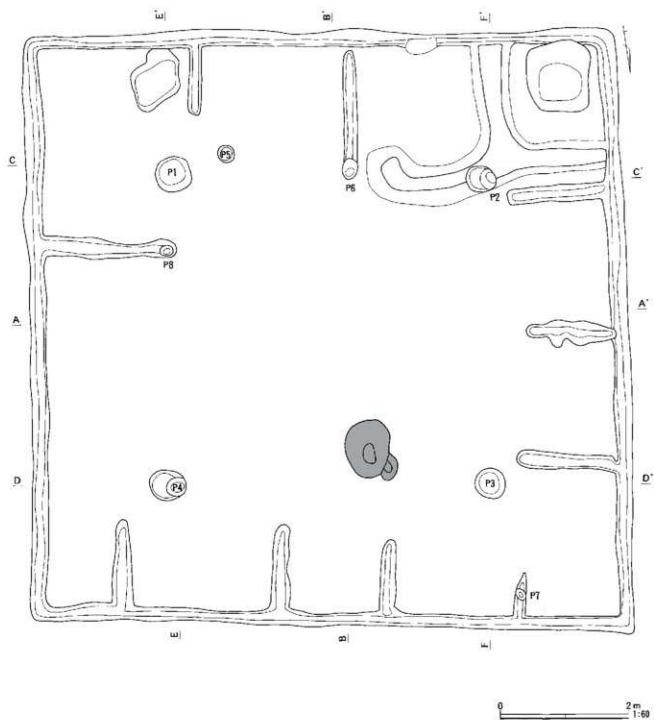
規模は一辺9.3m、確認面からの深さ40cmを測る。貯蔵穴は、長径115cm、底径70cm、床面からの深さ85cmを測る。ピットの床面からの深さはP1が60cm、P2が70cm、P3が65cm、P4が80cmを測る。

遺物 (図69~71、写真22~24)

遺物は床面中央部を中心に高坏・埴・鉢・甕が出土している。器種組成は埴・鉢・甕の占有率が高い。鉢としたものの中には坏に近い形態も含まれるが、典型的な内斜口縁坏は含まれない。

SI-21 出土土器観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備 考
1	土 師 器 高 坏	口径 (17.9) 底径 (11.6) 器高 12.7	坏部下に弱い稜を持つ。口縁部は外反気味に立ち上がり、上半部はわずかに湾曲する。脚部は下方に向かって広がり、裾部は大きく開く。	外面一摩滅のため調整不明瞭だが、脚部はヘラケズリ後ナデか、内面一坏部・裾部は摩滅、脚部はヘラナデで上位に絞り目。	石英・白色粒 内外一褐色	1/3。
2	土 師 器 高 坏	口径 (17.8) 底径 (13.1) 器高 14.3	坏部下に稜を持ち、口縁部は外反気味に開く。裾部は下に膨らみを持ち、裾部は湾曲して開く。	外面一摩滅のため調整不明瞭だが、脚部はヘラケズリ後ナデか、内面一坏部・裾部は摩滅、脚部絞り目で下端をヘラケズリ。	石英・チャート 内外一明赤褐色	2/3。
3	土 師 器 高 坏	口径 20.0 底径 (15.3) 器高 17.5	坏部下に稜を持ち、口縁部はやや外反して開く。脚部は下方に向かって広がりが、裾部は大きく開く。	外面一口縁部ヨコナデ、坏底部~脚部ヘラケズリ後ナデ、裾部ヨコナデ、内面一口縁部ヨコナデ、坏底部ナデ、脚部指ナデ、裾部ヨコナデ。	石英・チャート 内一明黄褐色 外一褐色	5/6。
4	土 師 器 埴	口径 9.1 底径 5.0 器高 7.9	体部は膨らみを持ち、口縁部はやや湾曲して開く。	外面一摩滅のため調整不明瞭、内面一口縁部ヘラナデ、体部上位ナデ、以下ヘラナデ。	石英・チャート 内外一明赤褐色	5/6。
5	土 師 器 埴	口径 (8.2) 底径 - 器高 8.7	丸底。体部は膨らみを持ち、口縁部は外反して開く。	外面一口縁部ハケ目後ナデ、体部上~中位ナデ、下位ヘラケズリ後ナデ、底部ナデ、内面一口縁部ナデ、体部~底部指ナデ。	石英・チャート 内一赤褐色 外一明赤褐色	2/3。



SI-21 土層説明

- | | | | |
|--------|---------------------------|--------|-----------------------|
| 1 褐色土 | ロームブロック、小豆大の礫を少量含む。 | 4 褐色土 | ロームブロック、焼土ブロックを少量含む。 |
| 2 暗褐色土 | ロームブロックを多量に含み、大豆大の礫を少量含む。 | 5 褐色土 | ロームブロック、焼土ブロックを多量に含む。 |
| 3 暗褐色土 | ロームブロック、焼土ブロックを多量に含む。 | 6 黄褐色土 | ロームブロックを多量に含む。 |
| | | 7 黄褐色土 | 風化ロームを主体とする。しまり弱。 |
| | | 8 黄褐色土 | ロームブロック、焼土ブロックを少量含む。 |

図65 SI-21 平面

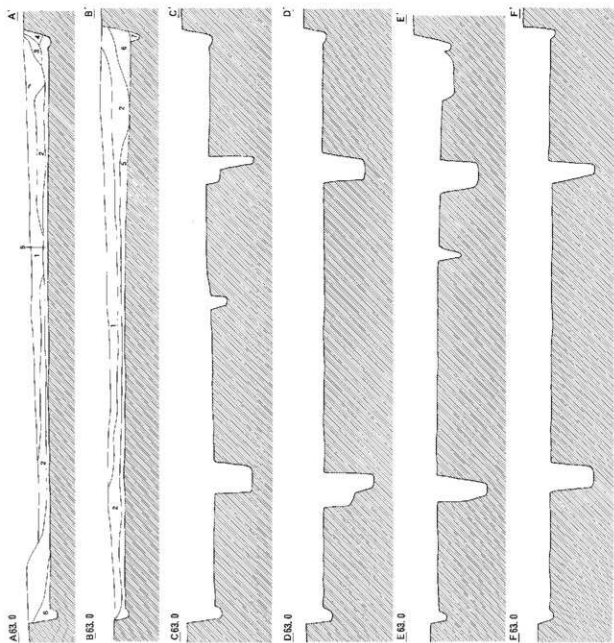
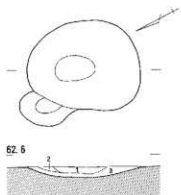


图66 SI-21 断面



SI-21 炉土層説明

- 1 暗赤褐色土 焼土ブロックを多量に含む。
- 2 暗赤褐色土 焼土ブロックを少量含む。
- 3 灰褐色土 ロームブロックと焼土ブロックを少量含む。

図67 SI-21 炉平面および断面

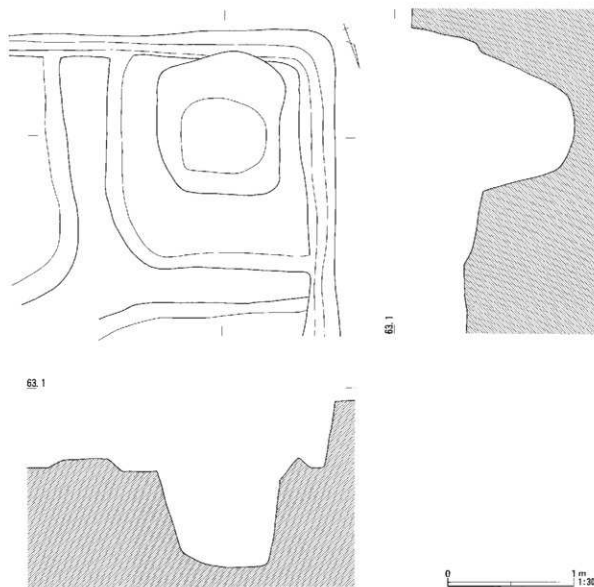


図68 SI-21 貯蔵穴平面および断面

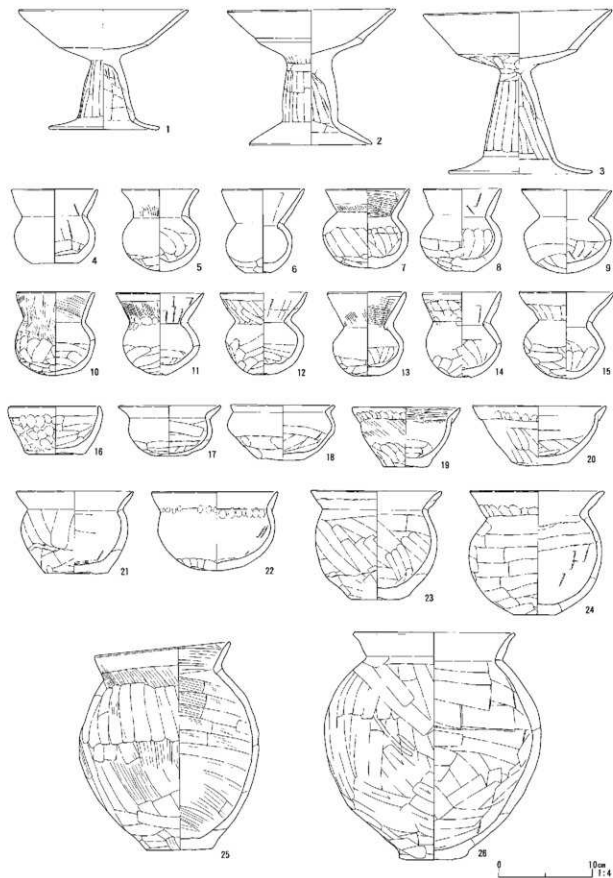


图69 SI-21 出土土器(1)

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備 考
6	土 師 器 埴	口径 8.7 底径 2.7 器高 8.9	体部は膨らみを持ち、口縁部はやや湾曲して開く。	外面-口縁部ヨコナテ。体部上~中位ナテ、下位~底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヘラナテ。体部~底部ナテ。	石英・白色粒 内-黒褐色 外-明赤褐色	ほぼ完形。
7	土 師 器 埴	口径 8.9 底径 3.2 器高 8.4	体部は膨らみを持ち、口縁部はやや湾曲して開く。	外面-口縁部ハケ目後に上半部をナテ。体部上位ナテ。中~下位ヘラケズリ後ナテ。底部ヘラケズリ。内面-口縁部ハケ目。体部~底部指ナテ。	石英・白色粒 内外-明赤褐色	口縁部一部欠損。
8	土 師 器 埴	口径 8.3 底径 2.7 器高 8.7	体部は膨らみを持ち、口縁部はやや湾曲して開く。	外面-口縁部ヨコナテ。体部上半部ナテ。下半部ヘラケズリ。底部ナテ。内面-口縁部ヘラナテ。体部~底部指ナテ。	石英・白色粒 内-にぶい赤褐色 外-明赤褐色	ほぼ完形。
9	土 師 器 埴	口径 9.4 底径 - 器高 8.9	丸底。体部は膨らみを持ち、口縁部はやや湾曲して開く。	外面-口縁部ヨコナテ。体部上半部ナテ。下半部ヘラケズリ後ナテ。底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナテ。体部上半部ナテ。以下ヘラナテ。	石英・白色粒 内外-明赤褐色	一部欠損。
10	土 師 器 埴	口径 8.1 底径 - 器高 8.8	丸底。体部は膨らみを持ち、口縁部はやや湾曲して開く。	外面-口縁部~体部上半部ハケ目後弱いナテ。下半部~底部ヘラケズリで下半部はその後ナテ。内面-口縁部ハケ目。体部~底部ナテ。	石英・白色粒 内外-明赤褐色	ほぼ完形。
11	土 師 器 埴	口径 9.3 底径 0.7 器高 8.7	底部は小さな上げ底。体部は膨らみを持ち、口縁部は湾曲気味に開く。	外面-口縁部ハケ目後に上端部ナテ。頸部ナテ。体部上半部ナテ。下半部ナテ。内面-口縁部ヘラナテ。体部~底部指ナテ。	石英・チャート 内外-明赤褐色	完形。
12	土 師 器 埴	口径 9.2 底径 1.4 器高 8.6	底部は小さな上げ底。体部は膨らみを持ち、口縁部は湾曲して開く。	外面-口縁部指ナテ・指頭圧痕で上端部ヨコナテ。体部上位ナテ。中~下位ヘラケズリで中位はその後ナテ。内面-口縁部ヘラナテ。体部~底部指ナテ。	石英・白色粒 内外-明赤褐色	ほぼ完形。
13	土 師 器 埴	口径 8.4 底径 2.5 器高 8.8	体部は膨らみを持ち、口縁部はやや湾曲して開く。	外面-口縁部ハケ目後ナテ。体部上位ナテ。中位~底部ヘラケズリで中位はその後ナテ。内面-口縁部ハケ目。体部~底部指ナテ。	石英・白色粒 内-褐色 外-明赤褐色	ほぼ完形。
14	土 師 器 埴	口径 8.9 底径 1.6 器高 9.0	底部はわずかな上げ底。体部は膨らみを持ち、口縁部はやや湾曲して開く。	外面-口縁部ナテ・指頭圧痕で上端部ヨコナテ。体部上半部ナテ。下半部ナテ。内面-口縁部ヘラナテ。体部~底部指ナテ。	石英・白色粒 内-にぶい褐色 外-明赤褐色	2/3。
15	土 師 器 埴	口径 10.0 底径 2.3 器高 9.2	体部は膨らみを持つ。口縁部は外反して立ち上がり、上半部はやや内湾する。	外面-口縁部上半部ヨコナテ。下半部ナテ。胴部上半部ナテ。下半部ヘラケズリ。底部ナテ。内面-口縁部ヘラナテ。体部~底部指ナテ。	石英・白色粒 内外-明赤褐色	5/6。
16	土 師 器 鉢	口径 9.7 底径 5.9 器高 5.1	体部は湾曲して立ち上がり、口縁部はやや内湾する。	外面-口縁部ヨコナテ。体部ナテ・指頭圧痕。底部ナテ。内面-口縁部~底部ヘラケズリ。	石英・黒色粒 内外-灰黄褐色	完形。
17	土 師 器 鉢	口径 10.8 底径 - 器高 5.3	底部は平底気味の丸底。体部は湾曲して立ち上がり、口縁部はやや湾曲して開く。	外面-口縁部ヨコナテ。体部上~中位ナテ。下位~底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナテ。体部~底部ヘラケズリ。	石英・白色粒 内外-明赤褐色	ほぼ完形。
18	土 師 器 鉢	口径 11.1 底径 5.0 器高 5.9	上位が変る体部。口縁部は短くやや湾曲して開く。	外面-口縁部ヨコナテ。体部上~中位ナテで中位に指頭圧痕、下位ヘラケズリ。底部ナテ。内面-口縁部ナテ。体部上半部ナテ。以下ヘラナテ。	石英・チャート 内-明褐色 外-褐色	ほぼ完形。
19	土 師 器 鉢	口径 11.4 底径 4.6 器高 6.2	体部は湾曲して立ち上がる。口縁部は外側に折り返し、湾曲気味に開く。	外面-口縁部上半部ナテ。下半部に指頭圧痕。体部上半部粗雑なハケ目。下半部ナテ・指頭圧痕。内面-口縁部ハケ目。体部上半部ナテ。以下ヘラナテ。	粗粒チャート 内-にぶい褐色 外-にぶい赤褐色	2/3。

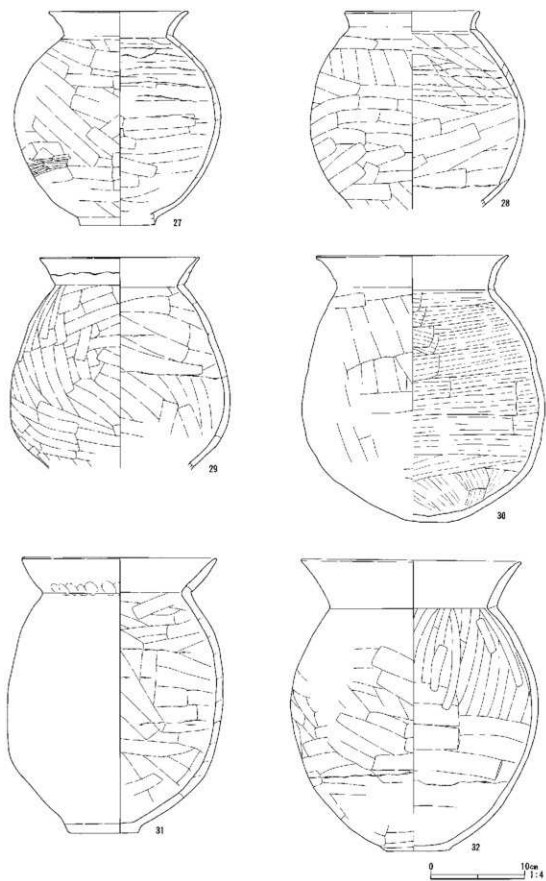


图70 SI-21 出土土器(2)

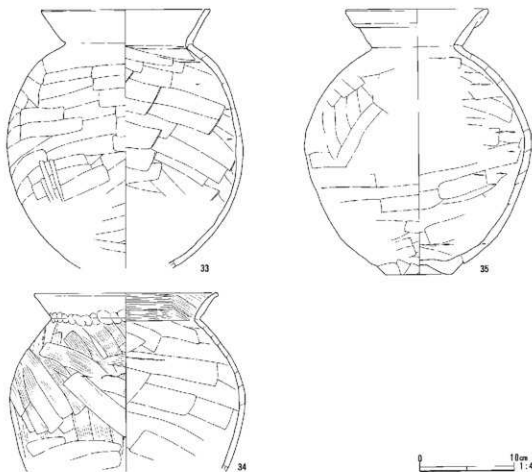


図71 SI-21 出土土器 (3)

No	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
20	土器 甕	口径 14.2 底径 6.0 器高 6.4	体部は湾曲して立ち上がる。口縁部は外側に折り返し、湾曲気味に開く。	外面-口縁部ヨコナデで下半部に指頭圧痕、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。	石英・白色粒 内外-にぶい黄褐色	4/5。
21	土器 甕	口径(12.2) 底径 6.6 器高 8.8	底部は中央部がわずかに窪む。体部は上位に膨らみを持ち、口縁部は湾曲気味に開く。	外面-口縁部ナデ、体部ヘラケズリ後ナデ、底部ナデ。内面-口縁部ナデ、体部ヘラナデ、底部指ナデ。	片岩・チャート 内外-明褐色	3/4。
22	土器 甕	口径 13.4 底径 - 器高 8.4	丸底。体部は湾曲して立ち上がり、口縁部は外傾する。	外面-口縁部ヨコナデ。頸部に棒先状工具の圧痕、体部ナデ、底部粗雑なヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ、頸部に指頭圧痕。体部-底部ヘラナデ。	粗粒チャート 内-暗灰黄色 外-浅黄色	一部欠損。
23	土器 甕	口径 13.9 底径 5.1 器高 11.5	底部は中央部がわずかに窪む。胴部は上位に膨らみを持ち、口縁部は湾曲気味に開く。	外面-口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ後ナデ、底部ヘラケズリ。内面-口縁部ナデ、胴部上位ヘラナデ、以下指ナデ。	石英・白色粒 内外-明赤褐色	ほぼ完形。
24	土器 甕	口径 14.1 底径 4.4 器高 13.1	胴部は中位に膨らみを持ち、口縁部は湾曲気味に立ち上がり、端部がわずかに外反する。	外面-口縁部ヨコナデで下半部に指頭圧痕、胴部ヘラケズリ後ナデ、底部ナデ。内面-口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。底部指ナデ。	チャート・白色粒 内外-褐色	ほぼ完形。
25	土器 甕	口径 14.4 底径 6.8 器高 21.8	胴部は中位に膨らみを持ち、口縁部は湾曲気味に開く。	外面-口縁部～胴部ハケ目後ナデ、底部ヘラケズリ。内面-口縁部～胴部ハケ目後ナデ、底部指ナデ。	粗粒チャート 内-にぶい黄褐色 外-褐灰色	4/5。

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法的特徴	調整手法的特徴	胎土・色調	備考
26	土師器 甕	口径 17.2 底径 7.0 器高 24.0	胴部は上位に膨らみを持ち、口縁部はやや外反して開く。	外面一口縁部ナナ、胴部ヘラケズリ後に上半部ナナ、底部ヘラケズリナ。内面一口縁部ナナ、胴部～底部ヘラナナ。	石英・チャート 内一明赤褐色 外一ぶい赤褐色	一部欠損。
27	土師器 甕	口径 (14.9) 底径 (8.0) 器高 22.6	粘土組織み上げ成形。胴部は中位に膨らみを持ち、口縁部は外反して開く。	外面一口縁部ヨコナテ、胴部ヘラケズリ後ナナ。内面一口縁部ヨコナテ、胴部弱いヘラナナで上半部に積み上げ痕が顕著に残る。	石英・白色粒 内一明赤褐色 外一褐色	1/2。
28	土師器 甕	口径 14.3 底径 — 器高 —	粘土組織み上げ成形。胴部は膨らみを持ち、口縁部は強く外反気味に開く。	外面一口縁部ヨコナテ、胴部ヘラケズリ後ナナ。内面一口縁部ナナ、胴部上半部ナナ、下半部ヘラナナ。	石英・白色粒 内外一明赤褐色	3/4。
29	土師器 甕	口径 16.9 底径 — 器高 —	胴部は下位に膨らみを持ち、口縁部は外反気味に開く。	外面一口縁部ナナ、胴部ヘラケズリ後ナナ。内面一口縁部ナナ、胴部ヘラナナ。	石英・チャート 内外一明赤褐色	3/4。
30	土師器 甕	口径 (20.4) 底径 (6.1) 器高 28.3	胴部は下位に膨らみを持ち、口縁部はやや外反して開く。	外面一口縁部ナナ、胴部・底部ヘラケズリ後ナナ。内面一口縁部ナナ、胴部～底部木口状工具ナナ。	石英・チャート 内外一灰褐色	3/4。
31	土師器 甕	口径 20.6 底径 7.2 器高 29.0	粘土組織み上げ成形。胴部は膨らみを持ち、下位が張る。口縁部は湾曲して開く。	外面一厚減のため調整不明瞭だが、口縁部下位に指頭圧痕。内面一口縁部厚減、胴部～底部強いヘラナナ。	片岩・チャート 内一明褐色 外一明赤褐色	ほぼ完形。
32	土師器 甕	口径 23.4 底径 6.8 器高 30.9	胴部は中位に膨らみを持ち、口縁部は外反して開く。	外面一口縁部ヨコナテ、胴部・底部ヘラケズリ後ナナ。内面一口縁部ヨコナテ、胴部上半部ヘラケズリ後ナナ、下半部ヘラナナ。	石英・チャート 内一ぶい赤褐色 外一ぶい黄褐色	4/5。 外面胴部に窪付痕。
33	土師器 甕	口径 17.9 底径 — 器高 —	胴部は中位に膨らみを持ち、口縁部は湾曲気味に開く。	外面一口縁部ヨコナテ、胴部ヘラケズリ後ナナ。内面一口縁部ヨコナテ、胴部ヘラナナ。	微砂粒・石英 内外一褐色	1/2。
34	土師器 甕	口径 19.4 底径 — 器高 —	粘土組織み上げ成形。胴部は膨らみを持つ。口縁部は湾曲気味に立ち上がり、端部はやや外反する。	外面一口縁部ヨコナテ、頸部に指頭圧痕。胴部ハケ目後、部分的にナナ。内面一口縁部ハケ目、胴部ヘラナナ。		口縁部～胴部上半部 2/3 残存。
35	土師器 壺	口径 15.1 底径 7.1 器高 28.0	粘土組織み上げ成形。上げ底。胴部は中位に膨らみを持つ。口縁部は肥厚口縁で、湾曲気味に立ち上がる。	外面一口縁部ヨコナテ、胴部ヘラケズリ後ナナ。底部外縁ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナテ、胴部ヘラナナ、底部ナナ。	石英・白色粒 内一ぶい黄褐色 外一明赤褐色	1/4。

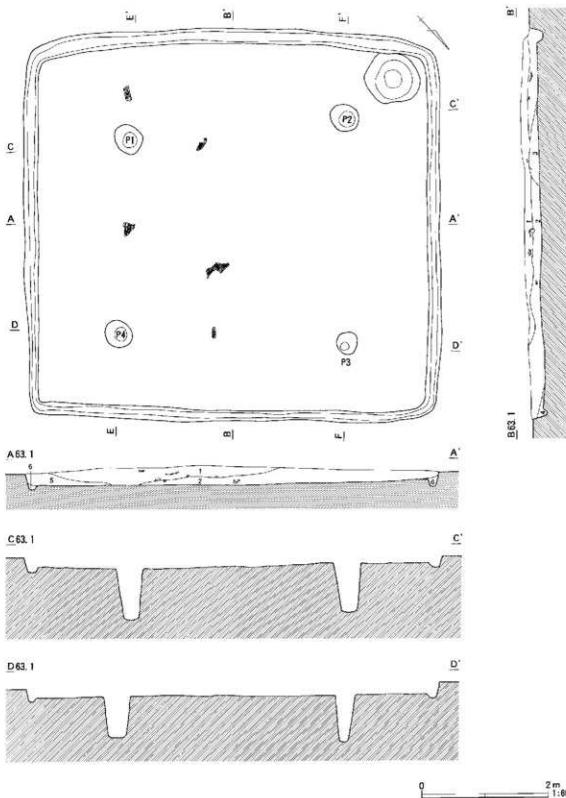
SI-22

遺構 (図72～74、写真2)

H-19-20 グリッドに位置する。平面形は正方形を呈し、主軸方位はN-45°-Eを示す。

覆土は6層に分かれ、中央部分では下層に焼土ブロックを含む暗褐色土、上層に白色バミスを含む褐色土が堆積し、床には部分的に焼土ブロックと炭化物ブロックを含む黒褐色土がみられる。また、南東側の壁寄りには、ロームブロックを多量に含む褐色土の堆積が確認される。床には貼床を施さず、平坦に削り出した地山面を、そのまま床面としている。全周する明瞭な壁溝を備え、覆土にはロームブロックを多量に含む暗褐色土または黄褐色土が堆積している。西隅に貯蔵穴を設けている。平面形は不整形円形を呈し、立ち上がりは上位に傾斜を変換する箇所が存在する。底面は平坦に成形している。炉・竈などの燃焼施設も確認できない。ピットはP1～P4の4基で、いずれも主柱穴と判断される。

規模は一辺9.3m、確認面からの深さ40cmを測る。貯蔵穴は、長径85cm、底径25cm、床面からの深さ80cmを測り、ピットの床面からの深さはP1が80cm、P2が70cm、P3が70cm、P4が65cmを測る。



SI-22 土層説明

- | | | | |
|--------|----------------------|--------|----------------|
| 1 褐色土 | 白色パミスを少量含む。 | 4 暗褐色土 | ロームブロックを多量に含む。 |
| 2 暗褐色土 | 焼土ブロックを少量含む。 | 5 褐色土 | ロームブロックを多量に含む。 |
| 3 黒褐色土 | 焼土ブロック、炭化物ブロックを少量含む。 | 6 黄褐色土 | ロームブロックを多量に含む。 |

図72 SI-22 平面および断面（1）

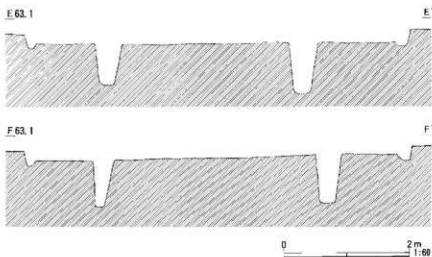


図73 SI-22 断面 (2)

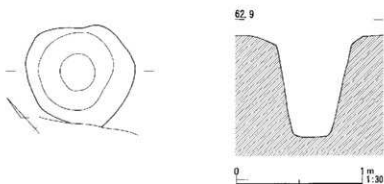


図74 SI-22 貯蔵穴平面および断面

遺物 (図75、写真25)

遺物は床面中央部を中心に坏・高坏・埴・鉢・甕・壺が出土している。南東半の床面には炭化材の残片が散在している。

SI-22 出土土器観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土 師 器 坏	口径 14.6 底径 - 器高 (6.2)	丸底と推定される。体部は湾曲して立ち上がり、口縁部は外反気味に開く。	外面-口縁部~体部中位ナテ、下位~底部ヘラケズリ。内面-口縁部ナテ、体部~底部ヘラナテ。	チャート・白色粒 内-赤褐色 外-明赤褐色	3 / 4。
2	土 師 器 坏	口径 (14.6) 底径 3.5 器高 5.9	体部は湾曲して立ち上がり。口縁部は体部との境に稜を持ち、外反気味に立ち上がり、上半部は湾曲する。	外面-口縁部ナテ、体部上半部ハケ目後ナテ、下半部ヘラケズリ。底部ナテ。内面-摩滅のため調整不明瞭だが、体部~底部はナテ。	石英・チャート 内-橙色 外-明赤褐色	2 / 3。
3	土 師 器 高 坏	口径 18.9 底径 (17.5) 器高 16.3	坏部下位に弱い稜を持ち、口縁部は湾曲気味に開く。脚部は下方に向かって広がりが、器部は大きく開く。	外面-坏部は摩滅するか口縁部上位はヨコナテ。脚部下位はハケ目後ナテ。器部ナテ。内面-坏部は摩滅。脚部ヘラケズリ後、上半部中心に指ナテ。器部ヨコナテ。	石英・チャート 内外-赤色	3 / 4。

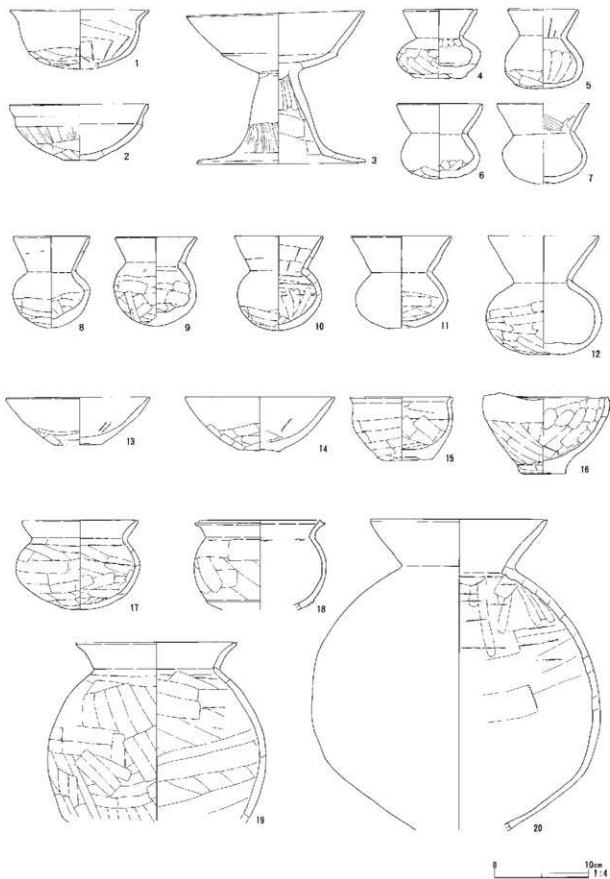


图75 SI-22 出土土器

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法的特徴	調整手法的特徴	胎土・色調	備考
4	土師器 埴	口径 7.9 底径 5.7 器高 7.3	上げ底。体部は扁平で横方向に歪る。 口縁部は湾曲気味に開く。	外面→口縁部ヨコナテ。体部上位ナテ、中～下位ヘラケズリ後ナテ。底部ナテ。内面→口縁部ヨコナテ。胴部→指頭圧痕。体部～底部指ナテ。	石英・チャート 内→ふい褐色 外→ふい赤褐色	3/4。
5	土師器 埴	口径 7.4 底径 - 器高 8.4	底部は平底気味の丸底。体部は下位に膨らみを持つ。口縁部は湾曲気味に開く。	外面→口縁部～体部中位は摩滅のため調整不明瞭。下位～底部ヘラケズリ。内面→口縁部ヘラナテ。体部～底部指ナテ。	石英・白色粒 内→ふい褐色 外→明赤褐色	完形。
6	土師器 埴	口径 9.1 底径 - 器高 7.9	丸底。体部は下位がやや歪る。口縁部はやや湾曲して開く。	外面→口縁部～体部ナテ。底部ヘラケズリ。内面→口縁部ナテ。体部～底部指ナテ。	石英・チャート 内→黒褐色 外→明褐色	一部欠損。
7	土師器 埴	口径 9.8 底径 1.9 器高 8.5	底部は小さな上げ底。体部は膨らみを持ち、口縁部は外反気味に開く。	外面→摩滅のため調整不明瞭。内面→口縁部摩滅するがハケ目残る。体部～底部ナテ。	石英・チャート 内→明赤褐色	ほぼ完形。
8	土師器 埴	口径 8.0 底径 - 器高 9.7	丸底。体部は膨らみを持つ。口縁部は直線的に開き、端部わずかに内湾する。	外面→口縁部ヨコナテ。体部上半部ナテ。下半部～底部ヘラケズリ。内面→口縁部ヨコナテ。体部～底部指ナテ。	チャート・白色粒 内→ふい褐色 外→ふい褐色	3/5。
9	土師器 埴	口径 8.7 底径 - 器高 9.4	丸底。体部は膨らみを持ち、口縁部は外反気味に開く。	外面→口縁部ヨコナテ。胴部上位ナテ。中位～底部ヘラケズリ。内面→口縁部ヨコナテ。体部～底部強い指ナテ。	石英・白色粒 内→明赤褐色	ほぼ完形。 内外面2か所に 柄と思われる圧 痕あり。
10	土師器 埴	口径 9.4 底径 - 器高 10.0	丸底。体部は膨らみを持ち、口縁部は湾曲気味に開く。	外面→口縁部ヨコナテ。体部上半部ナテ。下半部～底部ヘラケズリ後ナテ。内面→口縁部ヘラナテ。体部～底部指ナテ。	石英・チャート 内外→明赤褐色	5/6。
11	土師器 埴	口径 10.7 底径 3.2 器高 10.8	上げ底。体部は膨らみを持ち、口縁部は外反気味に開く。	外面→摩滅のため調整不明瞭。内面→口縁部は摩滅。体部～底部指ナテ。	石英・チャート 内→明赤褐色 外→褐色	ほぼ完形。
12	土師器 埴	口径 11.7 底径 3.1 器高 12.3	底部はわずかな上げ底。体部は膨らみを持ち、口縁部は湾曲気味に開く。	外面→口縁部ナテ。体部上位ナテ。中位ヘラケズリ後ナテ。下位～底部ヘラケズリ。内面→口縁部ナテ。体部～底部指ナテ。	チャート・白色粒 内→反赤褐色 外→明赤褐色	5/6。
13	土師器 鉢	口径 15.1 底径 4.8 器高 5.0	体部は湾曲して立ち上がり、口縁部に至る。	外面→口縁部～体部上半部ナテ。下半部ヘラケズリ。底部ナテ。内面→摩滅するが、体部～底部ヘラナテ。	片岩・チャート 内外→明赤褐色	2/3。
14	土師器 鉢	口径 16.0 底径 4.4 器高 5.7	体部は湾曲して立ち上がり、口縁部に至る。	外面→口縁部～体部上半部ナテ。下半部ヘラケズリ。底部ナテ。内面→口縁部ナテ。体部～底部は摩滅するがヘラナテ。	石英・チャート 内外→明赤褐色	1/2。
15	土師器 鉢	口径 11.0 底径 5.6 器高 6.7	底部は中央部が窪む。体部は湾曲して立ち上がり、中位に膨らみを持つ。口縁部は短く外反する。	外面→口縁部ナテ。体部上位ナテ。中位～底部ヘラケズリ後ナテ。内面→口縁部ナテ。体部～底部ヘラナテ。	チャート・白色粒 内→ふい黄褐色 外→褐色	一部欠損。
16	土師器 鉢	口径 13.2 底径 4.3 器高 8.5	体部は湾曲して立ち上がり、口縁部は内湾する。	外面→口縁部～体部上位ナテ。中～下位ヘラケズリ後ナテ。底部ナテ。内面→口縁部～体部上半部ナテ・指頭圧痕。下半部～底部ヘラナテ。	白色針状物 内→明褐色 外→明赤褐色	2/3。
17	土師器 小型甕	口径 12.2 底径 - 器高 9.5	丸底。胴部は丸く膨らみ、口縁部は湾曲気味に開く。	外面→口縁部ヨコナテ。胴部～底部ヘラケズリ後ナテ。内面→口縁部ヨコナテ。胴部ヘラナテ。底部指ナテ。	石英・白色粒 内→ふい褐色 外→明赤褐色	5/6。 外面胴部に煤付着。
18	土師器 小型甕	口径 13.9 底径 - 器高 -	胴部は底部との境に稜を持ち、中位に膨らみを持つ。口縁部は外反して開き、口唇部に凹線が走る。	外面→口縁部ナテ。胴部ヘラケズリ後ナテ。内面→口縁部は摩滅のため調整不明瞭。胴部ナテ。	石英・チャート 内外→明赤褐色	1/5。
19	土師器 甕	口径 17.0 底径 - 器高 -	胴部は膨らみを持ち、口縁部は外反して開く。	外面→口縁部ヨコナテ。胴部ヘラケズリ後ナテ。内面→口縁部ヨコナテ。胴部ヘラナテ。	石英・チャート 内外→褐色	2/5。
20	土師器 甕	口径 18.7 底径 - 器高 -	粘土結構み上げ成形。胴部は中位に膨らみを持ち、口縁部は湾曲気味に開く。	外面→摩滅のため調整不明瞭。内面→口縁部ヨコナテ。胴部上位指ナテ。以下ヘラナテ。	チャート・白色粒 内外→褐色	1/2。

SI-23

遺構 (図76、写真3)

G-21グリッドに位置する。平面形は南北に長い長方形を呈し、主軸方位はN-5°-Wを示す。SI-24と重複し、相当部分を失っている。新旧関係はSI-23が古く、SI-24が新しい。

覆土にはロームブロックを含む黒褐色土が堆積している。床には貼床を施さず、平坦に削り出した地山面を、そのまま床面としている。壁溝は存在しない。貯蔵穴や炉・竈などの燃焼施設も確認できない。ピットも存在していれば、SI-24と重複部分に検出するところであるが、SI-24の掘り込みがさほど深くないにもかかわらず検出できていない。

規模は長辺4.1 m、短辺3.3 m、確認面からの深さ20 cmを測る。

遺物 (図77、写真26)

遺物は床面中央部を中心に杯・高杯・甕が出土している。高杯の脚部は器壁が厚くなり、低脚化の進行した段階の資料である。

SI-24

遺構 (図76・78・79、写真3)

G-21グリッドに位置する。平面形は正方形を呈し、主軸方位はN-40°-Wを示す。

覆土は2層に分かれ、下層に多量のロームブロックと焼土ブロック、炭化物ブロックを含む黄褐色

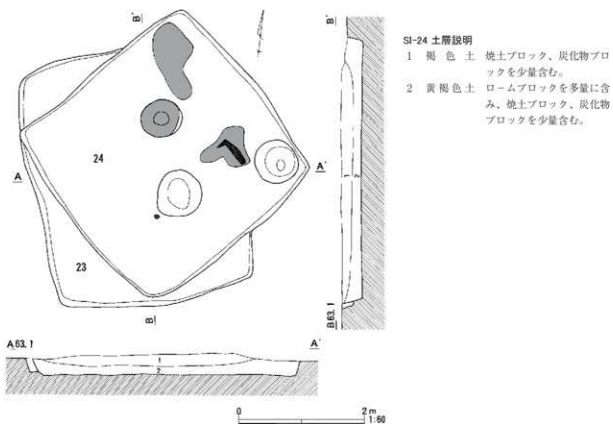


図76 SI-23・24 平面および断面

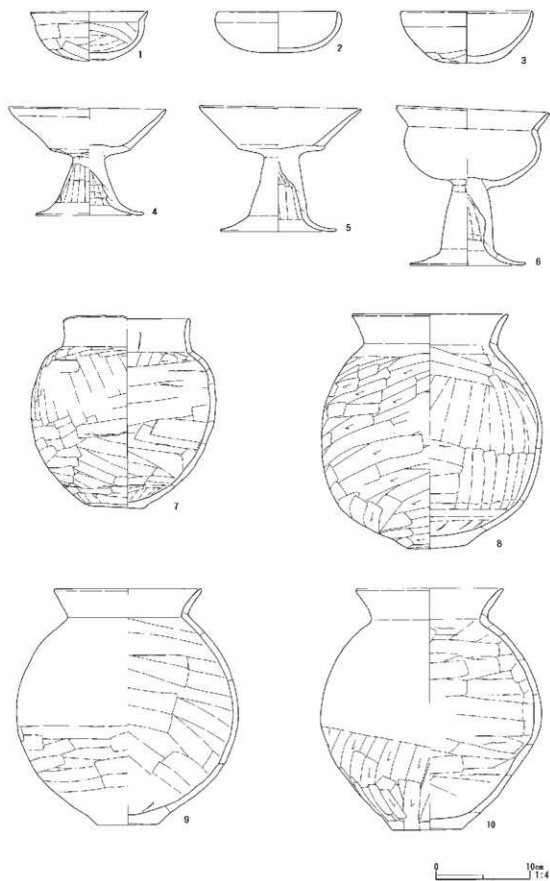


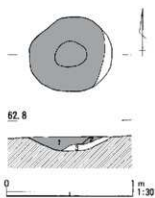
图77 SI-23 出土土器

SI-23 出土土器観察表

No	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備 考
1	土 師 器 坏	口径 12.3 底径 3.8 器高 5.1	平底。体部は湾曲して立ち上がり、 口縁部は短く外傾する。	外面-口縁部ヨコナテ。体部~底部 ヘラケズリ後ナテ。内面-口縁部ヨ コナテ、体部~底部ヘラケズリ後、 体部中位以下をナテ。	石英・チャート 内外-赤褐色	一部欠損。
2	土 師 器 坏	口径 13.0 底径 - 器高 4.2	丸底。体部は湾曲して立ち上がり、 口縁部は内湾する。	外面-口縁部ヨコナテ。体部~底部 摩滅するがヘラケズリ後ナテ。 内面-口縁部ヨコナテ、体部~底部ナテ。	石英・白色粒 内外-明赤褐色	7/8。
3	土 師 器 坏	口径 13.4 底径 3.8 器高 5.3	平底。体部は湾曲して立ち上がり、 口縁部は内湾気味に開く。	外面-口縁部~体部ナテ、体部下端 ヘラケズリ。底部ナテ。内面-口縁 部~底部ナテ。	石英・チャート 内外-褐色	2/3。
4	土 師 器 高 坏	口径 16.7 底径 11.4 器高 11.5	坏部下位に弱い稜を持ち、口縁部は やや内湾する。脚部は下方に向かっ て広がり、裾部は外反して開く。	外面-口縁部ヨコナテ、坏体部ナテ、 坏底部ヘラケズリ、脚部ヘラケズリ 後ナテ、裾部ナテ。内面-坏部ナテ、 脚部上位に絞り目、下位ナテ、裾部 ナテ。	石英・白色粒 内外-明赤褐色	一部欠損。
5	土 師 器 高 坏	口径 17.2 底径 - 器高 10.2	坏部下位に稜を持ち、口縁部は外反 気味に開く。脚部は下方に向かっ て広がり、裾部は外反して開く。	外面-口縁部~坏体部ヨコナテ。坏 底部ナテ、脚部ナテ、裾部ヨコナテ。 内面-口縁部~坏体部ヨコナテ。坏 底部ナテ、脚部上位に絞り目、下位 弱いナテ、裾部ナテ。	石英・白色粒 内外-明赤褐色	ほぼ完形。
6	土 師 器 高 坏	口径 16.3 底径 12.2 器高 17.0	碗状の坏部は中位に膨らみを持ち、 口縁部はやや内湾して開く。脚部は 下方に向かっ て広がり、裾部は外反 して開く。	外面-口縁部ヨコナテ、坏体部ナテ、 坏底部ヘラケズリ後ナテ。脚部~裾 部ナテ。内面-口縁部~坏底部ナテ、 脚部絞り目、裾部ナテ。	石英・チャート 内外-明赤褐色	2/3。
7	土 師 器 甕	口径 13.5 底径 6.5 器高 20.4	粘土凝積み上げ成形。胴部は膨らみ を持ち、口縁部は直立気味に立ち上 がる。	外面-口縁部ヨコナテ、胴部~底部 ヘラケズリ後ナテ。内面-口縁部~ 胴部ヘラナテ、底部指ナテ。	石英・白色粒 内-灰黄褐色 外-にぶい黄褐色	3/4。
8	土 師 器 甕	口径 16.6 底径 6.4 器高 24.8	胴部は膨らみを持ち、口縁部はやや 外反して開く。	外面-口縁部ヨコナテ、胴部~底部 ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナテ、 胴部~底部ヘラナテ。	石英・チャート 内-にぶい赤褐色 外-褐色	5/6。
9	土 師 器 甕	口径 15.8 底径 6.7 器高 25.0	胴部は中位に膨らみを持ち、口縁部 は直線的に開く。底部は中央部がわ ずかに窪む。	外面-口縁部ヨコナテ。胴部上半部 ナテ、下半部~底部ヘラケズリ後ナ テ。内面-口縁部ヨコナテ、胴部~ 底部ヘラナテ。	石英・チャート 内外-明赤褐色	7/8。
10	土 師 器 甕	口径 15.6 底径 7.3 器高 25.6	粘土凝積み上げ成形。胴部は中位に 膨らみを持ち、口縁部はやや外反し て開く。	外面-口縁部ヨコナテ。胴部~底部 ヘラケズリ後に胴部上半をナテ。内 面-口縁部ヨコナテ、胴部~底部ヘ ラナテ。	石英・白色粒 内外-褐色	3/4。

土、上層に焼土ブロックと炭化物ブロックを含む褐色土が堆積している。床には貼床を施さず、平坦に削り出した地山面を、そのまま床面としている。壁溝は存在しない。東隅に貯蔵穴を設けている。平面形は円形を呈し、立ち上がりは上位に傾斜を変換する箇所が存在する。底面は狭くほとんど平坦面を成形していない。この貯蔵穴とは別に、床面の中央南寄りにも浅い土坑を設けている。床面の中央北寄りには炉を設置している。床面を浅く掘り窪めて形成し、平面形は楕円形を呈し、58×66cmを測る。内部は2層に分かれ、下層にロームブロック含む灰褐色土、上層に焼土ブロック、炭化物ブロックを含む褐色土が堆積し、両層の間に部分的ながらも被熱層の形成が観察される。なお、炉とは別に、床面の2箇所で焼土ブロックの集中を確認している。貯蔵穴寄りの焼土ブロック集中では内部から炭化材の残片を検出している。重複するSI-23と同様にピットは確認できていない。

規模は一辺3.5m、確認面からの深さ30cmを測る。貯蔵穴は、長径70cm、底径15cm、床面からの深さ45cmを測る。



SI-24 土層説明

- 1 褐色土 焼土ブロック、炭化物ブロックを少量含む。
- 2 赤褐色土 焼土ブロックを主体とする。
- 3 灰褐色土 ロームブロックを少量含む。

図78 SI-24 炉平面および断面

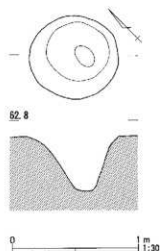


図79 SI-24 貯蔵穴平面および断面

遺物 (図80、写真26)

遺物は覆土中から小型の鉢1点が出土している。



図80 SI-24 出土土器

SI-24 出土土器観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土 師 器 ミニチュア	口径 5.5 底径 - 器高 4.3	丸底。体部上位に膨らみを持ち、口縁部は短く外反する。	外面→口縁部ナデ・指頭圧痕、体部→底部ナデ。内面→口縁部ココナデ、体部→底部指ナデ。	石英・黒色粒 内外→ぶい赤褐色	ほぼ定形。

SI-25

遺構 (図81、写真3)

G-21、H-21・22 グリッドに位置する。平面形は正方形を呈し、主軸方位はN-30°-Wを示す。

覆土にはロームブロックを含む黒灰褐色土が堆積している。床には貼床を施さず、平坦に削り出した地山面を、そのまま床面としている。壁溝は存在しない。貯蔵穴や炉・竈などの燃焼施設も確認できない。ピットは床面中央に検出のP1のみで、主柱穴は確認できない。

規模は一辺3.7m、確認面からの深さ10cmを測る。

遺物 (図82、写真26)

遺物は覆土中から埴1点が出土している。

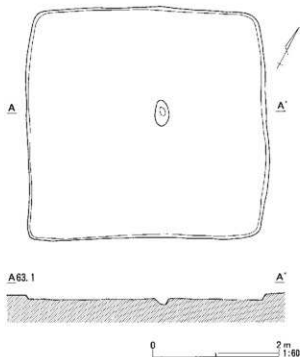


図81 SI-25 平面および断面

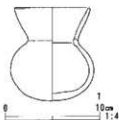


図82 SI-25 出土土器

SI-25 出土土器観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備 考
I	土 師 器 埴	口径 8.0 底径 - 器高 9.9	丸底。体部は磨らみを持つ。口縁部は直線の間にき、上位やや内湾する。	外面一口縁部ヨコナデ。体部～底部摩滅のため調整不明瞭。内面一口縁部ヨコナデ。体部～底部ナデ。	石英・チャート 内外～にふい橙色	一部欠損。

SI-26

遺構 (図83・84、写真3)

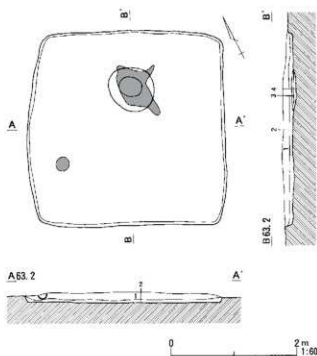
F-22・23 グリッドに位置する。平面形は正方形を呈し、主軸方位はN-30°-Eを示す。

覆土は2層に分かれ、下層に多量のロームブロックと礫を含む黄褐色土、上層にロームブロックと礫を含む暗褐色土が堆積している。床には貼床を施さず、平坦に削り出した地山面を、そのまま床面としている。壁溝は存在しない。貯蔵穴も確認できない。床面の中央北東寄りに炉を設置している。床面を浅く掘り窪めて形成し、平面形はやや楕円形を呈し、70×78cmを測る。上面は被熱面を形成し、内部にも焼土ブロックが堆積している。なお、炉とは別に、床面の西方に小さな焼土ブロックの集中を認める。ピットは確認できていない。

規模は一辺3.1m、確認面からの深さ20cmを測る。

遺物

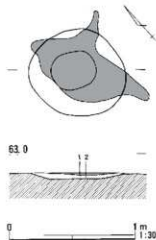
遺物は出土していない。



SI-26 土層説明

- 1 暗褐色土 焼土ブロック、小豆大の礫を少量含む。
- 2 黄褐色土 ロームブロックを多量に含み、小豆大の礫を少量含む。
- 3 赤褐色土 焼土ブロックからなる。
- 4 暗赤褐色土 焼土ブロックからなる。

図83 SI-26 平面および断面



SI-26 炉土層説明

- 1 赤褐色土 焼土ブロックからなる。
- 2 暗赤褐色土 焼土ブロックからなる。

図84 SI-26 炉平面および断面

SI-27

遺構 (図85~87、写真3)

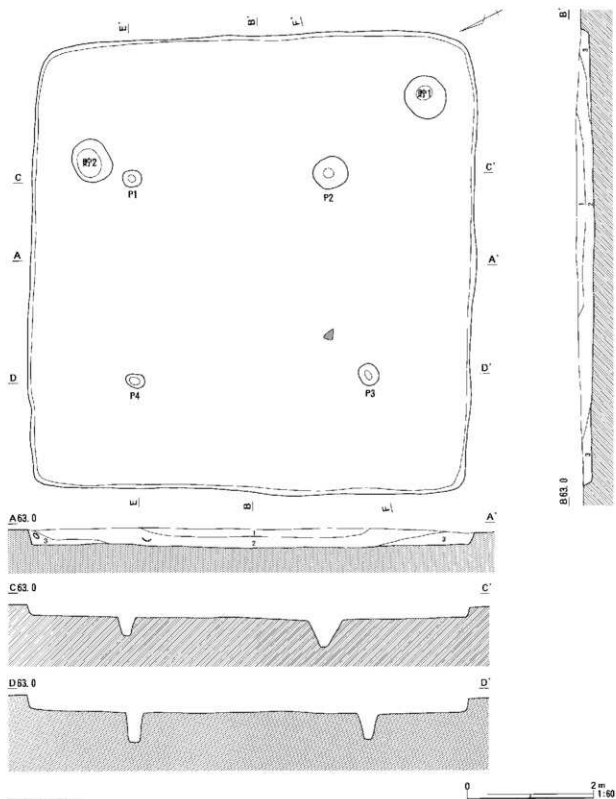
D-22・23、E-23グリッドに位置する。平面形は正方形を呈し、主軸方位はN-25°-Eを示す。

覆土は3層に分かれ、中央部分では下層に礫を含む暗褐色土、上層に白色バミスを含む褐色土が堆積し、壁よりにはロームブロックと礫を含む黄褐色土がみられる。床には貼床を施さず、平坦に削り出した地山面を、そのまま床面としている。壁溝は存在しない。南東隅に貯蔵穴を設けている。平面形はやや不整な円形を呈し、底面は平坦に成形している。また、これとは別にP1の北側にも貯蔵穴が存在する。平面形はやや不整な楕円形を呈し、掘り込みは南東隅の貯蔵穴に比べて浅く、底面は広く平坦に成形している。ピットはP1~P4の4基で、いずれも主柱穴と判断される。

規模は一辺7.1m、確認面からの深さ30cmを測る。南東隅の貯蔵穴は1が長径70cm、底径20cm、床面からの深さ50cm、P1脇の2が長径70cm、底径45cm、床面からの深さ20cmを測り、ピットの床面からの深さはP1が30cm、P2が40cm、P3が40cm、P4が50cmを測る。

遺物 (図88~91、写真27~29)

遺物は床面中央部を中心に杯・高杯・埴・鉢・小型甕・甕・壺などが出土している。器種組成は高杯・埴の占有率が高い。高杯は脚部の成形が薄く、14・18の脚部に小穿孔がある。埴は大型品が目立つ。壺は球状の胴部をもつ大型品で、口縁部に段を形成している。



SI-27 土層説明

- 1 褐色土 白色パミスを少量含む。
- 2 暗褐色土 大豆大以下の礫を少量含む。
- 3 黄褐色土 ロームブロックを少量含む、大豆大以下の礫を多量に含む。

図85 SI-27 平面および断面(1)

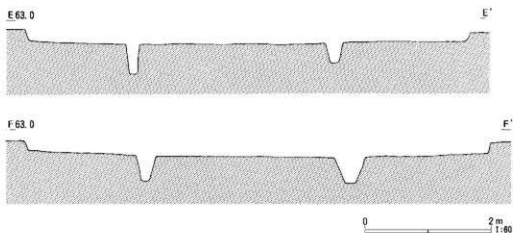


図86 SI-27 断面 (2)

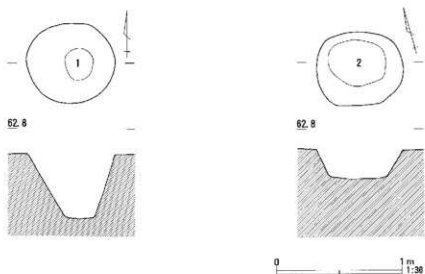


図87 SI-27 貯蔵穴平面および断面

SI-27 出土土器観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土器 杯	口径 20.4 底径 — 器高	丸底。体部は膨らみを持ち、口縁部は短くやや湾曲して開く。	外面—口縁部ヨコナテ、体部～底部ヘラケズリ後に体部上位ナテ。内面—口縁部ヨコナテ、体部上位本口状工具ナテ、下位～底部ナテ。	チャート・白色粒 内外—明赤褐色	1/3。
2	土器 杯	口径 12.8 底径 2.5 器高 5.8	小さな上げ底。体部は丸みを持って立ち上がり、口縁部は短く外反気味に開く。	外面—口縁部ヨコナテ、体部ヘラケズリ、底部ナテ。内面—口縁部ヨコナテ、体部～底部ナテ。	石英・チャート 内外—明赤褐色	4/5。
3	土器 高杯	口径 18.4 底径 14.8 器高 14.2	脚部は粘土掘巻き上げ成形。杯部下位に弱い稜を持ち、口縁部は外反気味に開く。脚部は下方に向かって広がる。裾部は大きく開き、脚部は上方に跳ねる。	外面—口縁部ヨコナテ、杯底部ヘラケズリ後ナテ、脚部本口状工具ナテ、裾部ヨコナテ。内面—口縁部～体部ヨコナテ、杯底部ナテ、脚部弱いナテ、裾部ナテ。	石英・白色粒 内外—明赤褐色	5/6。
4	土器 高杯	口径 (18.1) 底径 15.0 器高 14.9	杯部下位に弱い稜を持ち、口縁部は直線的に開く。脚部は下方に向かって広がりが、裾部は大きく開く。	外面—口縁部～杯体部ヨコナテ、杯底部指ナテ、脚部ヘラケズリ後ナテ、裾部ナテ。内面—口縁部～杯体部ヨコナテ、杯底部ナテ、脚部ヘラケズリ、裾部ナテ。	石英・白色粒 内外—褐色	2/3。

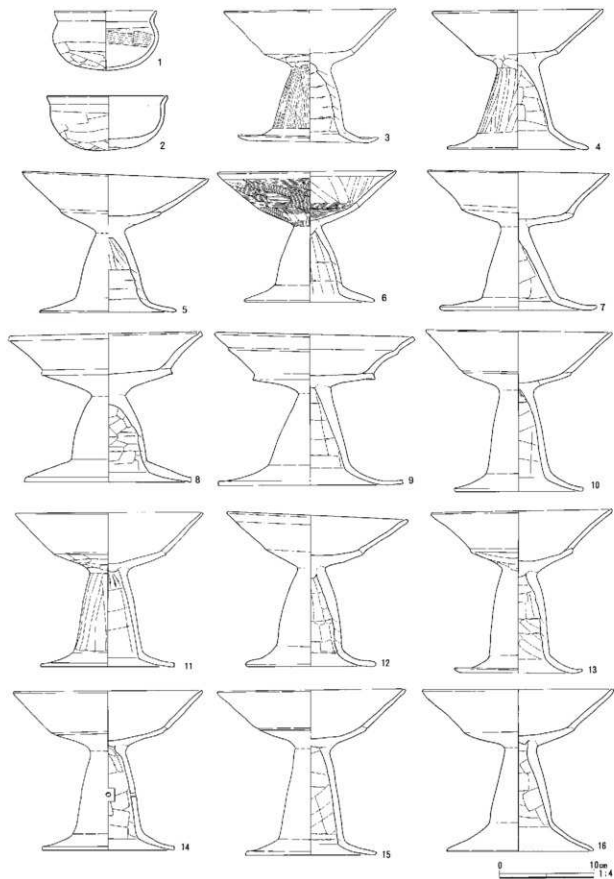


图88 SI-27 出土土器 (1)

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法的特徴	調整手法的特徴	胎土・色調	備考
5	土師器 高 杯	口径 19.8 底径 14.4 器高 15.1	杯部下に稜を持つ。口縁部は直線的に開き、肩部やや内湾する。脚部は下方に向かって広がり、裾部はやや外反して開く。	外面-口縁部~裾部ナテ。内面-口縁部~杯底部ナテ。脚部上位に絞り目、下位ナテ、裾部ナテ。	石英・白色粒 内外-明赤褐色	4/5。
6	土師器 高 杯	口径 (18.9) 底径 13.9 器高 13.7	杯部下にわずかな稜を持ち、口縁部はやや外反して開く。脚部は下方に向かって膨らみ、裾部は大きく開く。	外面-口縁部ヨコナテ、杯底部~底部ハケ目後に底部は一部ナテ。脚部~裾部ナテ。内面-口縁部ヨコナテ、杯底部ハケ目後ナテ、底部ハケ目、脚部~裾部ナテ。	石英・チャート 内外-明赤褐色	2/3。
7	土師器 高 杯	口径 19.3 底径 16.7 器高 15.0	杯部下に稜を持ち、口縁部は外反して開く。脚部は下方に向かって広がり、裾部は大きく開く。	外面-口縁部ヨコナテ。杯底部~裾部ナテ。内面-口縁部~杯底部ナテ、脚部ヘラケズリ、裾部ナテ。	石英・チャート 内外-明赤褐色	一部欠損。
8	土師器 高 杯	口径 20.6 底径 17.5 器高 15.9	杯部下に稜を持ち、口縁部はやや外反して開く。口唇部は面をなす。脚部は下方に膨らみを持つ。裾部は大きく開き、肩部は面をなす。	外面-口縁部~杯底部ヨコナテ、杯底部~脚部ナテ、裾部ヨコナテ。内面-口縁部~杯底部ヨコナテ、杯底部ナテ、脚部ヘラケズリ後に上位をナテ、裾部ナテ。	石英・チャート 内外-にぶい褐色	一部欠損。
9	土師器 高 杯	口径 21.2 底径 19.5 器高 16.2	杯部下に鱗状の稜を持つ。口縁部中位上に段を持ち、外反して開く。口唇部は面をなす。脚部は下方に向かって広がり、裾部は外反して開く。	外面-口縁部~杯底部ヨコナテ、杯底部摩滅のため調整不明瞭。脚部~裾部ナテ。内面-口縁部~杯底部ヨコナテ、杯底部ナテ、脚部ヘラケズリ、裾部ナテ。	石英・チャート 内外-褐色	4/5。
10	土師器 高 杯	口径 20.7 底径 15.6 器高 17.2	杯部下に稜を持ち、口縁部は外反気味に開く。脚部は下方に向かって広がり、裾部は大きく開く。	外面-口縁部ヨコナテ、杯底部~脚部ヘラケズリ後ナテ、裾部ナテ。内面-杯部は摩滅するがナテ、脚部はヘラケズリで上位に絞り目、裾部ナテ。	石英・チャート 内外-明赤褐色	一部欠損。
11	土師器 高 杯	口径 19.5 底径 14.0 器高 16.3	杯部下に稜を持つ。口縁部は外反気味に開き、口唇部は面をなす。脚部は下方に向かって広がる。裾部は大きく開き、頸口唇部は面をなす。	外面-口縁部ナテ、杯底部~脚部ヘラケズリ後ナテ、裾部ナテ。内面-杯部は摩滅するがナテ、脚部はヘラケズリで上位に絞り目、裾部ナテ。	石英・チャート 内外-にぶい褐色 外-褐色	5/6。
12	土師器 高 杯	口径 19.3 底径 (13.8) 器高 16.4	杯部下に弱い稜を持ち、口縁部は外反気味に開く。脚部は下方に向かって膨らみ、裾部は外反して開く。	外面-口縁部~裾部ナテ。杯部ヨコナテ。内面-口縁部~杯底部ナテ、脚部指ナテ、裾部ナテ。	石英・白色粒 内外-明赤褐色	4/5。
13	土師器 高 杯	口径 19.2 底径 13.5 器高 17.3	杯部下に稜を持ち、口縁部は外反して開く。脚部は下方に向かって広がり、裾部は外反して開く。	外面-口縁部~杯底部ヨコナテ、杯底部ヘラケズリ、脚部ナテ、裾部ヨコナテ。内面-口縁部~杯底部ヨコナテ、脚部ナテ、指ナテ、裾部ナテ。	石英・チャート 内外-褐色 外-明赤褐色	3/4。
14	土師器 高 杯	口径 20.0 底径 14.0 器高 16.9	杯部下位の稜部分に凹線が巡る。口縁部は直線的に開く。脚部は下方に向かって広がり、裾部は大きく開く。脚部中位に焼成前の小穿孔1。	外面-口縁部~裾部ナテ。内面-口縁部~杯底部ナテ、脚部上位に絞り目、以下ヘラケズリ、裾部ナテ。	石英・チャート 内外-赤色	3/4。
15	土師器 高 杯	口径 20.0 底径 13.8 器高 17.6	杯部下に稜を持ち、口縁部は外反気味に開く。脚部は下方に向かって直線的に広がり、裾部は大きく開く。	外面-口縁部~杯底部ヨコナテ、杯底部~脚部ヘラケズリ、裾部ナテ。	チャート・白色粒 内外-明赤褐色	一部欠損。
16	土師器 高 杯	口径 20.2 底径 15.5 器高 17.2	杯部下に弱い稜を持つ。口縁部は直線的に開き、端部わずかに内湾する。脚部は下方に向かって広がり、裾部はわずかに内湾する。	外面-口縁部~杯底部ヨコナテ、杯底部~裾部ナテ。内面-口縁部~杯底部ナテ、脚部ヘラケズリ、裾部ナテ。	石英・チャート 内外-にぶい褐色 外-褐色	2/3。
17	土師器 高 杯	口径 19.4 底径 15.9 器高 17.2	杯部下に稜を持ち、口縁部は外反気味に開く。脚部は下方に膨らみを持ち、裾部は外反して開く。	外面-口縁部~裾部ナテ。内面-口縁部~杯底部ナテ、脚部上位絞り目、下位ナテ、裾部ナテ。	石英・白色粒 内外-明赤褐色	3/4。
18	土師器 高 杯	口径 19.6 底径 14.1 器高 17.2	杯部下位の稜部分に凹線が巡る。口縁部は外反気味に開く。脚部は下方に向かって広がり、裾部は大きく開く。脚部中位に焼成前の小穿孔1。	外面-口縁部~裾部ナテ。内面-口縁部~杯底部ナテ、脚部ヘラケズリ、裾部ナテ。	石英・チャート 内外-明赤褐色	4/5。
19	土師器 高 杯	口径 20.2 底径 13.3 器高 17.0	杯部下に稜を持ち、口縁部は外反して開く。脚部は中位に膨らみを持ち、裾部は外反して開く。	外面-口縁部~杯底部ヨコナテ、杯底部~裾部ナテ。内面-口縁部~杯底部ナテ、脚部ヘラケズリ、裾部ナテ。	石英・チャート 内外-褐色	2/3。

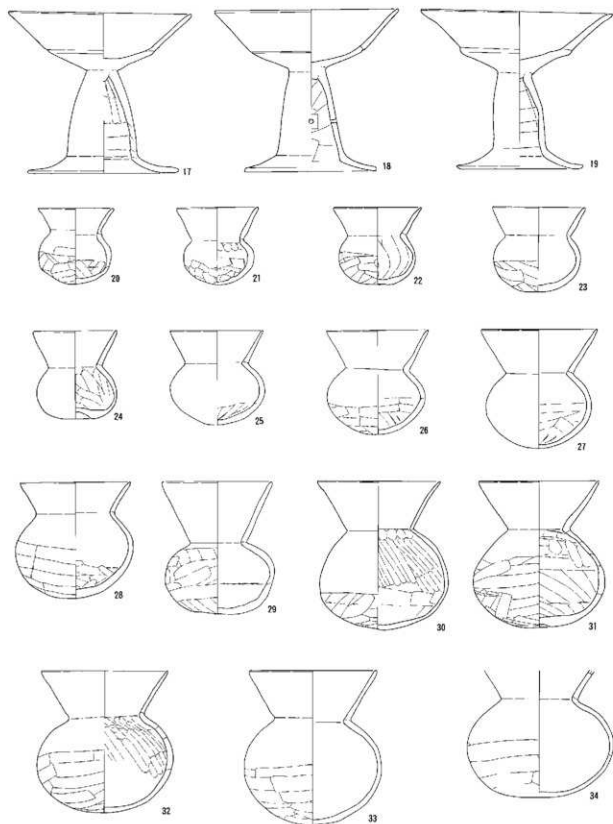


图89 SI-27 出土土器(2)

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備 考
20	土 師 器 埴 器	口径 8.0 底径 - 器高 8.0	丸底。体部は膨らみを持ち、口縁部は外反して開く。	外面-口縁部~体部上位ナデ、中位~底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ、体部~底部指ナデ。	石英・白色粒 内外-明赤褐色	一部欠損。
21	土 師 器 埴 器	口径 8.6 底径 - 器高 8.2	丸底。体部は膨らみを持つ。口縁部は湾曲気味に立ち上がり、上位は平や外反する。	外面-口縁部ヨコナデ、体部上半部ナデ、下半部~底部ヘラケズリ。内面-口縁部ナデ、頸部に指頭圧痕、体部~底部ヘラナデ。	石英・白色粒 内-陶灰色 外-明赤褐色	3/4。
22	土 師 器 埴 器	口径 (9.4) 底径 3.9 器高 8.2	平底。体部は膨らみを持ち、口縁部はわずかに外反して開く。	外面-口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ後に上位をナデ。内面-口縁部ナデ、体部~底部指ナデ。	チャート・白色粒 内-明黄褐色 外-褐色	3/4。
23	土 師 器 埴 器	口径 9.9 底径 - 器高 9.0	丸底。体部は膨らみを持ち、口縁部はわずかに湾曲して開く。	外面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラケズリ後に体部上位ナデ。内面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ナデ。	石英・白色粒 内外-明赤褐色	完形。
24	土 師 器 埴 器	口径 (8.9) 底径 3.5 器高 9.4	上げ底。体部は膨らみを持つ。口縁部は直線的に開き、端部わずかに内湾する。	外面-口縁部~底部ナデ。内面-口縁部ナデ、体部~底部指ナデ。	石英・白色粒 内外-明赤褐色	3/4。
25	土 師 器 埴 器	口径 9.8 底径 - 器高 10.0	丸底。体部は中位に膨らみを持ち、口縁部は湾曲気味に開く。	外面-厚減のため調整不明瞭。内面-口縁部は厚減、体部上半部ナデ、下半部~底部ヘラナデ。	石英・チャート 内外-褐色	完形。
26	土 師 器 埴 器	口径 10.6 底径 - 器高 10.9	丸底。体部は中位に膨らみを持ち、口縁部は直線的に開く。	外面-厚減のため調整不明瞭だが体部下下部~底部はヘラケズリ後ナデか。内面-口縁部は厚減、体部上半部ナデ、下半部~底部ヘラナデ。	石英・チャート 内外-ぶい褐色	一部欠損。
27	土 師 器 埴 器	口径 12.2 底径 - 器高 12.6	丸底。体部は中位に膨らみを持ち、口縁部は直線的に開く。	外面-厚減のため調整不明瞭。内面-口縁部は厚減、体部上半部ナデ、下半部~底部ヘラナデ。	粗砂粒・チャート 内外-明赤褐色	4/5。
28	土 師 器 埴 器	口径 11.6 底径 - 器高 12.3	丸底。体部は膨らみを持つ。口縁部は外反気味に開き、端部わずかに内湾する。	外面-口縁部ヨコナデ、体部上位ナデ、下位~底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ナデ・指ナデ。	石英・チャート 内外-明赤褐色	5/6。
29	土 師 器 埴 器	口径 11.7 底径 - 器高 14.0	底部は平坦気味の丸底。体部は膨らみを持つ。口縁部は長く直線的に開く。	外面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラケズリ後ナデ。内面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ナデ。	石英・白色粒 内-褐色 外-ぶい赤褐色	4/5。
30	土 師 器 埴 器	口径 13.0 底径 - 器高 15.6	丸底。体部は膨らみを持ち、口縁部は外反気味に開く。	外面-口縁部~体部上位ナデ、下位~底部ヘラケズリ。内面-口縁部ナデ、体部上位指頭圧痕・指ナデ、下位~底部ヘラナデ。	石英・チャート 内外-褐色	2/3。
31	土 師 器 埴 器	口径 (12.7) 底径 2.2 器高 15.5	小さな上げ底。体部は中位~下位に膨らみを持ち、口縁部はわずかに湾曲して開く。	外面-口縁部ヨコナデ、体部上位ナデ、中位以下ヘラケズリ、底部ナデ。内面-口縁部ヨコナデ、体部~底部指ナデ・指頭圧痕。	石英・チャート 内外-明赤褐色	1/2。
32	土 師 器 埴 器	口径 (13.4) 底径 - 器高 15.0	丸底。体部は膨らみを持ち、口縁部は直線的に開く。	外面-口縁部~体部上位ナデ、中位~底部ヘラケズリ。内面-口縁部ナデ、体部上位指ナデ、下位~底部ナデ。	石英・白色粒 内外-明赤褐色	1/2。
33	土 師 器 埴 器	口径 13.5 底径 - 器高 16.4	丸底。体部は丸く膨らみ、口縁部は湾曲気味に開く。	外面-口縁部ヨコナデ、体部上半部ナデ、下半部~底部ヘラケズリ後ナデ。内面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ナデ。	石英・白色粒 内外-褐色	7/8。
34	土 師 器 埴 器	口径 - 底径 - 器高 -	丸底。体部は膨らみを持ち、口縁部は直線的に開く。	外面-口縁部~体部上位ナデ、中位~底部ヘラケズリ。内面-口縁部~底部ナデ。	チャート・白色粒 内外-ぶい黄褐色	口縁部上半を欠損。
35	土 師 器 鉢	口径 (12.2) 底径 5.0 器高 3.8	体部は湾曲して立ち上がり、口縁部に至る。	外面-厚減のため調整不明瞭。内面-口縁部ナデ、体部~底部ヘラナデ。	チャート・白色粒 内外-明赤褐色	3/5。
36	土 師 器 鉢	口径 10.8 底径 4.4 器高 5.2	体部は湾曲して立ち上がり、上位に膨らみを持つ。口縁部は短く外反する。	外面-口縁部ヨコナデ、体部上~中位ナデ、下位ヘラケズリ後ナデ、底部ナデ。内面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ナデ。	石英・白色粒 内-ぶい褐色 外-褐色	4/5。

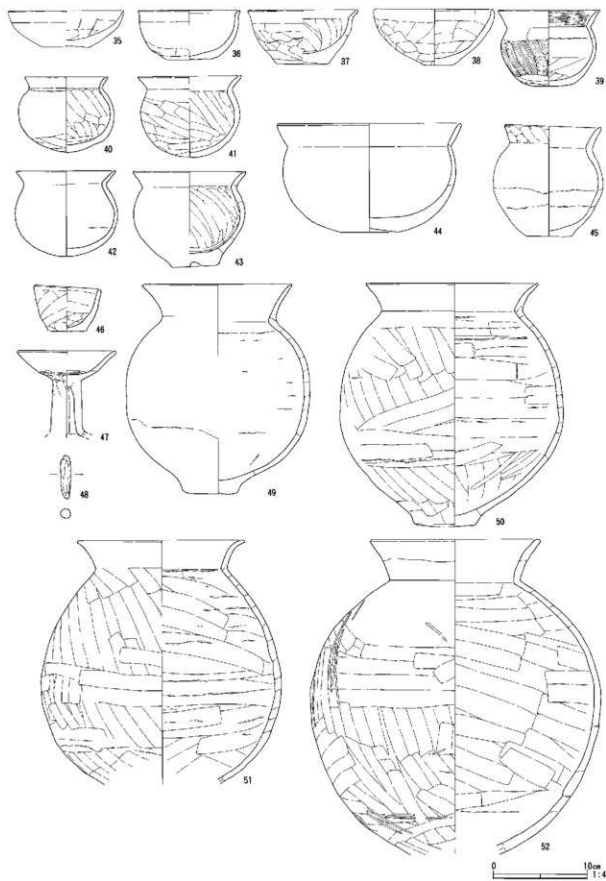


图90 SI-27 出土土器(3)

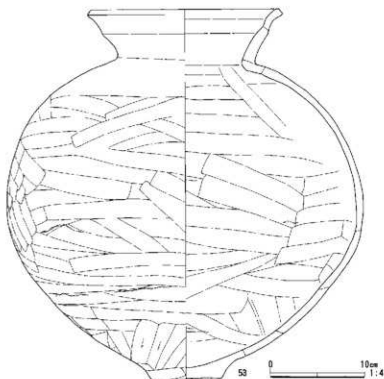


図91 SI-27 出土土器（4）

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
37	土器 鉢	口径 11.7 底径 5.7 器高 5.7	底部は中央部がわずかに窪む。体部は湾曲して立ち上がり、口縁部は短く外反する。	外面-口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ後ナデ、底部ナデ。内面-口縁部ヨコナデ、体部~底部指ナデ。	石英・白色粒 内-にふい赤褐色 外-明赤褐色	一部欠損。
38	土器 鉢	口径 12.5 底径 3.0 器高 6.0	体部は湾曲して立ち上がり、口縁部は内湾する。	外面-口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ後に上~中位をナデ、底部ヘラケズリ。内面-口縁部~底部ヘラケズリ。	石英・チャート 内-にふい褐色 外-褐色	一部欠損。
39	土器 鉢	口径 10.7 底径 3.0 器高 8.0	体部との境は不明瞭だが底部は平底。体部上位に膨らみを持ち、口縁部は外反気味に開く。	外面-口縁部ヨコナデ、体部は摩滅するがハケ目残る、体部下位~底部ヘラケズリ。内面-口縁部は摩滅するがハケ目残る、体部上半部ナデ、下半部~底部ヘラケズリ。	石英・白色粒 内外-褐色	一部欠損。
40	土器 鉢	口径 8.7 底径 - 器高 8.0	丸底。体部は中位に膨らみを持ち、口縁部は外反気味に開く。	外面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラケズリ後に体部中位以上をナデ。内面-口縁部ヨコナデ、体部~底部指ナデ。	石英・チャート 内外-明黄褐色	一部欠損。
41	土器 鉢	口径 (11.1) 底径 - 器高 8.6	丸底。体部は中位に膨らみを持ち、口縁部は外反気味に開く。	外面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラケズリ後に上半部をナデ。内面-口縁部ナデ、体部~底部指ナデで体部上位の一部に指頭圧痕。	石英・チャート 内外-にふい褐色	5/6。
42	土器 鉢	口径 10.5 底径 - 器高 9.0	丸底。体部は膨らみを持ち、口縁部は直線的に開く。	外面-口縁部ヨコナデ、体部~底部摩滅のため調整不明瞭。内面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ナデ。	石英・白色粒 内外-明赤褐色	一部欠損。
43	土器 鉢	口径 (12.0) 底径 4.5 器高 10.2	底部中央部が窪む。胴部は膨らみを持ち、口縁部は外反気味に開く。	外面-口縁部ヨコナデ、胴部~底部摩滅のため調整不明瞭。内面-口縁部ヨコナデ、胴部~底部指ナデ。	チャート・白色粒 内-褐色 外-にふい褐色	一部欠損。
44	土器 鉢	口径 19.6 底径 6.0 器高 11.5	上げ底。体部は丸みを持って立ち上がり、口縁部はやや湾曲して開く。	外面-摩滅のため調整不明瞭。内面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ナデ。	粗粒チャート 内外-褐色	4/5。

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
45	土 師 器 小 型 甕	口径 10.1 底径 4.9 器高 11.9	粘土総積み上げ成形。胴部は中位に膨らみを持ち、口縁部は湾曲気味に開く。	外面-口縁部ナテ・指頭圧痕、胴部は摩減のため調整不明瞭。底部ナテ。内面-口縁部は摩減、胴部ナテ、底部指ナテ。	石英・チャート 内外-褐色	ほぼ完形。
46	土 師 器 ミニチュア	口径 7.0 底径 3.9 器高 4.9	体部は湾曲して立ち上がり、口縁部に至る。	外面-口縁部ヨコナテ、体部ヘラケズリ後ナテ、底部ナテ。内面-口縁部~底部ヘラナテ。	石英・白色粒 内-オリーブ黒色 外-にぶい赤褐色	ほぼ完形。
47	土 師 器 ミニチュア	口径 (10.4) 底径 - 器高 (9.1)	粗雑なつくり。坏部下に不明瞭な痕を持ち、口縁部は外反して開く。脚部は円筒状。	外面-口縁部~脚部の一部にナテ痕があるが、摩減のため調整不明瞭。内面-坏部摩減するが、一部にミガキ残る。脚部ナテ。	チャート・黒色粒 内-褐灰色 外-にぶい褐色	胴部欠損。
48	土 師 器	長さ 4.7 径 1.1	棒状の土製品。	全体をナテ。	石英・チャート 赤褐色	重さ：5.04g。
49	土 師 器 甕	口径 15.8 底径 5.7 器高 22.1	粘土総積み上げ成形。胴部は膨らみを持ち、口縁部はやや外反して開く。	外面-摩減のため調整不明瞭。内面-口縁部摩減、胴部ヘラナテ。	チャート・白色粒 内-にぶい黄褐色 外-明赤褐色	1/2。
50	土 師 器 甕	口径 18.3 底径 6.6 器高 25.8	粘土総積み上げ成形。胴部は膨らみを持ち、口縁部はやや外反して開く。	外面-口縁部ヨコナテ、胴部ヘラケズリ後ナテ、底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナテ、体部~底部ヘラナテ。	石英・チャート 内-褐色 外-にぶい褐色	1/2。
51	土 師 器 甕	口径 17.7 底径 - 器高 -	胴部は中位~下位に膨らみを持ち、口縁部は外反して開く。	外面-口縁部ヨコナテ、胴部ヘラケズリ後ナテ。内面-口縁部ヨコナテ、胴部ヘラナテ。	石英・白色粒 内外-褐色	1/2。 底部欠損。
52	土 師 器 壺	口径 (18.0) 底径 - 器高 -	粘土総積み上げ成形。胴部は中位が大きく膨らみ、口縁部は外反して開く。	外面-口縁部ヨコナテ、胴部ヘラケズリ後ナテ、一部にミガキ。内面-口縁部ヨコナテ、胴部ヘラナテ。	チャート・白色粒 内外-褐色	1/2。 底部欠損。
53	土 師 器 壺	口径 20.7 底径 7.5 器高 39.3	中位に大きな膨らみを持つ胴部。口縁部は中位に段を持ち、外反して開く。	外面-口縁部ヨコナテ、胴部ヘラケズリ後下位を除きナテ、底部ヘラケズリ。内面-口縁部ナテ、胴部~底部ヘラナテ。	粗粒チャート 内-にぶい赤褐色 外-にぶい褐色	1/2。

SI-28

遺構 (図92~94、写真3)

N-18・19、O-18グリッドに位置する。平面形は正方形を呈し、主軸方位はN-5°-Eを示す。

覆土は主にロームブロックと礫を含む暗褐色土が堆積し、西壁寄りにはロームブロックや焼土ブロック、灰褐色土ブロック含む暗褐色土がみられる。床には貼床を施さず、平坦に削り出した地山面を、そのまま床面としている。全周する明瞭な壁溝を備え、覆土には部分的にロームブロックを含む暗褐色土が堆積している。南東隅に貯蔵穴を設けている。平面形はやや不整な隅丸方形を呈し、底面は平坦に成形している。炉・竈などの燃焼施設は確認できないが、南壁際の床面に焼土ブロックの集中を確認できる。ピットはP1~P4の4基で、いずれも主柱穴と判断される。

規模は長辺8.8m、短辺8.5m、確認面からの深さ30cmを測る。貯蔵穴は、長径95cm、底径40cm、床面からの深さ55cmを測り、ピットの床面からの深さはP1が70cm、P2が75cm、P3が70cm、P4が75cmを測る。

遺物 (図95、写真30)

遺物は床面からやや浮いた状態で有段脚高坏・鉢・甕が出土している。鉢は平底で、内屈する口縁部をもつ。

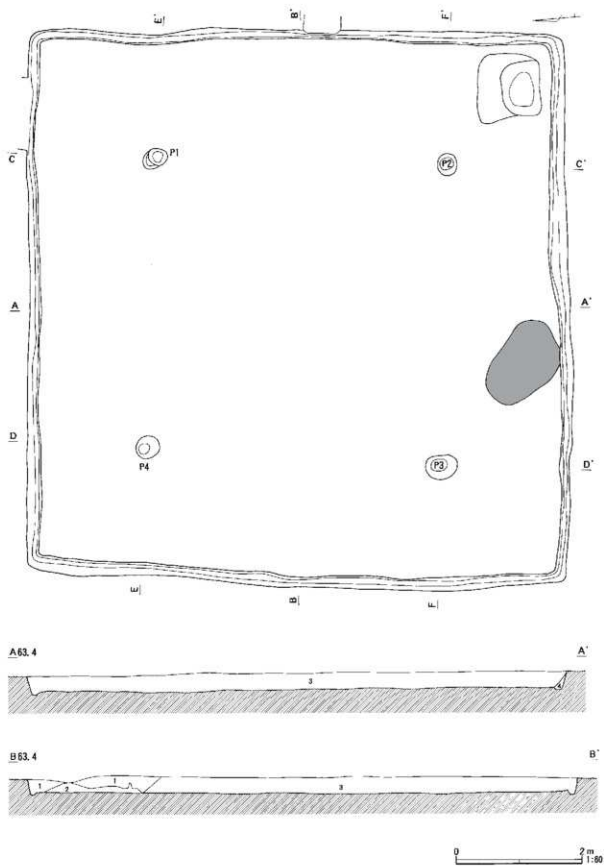
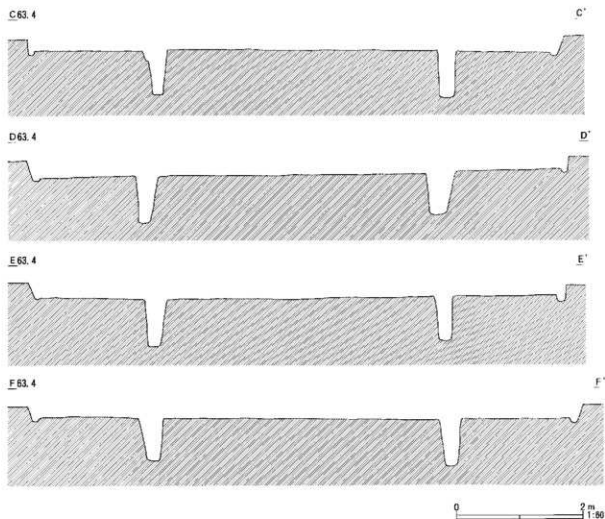


図92 SI-28 平面および断面(1)



SI-28 土層説明

- 1 褐色土 ロームブロックをごく少量含む。 3 暗褐色土 ロームブロック、空豆大以下の礫を少量含む。
 2 褐色土 焼土ブロック、灰褐色土ブロックを多量に含む。 4 暗褐色土 ロームブロックを少量含む。

図93 SI-28 断面 (2)

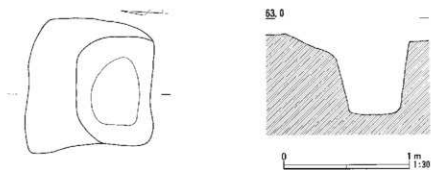


図94 SI-28 貯蔵穴平面および断面

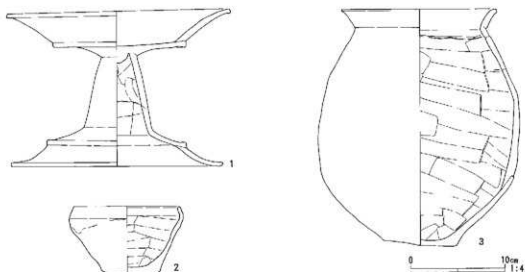


図95 SI-28 出土土器

SI-28 出土土器観察表

No	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土器 高 罎	口径 23.6 底径 22.2 器高 16.5	坏部下位に楯状の稜を持つ。口縁部は外反して開き、口唇部は面をなす。脚部は下方に向かって広がる。胴部は中位に楯状の段を持ち。外反して大きく開く。	外面→厚減のため調整不明瞭。内面→口縁部～坏部ココナテ、坏底部ナテ、脚部ヘラケズリ・一部ナテ、裾部ナテ。	石英・白色粒 内外→明赤褐色	一部欠損。
2	土器 鉢	口径 11.3 底径 6.2 器高 7.2	粗雑なつくり。体部は直線的に開き、口縁部は内湾する。	外面→口縁部ココナテ、体部～底部ナテ。内面→口縁部ナテ、体部～底部強いヘラナテ。	石英・白色粒 内→赤褐色 外→にぶい黄褐色	2/3。
3	土器 甕	口径 16.5 底径 7.7 器高 25.1	胴部は卵形を持ち。口縁部はやや外反して開く。	外面→口縁部ココナテ、胴部～底部ナテ。内面→口縁部ココナテ、胴部～底部ヘラナテ。	チャート・白色粒 内外→明赤褐色	一部欠損。

SI-29

遺構 (図96・97、写真3)

M-18・19グリッドに位置する。平面形は正方形を呈し、主軸方位はN-30°-Wを示す。南壁中央がSI-30と重複し、一部を失っている。床面の中央を南東から北西方向に斜めに横切るSD-11はSI-29よりも古い。

覆土は4層に分かれ、中央部分では焼土ブロック、炭化物ブロックを含む褐色土が堆積し、壁よりにはロームブロックと礫を含む暗褐色土がみられる。床には貼床を施さず、平坦に削り出した地山面を、そのまま床面としている。ほぼ全周する明瞭な壁溝を備え、覆土には風化ロームを主体とする黄褐色土やロームブロックを含む暗褐色土が堆積している。南西隅に貯蔵穴を設けている。平面形はほぼ円形を呈し、底面は平坦に成形している。炉・竈などの燃焼施設は確認できない。

なお、南西隅には、「L」字形をなす土手状の遺構が見られる。地山層を削り出して形成し、貯蔵穴を区画するようにして、南壁と西壁の壁溝にまで達している。ピットはP1～P5の5基で、このうちP1～P4は主柱穴である。

規模は一辺6.0m、確認面からの深さ20cmを測る。貯蔵穴は、長径65cm、底径45cm、床面からの深さ30cmを測り、ピットの床面からの深さはP1が60cm、P2が50cm、P3が60cm、P4が50cmを測る。

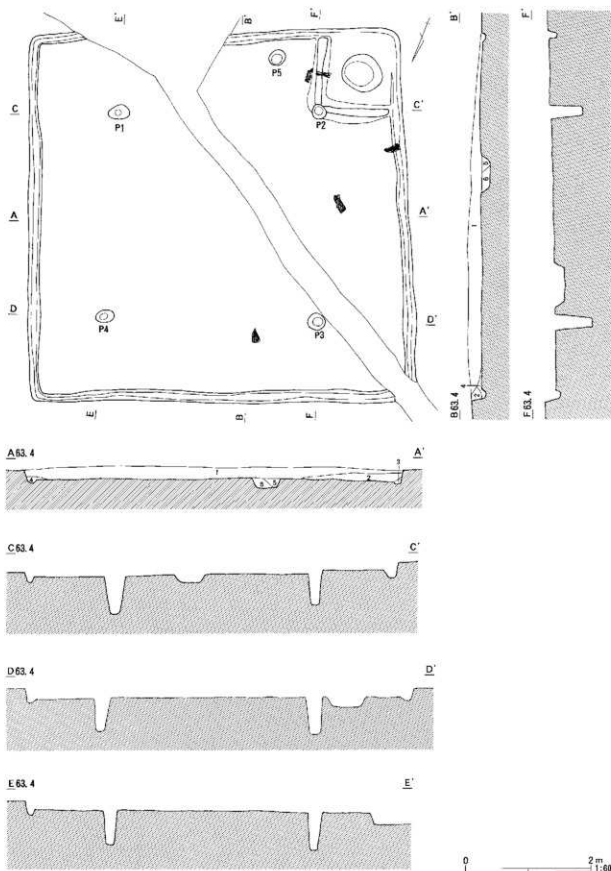


図96 SI-29 平面および断面

SI-29 土層説明

- | | | | |
|--------|-----------------------|---------|-----------------------------------|
| 1 褐色土 | 焼土ブロック、炭化ブロックを少量含む。 | 4 暗褐色土 | ロームブロックを多量に含む。 |
| 2 暗褐色土 | ロームブロック、小豆大以下の礫を少量含む。 | 5 暗黄褐色土 | ロームブロックを多量に含む、小豆大礫を少量含む。SD-12の覆土。 |
| 3 黄褐色土 | 風化ロームを主体とする。しまり弱。 | 6 暗褐色土 | ロームブロックを多量に含む。SD-12の覆土。 |

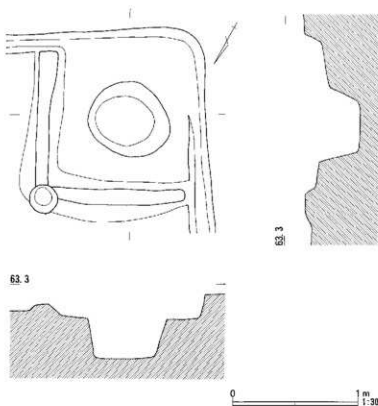


図97 SI-29 貯蔵穴平面および断面

遺物 (図98、写真30)

遺物は床面中央部を中心に埴・甕が出土している。このほか、床面の各所に炭化材の残片が散在している。

SI-29 出土土器観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 埴	口径 (7.8) 底径 3.0 器高 8.7	わずかな上げ底。体部はならみを持ち、口縁部は直線的に開く。	外面一厚減のため調整不明瞭。内面一口縁部は厚減のため調整不明瞭。体部～底部ナテ。	石英・白色粒 内外～褐色	4 / 5。
2	土師器 埴	口径 8.6 底径 - 器高 10.0	丸底。体部はならみを持ち、口縁部はやや湾曲して開く。	外面一口縁部ナテ、体部～底部ヘラケズリ後に体部上位をナテ。内面一口縁部～底部ナテ。	石英・白色粒 内外～褐色	ほぼ完形。
3	土師器 埴	口径 11.0 底径 - 器高 11.2	丸底。体部はならみを持つ。口縁部は外反気味に開き、上位わずかに内湾する。	外面一口縁部ヨコナテ、体部～底部ヘラケズリ後に体部上位～中位ナテ。内面一口縁部～底部ナテ。	石英・白色粒 内外～ぶい褐色	ほぼ完形。
4	土師器 甕	口径 16.9 底径 5.6 器高 27.0	胴部は中位にならみを持ち、口縁部はやや外反して開く。	外面一口縁部ヨコナテ、胴部ヘラケズリ後ナテ、底部ナテ。内面一口縁部ヨコナテ、胴部～底部ヘラナテ。	石英・チャート 内外～明赤褐色	一部欠損。

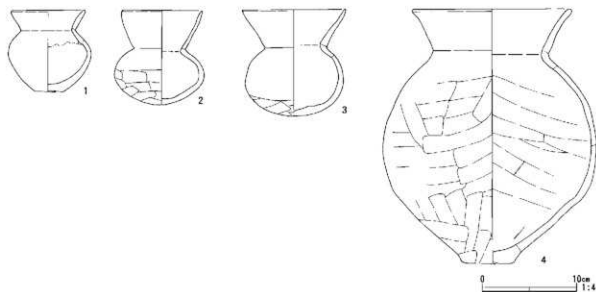


図98 SI-29 出土土器

SI-30

遺構 (図99~101、写真3)

L-18・19、M-18・19 グリッドに位置する。平面形は正方形を呈し、主軸方位はN-85°-Eを示す。床面の北半東方向に横切るSD-11 はSI-29 よりも古い。

覆土は7層に分かれ、中央部分では下層にロームブロックを多量に含む黄褐色土、上層に礫を含む暗色土が堆積し、壁寄りには多量のロームブロックや焼土ブロックと炭化物ブロックを含む褐色土または焼土ブロックを多量に含む灰褐色土、ロームブロックを多量に含む黄褐色土がみられる。壁溝は存在しない。南東隅に貯蔵穴を設けている。平面形は不整な長円形を呈し、底面は平坦に成形している。東壁にはカマドを備えている。袖部は地山層の削り出しによって成形し、燃焼部は壁内にあって、内部に逆位の高坏を据えて支脚としている。煙道部は上方に取り付けられていたためか確認できない。ピットはP1~P4の4基で、いずれも主柱穴と判断される。

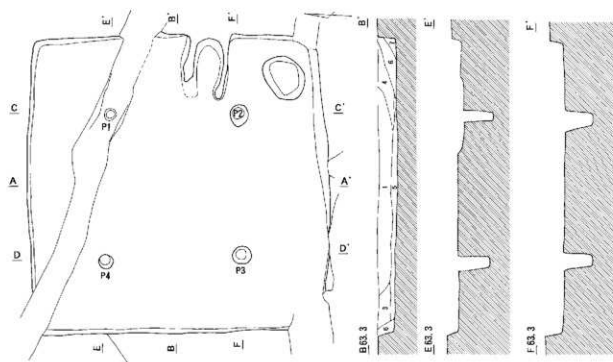
規模は一辺4.8m、確認面からの深さ30cmを測る。貯蔵穴は長径75cm、底径55cm、床面からの深さ30cmを測り、ピットの床面からの深さはP1が50cm、P2が45cm、P3が45cm、P4が50cmを測る。

遺物 (図102、写真30)

遺物は覆土中から坏が出土している。内斜口縁坏と直立する口縁部の内外面にヨコナデを加える須恵器坏蓋指向の坏が見られるが、典型的な須恵器坏蓋模倣坏は含まれない。

SI-30 出土土器観察表

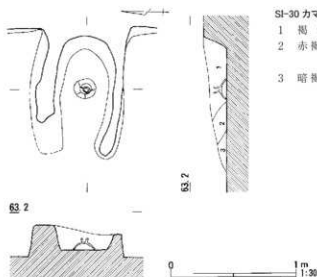
No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備 考
1	土 部 器 坏	口径 13.9 底径 - 器高 5.4	丸底。内斜口縁。	外面~口縁部ヨコナデ、体部~底部 摩滅するがヘラケズリ。内面~口縁 部~底部ナデ。	石英・チャート 内外~橙色	一部欠損。
2	土 脚 器 坏	口径 11.3 底径 - 器高 5.8	丸底。口縁部は体部との境に弱い稜 を持ち、やや内湾する。	外面~口縁部ヨコナデ、体部~底部 ヘラケズリ。内面~口縁部ヨコナデ、 体部~底部ヘラナデ。	石英・白色粒 内外~明赤褐色	完形。



SI-30 土層説明

- | | | | |
|--------|-----------------------------------|---------|-----------------------------------|
| 1 暗褐色土 | 大豆大以下の礫を少量含む。 | 5 黄褐色土 | ロームブロックを多量に含む。 |
| 2 暗褐色土 | ロームブロックを少量含む。 | 6 灰褐色土 | 焼土ブロックを多量に含む。 |
| 3 褐色土 | ロームブロックを多量に含む。 | 7 黄褐色土 | ロームブロックを多量に含む。 |
| 4 褐色土 | ロームブロックを多量に含む、焼土ブロック、炭化ブロックを少量含む。 | 8 暗黄褐色土 | ロームブロックを多量に含む、小豆大礫を少量含む。SD-12の覆土。 |

図99 SI-30 平面および断面



SI-30 カマド土層説明

- 1 褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 2 赤褐色土 柔らかい焼土を主体とし、ロームブロックを少量含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロック、焼土ブロックを少量含む。

図100 SI-30 カマド平面および断面

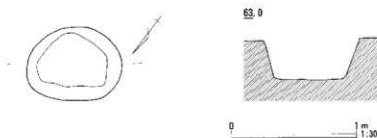


図101 SI-30 貯蔵穴平面および断面

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
3	土部器 坏	口径 13.4 底径 3.5 器高 5.7	口縁部は体部との境に弱い稜を持ち、わずかに両面して立ち上がる。	外面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ナデ。	石英・チャート 内-褐色 外-明赤褐色	2/3。
4	土部器 坏	口径 12.7 底径 4.1 器高 5.8	丸底気味の平底。口縁部はわずかに内傾して立ち上がる。	外面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ナデ。内面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ナデ。	石英・白色粒 内外-明赤褐色	3/4。
5	土部器 坏	口径 13.6 底径 - 器高 5.7	丸底。口縁部はわずかに内傾して立ち上がる。	外面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラケズリ後ナデ。内面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ナデ。	石英・チャート 内外-明赤褐色	一部欠損。

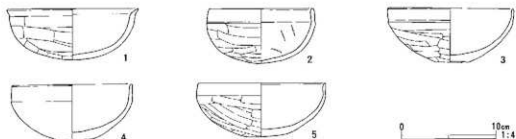


図102 SI-30 出土土器

SI-31

遺構 (図103、写真3)

N-19、O-19・20 グリッドに位置する。平面形は長方形を呈し、主軸方位はN-25°-Eを示す。

覆土は2層に分かれ、下層に礫を含む黄褐色土、上層に礫を多量に含む暗褐色土が堆積している。床には貼床を施さず、平坦に削り出した地山面を、そのまま床面としている。壁溝は存在しない。P3の南西側に貯蔵穴状の土坑を設けている。平面形は一隅が外に広がった隅丸方形で、底面は平坦に成形している。炉・竈などの燃焼施設は確認できない。ピットはP1～P4の4基で、いずれも主柱穴と判断される。

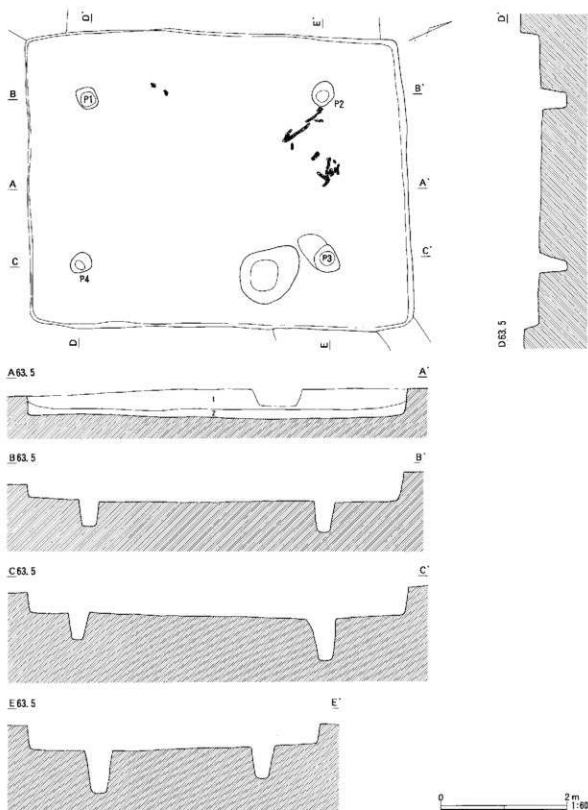
規模は長辺6.0m、短辺4.7m、確認面からの深さ45cmを測る。ピットの床面からの深さはP1が40cm、P2が50cm、P3が65cm、P4が45cmを測る。

遺物 (図104、写真30・31)

遺物は床面中央部を中心に埴・埴・鉢・小型甕・甕などが出土している。P2の南東側床面には棒状の炭化材が集中する。

SI-31 出土土器観察表

No	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土 師 器 埴	口径 12.5 底径 - 器高 7.5	丸底。体部は丸みを持って立ち上がり、口縁部は短くやや湾曲して開く。	外面→厚減のため調整不明瞭。内面→口縁部ナデ、体部ヘラナデ、底部指ナデ。	石英・白色粒 内外→橙色	一部欠損。
2	土 師 器 埴	口径 8.2 底径 2.2 器高 7.1	小さな丸底。体部は膨らみを持ち、口縁部は直線的に開く。	外面→厚減のため調整不明瞭。内面→口縁部厚減、体部～底部指ナデ。	石英・白色粒 内外→橙色	3/4。
3	土 師 器 埴	口径 8.4 底径 - 器高 -	体部は膨らみを持ち、口縁部は直線的に開く。	外面→口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ後に上位ナデ。内面→口縁部ヨコナデ、体部指ナデ。	チャート・白色粒 内→ふい橙色 外→橙色	3/4。 底部欠損。
4	土 師 器 埴	口径 8.5 底径 - 器高 8.1	丸底。体部は膨らみを持ち、肩部がやや張る。口縁部は直線的に開く。	外面→口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ後に上位をナデ。内面→口縁部ヘラナデ、体部～底部指ナデ。	石英・白色粒 内→灰赤褐色 外→ふい赤褐色	3/4。
5	土 師 器 埴	口径 9.3 底径 1.8 器高 8.3	わずかな上げ底。体部は膨らみを持ち、口縁部はやや湾曲して開く。	外面→口縁部上端ヨコナデ、以下ナデ。体部ヘラケズリ後に中位以上をナデ。内面→口縁部ヘラナデ、体部～底部指ナデ。	石英・チャート 内外→橙色	完形。
6	土 師 器 埴	口径 8.8 底径 - 器高 8.7	丸底。体部は下位に張りを持つ。口縁部はやや湾曲して開く。	外面→口縁部ヨコナデ、体部上位厚減のため調整不明瞭。下位～底部ヘラケズリ。内面→口縁部ヘラナデ、体部～底部指ナデ。	チャート・白色粒 内外→橙色	一部欠損。
7	土 師 器 埴	口径 9.5 底径 - 器高 8.8	丸底。体部は膨らみを持ち、口縁部はやや湾曲して開く。	外面→厚減のため調整不明瞭。内面→口縁部厚減、体部上位ナデ、中位～底部指ナデ。	石英・チャート 内→ふい黄褐色 外→明黄褐色	一部欠損。
8	土 師 器 埴	口径 14.2 底径 - 器高 16.0	丸底。胴部は膨らみを持つ。口縁部は直線的に開き上端部やや褶曲する。	外面→口縁部ヨコナデ、体部上位～中位ナデ。下位～底部ヘラケズリ後ナデ。内面→口縁部ヘラナデ、体部～底部ナデ・ヘラナデ。	チャート・白色粒 内外→橙色	ほぼ完形。
9	土 師 器 鉢	口径 8.2 底径 5.0 器高 6.2	上げ底。体部は湾曲して立ち上がり、口縁部はやや内傾する。	外面→口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。内面→口縁部ヨコナデ、体部上位ヘラナデ。下位～底部指ナデ。	石英・白色粒 内外→ふい橙色	5/6。
10	土 師 器 ミニチュア	口径 (10.5) 底径 4.7 器高 5.4	粘土組織み上げ成形。体部はやや湾曲して立ち上がる。	外面→口縁部～体部積み上げ痕が顕著に残る。指原庄痕・ナデ、底部ナデ。内面→口縁部～底部ヘラナデ。	石英・白色粒 内→ふい橙色 外→橙色	2/3。



SI-31 土層説明

- 1 暗褐色土 空豆大以下の礫を多量に含む。
- 2 褐色土 大豆大以下の礫を少量含む。

図103 SI-31 平面および断面

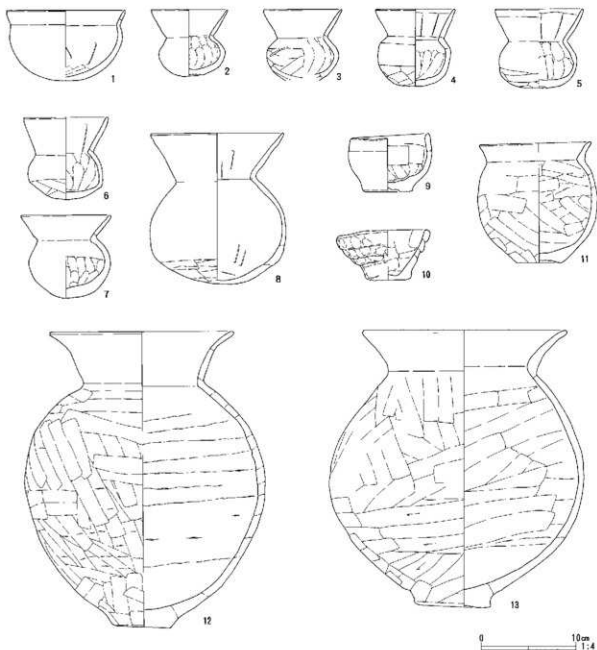


図104 S1-31 出土土器

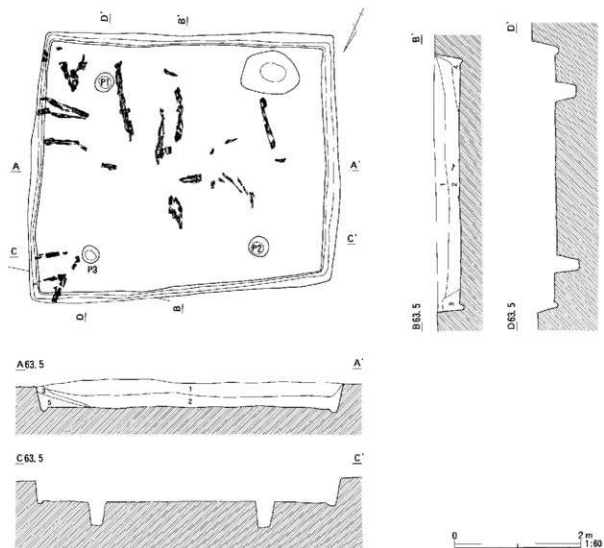
No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
11	土器 小型甕	口径 11.8 底径 4.8 器高 12.7	上げ底気味の底部。胴部は膨らみを持ち、口縁部は短く外反して開く。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ後ナデ。底部ナデ。内面-口縁部ナデ、胴部~底部ヘラナデ。	石英・チャート 内外-明赤褐色	1/3。
12	土器 甕	口径 19.5 底径 6.2 器高 31.3	粘土組織積み上げ成形。胴部は膨らみを持ち、口縁部は外反して開く。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ後ナデ。底部ヘラケズリ。内面-口縁部ナデ、胴部~底部ナデで積み上げ痕が顕著に残る。	石英・チャート 内外-明赤褐色	一部欠損。
13	土器 甕	口径 21.7 底径 8.1 器高 29.3	胴部は中位が大きく膨らむ。口縁部は外反して開く。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ後に上半部ナデ、底部ナデ。内面-口縁部ヨコナデ、胴部~底部ヘラナデ。	片岩・粗粒チャート 内外-ぶい黄褐色	4/5。

SI-32

遺構 (図105・106、写真3)

N-19・20 グリッドに位置する。平面形は歪んだ方形を呈し、主軸方位はN-25°-Wを示す。

覆土は5層に分かれ、中央部分では下層に多量のロームブロックと礫を含む暗褐色土、上層に礫を多量に含む暗褐色土が堆積し、壁寄りには焼土ブロックと褐色土を多量に含む赤褐色土、多量のロームブロックと焼土ブロックを含む褐色土、ロームブロック、炭化物ブロック、礫を含む暗褐色土がみられる。床には貼床を施さず、平坦に削り出した地山面を、そのまま床面としている。ほぼ全周する明瞭な壁溝を備える。南西隅に貯蔵穴を設けている。平面形はやや不整な長円形を呈し、底面は平坦



SI-32 土層説明

- | | |
|---|---|
| <p>1 暗褐色土 野球ボール大以下の礫を多量に含む。</p> <p>2 暗褐色土 ロームブロックを多量に含み、大豆大以下の礫を少量含む。</p> <p>3 赤褐色土 焼土ブロック、褐色土ブロックを多量に含む。</p> | <p>4 褐色土 ロームブロックを多量に含み、焼土ブロックを少量含む。</p> <p>5 暗褐色土 ロームブロック、炭化物ブロック、大豆大以下の礫を少量含む。</p> |
|---|---|

図105 SI-32 平面および断面

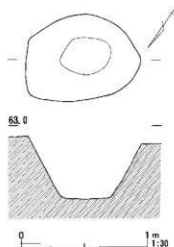


図106 SI-32 貯蔵穴平面および断面

に成形している。炉・竈などの燃焼施設は確認できない。ピットはP1～P3の3基で、いずれも主柱穴と判断されるが、他の住居跡に比べやや壁側に寄った位置に設置している。

規模は長辺4.9m、短辺4.1m、確認面からの深さ45cmを測る。貯蔵穴は長径90cm、底径45cm、床面からの深さ45cmを測り、ピットの床面からの深さはP1が35cm、P2が40cm、P3が40cmを測る。

遺物 (図107、写真31・32)

遺物は床面中央部を中心に高坏・埴・鉢・小型甕・甕・甕などが出土している。床面中央から東壁際を中心に、住居の構造材と考えられる棒状の炭化材が集中する。

SI-32 出土土器観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手の特徴	調整手の特徴	胎土・色調	備 考
1	土 部 器 高 坏	口径 19.1 底径 15.0 器高 16.4	坏部下位におわずかな稜を持ち、口縁部はわずかに湾曲して開く。肩部は下方に向かって膨らみを持ち、腹部は大きく開く。	外面-口縁部～坏体部ナテ、坏底部ヘラケズリ、脚部ナテ、裾部ココナテ。内面-口縁部～坏体部ココナテ、坏底部ヘラナテ、脚部上位に絞り目、下位指ナテ、裾部ナテ。	石英・チャート 内外-明赤褐色	3/4。
2	土 部 器 高 坏	口径(22.2) 底径(16.8) 器高 16.5	坏部下位に稜を持ち、口縁部は外反して開く。脚部は下方に向かって広がり、肩部は水平方向に開く。脚部中位に焼成前の小穿孔1。	外面-口縁部～坏体部ナテで下位の一部を口状工具ナテ、坏底部ナテ、脚部ヘラケズリ後ナテ、裾部ナテ。内面-口縁部～坏底部ナテ、脚部上位絞り目、下位指ナテ、裾部ナテ。	チャート・白色粒 内外-褐色	1/2。
3	土 部 器 埴	口径 11.6 底径 — 器高 8.0	体部は膨らみを持ち、口縁部はやや湾曲して開く。	外面-体部下位にヘラケズリ痕があるが摩滅のため調整不明瞭。内面-口縁部摩滅、体部～底部指ナテ・指頭圧痕。	チャート・白色粒 内外-明赤褐色	4/5。
4	土 部 器 埴	口径 8.9 底径 3.0 器高 8.3	上げ底。体部は膨らみを持つ。口縁部は直線的に開き、肩部がやや内湾する。	外面-口縁部～体部中位ナテ、体部下位ヘラケズリ、底部ナテ。内面-口縁部～体部上位ナテ、体部中位～底部指ナテ。	石英・白色粒 内-赤褐色 外-明赤褐色	5/6。
5	土 部 器 埴	口径 9.3 底径 3.8 器高 7.9	上げ底。体部は下位に張りを持ち、口縁部はわずかに湾曲して開く。	外面-口縁部～体部上位ナテ、体部下位～底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヘラナテ、体部～底部指ナテ。	石英・チャート 内外-明赤褐色	ほぼ完形。
6	土 部 器 埴	口径 8.4 底径 — 器高 8.5	丸底。体部は膨らみを持ち、肩部がやや張り。口縁部は直線的に開き、肩部がやや内湾する。	外面-口縁部ココナテ、体部～底部ヘラケズリ後に体部上位ナテナテ。内面-口縁部ヘラナテ、体部～底部指ナテ。	石英・チャート 内外-明赤褐色	ほぼ完形。
7	土 部 器 埴	口径 9.6 底径 — 器高 9.4	丸底。体部は膨らみを持ち、口縁部はわずかに湾曲して開く。	外面-口縁部ココナテ、体部上位ナテ、体部中位～底部ヘラケズリ。内面-口縁部ナテ、体部ナテ、底部指ナテ。	石英・チャート 内-ふい褐色 外-ふい褐色	完形。
8	土 部 器 埴	口径 9.6 底径 4.2 器高 9.3	上げ底。体部は膨らみを持ち、口縁部はわずかに湾曲して開く。	外面-口縁部ナテ、体部上位ハケ目、下位～底部ナテ。内面-口縁部～底部ナテ。	石英・白色粒 内外-褐色	一部欠損。
9	土 部 器 鉢	口径 13.7 底径 (4.0) 器高 7.4	体部は湾曲して立ち上がり、口縁部はわずかに内湾する。	外面-摩滅のため調整不明瞭。内面-ナテと思われるが摩滅のため調整不明瞭。	石英・白色粒 内外-褐色	2/3。

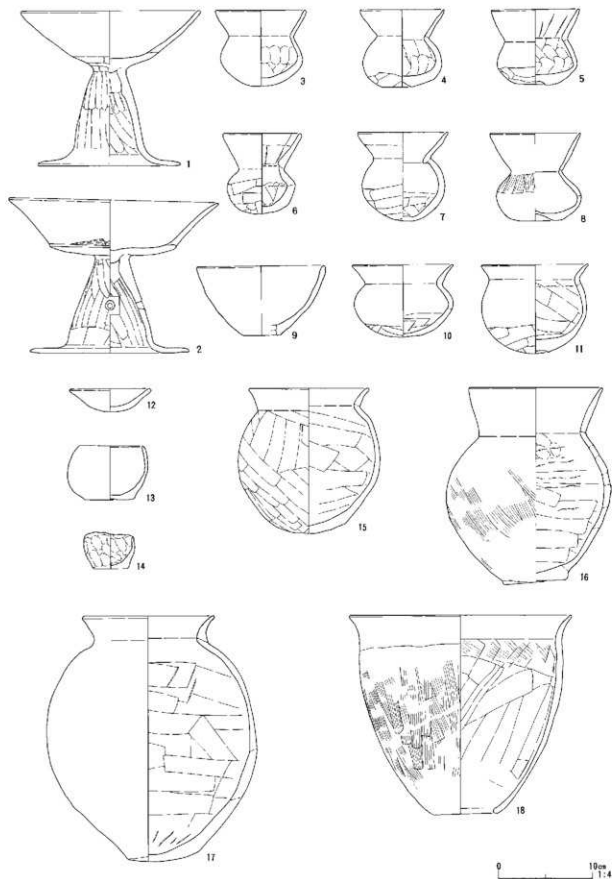


图107 SI-32 出土土器

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法的特徴	調整手法的特徴	胎土・色調	備 考
10	土 師 器 鉢	口径 10.8 底径 ー 器高 7.7	丸底。体部は中位が大きく膨らみ、 口縁部は外反気味に開く。	外面一口縁部ヨコナテ。体部上位～ 中位ナテ。下位～底部ヘラケズリ。 内面一口縁部ヨコナテ。体部上位ナ テ。下位～底部ヘラナテ。	石英・白色粒 内外一褐色	一部欠損。
11	土 師 器 鉢	口径 11.3 底径 1.7 器高 9.4	小さな上げ底。体部は大きく膨らみ、 口縁部は外反気味に開く。	外面一口縁部～体部中位ナテ。体部 下位ヘラケズリ。底部ナテ。内面一 口縁部ナテ。体部～底部ヘラナテ。	石英・チャート 内外一明赤褐色	3/4。
12	土 師 器 ミニチュア	口径 8.6 底径 ー 器高 2.5	丸底。口縁部はやや外反して開く。	外面一口縁部～底部ナテ。内面一口 縁部～底部ナテ。	石英・白色粒 内外一明赤褐色	一部欠損。
13	土 師 器 ミニチュア	口径 6.7 底径 5.4 器高 5.7	体部は膨らみを持ち、口縁部は内湾 する。	外面一厚減のため調整不明瞭。内面 一厚減のため調整不明瞭。	チャート・白色粒 内一黄褐色 外一明赤褐色	1/2。
14	土 師 器 ミニチュア	口径 5.3 底径 3.7 器高 4.0	体部上位～口縁部は湾曲する。	外面一口縁部～体部ナテ・指頭圧痕、 底部ナテ。内面一口縁部～底部ナテ ・指頭圧痕。	石英・白色粒 内外一灰黄褐色	一部欠損。
15	土 師 器 小型 甕	口径 12.8 底径 ー 器高 15.3	底部は丸底気味で胴部との境は不明 瞭。胴部は膨らみを持ち、口縁部は やや外反して開く。	外面一口縁部ヨコナテ。胴部～底部 ヘラケズリ後ナテ。内面一口縁部ヨ コナテ。胴部～底部ヘラナテ。	石英・白色粒 内外一明褐色	4/5。
16	土 師 器 甕	口径 14.2 底径 6.9 器高 20.9	胴部は膨らみを持ち、口縁部は直線 的に開く。	外面一口縁部ヨコナテ。胴部ハケ目 後ナテ。底部ナテ。内面一口縁部ナ テ。胴部ヘラナテで上位に指頭圧痕、 底部ナテ。	石英・白色粒 内一褐色 外一明赤褐色	1/2。
17	土 師 器 甕	口径 14.0 底径 7.7 器高 26.0	丸底気味の底部。胴部は膨らみを持 ち、口縁部は外反気味に開く。	外面一口縁部ヨコナテ。胴部厚減の ため調整不明瞭。底部ヘラケズリ。 内面一口縁部ナテ。胴部～底部ヘラ ナテ。	石英・チャート 内外一明赤褐色	ほぼ完形。
18	土 師 器 甕	口径(23.6) 底径 (6.5) 器高 21.2	胴部は湾曲して立ち上がり。上位に 膨らみを持つ。口縁部は外反して開 く。	外面一口縁部ヨコナテ。胴部ハケ目 後に一部ナテ。内面一口縁部ヨコナ テ。胴部ヘラナテ。上位にハケ目残 る。	石英・チャート 内外一ぶい褐色	1/2。

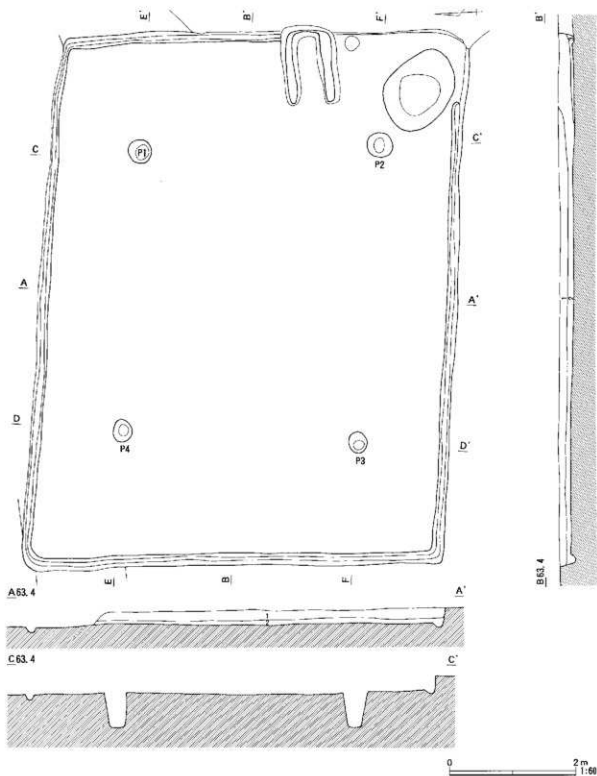
SI-33

遺構 (図108～111、写真4)

M-19・20、N-19・20 グリッドに位置する。平面形は歪んだ長方形を呈し、主軸方位はN-85°-Wを示す。東壁側がSI-35と重複している。新旧関係はSI-33が古く、SI-35が新しい。

覆土は3層に分かれ、下層に多量のロームブロックと礫を含む褐色土、上層にロームブロックと礫を含む暗褐色土が堆積し、東壁寄りの床には部分的にロームブロックを含む黄褐色土がみられる。床には貼床を施さず、平坦に削り出した地山面を、そのまま床面としている。ほぼ全周する明瞭な壁溝を備える。南東隅に貯蔵穴を設けている。平面形は不整な長円形を呈し、底面は平坦に成形している。東壁にはカマドを備えている。袖部は地山層の削り出しによって成形し、燃焼部は壁内にあって、煙道部は上方に取り付けられていたためか確認できない。竈右側の東壁際床面に焼土ブロックの集中する箇所が存在する。ピットはP1～P4の4基で、いずれも主柱穴と判断される。

規模は長辺8.4m、短辺6.6m、確認面からの深さ25cmを測る。貯蔵穴は長径140cm、底径70cm、床面からの深さ65cmを測り、ピットの床面からの深さはP1が55cm、P2が55cm、P3が40cm、P4が55cmを測る。



SI-33 土層説明

- 1 暗褐色土 ロームブロック、大豆大以下の礫を少量含む。
- 2 褐色土 ロームブロックを多量に含み、大豆大以下の礫を少量含む。
- 3 黒褐色土 ロームブロックを少量含む。

図108 SI-33 平面および断面（1）

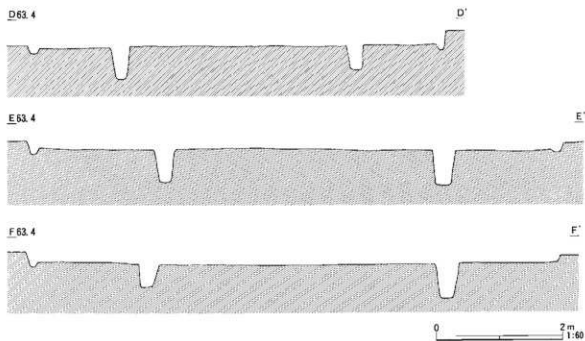
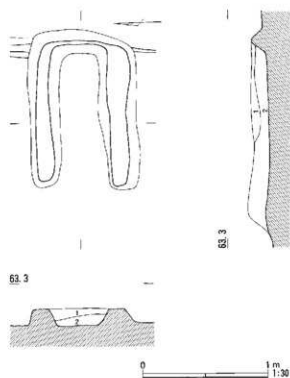


図109 SI-33 断面 (2)



SI-33 カマド土層説明

- 1 暗褐色土 焼土ブロックを少量含む。
- 2 暗赤色土 焼土ブロックを多量に含み、小豆大の礫を少量含む。

図110 SI-33 カマド平面および断面

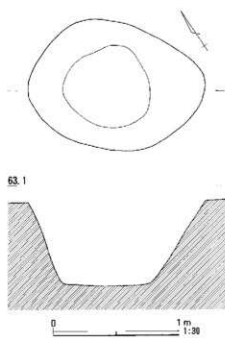


図111 SI-33 貯蔵穴平面および断面

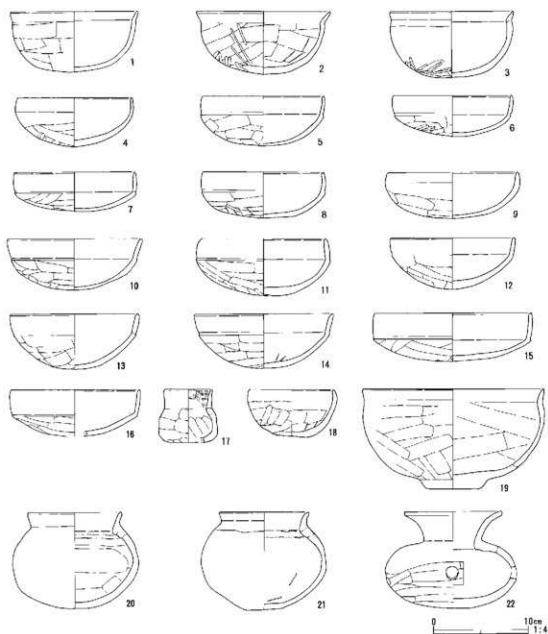


図112 SI-33 出土土器（1）

SI-33 出土土器観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土 鉢 器 坏	口径 13.6 底径 — 器高 6.4	尖底。体部は湾曲して立ち上がる。 内斜口縁。	外面—口縁部ナデ、体部～底部ヘラ ケズリ後ナデ。内面—口縁部～底部 ナデ。	石英・白色粒 内外—赤褐色	1/2。
2	土 鉢 器 坏	口径 14.3 底径 — 器高 6.7	丸底。体部は湾曲して立ち上がる。 内斜口縁。	外面—口縁部ナデ、体部～底部ヘラ ケズリで一部に粗雑なミガキ。内面 —口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラ ナデ。	チャート・白色粒 内外—褐色	7/8。

遺物（図112・113、写真32・33）

遺物は床面中央部を中心に坏・鉢・甕・甎などが出土している。坏には内斜口縁坏と直立する口縁部の内外面にヨコナデを加える須恵器坏蓋指向の坏が見られるが、典型的な須恵器坏蓋模倣坏は含まれない。22は須恵器甎模倣の土器器で、胴部に穿孔をもつ。

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
3	土師器 坏	口径 13.1 底径 - 器高 7.0	丸底。体部は湾曲して立ち上がる。 内斜口縁。	外面-口縁部ヨコナテ、体部ナテで 下位の一部にミガキ、底部ヘラケズ リ。内面-口縁部ヨコナテ、体部- 底部ナテ。	チャート・白色粒 内-にぶい赤褐色 外-にぶい橙色	2/3。
4	土師器 坏	口径 12.3 底径 - 器高 5.2	丸底。体部は湾曲して立ち上がり、 口縁部はやや内湾する。	外面-口縁部ヨコナテ、体部上位ナ テ、体部中位~底部ヘラケズリ後ナ テ。内面-口縁部ヨコナテ、体部- 底部ナテ。	石英・白色粒 内外-明赤褐色	7/8。
5	土師器 坏	口径 13.0 底径 - 器高 5.3	丸底。口縁部と体部との境に凹線が 走る。口縁部は湾曲して立ち上がる。	外面-口縁部ヨコナテ、体部~底部 ヘラケズリ後ナテ。内面-口縁部ヨ コナテ、体部~底部ナテ。	石英・チャート 内外-橙褐色	一部欠損。
6	土師器 坏	口径 12.7 底径 - 器高 4.3	丸底。口縁部と体部との境に凹線が 走る。口縁部は湾曲して立ち上がる。	外面-口縁部ヨコナテ、体部~底部 ヘラケズリ後ナテ。内面-口縁部ヨ コナテ、体部~底部ナテ。	石英・チャート 内外-橙褐色	7/8。
7	土師器 坏	口径 12.8 底径 - 器高 4.2	丸底。口縁部と体部との境に凹線が 走る。口縁部は湾曲して立ち上がる。	外面-口縁部ヨコナテ、体部~底部 ヘラケズリ後ナテ。内面-口縁部ヨ コナテ、体部~底部ナテ。	石英・チャート 内外-橙褐色	5/6。
8	土師器 坏	口径 13.1 底径 - 器高 4.9	丸底。口縁部と体部との境に凹線が 走る。口縁部は湾曲して立ち上がる。	外面-口縁部ヨコナテ、体部~底部 ヘラケズリ。内面-口縁部~体部ヨ コナテ、底部ナテ。	石英・白色粒 内外-明赤褐色	3/4。
9	土師器 坏	口径 14.0 底径 - 器高 4.9	丸底。体部は湾曲して立ち上がり、 口縁部は内湾する。	外面-口縁部ヨコナテ、体部~底部 ヘラケズリ後ナテ。内面-口縁部ヨ コナテ、体部~底部ナテ。	微砂粒 内外-明赤褐色	2/3。
10	土師器 坏	口径 14.3 底径 - 器高 5.4	丸底。口縁部は体部との境に稜を持 ち端部がやや内湾する。	外面-口縁部ヨコナテ、体部~底部 ヘラケズリ。内面-口縁部~体部ヨ コナテ、底部ナテ。	石英・白色粒 内外-明赤褐色	一部欠損。
11	土師器 坏	口径 10.4 底径 2.0 器高 6.0	小さな平底。口縁部は体部との境に 稜を持ち、内湾する。	外面-口縁部ヨコナテ、体部ヘラケ ズリ後ナテ、底部ナテ。内面-口縁 部~体部上位ヨコナテ、体部中位~底 部ナテ。	チャート・白色粒 内外-橙褐色	一部欠損。
12	土師器 坏	口径 13.2 底径 - 器高 5.4	丸底。口縁部は体部との境に鋭い稜 を持ち直線的に立ち上がる。	外面-口縁部ヨコナテ、体部~底部 ヘラケズリ後に体部上位をナテ。内 面-口縁部ヨコナテ、体部~底部ヨ コナテ。	石英・チャート 内外-にぶい赤褐 色	3/4。
13	土師器 坏	口径 13.8 底径 - 器高 5.9	丸底。口縁部は体部との境にわずか な稜を持ち、やや湾曲して開く。	外面-口縁部ヨコナテ、体部~底部 ヘラケズリ後ナテ。内面-口縁部は 厚膜。体部~底部ナテ。	チャート・微砂粒 内外-にぶい橙褐色	1/4。
14	土師器 坏	口径 14.9 底径 - 器高 5.8	丸底。口縁部は体部との境に鋭い稜 を持ち、やや湾曲して開く。	外面-口縁部ヨコナテ、体部~底部 ヘラケズリ後に体部上位をナテ。内 面-口縁部~体部ヨコナテ、底部ヘラ ケズリナテ。	石英・白色粒 内外-橙褐色	完形。
15	土師器 坏	口径 16.8 底径 - 器高 5.1	丸底。口縁部は体部との境に稜を持 ち湾曲して立ち上がる。	外面-口縁部ヨコナテ、体部~底部 ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナテ、 体部~底部ナテ。	チャート・白色粒 内外-明赤褐色	7/8。
16	土師器 坏	口径 13.8 底径 - 器高 5.9	丸底。口縁部は体部との境に稜を持 ち湾曲して立ち上がる。	外面-口縁部ヨコナテ、体部~底部 ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナテ、 体部~底部ヘラケズリナテ。	チャート・白色粒 内外-明赤褐色	1/3。
17	土師器 埴	口径 (5.2) 底径 (4.2) 器高 5.6	体部は筒状。口縁部は外反気味に立 ち上がる。	外面-口縁部ヨコナテ、体部ナテ、 底部ヘラケズリ。内面-口縁部木口 状工具ナテ。体部~底部指ナテ。	微砂粒 内外-橙褐色	1/3。
18	土師器 小型鉢	口径 9.0 底径 3.5 器高 5.0	胴部は湾曲して立ち上がり、口縁部 は内湾する。	外面-口縁部ヨコナテ、体部~底部 ヘラケズリ後に体部上位をナテ。内 面-口縁部~体部上位ヨコナテ、体 部中位~底部ヘラケズリナテ。	粗粒チャート 内外-にぶい赤褐 色	一部欠損。
19	土師器 鉢	口径 19.3 底径 5.9 器高 10.6	体部は湾曲して立ち上がり、口縁部 は短く外傾する。	外面-口縁部ヨコナテ、体部ヘラケ ズリ後ナテ。内面-口縁部ヨコナテ、 体部~底部ヘラケズリナテ。	チャート・白色粒 内-赤褐色 外-明赤褐色	1/4。
20	土師器 短頸壺	口径 13.2 底径 - 器高 5.0	丸底。体部は中位が大きく膨らみ、 口縁部は短く外反気味に開く。	外面-口縁部ヨコナテ、体部~底部 ヘラケズリと思われるが厚膜のため 不明瞭。内面-口縁部ヨコナテ、体 部~底部ヘラケズリナテ。	チャート・白色粒 内外-橙褐色	4/5。

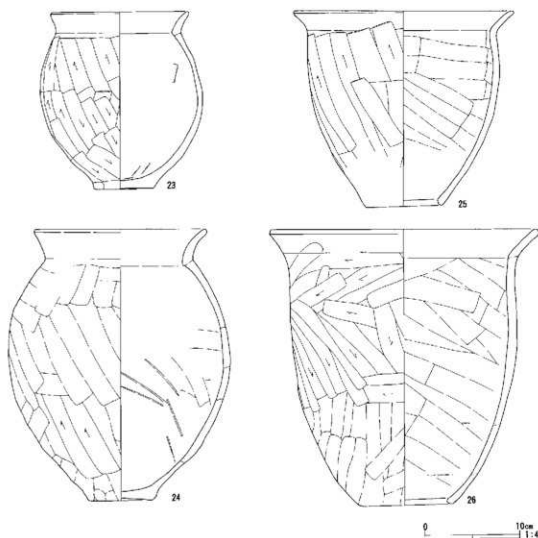


図113 SI-33 出土土器（2）

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
21	土師器 短頸壺	口径 9.6 底径 3.6 器高 10.4	体部は中位が大きく膨らみ、口縁部は短く外反して開く。	外面-口縁部ヨコナテ、体部ヘラケズリと思われるが摩滅のため不明瞭。底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナテ、体部~底部ヘラナテ。	チャート・白色粒 内-にふい赤褐色 外-褐色	3/4。
22	土師器 甕	口径 17.0 底径 13.0 器高 16.1	丸底。体部は横方向に大きく膨らみ、口縁部は外反して開く。	外面-口縁部ヨコナテ、体部上位ナテ。中位~下位ヘラケズリ・部分的にナテ。底部ナテ。内面-口縁部ナテ。体部~底部不明瞭だがナテか。	石英・チャート 内外-褐色	完形。
23	土師器 甕	口径 14.7 底径 6.4 器高 18.8	胴部は膨らみを持ち、口縁部は外反して開く。	外面-口縁部ヨコナテ。胴部ヘラケズリ。底部ナテ。内面-口縁部ヨコナテ。胴部~底部ヘラナテ。	粗粒チャート 内外-褐色	一部欠損。
24	土師器 甕	口径 18.4 底径 7.3 器高 28.8	胴部は膨らみを持ち、口縁部は外反気味に開く。	外面-口縁部ヨコナテ。胴部ヘラケズリ後ナテ。底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナテ。胴部~底部ヘラナテ。	片岩・チャート 内外-褐色	3/4。
25	土師器 甕	口径 23.5 底径 7.9 器高 20.9	胴部は湾曲して立ち上がり、上位に膨らみを持つ。口縁部は外反気味に開く。	外面-口縁部ヨコナテ。胴部ヘラケズリだが下位は摩滅のため不明瞭。内面-口縁部ナテ。胴部ヘラナテ。	石英・チャート 内外-褐色	7/8。
26	土師器 甕	口径 28.5 底径 10.1 器高 29.2	胴部は湾曲して立ち上がり、口縁部は外反気味に開く。	外面-口縁部ヨコナテ。胴部ヘラケズリ後に下位をナテ。内面-口縁部ヨコナテ。胴部ヘラナテ。	石英・チャート 内外-にふい黄褐色	一部欠損。

SI-34

遺構 (図114・115、写真4)

L-19, M-19に位置する。平面形は正方形を呈し、主軸方位はN-10°-Eを示す。南壁側がSI-35と重複している。新旧関係はSI-34が古く、SI-35が新しい。

覆土は2層に分かれ、下層に礫を含む褐色土、上層にロームブロック含む褐色土が堆積している。床には貼床を施さず、平坦に削り出した地山面を、そのまま床面としている。ほぼ全周する明瞭な壁溝を備える。南東隅に貯蔵穴を設けている。平面形は整った小判形を呈し、底面は平坦に成形している。炉・竈などの燃焼施設は確認できない。ピットはP1～P5の5基で、このうちP1～P4は支柱穴である。

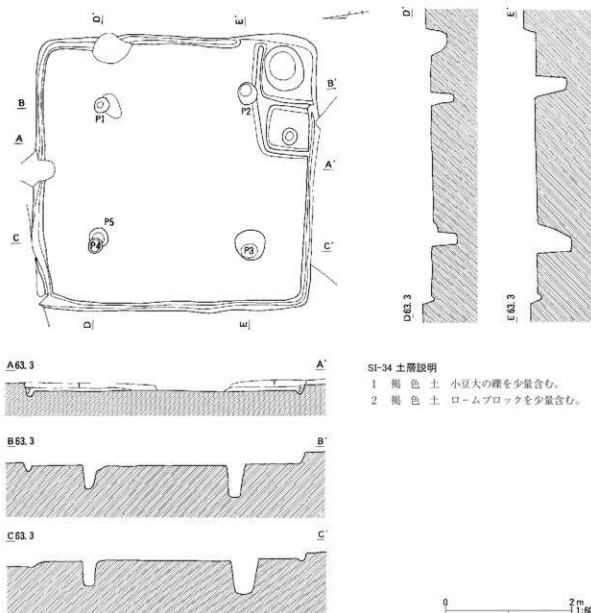


図114 SI-34 平面および断面

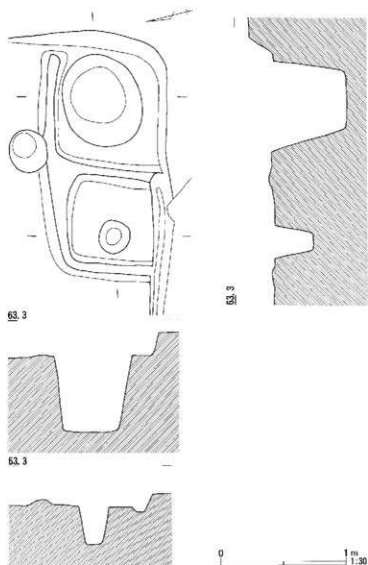


図115 SI-34 貯蔵穴平面および断面

なお、南東隅には、地山層を削り出して形成した土手状の遺構が見られる。貯蔵穴とピットを区画するような配置をとり、南壁側は壁溝にまで達し、壁溝の無い東壁側は壁に達する直前で止まっている。

規模は一辺4.4m、認面からの深さ15cmを測る。貯蔵穴は長径75cm、底径45cm、床面からの深さ60cm、土手状遺構内部のピットが長径25cm、底径10cm、床面からの深さ30cmを測り、ピットの床面からの深さはP1が40cm、P2が50cm、P3が55cm、P4が40cmを測る。

遺物 (図116、写真33)

遺物は覆土中から埴1点が出土している。

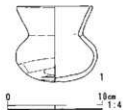


図116 SI-34 出土土器

SI-34 出土土器観察表

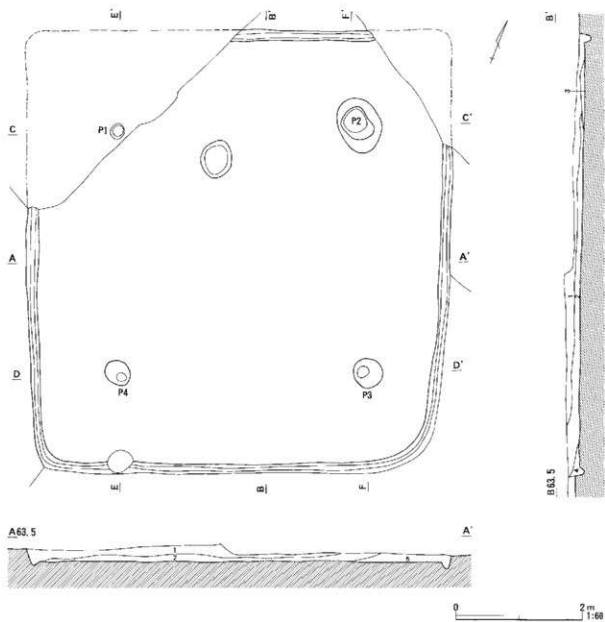
No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土器 埴	口径 8.0 底径 - 器高 8.0	丸底。体部は膨らみを持つ。口縁部は直線的に開き、端部わずかに内湾する。	外面→口縁部ヨコナデ、体部上位ナデ、下位→底部ヘラケズリ。内面→口縁部ヨコナデ、体部→底部ヘラナデ。	石英・白色粒 内外一にふい赤褐色	一部欠損。

SI-35

遺構 (図117・118、写真4)

L-19・20, M-19・20に位置する。平面形はやや歪んだ正方形を呈し、主軸方位はN-20°-Wを示す。SI-33・34・36と重複している。新旧関係はSI-35よりSI-33・34が古く、SI-36が新しい。

覆土は5層に分かれ、中央部分では下層に礫を多量に含む暗褐色土、上層に礫を多量に含む褐色土が堆積し、壁寄りにはロームブロックを多量に含む黄褐色土、礫を含む黒褐色土、ロームブロックと礫を含む褐色土などがみられる。壁溝は各壁に備えている。貯蔵穴や炉・竈などの燃焼施設は確認でき



SI-35 土層説明

- | | |
|-----------------------|-----------------------------|
| 1 褐色土 大豆大以下の礫を多量に含む。 | 3 黄褐色土 ロームブロックを多量に含む。 |
| 2 暗褐色土 大豆大以下の礫を多量に含む。 | 4 黒褐色土 小豆大の礫を少量含む。 |
| | 5 褐色土 ロームブロック、大豆大以下の礫を少量含む。 |

図117 SI-35 平面および断面(1)

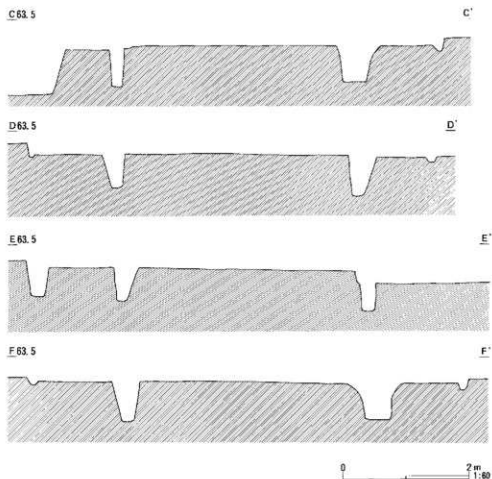


図118 SI-35 断面（2）

ないが、P1とP2の間に浅い土坑を設けている。ピットはP1～P4の4基で、いずれも支柱穴と判断される。

規模は長辺7.0m、短辺6.7m、確認面からの深さ25cmを測る。貯蔵穴は長径60cm、底径45cm、床面からの深さ5cmを測り、ピットの床面からの深さはP1が60cm、P2が60cm、P3が65cm、P4が50cmを測る。

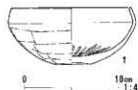


図119 SI-35 出土土器

遺物（図119、写真33）

遺物は覆土中から環1点が出土している。底部内面に放射状の暗文が観察される。

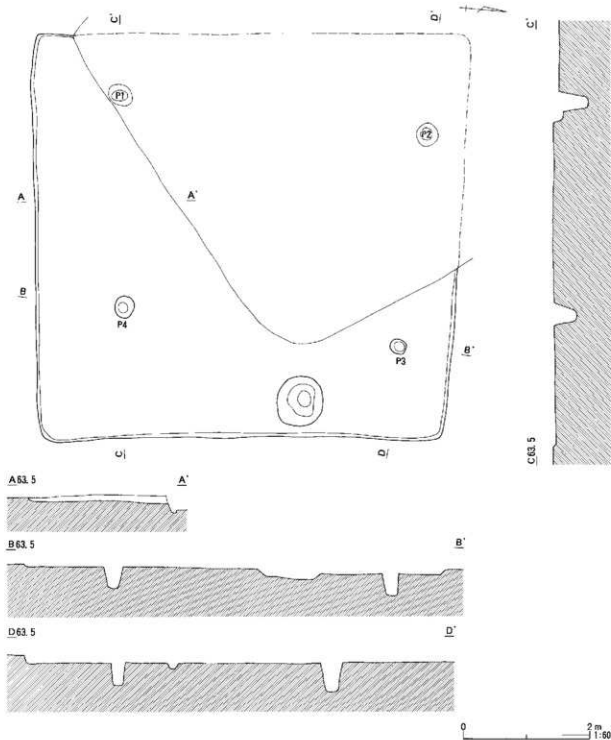
SI-35 出土土器観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備 考
1	土 師 器 環	口径 12.8 底径 3.6 器高 6.0	やや上げ底。体部は両曲して立ち上がり、口縁部は内傾する。	外面→口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ後ナデ、底部ヘラケズリ。内面→口縁部ナデ、体部ナデ、体部下位～底部不明瞭だがミガキ。	石英・白色粒 内外→にぶい赤褐色	3/4。 外面に煤付着。

SI-36

遺構 (図120-121、写真4)

L-20、M-20グリッドに位置する。平面形はやや歪んだ正方形を呈し、主軸方位はN-5°-Wを示す。全体の半分程度がSI-35と重複している。新旧関係はSI-36が新しく、SI-35が古い。



SI-36 土層説明

褐色土 大豆大以下の粒を多量に含む。

図120 SI-36 平面および断面

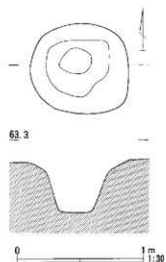


図121 S1-36 貯蔵穴平面および断面

覆土にはロームブロックを含む黒灰褐色土が堆積している。床には貼床を施さず、平坦に削り出した地山面を、そのまま床面としている。壁溝は存在しない。東壁際の中央寄りに貯蔵穴を設けている。平面形は不整な円形を呈し、底面は狭い。炉・竈などの燃焼施設は確認できない。ピットはP1～P4の4基で、このうちP1・P4は支柱穴と判断される位置にあるが、P2・P3は北壁に寄りにずれて存在している。

規模は長辺6.7m、短辺6.4m、確認面からの深さ40cmを測る。貯蔵穴は長径75cm、底径25cm、床面からの深さ40cmを測り、ピットの床面からの深さはP1が45cm、P2が45cm、P3が40cm、P4が35cmを測る。

遺物 (図122、写真33)

遺物は覆土中から埴・甎が出土しているが、ともに破片資料で他からの混入の可能性も考えられる。

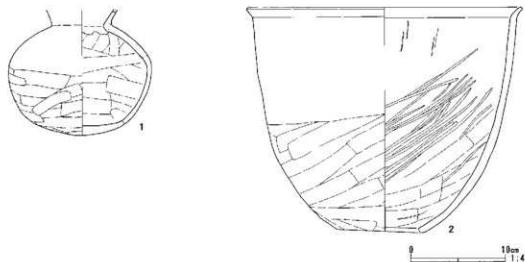


図122 S1-36 出土土器

S1-36 出土土器観察表

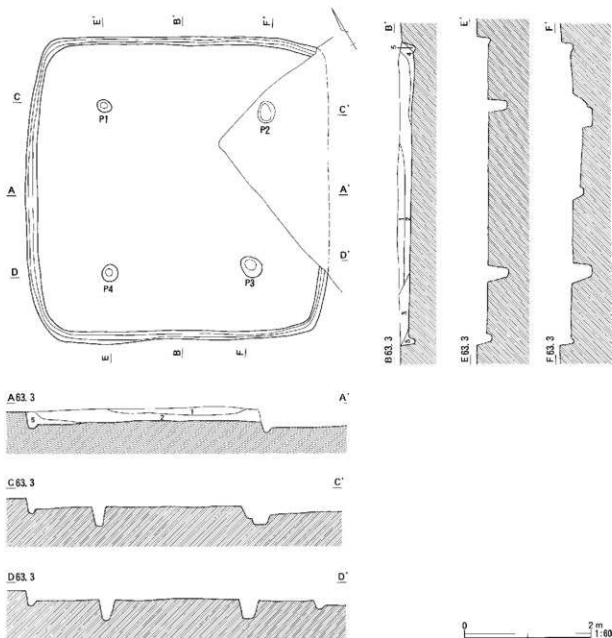
No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 埴	口径 - 底径 - 器高 -	丸底。体部は膨らみを持ち、口縁部は外反気味に立ち上がる。	外面-口縁部~体部上位ナテ、中位~底部ヘラケズリ後に一部ナテ。内面-口縁部~体部上位ナテ、中位~底部ヘラナテ。	石英・チャート 内外~褐色	3/4。 口縁部上位欠損。
2	土師器 甎	口径 29.2 底径 8.9 器高 23.9	胴部は湾曲して立ち上がり、上位が大きく広がる。口縁部は短く背反気味に開く。	外面-口縁部ナテ、胴部上半部ナテ、下半部ヘラケズリ後ナテ。内面-口縁部ヨコナテ、胴部ヘラナテで部分的に粗雑なミガキ。	石英・白色粒 内外~明赤褐色	2/3。

SI-37

遺構 (図123、写真4)

K-20、L-20グリッドに位置する。平面形は正方形を呈し、主軸方位はN-30°-Eを示す。南東壁側がSI-38と重複している。新旧関係はSI-37が古く、SI-38が新しい。

覆土は5層に分かれ、中央部分では下層に多量のロームブロックと礫を含む褐色土、上層にロームブロックを含む暗褐色土が堆積し、壁寄りには、ロームブロックを多量に含む暗褐色土、ロームブ



SI-37 土層説明

- | | | | |
|--------|-----------------------------|--------|----------------------|
| 1 暗褐色土 | ロームブロックを少量含む。 | 3 暗褐色土 | ロームブロックを多量に含む。 |
| 2 褐色土 | ロームブロックを多量に含み、大豆大以下の礫を少量含む。 | 4 暗褐色土 | ロームブロック、焼土ブロックを少量含む。 |
| | | 5 褐色土 | ロームブロックを多量に含む。 |

図123 SI-37 平面および断面

ックと焼土ブロックを含む暗褐色土、ロームブロックを多量に含む褐色土などがみられる。床には貼床を施さず、平坦に削り出した地山面を、そのまま床面としている。全周する明瞭な壁溝を備え、覆土にはロームブロックを多量に含む褐色土が堆積している。貯蔵穴や炉・竈などの燃焼施設は確認できない。ピットはP1～P4の4基で、いずれも主柱穴と判断される。

規模は一辺4.7m、確認面からの深さ20cmを測る。ピットの床面からの深さは4基とも30cmを測る。

遺物 (図124、写真34)

遺物は床面中央部を中心に坏・高坏・埴・鉢・甕・甔などが出土している。高坏には暗文が目立つ。

1の坏にも底部内面に放射状の暗文が観察される。

SI-37 出土土器観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法的特徴	調整手法的特徴	胎土・色調	備 考
1	土 部 器 坏	口径 11.8 底径 2.5 器高 4.7	わずかな上げ底。体部は湾曲気味に立ち上がり、口縁部はやや湾曲して開く。	外面-口縁部ヨコナテ、体部ヘラケズリ後に上位をナテ、底部ナテ。内面-口縁部ヨコナテ、体部~底部ナテ・粗雑なミガキ。	チャート・白色粒 内-にぶい褐色 外-明褐色	ほぼ完形。
2	土 部 器 坏	口径(14.0) 底径 (4.6) 器高 4.6	体部はわずかに湾曲して立ち上がり、口縁部は短く直立気味。	外面-口縁部ヨコナテ、体部~底部ナテ。内面-口縁部ヨコナテ、体部~底部ヘラナテ。	石英・チャート 内外-にぶい黄褐色	1/5。
3	土 部 器 高 坏	口径 18.4 底径 12.7 器高 14.6	坏部下に稜を持ち、口縁部はやや外反して開く。脚部は下方に向かって広がり、裾部は外反して開く。	外面-口縁部~坏体部放射状のミガキ、坏底部ミガキ、脚部~裾部ナテで裾部に粗雑なミガキ。内面-口縁部~坏底部放射状のミガキ、脚部ナテ、裾部ナテで一部木口状工具ナテ。	石英・チャート 内外-明赤褐色	一部欠損。
4	土 部 器 高 坏	口径 17.2 底径 13.6 器高 14.9	坏部下に鋭い稜を持ち、口縁部は外反気味に開く。脚部は下方がやや膨らみ、裾部は外反して開く。脚部中に焼成前未貫通の浅い窪み1。	外面-口縁部ヨコナテ、坏体部粗雑なミガキ、脚部ミガキ、裾部粗雑なミガキ。内面-口縁部~坏底部木口状工具ナテ後に粗雑なミガキ、脚部ナテ、裾部ヨコナテ。	チャート・白色粒 内外-褐色	一部欠損。
5	土 部 器 高 坏	口径 19.4 底径 12.3 器高 15.9	坏部下に稜を持ち、口縁部は外反して開く。脚部は中位がやや膨らみ、裾部はやや湾曲して開く。	外面-口縁部~坏体部放射状のミガキ、坏底部木口状工具ナテ後ミガキ、脚部ナテ、裾部ヨコナテ・疎なミガキ。内面-口縁部~坏底部ミガキ、脚部ヘラケズリ、裾部ナテ。	チャート・白色粒 内外-褐色	2/3。
6	土 部 器 高 坏	口径 19.5 底径 15.2 器高 15.1	坏部下に鋭い稜を持ち、口縁部は湾曲して開く。脚部は下方に向かって広がり、裾部は外反気味に開く。	外面-口縁部~坏体部放射状のミガキ、坏底部ナテ、脚部ハケ目、裾部ミガキ。内面-口縁部~坏底部ミガキ、脚部ヘラケズリ、裾部ヨコナテ。	白色粒・黒色粒 内外-褐色	一部欠損。
7	土 部 器 高 坏	口径 17.2 底径 13.4 器高 15.6	坏部下に稜を持ち、口縁部はやや外反して開く。脚部は中位がやや膨らみ、裾部は大きく開く。	外面-口縁部ヨコナテ、坏体部~坏底部木口状工具ナテ、脚部ヘラケズリ後ナテ、裾部上位木口状工具ナテ、下位ヨコナテ。内面-口縁部~坏底部ヘラ・木口状工具ナテ、脚部上位絞り目、下位ヘラケズリ、裾部上位木口状工具ナテ、下位ヨコナテ。	チャート・白色粒 内外-褐色	2/3。
8	土 部 器 高 坏	口径 17.8 底径 13.3 器高 16.1	坏体部は湾曲して立ち上がり、口縁部は短く外反気味に開く。脚部は下方に向かって広がり、裾部はやや外反して開く。	外面-口縁部ナテ、坏体部粗雑なミガキ、坏底部ヘラケズリ、脚部~裾部ミガキ。内面-口縁部~坏底部粗雑なミガキ、脚部指ナテ、裾部は摩滅のため調整不明瞭。	石英・チャート 内外-明赤褐色	2/3。
9	土 部 器 埴	口径 7.1 底径 2.3 器高 7.5	わずかな上げ底。体部は中位が脹る。口縁部は外反気味に開き、端部がわずかに内湾する。	外面-口縁部ヨコナテ、体部上位ナテ、下位ヘラケズリ後ナテで一部にミガキ、底部ナテ。内面-口縁部ヨコナテ、体部上位ナテ、下位~底部指ナテ。	チャート・白色粒 内外-褐色	5/6。

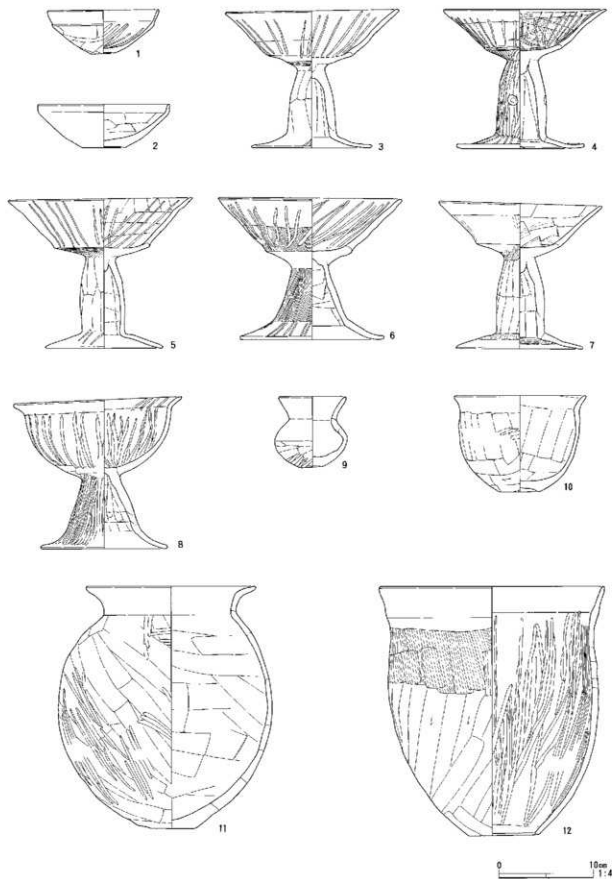


图124 SI-37 出土土器

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
10	土器 鉢	口径 14.0 底径 4.2 器高 10.1	上げ底。体部は湾曲して立ち上がり、口縁部は短く外反気味に開く。	外面－口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ後以下位を除きナデ、底部ナデ。内面－口縁部ヘラナデ、体部～底部ヘラナデ。	石英・チャート 内－灰黄褐色 外－明赤褐色	4/5。
11	土器 甕	口径 18.0 底径 6.2 器高 25.7	粘土懸積み上げ成形。胴部は膨らみを持ち、口縁部は外反して開く。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後ナデで一部に粗雑なミガキ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	粗粒チャート 内外－橙色	一部欠損。
12	土器 甕	口径 22.8 底径 7.4 器高 26.4	粘土懸積み上げ成形。胴部は湾曲して立ち上がり、上位に膨らみを持つ。口縁部はやや湾曲して開く。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後ナデで、上位は木口状工具ナデ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部縦位ミガキ。	石英・チャート 内外－にぶい橙色	2/3。

SI-38

遺構 (図125・126、写真4)

K-20、L-20グリッドに位置する。平面形は長方形を呈し、主軸方位はN-25°-Eを示す。北隅側がSI-37と重複している。新旧関係はSI-38が新しく、SI-37が古い。

覆土は4層に分かれ、中央部分では下層にロームブロックを含む暗褐色土、上層に焼土ブロックと礫を含む褐色土が堆積し、壁寄りには、ロームブロックを含む褐色土がみられる。床には貼床を施さず、平坦に削り出した地山面を、そのまま床面としている。南東側を除く各壁に明瞭な壁溝を備えている。南隅に貯蔵穴を設けている。平面形は小判形を呈し、底面は平坦に成形している。炉・竈などの燃焼施設は確認できない。ピットはP1～P4の4基で、いずれも支柱穴と判断される。

規模は長辺4.2m、短辺4.0m確認面からの深さ30cmを測る。貯蔵穴は長径105cm、底径75cm、床面からの深さ40cmを測り、ピットの床面からの深さはP1が45cm、P2が40cm、P3が30cm、P4が25cmを測る。

遺物 (図127、写真34)

遺物は床面中央部を中心に坏・鉢が出土している。1の坏には底部内面に放射状の暗文が観察される。3の鉢は短頸壺ともいふべき器形を示す。

SI-38 出土土器観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土器 坏	口径 13.4 底径 3.7 器高 5.7	やや上げ底。口縁部は体部との境に弱い稜を持ち、やや内傾する。	外面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ後ナデ。内面－口縁部ヨコナデ、体部～底部放射状ミガキ。	微砂粒 内－赤褐色 外－明赤褐色	一部欠損。
2	土器 鉢	口径 10.0 底径 4.0 器高 8.4	体部は上位に膨らみを持ち、口縁部はわずかに湾曲して開く。	外面－口縁部ヨコナデ、体部上位ナデ、中位以下ヘラケズリ後ナデ、底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。	チャート・白色粒 内外－明赤褐色	一部欠損。
3	土器 鉢	口径 9.2 底径 - 器高 10.0	丸底。体部は丸く膨らみを持ち、口縁部は短く外傾する。	外面－口縁部ヨコナデ、体部～底部摩滅のため調整不明瞭。内面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	石英・チャート 内－にぶい赤褐色 外－明赤褐色	一部欠損。
4	土器 鉢	口径 14.6 底径 5.6 器高 13.4	胴部は大きく膨らみ、口縁部は直立気味に開く。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後ナデ、底部ナデ。内面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。	石英・チャート 内外－赤褐色	一部欠損。

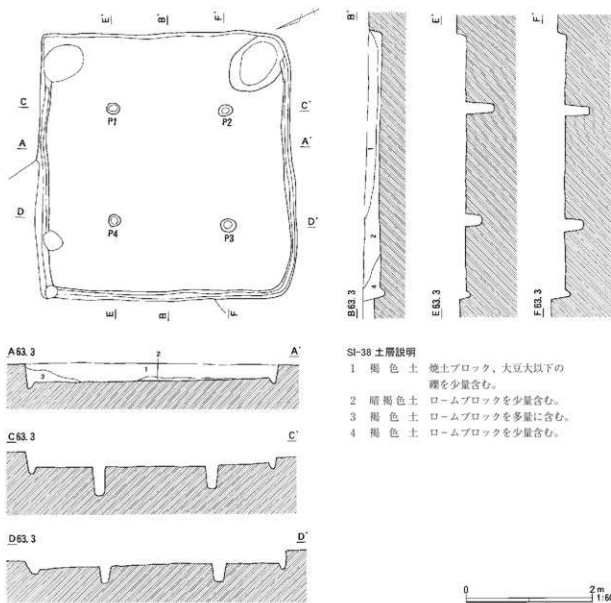


図125 SI-38 平面および断面

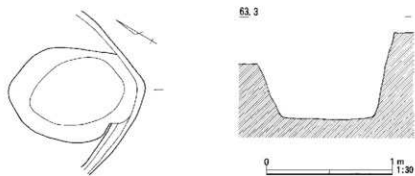


図126 SI-38 貯蔵穴平面および断面

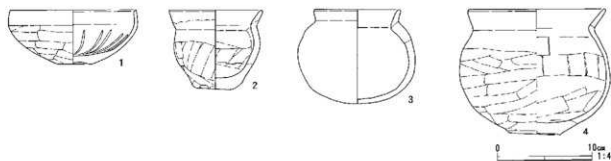


図127 SI-38 出土土器

4 井戸

SW-01

井戸はO-9グリッドで1基検出している。平面形はほぼ整円を呈し、確認面で直径1.05m前後を測る。壁は緩やかに径を減じながら井戸底に向っている。深さは確認面から1.30m以上あり、ローム層とその下の白色粘質土層を掘り抜いて、礫層にまで達しているが、湧水のため調査は井戸底まで及んでおらず、正確な深度は把握できていない。覆土には礫を多量に含む黒灰褐色土の堆積を認める。遺物は井戸枠などを含めまったく出土していない。

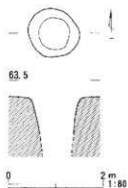


図128 SW-1 平面および断面

5 土坑

土坑は27基を検出した。調査区内の各所に分散し、特定の箇所に集中する傾向は認めない。また、すべてに遺物が伴うわけではなく、所属時期の不明なものが多い。

SK-2は長方形の土坑で、墓坑の可能性が考えられる。遺物はかわらけが1点出土している。周辺遺跡の五十子陣関連の遺構から検出されるかわらけと同型式であり15世紀後半の年代が想定される。

SK-19では土師器が集中的に出土している。器種は有段脚高坏、高坏、一部にハケ調整を残す甕、有段口縁壺で構成され、坏・鉢類を含まない。和泉式期の前半に該当しよう。このほかSK-20、SK-23からも和泉式期の土師器片を検出している。

土坑一覧表

番号	位置	形態	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	出土遺物						
1	G-2-3	長方形	2.66	0.7	0.5		14	J-8-9-K-9	不整形	2.6	1.7	0.92
2	E-F-3	長方形	5.12	0.94	0.5	かわらけ	15	J-9	不整形	3.56	1.56	0.54
3	K-5	不整形	1.36	1.16	0.34		16	G-11	不整形	1.54	1.26	0.26
4	M-N-4-5	不整形	3.36	3.26	0.2		17	E-F-12	円形	1.28	1.18	0.46
5	P-3-4	不整形	1.8	1.1	0.34		18	E-19	不明	-	0.9	-
6	O-7-8	不整形	2.56	1.6	0.96		19	F-G-19	不整形	3.82	1.1	0.16
7	P-9	円形	0.94	0.94	0.8		20	H-20-21	不整形	1.94	1.4	0.16
8	O-8-9	不整形	3.8	2.14	0.92		21	G-21	円形	0.74	0.7	0.02
9	N-8	不明	2.08	-	0.68		22	F-22-23	不整形	2.5	1.36	0.08
10	M-9	不整形	2.96	1.92	0.66		23	G-22-23	不整形	3.7	1.12	0.14
11	L-9	円形	1.52	1.44	0.2		24	L-20	不明	-	0.8	0.3
12	L-9-10	不整形	5.02	0.86	0.3		25	M-18	不明	-	0.52	-
13	K-9	不整形	4.12	4.0	1.1		26	O-19	不明	-	0.9	0.78
							27	N-20	隅丸方形	1.4	1.26	0.7

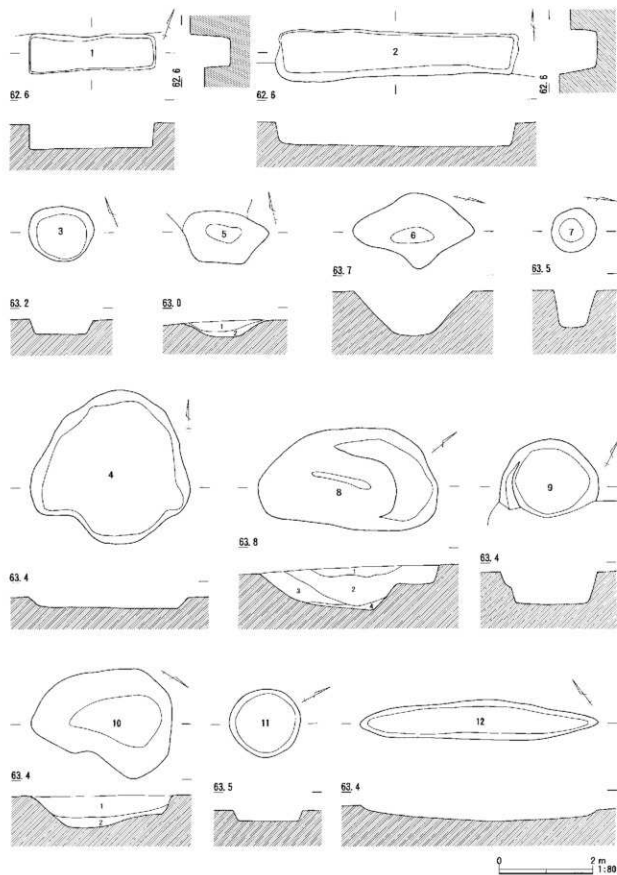


図129 SK 平面および断面 (1)

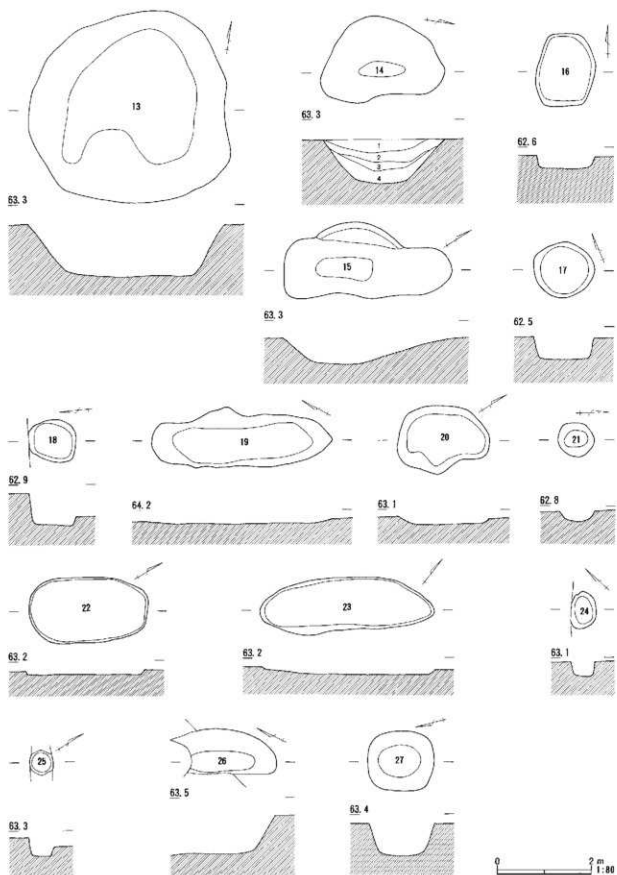


図130 SK 平面および断面 (2)

SK-5 土層説明

1 褐色土 ロームブロックを多量に含み、焼土ブロックを少量含む。

2 暗褐色土 ロームブロックを少量含む。

SK-8 土層説明

1 黒褐色土 炭化物ブロックを多量に含む。

2 褐色土 ロームブロックを少量含み、白色バミスを多量に含む。

3 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む。

4 黄褐色土 暗褐色土ブロックを多量に含む。

SK-10 土層説明

1 黒褐色土 小豆大以下の礫を少量含む。

2 黄褐色土 空豆大以下の礫を少量含む。

SK-14 土層説明

1 暗褐色土 白色バミスを多量に含む。

2 褐色土 ロームブロックを少量含み、大豆大以下の礫を少量含む。

3 黒褐色土 ロームブロックを多量に含む。

4 黄褐色土 空豆大以下の礫を少量含む。

SK-2 出土土器観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	中世土器 かわかけ	口径 (8.0) 底径 (4.9) 器高 2.0	体部は直線的に立ち上がり、口縁部に至る。	体部口縁部整形、底部回転糸切りと思われるが厚減のため不明瞭。	石英・白色粒 内外一褐色	1/2。

SK-19 出土土器観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土 脚 器 高 杯	口径 22.1 底径 22.2 器高 15.2	杯部下位は頸状に突出し、口縁部は外反して開く。脚部は下方に向かって膨らむ。裾部は中に段を持ち、頸状に粘土粒を貼付する。	外面一口縁部～裾部ナア。裾部不明だがミガキ。内面一口縁部不明瞭だがミガキ、脚部上位に絞り目、以下指ナア、裾部ナア。	石英・チャート 内一明赤褐色	4/5。
2	土 脚 器 高 杯	口径 19.7 底径 15.3 器高 17.5	杯部下位に稜を持ち、口縁部は外反気味に開く。脚部は下方に向かって広がり、裾部は大きく開く。脚部中に焼成前未貫通の窪み1。	外面一口縁部ヨコナア。杯部～杯底部は厚減のため調整不明瞭。脚部～裾部ナア。内面一口縁部～杯部ヨコナア。杯底部ナア。脚部上位に絞り目、中位以下ヘラズリ、裾部ヨコナア。	石英・白色粒 内一明赤褐色 外一褐色	4/5。
3	土 脚 器 高 杯	口径 19.8 底径 15.9 器高 17.2	杯部下位に稜を持ち、口縁部は外反気味に開く。脚部は下方に向かって広がり、裾部は大きく開く。	外面一口縁部～杯底部ナア、脚部ヘラズリ後ナア、裾部ナア。内面一坏部は厚減のため調整不明瞭。脚部上位指ナア、以下ヘラズリ、裾部ナア。	石英・白色粒 内外一明赤褐色	一部欠損。
4	土 脚 器 高 杯	口径 20.0 底径 15.1 器高 17.5	杯部下位に鋭い稜を持ち、口縁部は外反して開く。脚部は下方に向かって広がり、裾部は大きく開く。	外面一口縁部～裾部ナア。内面一口縁部～杯底部ナア、脚部上位に絞り目、以下ナア、裾部ナア。	石英・白色粒 内外一褐色	3/4。
5	土 脚 器 高 杯	口径 19.0 底径 (13.3) 器高 17.3	杯部下位に稜を持ち、口縁部はやや槽曲して開く。脚部は下方に向かってやや膨らみ、裾部はやや外反して開く。	外面一口縁部～杯部ナア、杯底部ハケ目、脚部～裾部厚減のため調整不明瞭。内面一口縁部～杯部ハケ目、杯底部は厚減、脚部ヘラズリ、裾部ハケ目。	石英・チャート 内外一赤褐色	2/3。
6	土 脚 器 壺	口径 18.7 底径 6.4 器高 26.8	粘土組織積み上げ成形。やや上げ底。脚部は大きく膨らみ、口縁部は外反して開く。	外面一口縁部ナア、胴部上位ハケ目、以下ヘラズリでその後中位下側を除きナア。下位の一部にミガキ、底部ヘラズリ。内面一口縁部ヨコナア。胴部～底部ヘラナア。	石英・チャート 内外一ふいじ色	3/4。
7	土 脚 器 壺	口径 18.2 底径 6.9 器高 32.5	胴部は丸く膨らむ。口縁部は下位に段を持ち、やや外反気味に開く。	外面一厚減のため調整不明瞭。内面一口縁部厚減、胴部～底部ヘラナア。	石英・チャート 内外一明赤褐色	一部欠損。

SK-20 出土土器観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土 脚 器 罎	口径 (12.8) 底径 4.1 器高 12.4	体部は膨らみを持ち、口縁部はわずかに再曲して開く。	外面一口縁部～体部上位ナア、下位厚減のため調整不明瞭。底部ナア。内面一口縁部～底部ナア。	石英・チャート 内外一褐色	4/5。

SK-23 出土土器観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土 脚 器 杯	口径 13.1 底径 4.8 器高 6.0	体部は直線的に開き、口縁部はわずかに内湾する。	外面一口縁部ナア、体部ヘラズリ後ナア、底部ヘラズリ。内面一口縁部～底部ヘラナア・ナア。	石英・チャート 内外一明赤褐色	完形。

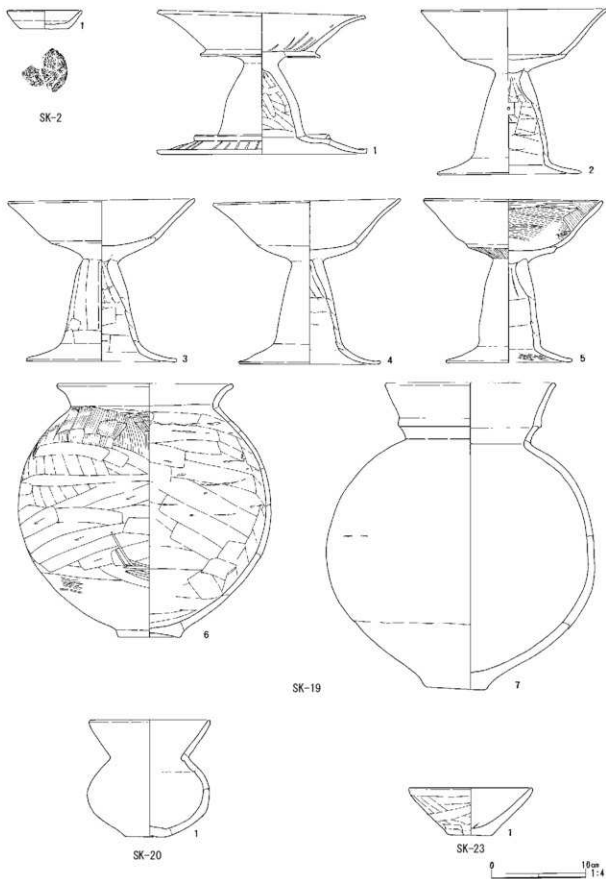


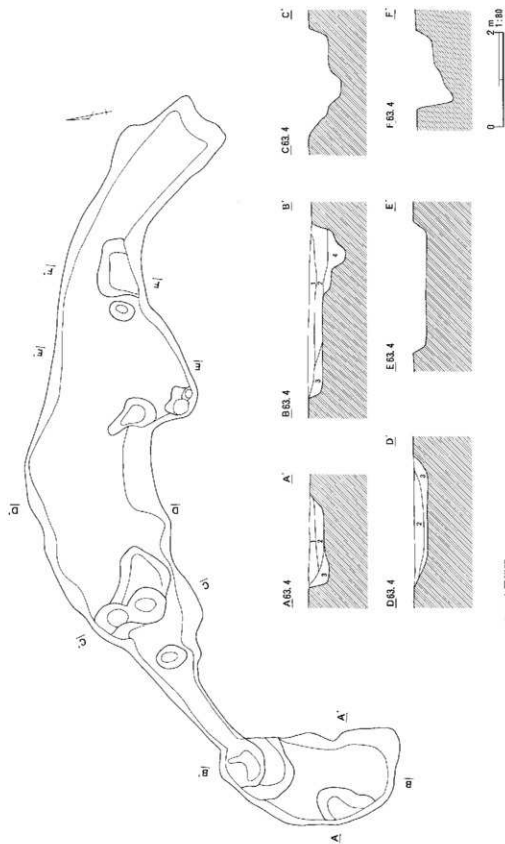
图131 SK 出土土器

6 性格不明遺構

SX-1はK-8グリッドからL-8グリッドにかけて弧状に連なる不整形の落ち込みで、性格不明の遺構である。掘り方も安定せず、各所にビット状や土坑状の掘り込みが存在する。覆土の堆積状況は観察箇所により異なるが、全般にロームブロックを多量に含む傾向にあり、一部に礫の混入がみられる。遺物は高環・埴・小型甕・甕・甗が出土している。

SX-1 出土土器観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土部器 高環	口径 18.9 底径 14.4 器高 17.4	坏部下位に稜を持ち、口縁部は外反して開く。脚部は下方に向かって広がりがり、裾部は外反して開く。	外面-口縁部~坏体部ヨコナデ、坏底部ナデ、脚部ヘラケズリ後ナデ、裾部ヨコナデ。内面-口縁部~坏体部ヨコナデ、坏底部ナデ、脚部ナデ・指ナデ、裾部ナデ。	石英・白色粒 内外-橙色	5/6。
2	土部器 高環	口径 19.9 底径(15.4) 器高 17.3	坏部下位に弱い稜を持ち、口縁部は外反気味に開く。脚部は下方に向かって広がりがり、裾部は大きく開く。	外面-口縁部ヨコナデ、坏体部~脚部ナデ、裾部ヨコナデ。内面-口縁部~坏底部木口状工具ナデで太いミガキを疎らに施す。脚部ヘラケズリ、裾部ヨコナデ。	石英・チャート 内外-赤褐色	3/4。
3	土部器 埴	口径 7.8 底径 3.5 器高 8.5	体部は膨らみを持ち、口縁部は湾曲して開く。	外面-口縁部ヨコナデ、体部~底部摩滅のため調整不明瞭。内面-口縁部ヨコナデ、体部~底部指ナデ。	石英・チャート 内~にぶい赤褐色 外-橙色	3/4。
4	土部器 埴	口径 7.6 底径 3.2 器高 8.4	体部は膨らみを持ち、口縁部はやや湾曲気味に開く。	外面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラケズリ後に体部上半部ナデ。内面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ナデ。	石英・チャート 内外-明赤褐色	ほぼ完形。
5	土部器 埴	口径 9.8 底径 2.3 器高 9.2	底部は小さな上げ底。体部は中位に膨らみを持つ。口縁部は直線的に開き、口唇部は尖る。	外面-口縁部ヨコナデ、体部上半部ナデ、下半部ヘラケズリ、底部ナデ。内面-口縁部ヨコナデ、体部~底部指ナデ。	石英・白色粒 内外-明赤褐色	ほぼ完形。
6	土部器 小型甕	口径 15.6 底径 4.5 器高 17.7	体部は膨らみを持ち、口縁部はやや外反気味に開く。	外面-口縁部ヨコナデ、胴部上位~中位ナデ、下位~底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ、胴部~底部ヘラナデ。	粗粒チャート 内外~にぶい橙色	2/3。
7	土部器 甕	口径 16.7 底径 6.8 器高 24.9	胴部は中位が大きく膨らみ、口縁部はわずかに湾曲して開く。	外面-口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後ナデだが中位は摩滅のため不明瞭。底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ、胴部~底部ヘラナデ。	石英・白色粒 内外-明赤褐色	4/5。
8	土部器 甗	口径 21.6 底径 10.0 器高 22.2	胴部は下位に膨らみを持ち、寸割気味に立ち上がる。口縁部は外反気味に開く。	外面-口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後に上位~中位ナデ。内面-口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	粗粒チャート 内外~にぶい黄褐色	4/5。
9	土部器 甗	口径 26.2 底径 10.1 器高 27.2	胴部は湾曲して立ち上がり、中位以上は寸割気味。口縁部は外反気味に開く。	外面-口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後ナデ。内面-口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	石英・チャート 内外-明赤褐色	一部欠損。



SX-1土層説明

- 1 暗褐色土 白色バミス、小豆大以下の礫を少量含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 3 褐色土 ロームブロックを多量に含む、大豆大以下の礫を少量含む。
- 4 黒褐色土 ロームブロックを多量に含む。

図132 SX-1 平面および断面

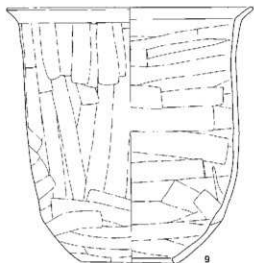
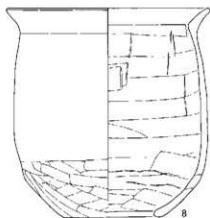
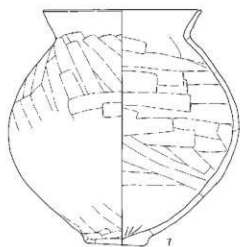
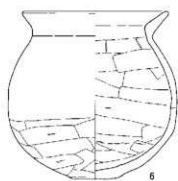
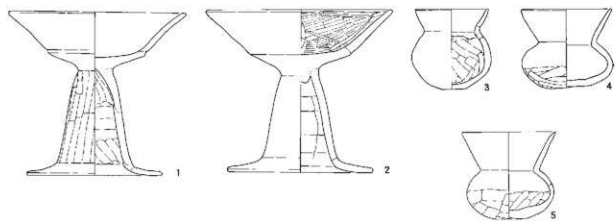


图133 SX-1 出土土器

7 溝

溝は12条を確認した。A区からC区にかけて検出したSD-1～SD-5は、東西・南北方向に直線的に延び、直角に曲がる屈曲部をもつことから、方形をなす区画溝の一部と考えられる。SD-6は河道跡から斜めに分岐する溝で、河道跡もしくは河道跡の内部を走行するSD-7・8などとの有機的な関係が想定される。

SD-1

A区・B区の北辺に沿って東西に延びる溝で、N-2グリッドで北方へ90°屈曲している。断面は逆台形を呈し、覆土は3層に分かれ、遺物は土師器の埴、内耳土器が出土している。

所属時期の詳細については不明であるが、現地形の形成後の掘削と考えられることから、近世以降と推測される。

SD-2

A区のE-3グリッドからB区のR-3グリッドにかけて、SD-3とほぼ平行し東西に延びる溝で、幅の広がる箇所ではSD-3と一体化している。断面は台形を呈する。遺物はSD-3との一括で、かわらけ、内耳土器、播鉢が出土している。

SD-3

A区のE-3グリッドからB区のR-3グリッドにかけて直線的に延びる。S-3グリッドで90°屈曲し、緩やかに弧を描いて南へ延び、C区のS-9グリッドで河道跡に合流している。E-3グリッドからR-3グリッドにかけてSD-2と並行している。断面は台形を呈し、覆土は黒褐色土および黒色土の堆積を認める。遺物はSD-2との一括で、かわらけ、内耳土器、播鉢が出土しているほか、単独でも内耳土器を検出している。

SD-4

C区のS-6グリッドからS-9グリッドにかけて、SD-3と並行しながら、緩やかに弧を描いて延びる。SD-3と同様にS-9グリッドで河道跡に合流している。遺物は出土していない。

SD-5

北方から延び、B区のS-2グリッドで90°屈曲し、直線的に西方へ延伸している。断面は逆台形を呈する。遺物は出土していない。

SD-6

B区のI-6グリッドから南西へ延び、N-9グリッドで河道跡に合流している。断面は逆台形ないし葉研状を呈する。遺物は土師器の埴が出土している。

SD-7

D区の河道跡の内部を走行する溝で、河道跡に設定したトレンチで断面のみを検出している。覆土には砂層や砂礫層が発達している。遺物は出土していない。

SD-8

SD-07と同様に、D区の河道跡の内部を走行する溝で、河道跡に設定したトレンチで断面のみを検出している。覆土には砂層や砂粒を多量に層が発達している。遺物は土師器の坏・鉢が出土している。

SD-9

G区のO-17グリッドからO-18グリッドにかけて位置し、北北東から南南西へ直線的に延びる。断

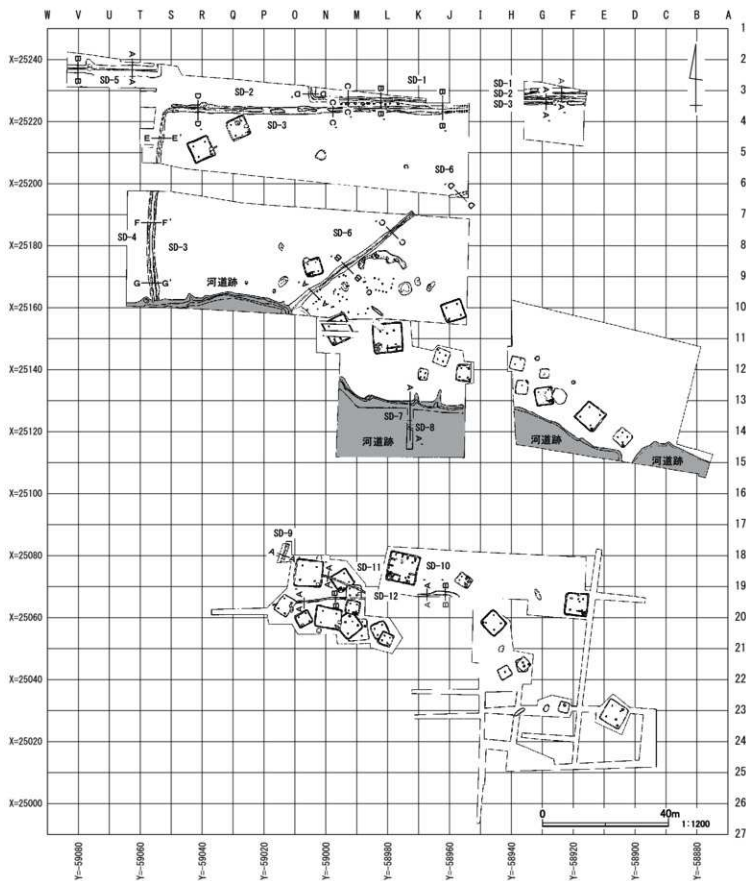
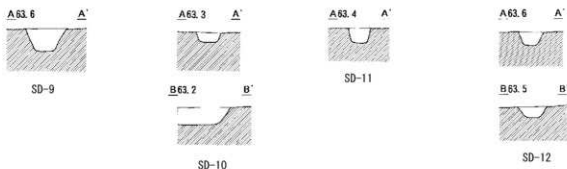
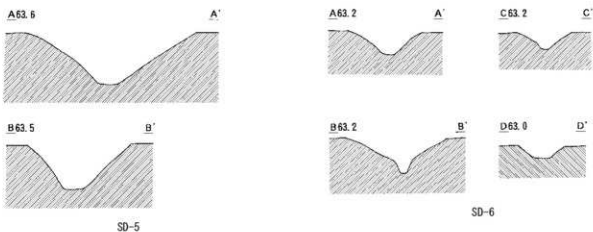
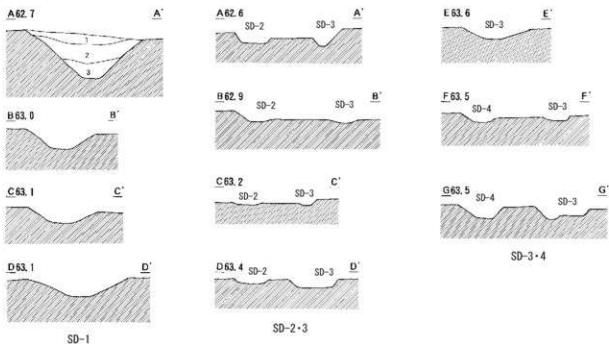


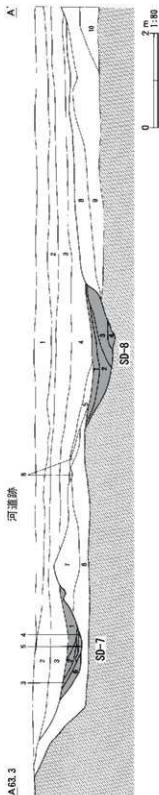
图134 清断面位置图



SD-1土層説明

- 1 暗灰褐色土 白色バミスを多量に含み、ロームブロック、焼土ブロックを少量含む。
- 2 暗灰褐色土 ロームブロック、大豆大以下の礫を少量含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む。

図135 SD断面



SD-7土層説明

- 1 暗褐色土 ロームブロックを多量に含み、炭化物ブロックを少量含む。
- 2 褐色土 ロームブロックを多量に含み、砂粒を少量含む。
- 3 褐色土 ロームを層状に含む。
- 4 暗褐色砂礫層 暗褐色土 黒色土を層状に含む。
- 5 暗褐色土 黒色土を層状に含む。
- 6 褐色砂層

SD-8土層説明

- 1 砂層 褐色砂層と黒灰色砂層が薄く交互に堆積する。
- 2 暗褐色土 黒色土を層状に含む。
- 3 暗褐色土 細砂粒を多量に含む。
- 4 褐色土 細砂粒を少量含む。

河道跡土層説明

- 1 暗褐色土 白色バミスを多量に含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 3 黒褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 4 褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 5 暗褐色土 細砂粒を層状に含む。
- 6 暗褐色土 ロームブロックを多量に含み、砂粒を少量含む。
- 7 暗褐色土 黒褐色土ブロックを多量に含み層状に堆積する。
- 8 暗褐色土 空豆大以下の礫、砂粒を多量に含む。
- 9 暗褐色砂礫層 空豆大以下の礫と砂粒からなる。
- 10 暗灰色砂礫層 空豆大以下の礫と砂粒からなる。しまり強。

図136 SD-7・8、河道跡断面

面は逆台形を呈する。遺物は出土していない。

SD-10

F区の I-19 グリッドから J-19 グリッドにかけて位置し、弧状に延びる。断面は逆台形を呈する。遺物は出土していない。

SD-11

G区の L-19 グリッドから N-18 グリッドにかけて位置し、東南東から西北西へ直線的に延びる。SI-28・29・30 と重複している。新旧関係は SD-11 が古く、SI-28・29・30 いずれも新しい。断面は逆台形を呈する。遺物は出土していない。

SD-12

G区の L-19 グリッドから N-19 グリッドにかけて位置し、緩やかに曲がりながらほぼ東西に延びる。断面は逆台形を呈する。遺物は出土していない。

SD-1 出土土器観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土器 罎	口径 (10.8) 底径 - 器高 10.1	丸底。体部は膨らみを持ち、口縁部は直線的に開く。口唇部は尖る。	外面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラケズリ後ナデ。内面-口縁部ナデ。体部~底部ヘラナデ。	石英・白色粒 内-明褐色 外-褐色	1/2。
2	中世土器 焙烙	口径 (34.8) 底径 (31.5) 器高 5.2	体部は湾曲して立ち上がる。内耳が貼付される。	外面-口縁部~体部上位ヨコナデ。体部下位ナデ・指頭圧痕。内面-口縁部~体部ロクロ整形。	石英・白色粒 内-褐灰色 外-灰褐色	1/4。
3	中世土器 焙烙	口径 (37.9) 底径 (35.6) 器高 6.0	体部上位~口縁部はやや湾曲して開く。内耳が貼付される。	外面-口縁部~体部上位ヨコナデ。体部下位ナデ・指頭圧痕。内面-口縁部~体部ヨコナデ。底部ナデ。	石英・チャート 内外-灰黄褐色	1/8。 内面体部下位に焦げ付着。

SD-2・3 出土土器観察表

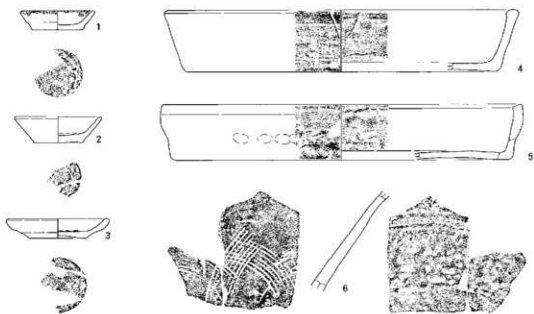
No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	中世土器 かわらけ	口径 (7.9) 底径 5.3 器高 2.1	体部は直線的に立ち上がり、口縁部に至る。	体部ロクロ整形。底部回転未切り無調整。	石英・白色粒 内外-褐色	2/3。 口縁部に焦げ付着。
2	中世土器 かわらけ	口径 (9.2) 底径 (4.8) 器高 2.7	体部は直線的に立ち上がり、口縁部に至る。	体部ロクロ整形。底部回転未切り。	チャート・黒色粒 内外-ふい褐色	1/4。
3	中世土器 かわらけ	口径 (10.9) 底径 (6.0) 器高 2.1	口縁部は肉厚となり、やや内湾して開く。	体部ロクロ整形。底部回転未切りだが摩滅のため不明瞭。	角閃石・白色粒 内外-ふい褐色	1/3。
4	中世土器 焙烙	口径 (37.6) 底径 (33.6) 器高 6.6	体部は直線的に開く。	外面-ロクロ整形。内面-ロクロ整形。	石英・チャート 内外-灰黄褐色	1/10。
5	中世土器 焙烙	口径 (38.2) 底径 (36.1) 器高 5.8	体部上位~口縁部はやや湾曲して開く。	外面-口縁部~体部ナデ。体部中に指頭圧痕。内面-口縁部~底部ナデ。	黒色粒・白色粒 内外-灰黄褐色	1/10。
6	中世土器 捕鉢	口径 - 底径 - 器高 -	体部は直線的に開き、上位はやや外反する。すり目は条単位の弧状。	外面-体部下側ヘラケズリ。中位指頭圧痕。内面-体部ロクロ整形。	片岩・チャート 内外-灰黄褐色	体部片。

SD-3 出土土器観察表

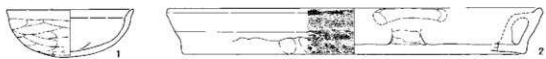
No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土器 罎	口径 13.4 底径 - 器高 5.1	丸底。体部は湾曲して立ち上がる。内斜口縁。	外面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラケズリ後ナデ。内面-口縁部~体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・チャート 内外-ふい赤褐色	2/3。
2	中世土器 焙烙	口径 (40.0) 底径 (36.5) 器高 -	体部上位~口縁部はやや湾曲して開く。内耳が脱落。	外面-体部ロクロ整形。体部下位ナデ・指頭圧痕。内面-ロクロ整形。	角閃石・白色粒 内外-灰色	1/10。



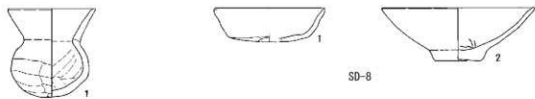
SD-1



SD-2 · 3



SD-3



SD-6

SD-8



图137 SD 出土土器

SD-6 出土土器観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法的特徴	調整手法的特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 埴	口径 9.3 底径 - 器高 9.4	丸底。体部は膨らみを持ち、口縁部は直線的に開く。	外面-口縁部ヨコナテ、体部上位ナテ、中位~底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナテ、体部~底部指ナテ。	石英・チャート 内外-明赤褐色	口縁部 1/2 欠損。

SD-8 出土土器観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法的特徴	調整手法的特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 坏	口径 (11.8) 底径 (8.2) 器高 (3.6)	底部は丸みを持つ。体部はやや湾曲して立ち上がり、口縁部はやや内湾する。	外面-口縁部~体部ナテ、底部ヘラケズリ。内面-口縁部~底部ナテ。	チャート・黒色粒 内外-褐色	1/2。
2	土師器 鉢	口径 (16.2) 口径 5.0 器高 5.6	台状の底部。体部は湾曲して立ち上がり、口縁部に至る。	外面-口縁部~体部ナテ、底部ナテ。内面-口縁部~体部ナテ、底部ヘラナテ。	チャート・白色粒 内外-明赤褐色	一部欠損。

8 河道跡

C～E区の南縁に沿って、蛇行しながら走行する河道跡を検出している。調査以前の地形には全く反映されいない完全な埋没河道である。調査は部分的な範囲に止どまったため、全容は不明であるが、南側のF・Gでは河道の南岸を検出していないことから、河幅は30mを超えることはないだろう。流水方向は周辺の現行河川と同様に、西から東へ向いていたと考えられる。

河道内には8層以下に分厚い礫層が発達しているため、掘割が十分におこなえず、現地表から1.5前後の深度においても河底は検出できていない。現表土した2層から7層まではロームブロックなどを含む褐色系の土層が発達している。火山灰の堆積は確認できていない。遺物は土師器の坏・埴がわずかに出土している。

C区の特レンチにおける堆積層の観察では、埋没が完全に進行せず、未だ低地帯を形成している段階で、SD-7・8など小規模な溝が掘割されていることが確認できる。堆積土には砂層や砂礫層が発達し、ある期間一定量の流水のあったことが推定される。

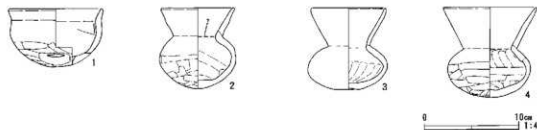


図138 河道跡 出土土器

河道跡出土土器観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法的特徴	調整手法的特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 坏	口径 10.0 底径 - 器高 6.2	丸底。体部は湾曲して立ち上がり、口縁部は短く外傾する。	外面-口縁部ヨコナテ、体部上位ナテ、中位~底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナテ、体部ヘラナテ、底部指ナテ。	石英・チャート 内外-褐色	一部欠損。 体部下位に焼成後の穿孔。
2	土師器 埴	口径 (7.8) 底径 - 器高 8.6	丸底。体部は膨らみを持ち、口縁部は緩やかに湾曲して開く。	外面-口縁部~体部上位ナテ、体部中位~底部ヘラケズリ後ナテ。内面-口縁部ヘラナテ、体部~底部指ナテ。	石英・白色粒 外-明赤褐色	1/2。

No	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備 考
3	土 師 器 埴	口径 8.0 底径 2.6 器高 8.6	わずかな上げ底。体部はやや扁平な膨らみを持つ。口縁部は直線的に開き、上端部やや内湾する。	外面→摩滅のため調整不明瞭。内面→口縁部摩滅。体部→底部指ナデ。	石英・チャート 内外→明赤褐色	口縁部 1/2 欠損。
4	土 師 器 埴	口径 10.0 底径 — 器高 9.5	丸底。口縁部は膨らみを持ち、口縁部は直線的に開く。	外面→口縁部ヨコナデ、体部上位ナデ、中位→底部ヘラケズリ。内面→口縁部ナデ、体部→底部指ナデ。	石英・チャート 内外→明赤褐色	4/5。

9 遺構外出土遺物

(1)調査区出土遺物

各調査区において確認面付近の深度から遺構に伴わずに出土した遺物である。住居跡その他の遺構の中には、確認面からの掘り方が極度に浅いものがみられることから、確認面上層に所在した検出不能の遺構覆土中の遺物を含んでいる可能性を否定できない。遺物は土師器の高埴・埴・小型甕・甕・台付甕・甕のほか、中世のかわらけが含まれる。

A区～E区 出土土器観察表

No	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備 考
1	土 師 器 高 埴	口径 18.8 底径 (14.2) 器高 16.2	埴部下位に弱い稜を持ち、口縁部は外反気味に開く。脚部は下方に向かって広がり、裾部は外反して開く。	外面→口縁部→埴底部ナデ、脚部ヘラケズリ後ナデ、裾部ヨコナデ。内面→口縁部→埴体部ナデで下位は木口状工具ナデ、埴底部ナデ、脚部ヘラケズリ、裾部ナデ。	チャート・白色粒 内外→明赤褐色	2/3。
2	土 師 器 高 埴	口径 17.4 底径 12.4 器高 16.6	埴部下位に稜を持ち、口縁部はやや外反して開く。脚部は下方に向かって広がり、裾部は外反気味に開く。	外面→口縁部→埴体部ヨコナデ、埴底部→脚部ナデ、裾部ヨコナデ。内面→口縁部→埴体部ヨコナデ。埴底部ナデ、脚部上位に鋭り目、以下ヘラケズリ、裾部ヨコナデ。	チャート・白色粒 内外→明赤褐色	4/5。
3	土 師 器 高 埴	口径 18.7 底径 16.1 器高 16.4	埴部下位に稜を持ち、口縁部はわずかに湾曲して開く。脚部は下方に向かって大きく広がり、裾部はやや湾曲して開く。	外面→口縁部→埴体部ヨコナデ、埴底部→裾部ナデ。内面→口縁部→埴体部ヘラナデ、埴底部ナデ、脚部上位に鋭り目。下位→裾部ナデ。	チャート・黒色粒 内外→褐色	2/3。
4	土 師 器 高 埴	口径 19.8 底径 14.0 器高 16.8	埴部下位に稜を持ち、口縁部は外反気味に開く。脚部は下方に向かって広がり、裾部はやや外反して開く。	外面→口縁部→埴体部ヨコナデ、埴底部→裾部ナデ。内面→口縁部→埴体部ヨコナデ、埴底部ナデ、脚部ナデ。裾部ヨコナデ。	石英・白色粒 内外→明赤褐色	3/4。
5	土 師 器 高 埴	口径 (19.1) 底径 (13.3) 器高 17.6	埴部下位に弱い稜を持ち、口縁部は外反して開く。脚部は下方に向かって広がり、裾部は外反気味に開く。	外面→口縁部→裾部ナデ。内面→埴部は摩滅のため調整不明瞭。脚部上位に鋭り目、下位ヘラケズリ、裾部ヨコナデ。	石英・白色粒 内外→褐色	2/3。
6	土 師 器 埴	口径 7.8 底径 2.4 器高 8.5	体部は膨らみを持ち、口縁部は湾曲気味に開く。	外面→口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ後ナデ。内面→口縁部ヨコナデ、体部→底部指ナデ。	石英・チャート 内外→明赤褐色	口縁部 1/2 欠損。
7	土 師 器 埴	口径 8.8 底径 — 器高 8.6	丸底。体部は中位に膨らみを持ち、口縁部はやや外反して開く。	外面→口縁部ヨコナデ、体部→底部ヘラケズリ後ナデ。内面→口縁部ナデ、体部上位指ナデ、中位→底部ヘラナデ。	石英・白色粒 内外→ぶい赤褐色	2/3。
8	土 師 器 埴	口径 9.2 底径 — 器高 8.7	丸底。体部は膨らみを持ち、口縁部は湾曲気味に開く。	外面→口縁部→体部上位ナデ、体部中位→底部ヘラケズリ後ナデ。内面→口縁部→底部ナデ。	石英・白色粒 内外→明赤褐色	一部欠損。
9	土 師 器 埴	口径 8.7 底径 3.2 器高 9.2	体部は膨らみを持ち、口縁部は直線的に開く。	外面→全体に摩滅するが、体部中位～下位はヘラケズリ。内面→口縁部ヘラナデ、体部→底部ナデ。	石英・チャート 内外→明赤褐色	2/3。

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法的特徴	調整手法的特徴	胎土・色調	備 考
10	土 師 器 埴	口径 7.9 底径 - 器高 9.3	胴部は膨らみを持つ。口縁部は直線的に開き、端部わずかに内湾する。	外面-口縁部ナテ、体部~底部鋭角が著しいが体部中位~底部ヘラケズリ。内面-口縁部~底部ナテ。	石英・チャート 内外-明赤褐色	一部欠損。
11	土 師 器 埴	口径 8.9 底径 - 器高 9.5	丸底。体部は膨らみを持ち、口縁部は直線的に開く。	外面-口縁部ヨコナテ、体部上位~中位ナテ。下位~底部ヘラケズリ後ナテ。内面-厚減のため調整不明瞭。体部~底部ナテ。	石英・白色粒 内外-明赤褐色	2/3。
12	土 師 器 埴	口径 9.9 底径 2.6 器高 9.1	不明瞭だが小さな平底。体部は中位に膨らみを持ち、口縁部は外反気味に開く。	外面-口縁部ナテ、体部上位~中位ナテ。下位ヘラケズリ。底部ナテ。内面-口縁部ナテ、体部~底部指ナテ。	チャート・白色粒 内外-明赤褐色	口縁部1/3欠損。
13	土 師 器 埴	口径 10.4 底径 1.6 器高 9.5	体部は中位に膨らみを持ち、口縁部は直線的に開く。	外面-口縁部ヨコナテ、体部上位ナテ、中位~底部ヘラケズリ後ナテ。内面-口縁部ヨコナテ、体部~底部ナテ。	石英・白色粒 内外-にぶい赤褐色	7/8。
14	土 師 器 埴	口径 10.1 底径 3.7 器高 9.2	体部は中位に膨らみを持ち、口縁部は外反気味に開く。	外面-口縁部ヨコナテ、体部上半ナテ、下半ヘラケズリ後ナテで一部にミガキ、底部ナテ。内面-口縁部ヨコナテ、体部~底部指ナテ。	石英・チャート 内外-褐色	4/5。
15	土 師 器 埴	口径 10.6 底径 - 器高 9.2	丸底。体部は中位に膨らみを持ち、口縁部は外反気味に開く。	外面-口縁部ヨコナテ、体部上半ナテ、下半~底部ヘラケズリ後ナテ。内面-口縁部ヨコナテ、体部~底部指ナテ。	石英・チャート 内外-にぶい黄褐色	ほぼ完形。
16	土 師 器 埴	口径 8.6 底径 3.3 器高 6.1	小さな平底。体部は中位に膨らみを持ち、口縁部は直線的に開く。	外面-口縁部ヨコナテ、体部上位~中位ナテ。下位~底部ヘラケズリ後ナテ。内面-口縁部弱い縦位ミガキ、体部~底部指ナテ。	石英・チャート 内外-にぶい褐色	完形。
17	土 師 器 埴	口径 8.6 底径 - 器高 9.7	丸底。体部は中位に膨らみを持ち、口縁部はわずかに湾曲して開く。	外面-口縁部ナテ、体部は下位~底のヘラケズリを除きナテ。内面-口縁部ヘラナテ、体部~底部指ナテ。	石英・チャート 内外-明赤褐色	ほぼ完形。
18	土 師 器 埴	口径 9.8 底径 - 器高 9.6	丸底気味。体部は膨らみを持ち、口縁部はわずかに湾曲して開く。	外面-口縁部~体部上位細かいハケ目後に一部をナテ、中位~底部ヘラケズリ後に体部中位をナテ。内面-口縁部ナテ、体部上位~中位ナテ、下位~底部指ナテ。	石英・白色粒 内外-明赤褐色	口縁部1/2欠損。
19	土 師 器 埴	口径 10.0 底径 3.1 器高 10.7	体部は膨らみを持つ。口縁部は直線的に開き、端部わずかに外反する。	外面-口縁部ヨコナテ、体部上位~中位ナテ、下位ヘラケズリ後ナテ、底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナテ、体部上位~中位ナテ、下位~底部指ナテ。	チャート・白色粒 内外-にぶい黄褐色	4/5。
20	土 師 器 埴	口径 10.3 底径 1.9 器高 11.3	体部は膨らみを持つ。口縁部は直線的に開き、端部がわずかに内湾する。底部中央部が小さく窪む。	外面-口縁部~体部上位ナテ、以下ヘラケズリ、底部ナテ。内面-口縁部ナテ、体部~底部指ナテ。	石英・チャート 内外-褐色	3/4。
21	土 師 器 埴	口径 13.7 底径 - 器高 16.8	丸底。体部は下位に膨らみを持ち、口縁部は外反気味に開く。	外面-口縁部ヨコナテ、体部上位ナテ、中位~底部ヘラケズリ後ナテ。内面-口縁部~胴部ヘラナテ。	石英・チャート 内外-明赤褐色	3/4。
22	土 師 器 鉢	口径 12.2 底径 (3.0) 器高 6.5	上げ底。体部は湾曲して立ち上がり、口縁部はやや湾曲して開く。	外面-口縁部ナテ、体部ナテで下位にヘラケズリあり。内面-口縁部ナテ、体部ヘラナテ。	石英・白色粒 内-にぶい褐色 外-明赤褐色	2/3。
23	土 師 器 鉢	口径 (14.5) 底径 (5.1) 器高 8.9	体部は湾曲して立ち上がり、口縁部は外反気味に開く。体部中位に統合後的小穿孔2。	外面-口縁部ヨコナテ、体部上位ナテ、中位以下ヘラケズリ後ナテ。底部ナテ。内面-口縁部ヨコナテ、体部ヘラナテ、底部ナテ。	石英・白色粒 内外-明赤褐色	1/3。
24	土 師 器 ミニチュア	口径 6.3 底径 2.3 器高 3.2	体部は直線的に開き、口縁部はわずかに外反する。	外面-口縁部~底部ナテ。内面-口縁部~底部ナテ。	石英・白色粒 内外-明赤褐色	完形。

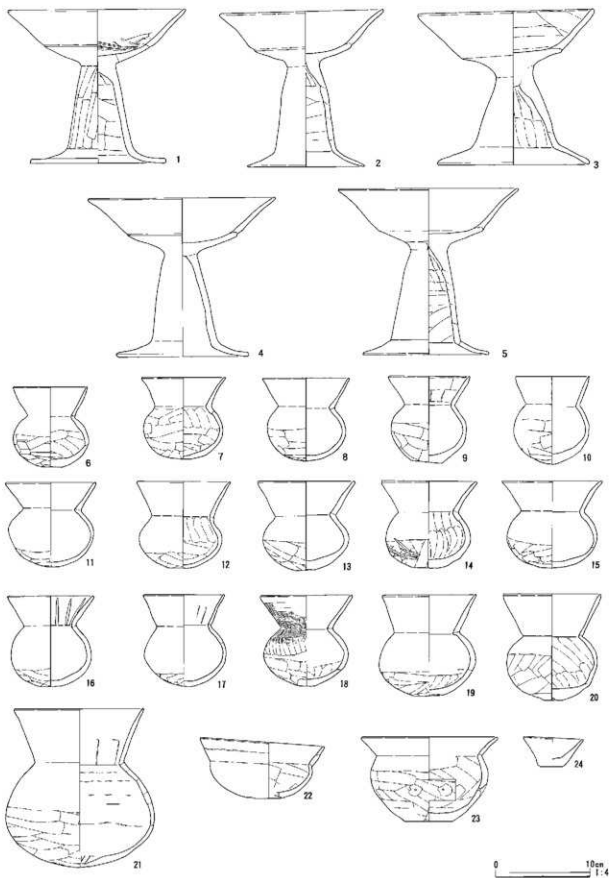


图139 A区~E区出土土器(1)

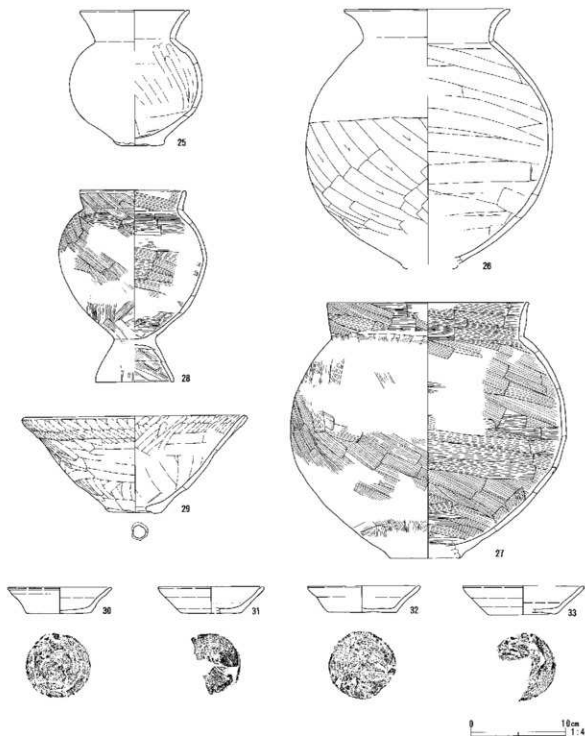


図140 A区～E区 出土土器（2）

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
25	土器 小型甕	口径 11.6 底径 5.4 器高 14.4	粘土組織み上げ成形。胴部は膨らみを持ち、口縁部は外反して開く。底部は中央部が浅く窪む。	外面一口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。底部ナデ。内面一口縁部ヨコナデ。胴部上位～中位指ナデ。下位～底部ヘラナデ。	チャート・角四石 内～に、深い橙色 外～浅黄橙	一部欠損。
26	土器 甕	口径 17.6 底径 - 器高 -	胴部は膨らみを持ち、口縁部は外反して開く。	外面一口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリで上位をナデ。内面一口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。	石英・白色粒 内外～明赤褐色	2/3。 底部欠損。

No	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
27	土部器 甕	口径 21.4 底径 (7.7) 器高 27.1	胴部は大きく膨らみ、口縁部はわずかに湾曲して立ち上がる。	外面一口縁部ハケ目、胴部ナアおよび厚減があるが全体にハケ目。内面一口縁部～胴部ハケ目。	石英・白色粒 内外一褐色	3/4。
28	土部器 台付甕	口径 11.2 底径 8.3 器高 20.2	胴部は上位に膨らみを持つ。口縁部は短く直線的に立ち上がり、端部わずかに内湾する。台部はわずかに湾曲して開く。	外面一口縁部～胴部ハケ目、台部は厚減のため不明瞭だがハケ目か。内面一口縁部から胴部ハケ目、底部ヘラナア、台部ハケ目。	石英・白色粒 内外一褐色	4/5。
29	土部器 有孔鉢	口径 23.9 底径 5.2 器高 10.2	体部はやや湾曲して立ち上がり、口縁部は肥厚する。底部に不整形の孔。	外面一口縁部指ナア・指頭圧痕、体部ナア・ヘラナア、底部ナア。内面一口縁部指ナア・指頭圧痕、体部～底部ヘラナア。	石英・チャート 内外一ぶい褐色	2/3。
30	中世土器 かわらけ	口径 11.0 底径 6.9 器高 2.8	体部は中位でやや外反する。口縁部は短く外反して開く。	体部ロクロ整形、底部回転糸切り無調整。	片岩・チャート 内外一褐色	一部欠損。
31	中世土器 かわらけ	口径 (11.3) 底径 (6.5) 器高 2.8	体部は直線的に立ち上がり、口縁部に至る。	体部ロクロ整形、底部回転糸切り無調整。	雲母・石英 内外一ぶい褐色	1/2。
32	中世土器 かわらけ	口径 (12.8) 底径 7.3 器高 3.0	体部は直線的に立ち上がり、口縁部に至る。	体部ロクロ整形、底部回転糸切り無調整。	石英・チャート 内一黒褐色 外一ぶい黄褐色	1/2。
33	中世土器 かわらけ	口径 (12.8) 底径 7.3 器高 3.0	体部は直線的に立ち上がり、口縁部に至る。	体部ロクロ整形、底部回転糸切り無調整。	石英・チャート 内一黒褐色 外一ぶい黄褐色	1/2。

F・G区出土土器観察表

	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土部器 高杯	口径 16.7 底径 12.2 器高 12.4	杯部下位に稜を持ち、口縁部はやや湾曲して開く。脚部は下方に向かって広がり、裾部は外反して開く。	外面一口縁部～杯底部ナア、脚部～裾部粗いミガキ。内面一口縁部～杯底部ナア、脚部～裾部ナア。	石英・白色粒 内外一明赤褐色	3/4。
2	土部器 高杯	口径 18.4 底径 12.1 器高 13.7	杯部下位に稜を持ち、口縁部は直線的に開く。脚部は下方に向かって広がり、裾部はやや外反して開く。	外面一口縁部～杯底部ナア、脚部～裾部ミガキあるが厚減のため不明瞭。内面一口縁部～杯底部ナア、脚部ヘラケズリ、裾部ナア。	チャート・白色粒 内外一明赤褐色	2/3。

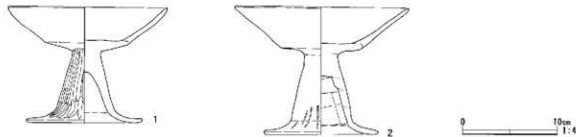


図141 F・G区出土土器

(2)表土出土遺物

掘削した表土内に含まれていた遺物である。本来、遺構の覆土中に所在したものが、後世の耕作などにより、表土内に移動したものであろう。

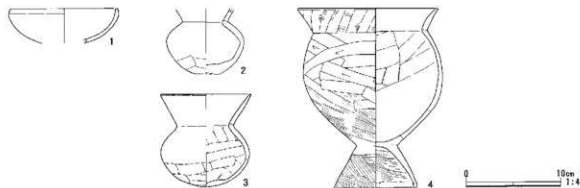


図142 表土出土土器

表土出土土器観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土器 坏	口径 11.3 底径 — 器高 —	丸底と推定される。体部は両曲して立ち上がり、口縁部は湾曲気味に内補する。	外面—口縁部ナデ、体部ヘラケズリあるが摩滅のため不明瞭。内面—口縁部～体部ナデ。	石英・白色粒 内外—橙色	1/3。
2	土器 甗	口径 — 底径 2.5 器高 —	底部は小さな上げ底。体部は上位に膨らみを持つ。	外面—体部上～中位ナデ、下位ヘラケズリ。内面—体部～底部ナデ。	石英・白色粒 内外—明赤褐色	口縁部欠損。
3	土器 甗	口径 9.6 底径 — 器高 9.8	丸底。体部は膨らみを持ち、口縁部は直線的に開く。	外面—口縁部～体部中位ナデ。体部下位～底部ヘラケズリ後ナデ。内面—口縁部ナデ、体部上半指ナデ。下半～底部ヘラナデ。	石英・角閃石 内—ふい橙色 外—明赤褐色	2/3。
4	土器 台付甗	口径 14.8 底径 (8.8) 器高 19.0	胴部は膨らみを持ち、口縁部は外反気味に開く。台部は「ハ」の字状に開き、端部を内側に折り返す。	外面—口縁部は木口状工具ナデ。胴部上半ヘラケズリ。下半ハケ目。台部ハケ目で上位ナデ。内面—口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。台部ハケ目。	石英・黒色粒 内—ふい橙色 外—ふい赤褐色	2/3。

III 結 語

雌濠遺跡ではC～E区とF・G区の間を蛇行しながら東西に走行する河道跡と、この河道跡に沿って両岸に展開する古墳時代の集落が検出された。住居は35基を数えるが、このうち、C区～E区において検出されたSI-4からSI-16は、河道跡の北岸に沿って東西に分布しており、明かに河道跡低地帯の存在を意識して占地していることがわかる。河道跡南岸のF・G区においては、特定箇所に集中する状況が認められ、河道跡との位置的な関係も把握できていないが、ほぼ東西方向に長く分布する傾向は北岸側と同様であり、おおよそ河道跡低地帯に沿った分布を見せているということができよう。このような、比較的大規模な河道跡の沿岸部に古墳時代の集落が展開するパターンは、見玉地域においてはしばしば認められるところであり、至近では九反田遺跡、川越田遺跡などが雌濠遺跡と形成年代も近く典型として指摘できる。

ところで、雌濠遺跡の河道跡は、規模・走向から推測して、現在の女堀川もしくはその支流の旧水路であった可能性が高い。河底までの調査に至らず、形成の年代については不明だが、C区の調査で河道跡に設定したトレンチ壁での堆積層の観察によれば、埋没が完全に進行せず、未だ低地帯を形成している段階で、人工的にSD-7およびSD-8が開削されていることが確認できた。このうち、SD-8では土師器が検出されており、所属時期の詳細を確認するには至らないものの、同溝の開削が古代もしくはそれ以前にまで遡る可能性は考えられてよいだろう。同時に、SD-7についても、層位的な関係からして、SD-8と時間的に大きく隔たるものではないと推定される。

なお、この河道跡に開削されている2条の溝の堆積土には、砂層や砂礫層の発達が認められた。このことは、少なくとも開削後しばらくの間は、一定量の流水が存在したことを窺わせるものであり、両溝が単純な区画などを目的としたものではなく、明らかに通水を意図したものであり、当初から水路の機能を負っていたことが理解される。河道跡の低地帯内部にあっては、小規模な溝の場合であっても、比較的容易に通水確保の可能な条件が整っていたことがわかるが、ここにもみるような埋没河道の再掘削による水路の確保と、これを基幹とした大規模な河川後背低地の灌漑施工が、古墳時代中期の女堀川流域において相当の広範囲に実施されていたことは、すでに鈴木徳雄の一連の研究によって明らかにされているところである（鈴木1996・1997など）。この河道跡内部の水路獲得を梃子とした灌漑方式は、河道内水路から分水した用水を河道兩岸の自然堤防を開削した分水路を通じて、後背低地に落とすと同時に、下流側では後背低地からの排水をおこなうことで、これを可耕地化することが可能となるものであり、河道内水路と後背低地とをつなぐ用排水路の確保を前提として成立するのである。このような用水路・排水路は、河道内水路に比べ、具体的な確認例に乏しいが、前者は藤塚遺跡A地点1号溝、後者は九反田遺跡1号溝などが該当しよう。なお、自然堤防を横断する用排水路はしばしば同時代の集落の内部に確保され、また内部から完形の土師器・石製模造品が出土することから、用排水路自体が祭祀行為の対象となっている事実を確認できる。上記の灌漑方式は弥生時代初頭以来の伝統的な方式ではあるが、古墳時代中期の女堀川流域にみられる灌漑施工は、河道跡再掘削を伴う大規模なものであり、遠隔地からの鉄器確保や集落間の協業、既存の水利権変更に伴う広域的な調整を必要とした点に最大の相違点があるといえるだろう。

＜文 献＞

- 浅野一郎 1999 『大久保山Ⅴ』早稲田大学本庄校地文化財調査報告5 早稲田大学本庄校地文化財調査室
- 坂野和信 1988 『和泉式土器の様相—竈導入期の土器群—』『本市立歴史民俗資料館紀要』第2号 本市立歴史民俗資料館
- 1991 『和泉式土器の成立について—序論—』『土曜考古』第16号 土曜考古学研究会
- 伴瀬宗一 1996 『今井川越田遺跡Ⅱ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第178集 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 磯崎 一 1995 『今井川越田遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第177集 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 岩瀬 謙 1998 『地神／笹頭』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第193集 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 志河内昭彦 1993 『川越田遺跡Ⅱ—B・C地点の調査—』見玉町文化財調査報告書第5集 見玉町教育委員会
- 1995 『飯玉東Ⅱ・高縄田・桶越・梅沢Ⅱ・東牧西分・鶴蒔・毛無し屋敷・石橋—泉宮は場整備事業見玉南部地区に伴う埋蔵文化財発掘調査及び見玉町内遺跡群保存事業に伴う発掘調査報告書—』見玉町文化財調査報告書第17集 見玉町教育委員会
- 1996 『辻堂遺跡Ⅰ—泉宮水田農業確立排水対策特別事業（やばり川地区）に伴う辻堂遺跡B地点発掘調査報告書—』見玉町文化財調査報告書第19集 見玉町教育委員会
- 2005 『後張遺跡Ⅲ—C地点の調査—』見玉町遺跡調査会報告書第20集 見玉町遺跡調査会
- 小久保徹・柿沼幹夫・鈴木敏昭ほか 1978 『上越新幹線埋蔵文化財発掘調査報告Ⅱ—東谷・前山2号墳・古川端—』埼玉県遺跡発掘調査報告書第16集 埼玉県教育委員会
- 昆 彭生 2001 『大久保山Ⅵ』早稲田大学本庄校地文化財調査報告9 早稲田大学本庄考古資料館
- 増田逸朗・小久保徹・宮崎朝雄ほか 1977 『関越自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告Ⅵ 塚本山古墳群』埼玉県遺跡発掘調査報告書第10集 埼玉県教育委員会
- 増田逸朗・小久保徹・柿沼幹夫ほか 1979 『上越新幹線埋蔵文化財発掘調査報告Ⅲ 下田・諏訪』埼玉県埋蔵文化財発掘調査報告書第21集 埼玉県教育委員会
- 増田一裕 1985 『本庄遺跡群発掘調査報告書—久下東遺跡・遺構編—』本市埋蔵文化財調査報告第7集 本市教育委員会
- 1987 『東富田遺跡群発掘調査報告書—泉宮は場整備事業見玉南部地区に伴う埋蔵文化財発掘調査Ⅰ—』本市埋蔵文化財調査報告第10集 本市教育委員会
- 1987・1989・1991 『南大通り線内遺跡発掘調査報告書—都市計画街路南大通り線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ—』本市埋蔵文化財調査報告第9集 第1・2・3分冊 本市教育委員会
- 1987 『本庄住宅団地内遺跡群発掘調査報告書』本市埋蔵文化財調査報告第11集 第1分冊 本市教育委員会
- 1989 『四方田・後張遺跡群発掘調査報告書—泉宮は場整備事業見玉南部地区に伴う埋蔵文化財発掘調査Ⅱ—』本市埋蔵文化財調査報告第14集 本市教育委員会
- 1990 『諏訪・久城前・久城往來北遺跡発掘調査報告書—泉宮畑地帯総合整備事業上里南部地区に伴う埋蔵文化財発掘調査Ⅱ—』本市埋蔵文化財調査報告第17集 本市教育委員会
- 1990 『山根遺跡—泉宮は場整備事業見玉南部地区に伴う埋蔵文化財発掘調査Ⅲ—』本市埋蔵文化財調査報告第18集 本市教育委員会
- 1992 『今井諏訪遺跡発掘調査報告書—泉宮畑地帯総合整備事業上里南部地区に伴う埋蔵文化財発掘調査Ⅲ—』本市埋蔵文化財調査報告第21集 本市教育委員会

- 松本 完 2002 『久下前遺跡第3地点発掘調査報告書—市道8501線道路改良工事に伴う埋蔵文化財調査報告書—』本庄市埋蔵文化財調査報告第25集 本庄市教育委員会
- 2002 『大久保山遺跡浅見山1地区(第2次)・北堀前山古墳群(第2・3次)発掘調査報告書—新幹線本庄新駅(仮称)建設に伴う埋蔵文化財発掘調査I—』本庄市遺跡調査会報告第6集 本庄市遺跡調査会
- 2002 『九反田(Ⅲ次調査)・観音塚(Ⅲ次調査)—東西通り線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』本庄市埋蔵文化財調査報告第28集 本庄市教育委員会
- 中村倉司 1979 『児玉地方における鬼高式土器の編年について』『宇佐久保遺跡』埼玉県遺跡調査会報告第38集
- 1989 『関東地方における壺・大形甕・須恵器出現時期の地域差』『研究紀要』第6号、埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 1999 『埼玉県における5世紀代の土器—和泉式土器の行方—』『東国土器研究』第5号 東国土器研究会
- 小川貴司・橋本博文ほか 1980 『土器の分類と編年』『大久保山I』早稲田大学本庄校地文化財調査報告I 早稲田大学本庄校地文化財調査室
- 太田博之 1991 『本庄遺跡群発掘調査報告書V—公卿塚古墳—』本庄市埋蔵文化財調査報告第19集 本庄市教育委員会
- 1994 『本庄86号遺跡発掘調査報告書』本庄市遺跡調査会報告第3集 本庄市遺跡調査会
- 太田博之・松本 完 2005 『市内遺跡発掘調査報告書 四方田(Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ次調査)・久下東(Ⅱ次調査)』本庄市埋蔵文化財調査報告第31集 本庄市教育委員会
- 太田博之・松本 完 2007 『西五十子古墳群—本庄総合公園建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ』本庄市埋蔵文化財発掘調査報告書第5集 本庄市教育委員会
- 坂本和俊 1984 『埼玉県』『古墳時代土器の研究』古墳時代土器研究会
- 本木啓介 1994 『埼玉県におけるカマド導入期の様相—カマド、大型甕、坏の形態を中心として—』『紀要』第11号 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 鈴木徳徳 1996 『古代北武蔵の開発と集落』『月刊文化財』平成8年11月号 No.398 ぎょうせい
- 1997 『文化財レポート 古代北武蔵の土地利用と集落』『日本歴史』平成9年9月号(第592号) 日本歴史学会編集 吉川弘文館
- 瀧瀬芳之 1997 『今井川越田遺跡Ⅲ—今井工業団地関係埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ—』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第191集 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 立石盛詞ほか 1982・1983 『後張—本文編・図版編I・II』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第15・26集 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 富田和夫・赤熊浩一 1985 『立野南・八幡大神南・熊野大神南・今井遺跡群、一丁田・川越田・梅沢』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第64集、埼玉県埋蔵文化財調査事業団

写 真



SI-4・5 検出状況 [南から]



SI-6・7 検出状況 [南から]



SI-8・9 検出状況 [南東から]



SI-10 検出状況 [西から]



SI-11 検出状況 [南から]



SI-12 検出状況 [南から]



SI-13 検出状況 [南から]



SI-14 検出状況 [南から]

写真2



SI-15 検出状況 [南から]



SI-16 検出状況 [北東から]



SI-17 検出状況 [南西から]



SI-18 検出状況 [南西から]



SI-19 検出状況 [西から]



SI-20 検出状況 [南西から]



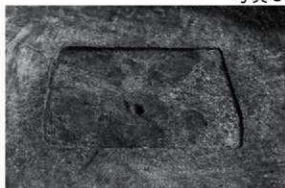
SI-21 検出状況 [東から]



SI-22 検出状況 [北西から]



S1-23・24 検出状況【西から】



S1-25 検出状況【南から】



S1-26 検出状況【南から】



S1-27 検出状況【南西から】



S1-28 検出状況【西から】



S1-29・30, SD-11・12 検出状況【北西から】



S1-31, SK-26, SD-12 検出状況【北西から】



S1-32, SK-27 検出状況【北西から】

写真4



SI-33・34・35・36 検出状況 [西から]



SI-37・38, SK-24 検出状況 [南東から]



SW-1 検出状況 [南東から]



SK-1 検出状況 [南から]



SK-3 遺物検出状況 [西から]



SK-4 遺物検出状況 [西から]



SK-7 検出状況 [南から]



SK-8 検出状況 [南から]



SK-2 検出状況 [西から]



SK-6 検出状況 [南から]



SK-12 遺物検出状況 [南東から]



SK-15 検出状況 [南西から]

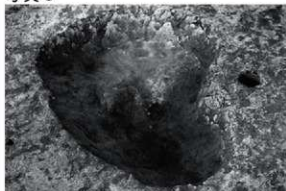


SK-19 遺物検出状況 [南西から]



SK-23 遺物検出状況 [南西から]

写真6



SK-10 検出状況 [南から]



SK-11 検出状況 [南東から]



SK-13 検出状況 [東から]



SK-14 検出状況 [南から]



SK-20 遺物検出状況 [南西から]



SK-22 検出状況 [南から]



SK-25, SD-11 検出状況 [西から]



SX-1 検出状況 [東から]



SD-1 検出状況 [B区西から]



SD-2・3 検出状況 [A区西から]



SD-2・3 検出状況 [B区西から]



SD-3 検出状況 [南から]



SD-3・4 検出状況 [北から]

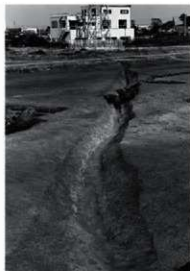


SD-5 検出状況 [東から]

写真 8



SD-6 検出状況 [B区西から]



SD-6 検出状況 [C区南西から]



河道跡検出状況 [C区東から]



SD-8, 河道跡検出状況 [D区北から]



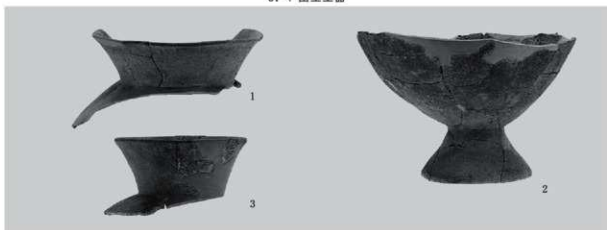
SD-9 検出状況 [南から]



SD-10 検出状況 [西から]



SI-4 出土土器

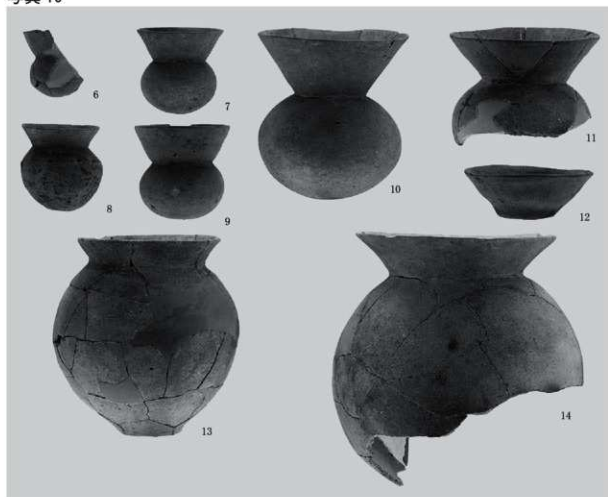


SI-6 出土土器

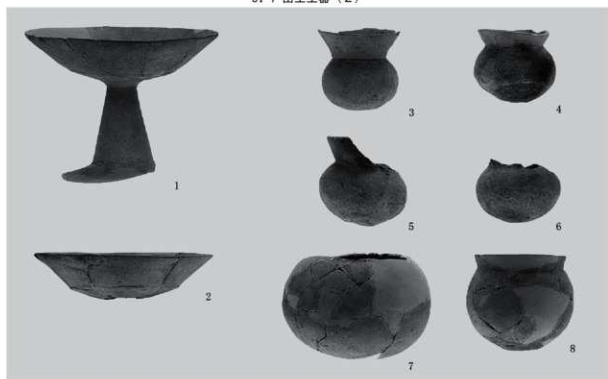


SI-7 出土土器 (1)

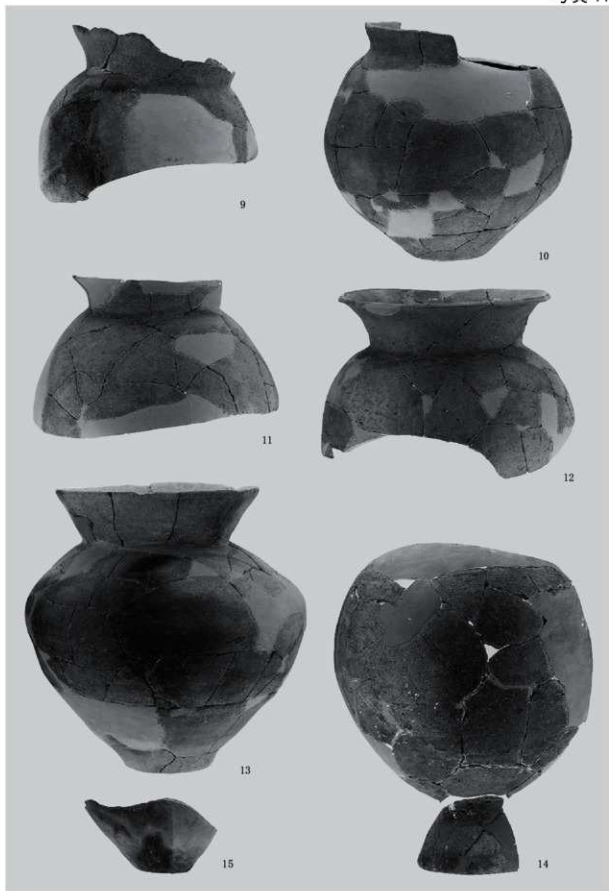
写真 10



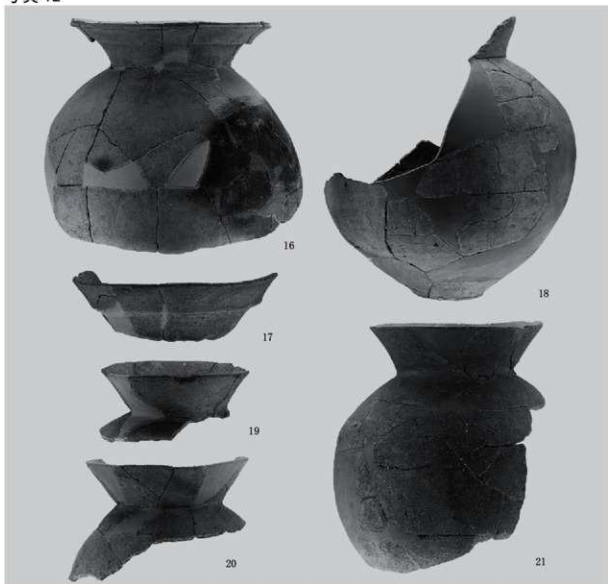
SI-7 出土土器 (2)



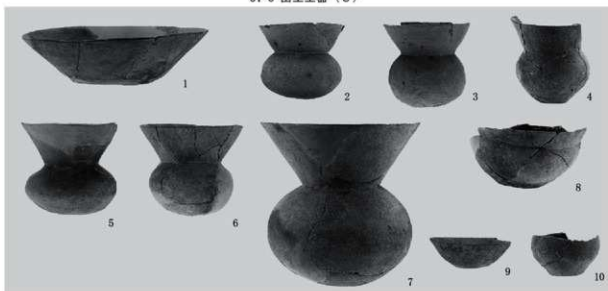
SI-8 出土土器 (1)



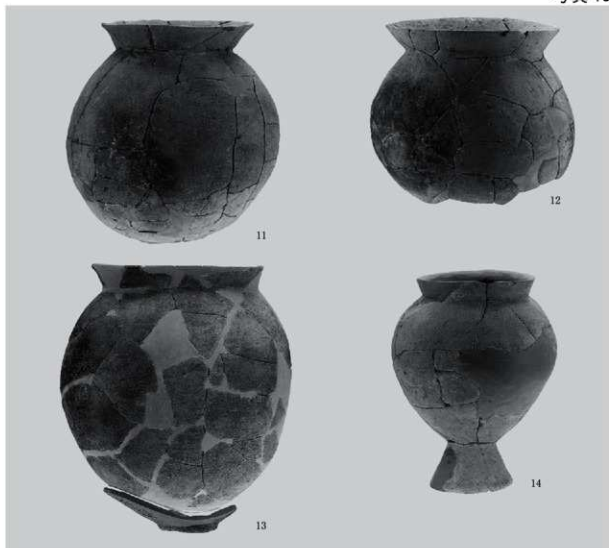
SI-8 出土土器 (2)



SI-8 出土土器 (3)



SI-9 出土土器 (1)

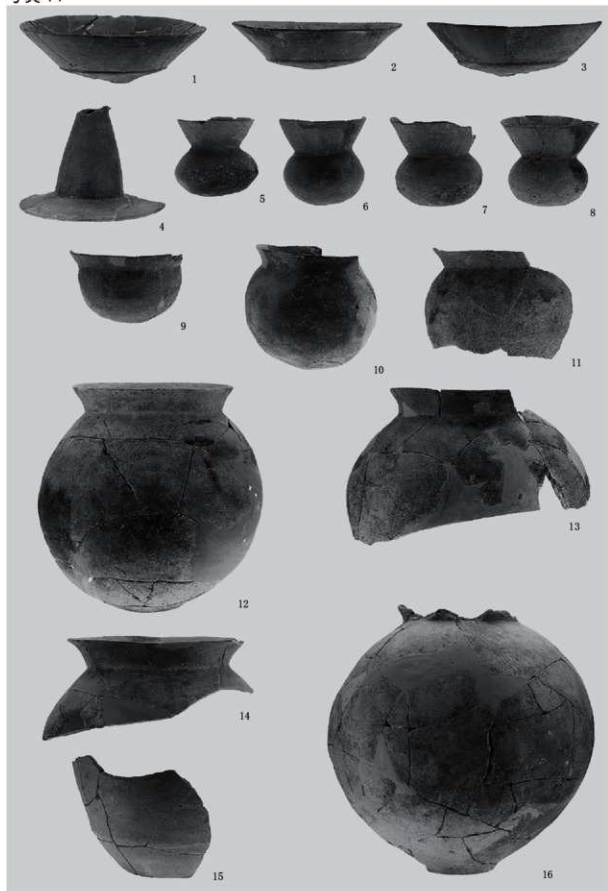


SI-9 出土土器 (2)

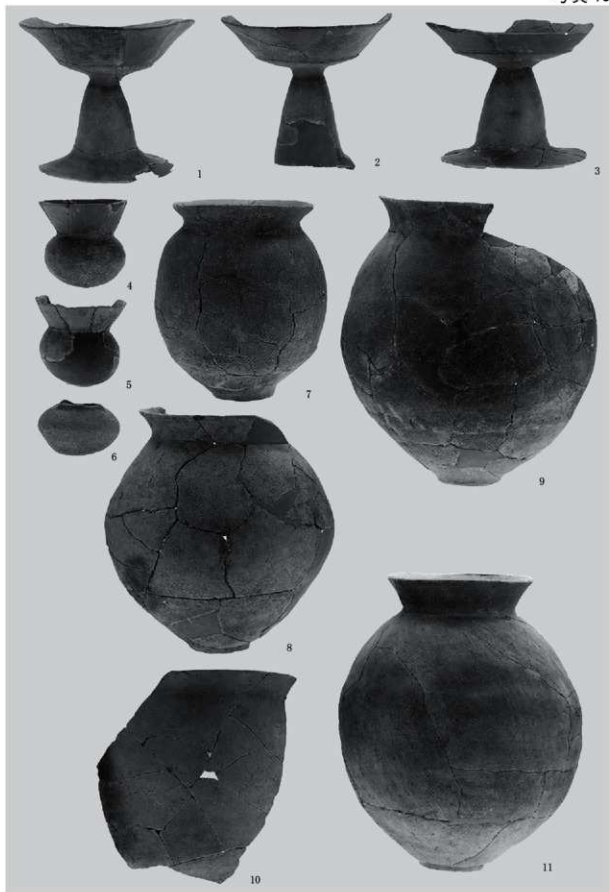


SI-10 出土土器

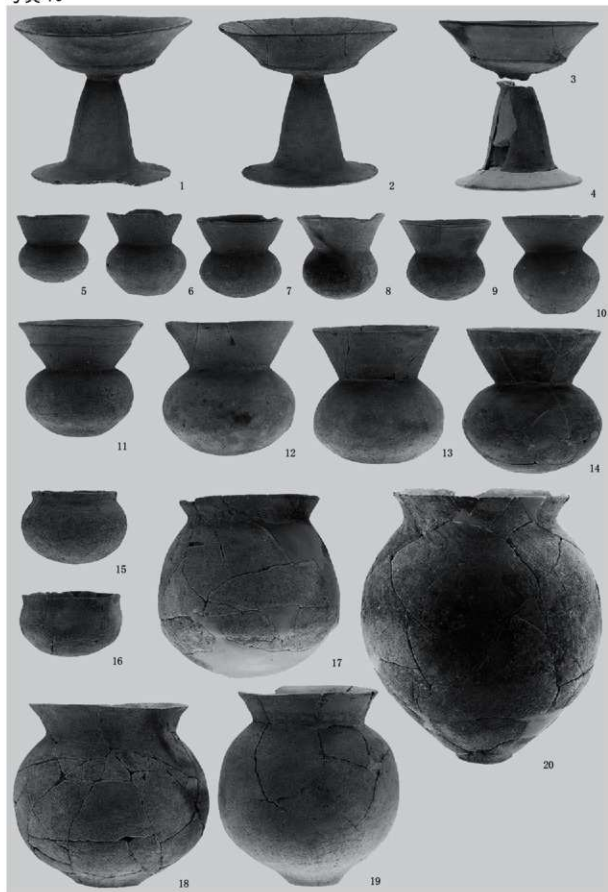
写真 14



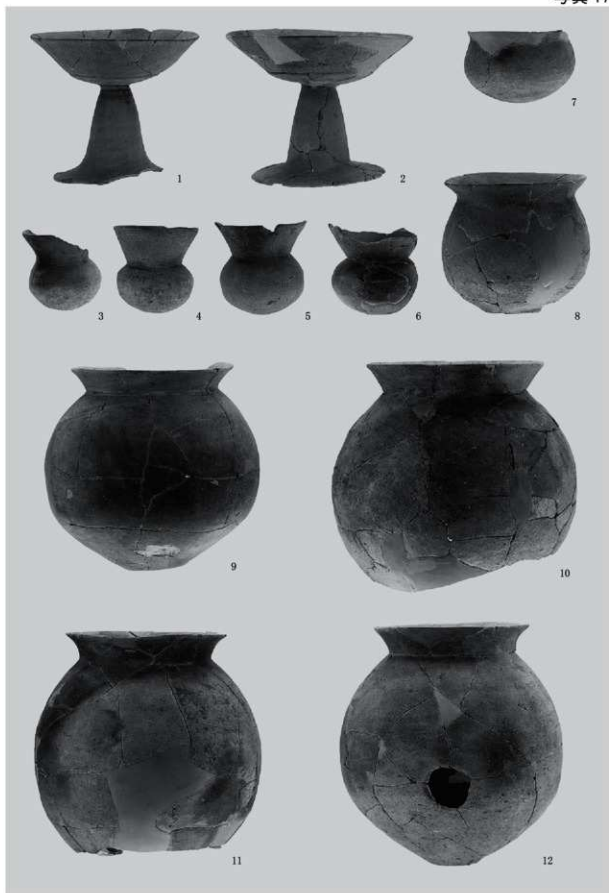
SI-11 出土土器



SI-12 出土土器



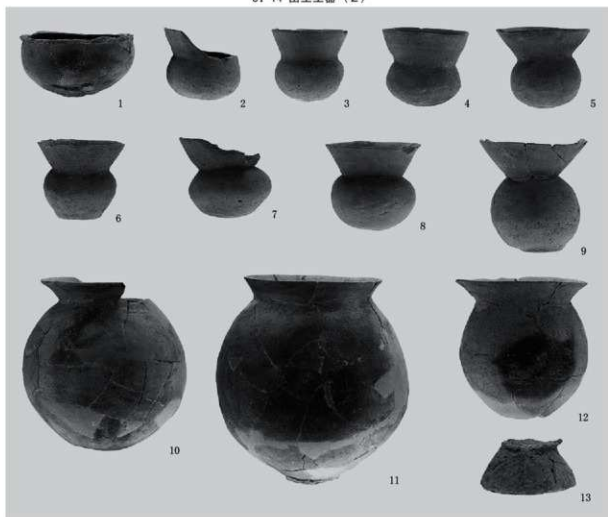
SI-13 出土土器



SI-14 出土土器 (1)



SI-14 出土土器 (2)



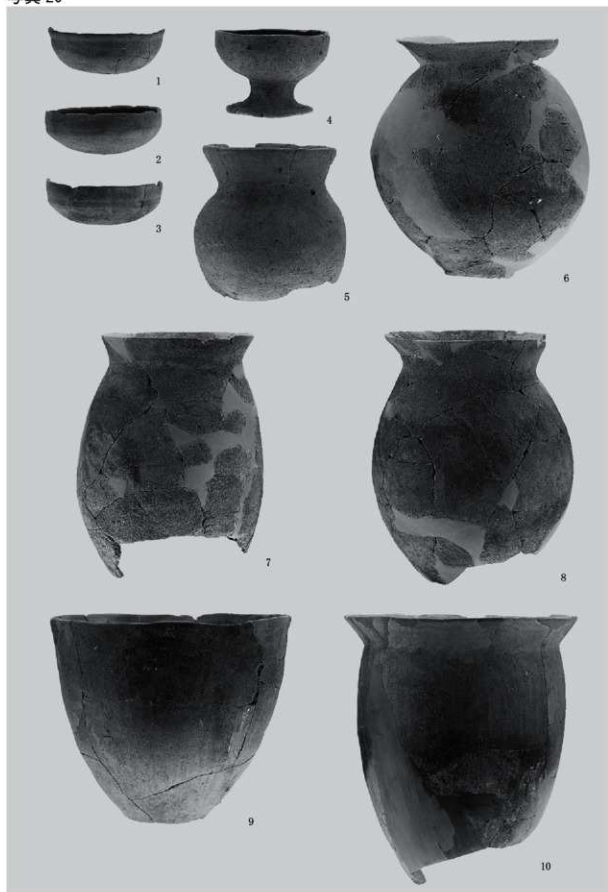
SI-15 出土土器



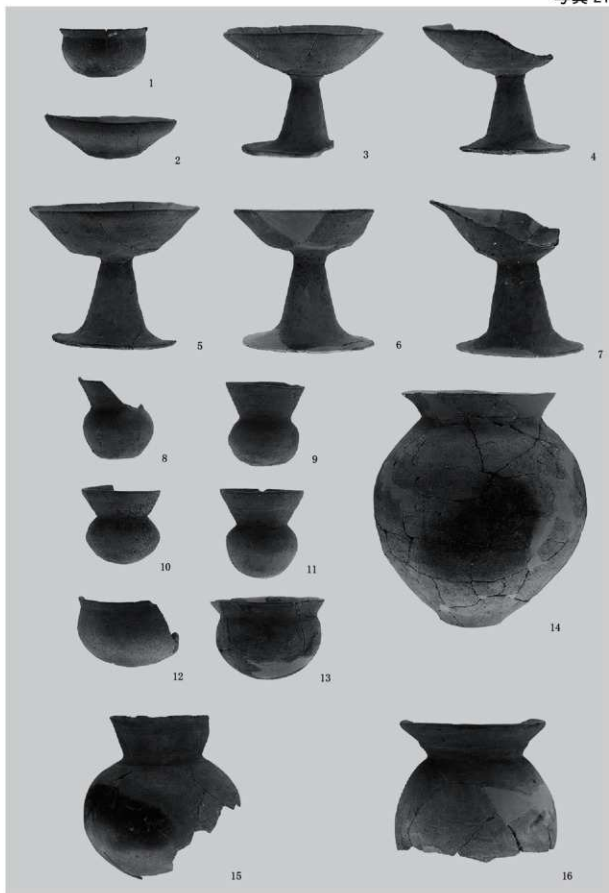
SI-16 出土土器



SI-17 出土土器



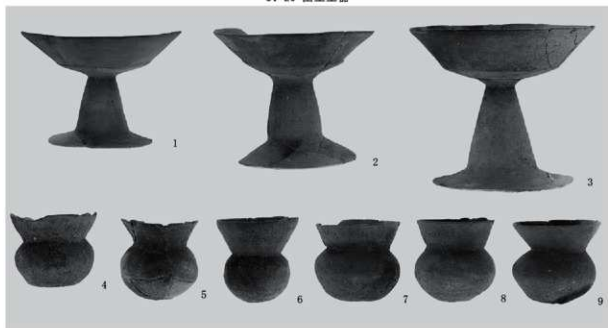
S1-18 出土土器



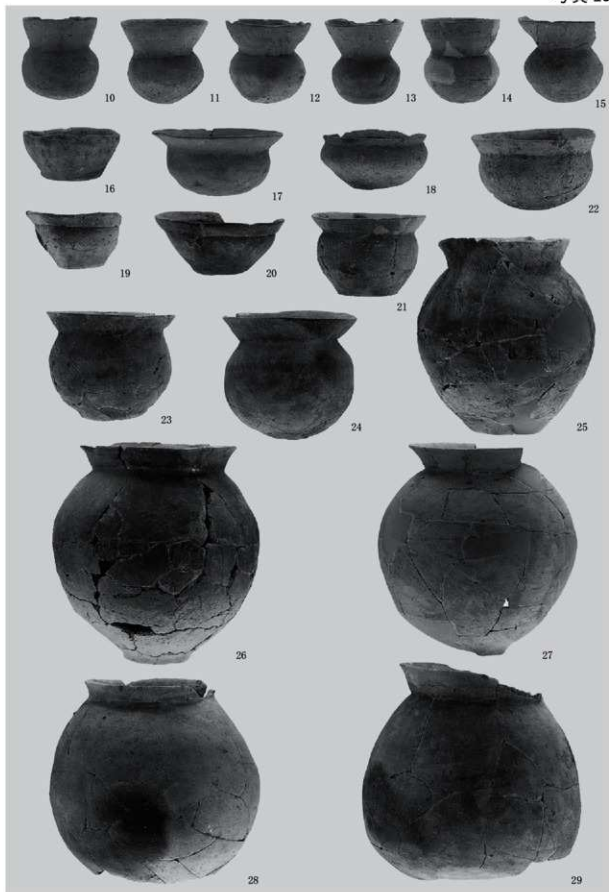
SI-19 出土土器



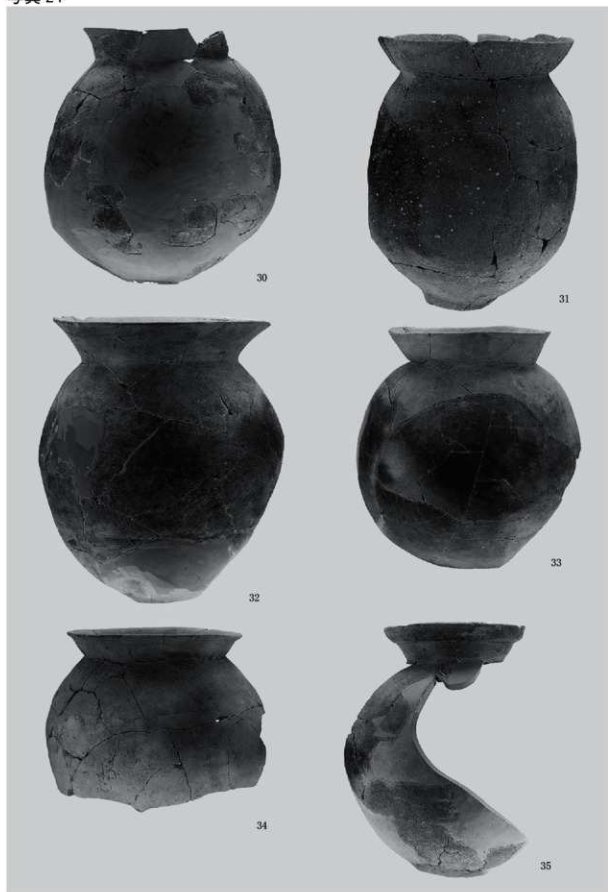
SI-20 出土土器



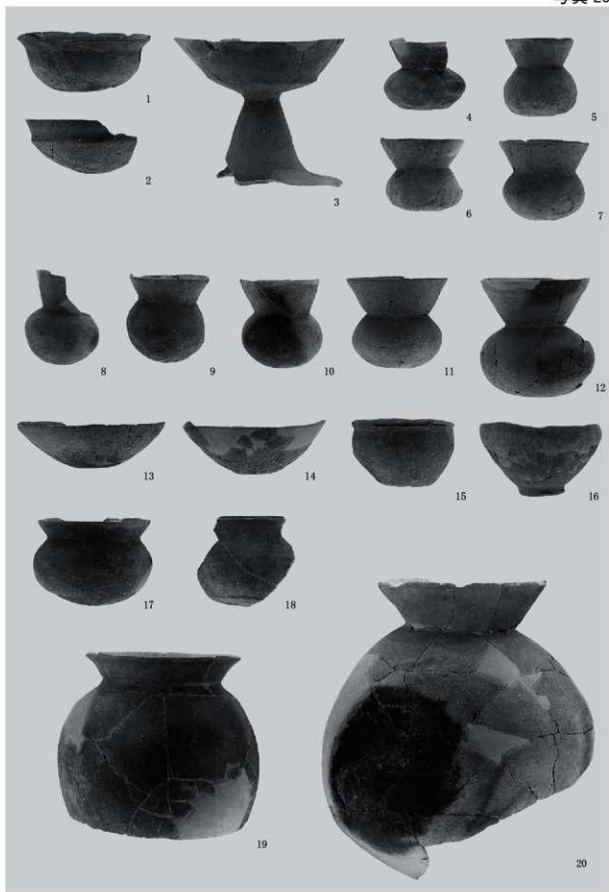
SI-21 出土土器 (1)



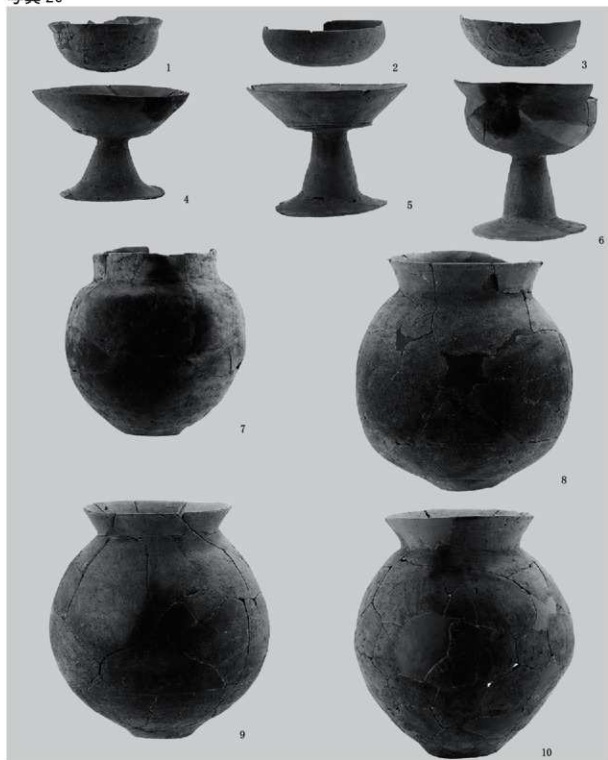
SI-21 出土土器 (2)



SI-21 出土土器 (3)



SI-22 出土土器



SI-23 出土土器



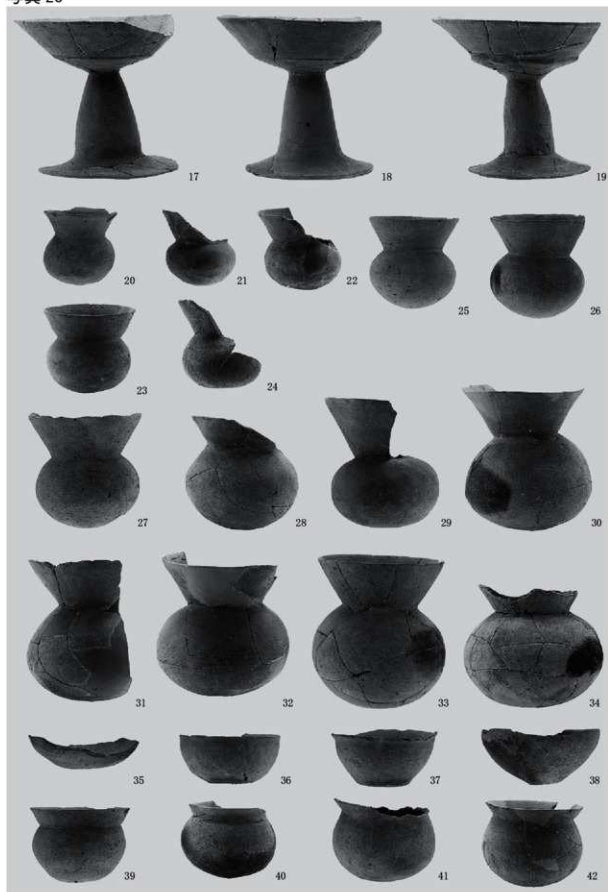
SI-24 出土土器



SI-25 出土土器



SI-27 出土土器 (1)



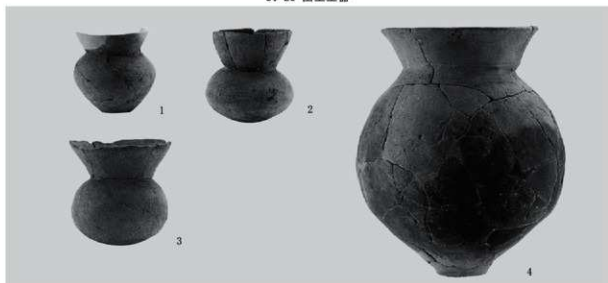
SI-27 出土土器 (2)



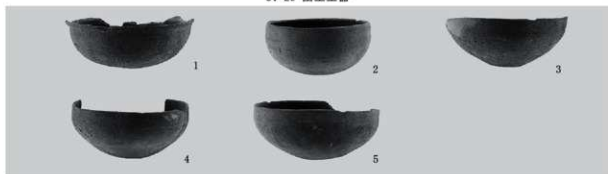
SI-27 出土土器 (3)



SI-28 出土土器



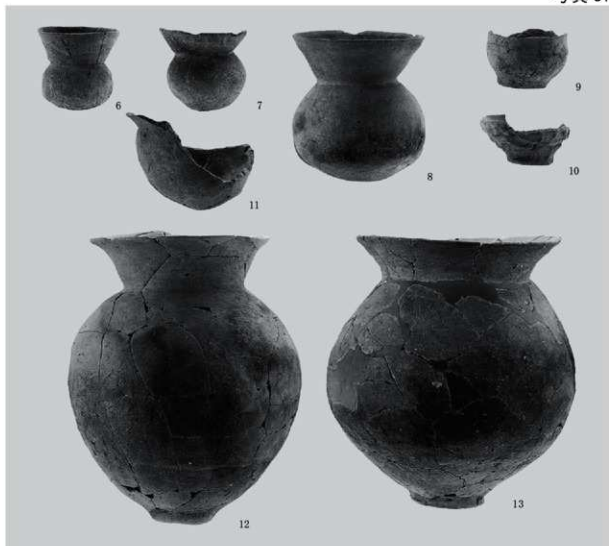
SI-29 出土土器



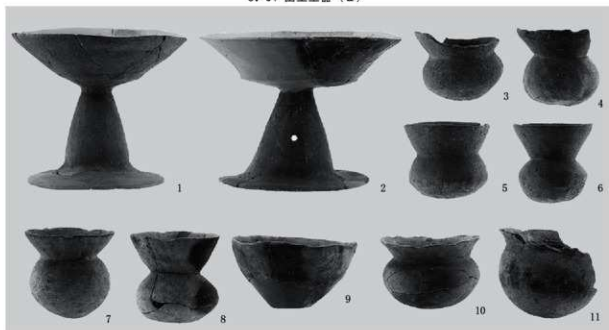
SI-30 出土土器



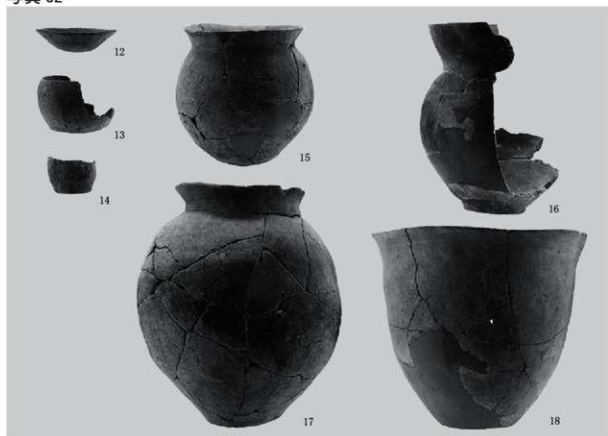
SI-31 出土土器 (1)



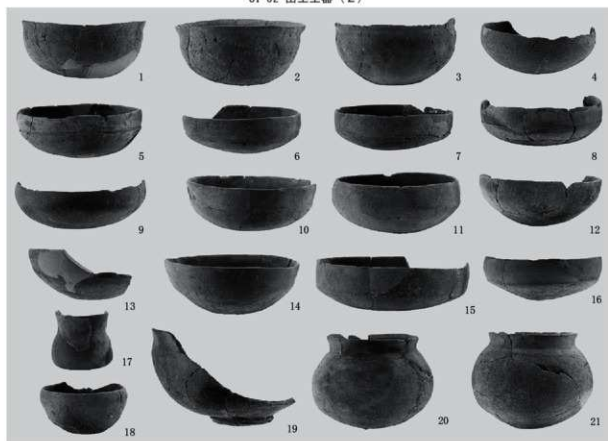
SI-31 出土土器 (2)



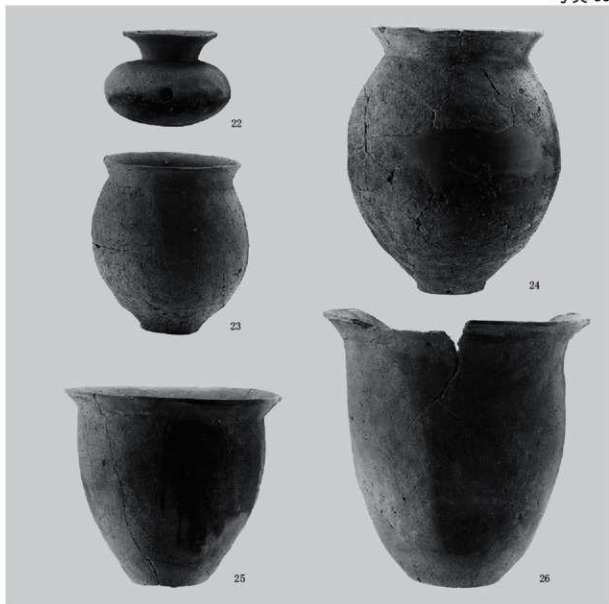
SI-32 出土土器 (1)



SI-32 出土土器 (2)



SI-33 出土土器 (1)



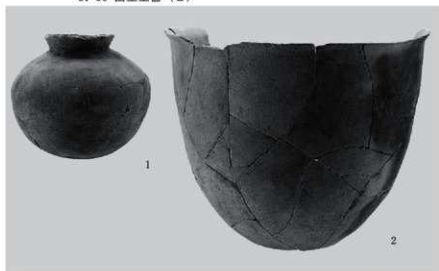
SI-33 出土土器 (2)



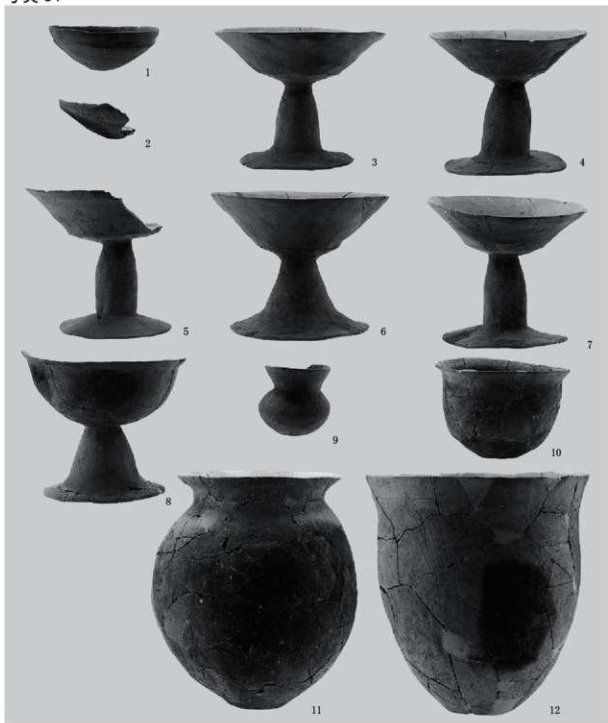
SI-34 出土土器



SI-35 出土土器



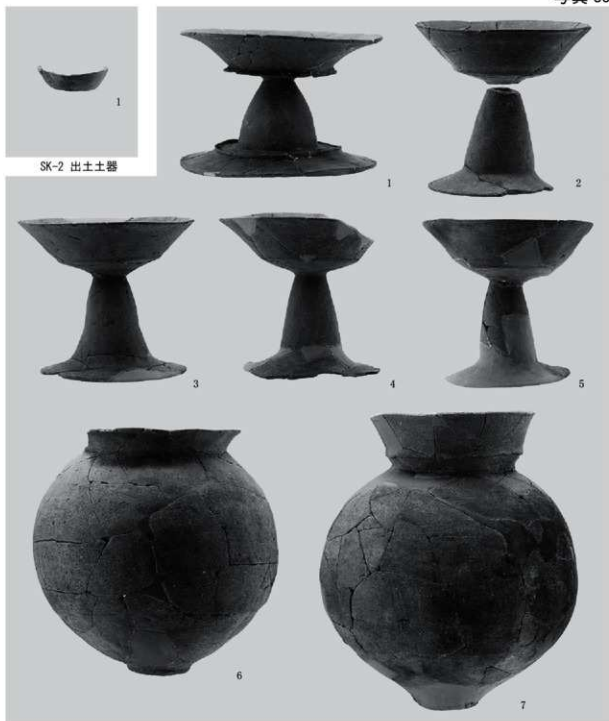
SI-36 出土土器



SI-37 出土土器



SI-38 出土土器



SK-2 出土土器

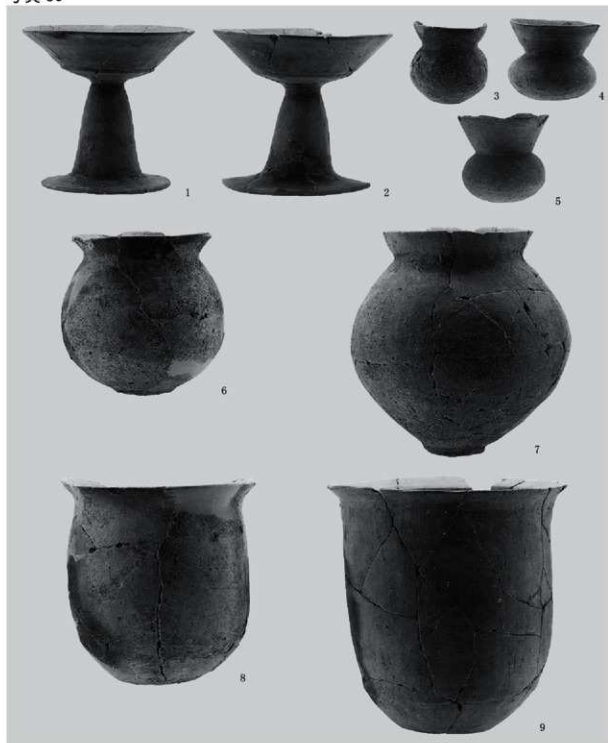
SK-19 出土土器



SK-20 出土土器



SK-23 出土土器



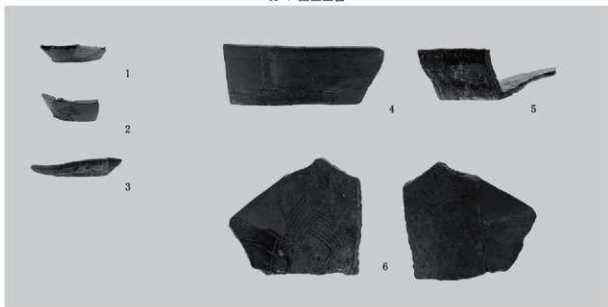
SX-1 出土土器



河道跡 出土土器



SD-1 出土土器



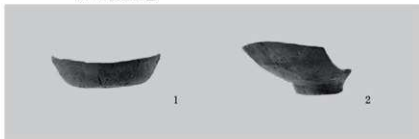
SD-2・3 出土土器



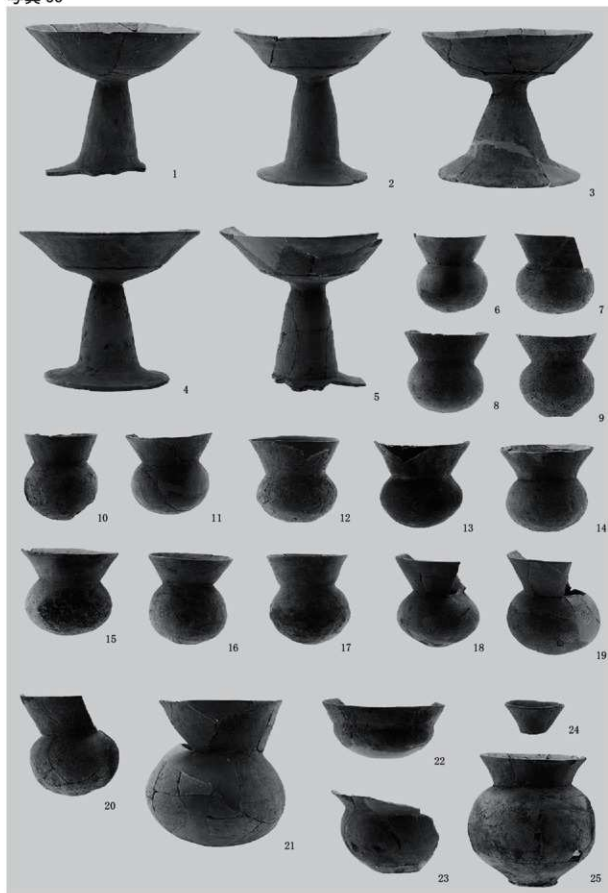
SD-3 出土土器



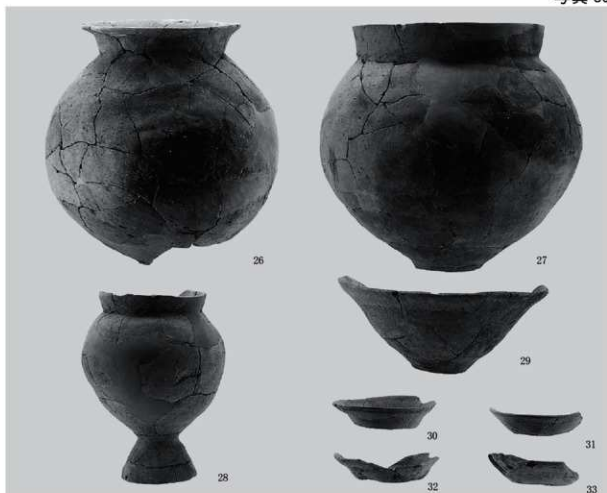
SD-6 出土土器



SD-8 出土土器



A区~E区 出土土器 (1)



A区~E区 出土土器 (2)



F・G区 出土土器



表土 出土土器

報告書抄録

ふりがな	しこういせき							
書名跡	離濠遺跡							
副書名								
巻次								
シリーズ名	本庄市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第12集							
編著者名	太田博之							
編集機関	本庄市教育委員会							
所在地	〒367-8501埼玉県本庄市本庄3丁目5番3号 本庄市教育委員会 電話0495-25-1185							
発行年月日	西暦 2008 (平成20) 年 3月31 日							
所収遺跡	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "			
離濠遺跡	埼玉県本庄市緑 2丁目・3丁目 地内	112119	084	36° 13' 10"	139° 12' 00"	19800603~ 19811031	15,680㎡	区画整理 学校建設
所収遺跡	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
離濠遺跡	集落	古墳時代中期～近 世		住居・井戸・土坑・溝 河道跡		土師器・かわらけ他		

本庄市埋蔵文化財調査報告書 第12集

雌 濠 遺 跡

平成20年 3月25日 印刷

平成20年 3月31日 発行

発行／本庄市教育委員会

〒367-8501 埼玉県本庄市本庄3丁目5番3号

電話 0495-25-1185

印刷／山進社印刷株式会社